

平成22年度遺伝子組換え作物等に関する意識調査委託事業

(コミュニケーション事業)

実績報告書

平成23年3月

(社)農林水産先端技術産業振興センター

はじめに

本事業は、平成 22 年度の農林水産省委託事業として、社団法人農林水産先端技術産業振興センター（略称：STAFF）が受託し、実施したものです。

本事業の趣旨は、「遺伝子組換え作物等の研究開発の推進に資するため、農林水産省で実施している農林水産分野における遺伝子組換え農作物等バイオテクノロジーに関する国民との双方向コミュニケーション活動の支援及び強化を目的として、外部専門家による検討及び取組みを実施し、遺伝子組換え技術等に関する国民の正しい理解の促進及び不安の解消を図る。」とされております。

具体的には、まず、遺伝子組換え技術を中心としたバイオテクノロジーに関する国民との双方向コミュニケーションの進め方に関し、有識者の助言を得るため「コミュニケーション推進会議」を開催するとともに、平成 21 年度結果に対する改善点を加えてコミュニケーション計画を立案し、中間チェックを行いながら実行する予定でした。しかしながら、事業開始直後に委託元である農林水産省の諸般の事情から事業の見直しがなされ、平成 22 年度のコミュニケーション事業は双方向コミュニケーションの一部を中心に行うことと変更されました。

双方向コミュニケーション活動の実施に関しては、数十名程度の規模で大学・短期大学、管理栄養士・栄養士・調理師、生活協同組合、消費者団体等の重点対象者に対して「小規模コミュニケーション」を全国各地で 51 回開催しました。

これらのコミュニケーションにおいては、参加者の理解度、意向を知るためにアンケート調査を実施し、取りまとめと分析を行いました。また、コミュニケーションを実施した主催者へのアンケート調査も実施し、取りまとめと分析を行い、今後の活動の必要性について検討しました。

資料等による情報提供活動に関しては、遺伝子組換え技術に関するパンフレット（「遺伝子組換え農作物入門プログラム」、「遺伝子組換え農作物を知るために ステップアップ編」）、「バイテク小事典」の提供、説明資材等の提供を行う予定でした。さらに、昨年度作成し配布した小中高校の児童・生徒、教員向けの新しいリーフレット、リーフレット解説書を改訂し、配付活動を継続予定でした。しかしながら、これらのパンフレット、リーフレットの配布活動は、4 月後半以降中止しました。

ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」では、昨年度に引き続き、遺伝子組換え技術に関する新着情報、Q&A 等に関する情報を提供するとともに、これらをメールマガジン「バイテクハウスメールニュース」で定期的に発信する予定でした。しかし、コミュニケーション活動に必要な情報収集活動を

除き、同様に公開を中止しました。

本報告書は、平成 22 年度におけるこれらの活動の実績を取りまとめるとともに、整理、分析・考察を加えたものです。一連の事業活動及びこの報告書が、今年度の事業内容変更を乗り越えて、今後のわが国における遺伝子組換え作物等の研究開発の戦略的な取り組みと、国民的理解の促進に寄与することを切に期待するところであります。

最後になりましたが、本事業の実施に当たり、ご助言・ご指導を賜りました「コミュニケーション推進会議」の委員、専門委員の皆様方をはじめ、ご支援・ご協力をいただいた関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

また、お世話になりましたコーディネーターの皆様方をはじめ、各地域でのコミュニケーションの実施にご支援・ご協力をいただいた関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

平成 23 年 3 月

社団法人 農林水産先端技術産業振興センター (STAFF)
理事長 岩元 睦 夫

目 次

事業概要	1
I コミュニケーション推進会議の開催	2
1. コミュニケーション推進会議の設置	2
2. コミュニケーション推進会議の開催	4
(1) 第1回コミュニケーション推進会議	4
(2) 第2回コミュニケーション推進会議	6
(3) 第3回コミュニケーション推進会議	8
II 事業の実施結果	11
1. 小規模コミュニケーションの運営	11
(1) 開催準備	11
(2) 開催結果概要	15
(3) 開催結果	24
・第1回（兵庫県宍粟市）	24
・第2回（秋田県潟上市）	28
・第3回（浜松市中区）	31
・第4回（兵庫県姫路市）	35
・第5回（愛媛県伊予市）	48
・第6回（神戸市中央区）	51
・第7回（埼玉県熊谷市）	55
・第8回（福島県白河市）	58
・第9回（徳島県徳島市）	61
・第10回（埼玉県本庄市）	63
・第11回（東京都中央区）	66
・第12回（京都市南区）	69
・第13回（京都市中京区）	73
・第14回（大分県佐伯市）	76
・第15回（北九州市戸畑区）	79
・第16回（北海道苫小牧市）	83
・第17回（東京都世田谷区）	86
・第18回（さいたま市南区）	95
・第19回（大阪市中央区Ⅰ）	99
・第20回（千葉県香取市）	103

・第21回（兵庫県尼崎市）	105
・第22回（埼玉県越谷市）	109
・第23回（沖縄県那覇市）	112
・第24回（熊本県熊本市）	114
・第25回（鳥取県米子市）	116
・第26回（山口県下関市）	119
・第27回（栃木県宇都宮市）	121
・第28回（岡山県岡山市）	125
・第29回（埼玉県草加市）	128
・第30回（福井県越前市）	130
・第31回（山形県山形市）	133
・第32回（滋賀県高島市）	137
・第33回（大阪市中央区Ⅱ）	140
・第34回（山梨県甲府市）	143
・第35回（岩手県一関市）	146
・第36回（岐阜県岐阜市）	150
・第37回（東京都葛飾区）	157
・第38回（京都市東山区）	160
・第39回（静岡市葵区）	162
・第40回（北九州市八幡北区）	166
・第41回（青森県青森市）	174
・第42回（千葉県船橋市）	178
・第43回（愛知県岡崎市）	181
・第44回（愛知県豊田市）	184
・第45回（愛知県日進市）	188
・第46回（東京都多摩市）	192
・第47回（三重県熊野市）	196
・第48回（三重県津市）	199
・第49回（富山県富山市）	203
・第50回（仙台市泉区）	206
・第51回（名古屋市中区）	212
(4) アンケート調査結果のまとめ	215
ア 小規模コミュニケーションにおけるアンケート調査	215
(ア) アンケート調査票	217
(イ) 小規模コミュニケーションにおけるアンケート調査結果	221

イ 開催者へのアンケート調査	259
(ア) アンケート調査票	259
(イ) 開催者へのアンケート調査結果	259
2. 「コミュニケーションツール」を通じた国民への情報提供	267
(1) 「コミュニケーションツール」としての資料類の作成・配布	267
(2) 国民全般向けホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」	268
(3) 「バイテクハウスメールニュース」の発行	269
Ⅲ まとめ	270
参考資料	273

事業概要

本事業は、平成 21 年度の農林水産省委託事業として、社団法人農林水産先端技術産業振興センター（略称：STAFF）が受託し、委託内容の変更を経て実施した。（平成 22 年 12 月 17 日付け変更契約）

本事業の趣旨は、「遺伝子組換え作物等の研究開発の推進に資するため、農林水産省で実施している農林水産分野における遺伝子組換え農作物等バイオテクノロジーに関する国民との双方向コミュニケーション活動の支援及び強化を目的として、外部専門家による検討及び取り組みを実施し、遺伝子組換え技術等に関する国民の正しい理解の促進及び不安の解消を図る。」とされている。

今年度は、「コミュニケーション推進会議」を 3 回開催し、今年度のコミュニケーション活動の方針、活動内容を検討し、中間チェックをしながら推進するとともに、今後の活動への考え方を検討することとした。

双方向コミュニケーション活動の実施に関しては、不特定対象の二百名規模の「大規模コミュニケーション」を 2 回開催する予定であったが中止した。

一方、数十名程度の規模で大学・短期大学、管理栄養士・栄養士・調理師、生活協同組合、消費者団体等の重点対象者に対して、①行政からの情報提供、②コーディネーターの司会による出席者全員の質問・意見の抽出、③DNA 抽出実験を基本的な内容とする「小規模コミュニケーション」を全国各地で 55 回開催する予定であったが 51 回実施した。

コミュニケーションの際には、参加者の理解度、意向を知るためにアンケート調査を実施し、取りまとめと分析を行った。

また、コミュニケーション終了後、開催者の感想や今後の活動に関する意向を知るために開催者アンケートも実施し、取りまとめと分析を行った。

ホームページ「バイオテクコミュニケーションハウス」については、昨年度に引き続き、遺伝子組換え技術に関する新着情報、Q&A 等に関する情報を提供するとともに、メールマガジン「バイオテクハウスメールニュース」を月 3 回、定期的に発行する予定であったが、4 月後半以降調査は継続したがホームページを通じての公開を中止した。

また、昨年まで発行してきたパンフレット類「遺伝子組換え農作物入門プログラム」及び「遺伝子組換え農作物を知るために ステップアップ編」並びに「バイオテク小事典」の配布を 4 月後半以降中止した。内容の改訂・増補も行わなかった。

さらに、小学校高学年から、中学生、高校生等を対象とし、遺伝子組換え農作物に関する各種の情報を分かり易く改訂解説したリーフレットと、教員用のリーフレット解説書の配布も中止した。

I コミュニケーション推進会議の開催

有識者等の委員で構成する「コミュニケーション推進会議」を開催し、委員からの助言等を得ながら、遺伝子組換え農作物を中心とした、遺伝子組換え技術、バイオテクノロジーに関する国民との双方向コミュニケーションの推進を図ることとし、当センターは開催事務局として推進会議の運営を担当した。

1. コミュニケーション推進会議の設置

(第1回推進会議資料「コミュニケーション推進会議の開催について」より)

1) 趣旨

農林水産技術会議が平成20年1月に策定した「「遺伝子組換え農作物等の研究開発の進め方に関する検討会」最終取りまとめ」では、研究開発を進めるに当たり、国民との双方向コミュニケーションの活動の支援と強化が必要であるとしている。遺伝子組換え技術等バイオテクノロジーは、大きな可能性を秘めた技術である一方、わかりやすく説明することが難しい分野であり、かつ、国民の関心も高い。

このため、各分野の有識者からなる委員と、必要に応じて専門委員で構成する「コミュニケーション推進会議」(以下「推進会議」という。)を開催し、委員からの意見・協力等を得ながら遺伝子組換え作物等に関する国民との双方向コミュニケーションの推進を図る。

2) 検討事項

- (1) 遺伝子組換え作物等のコミュニケーションに関する意見・協力等
- (2) 遺伝子組換え作物等の情報提供と資料に関する意見・協力等

3) 構成

- (1) 推進会議は別記1に掲げる委員をもって構成する。
- (2) 推進会議に座長を置き、座長は委員の互選をもって選任する。座長は、座長代理を指名する。
- (3) 専門委員には最新の情報提供等を依頼する。

4) 運営

- (1) 推進会議は非公開で開催する。
- (2) 推進会議の庶務は、社団法人農林水産先端技術産業振興センターが行う。

5) スケジュール

推進会議は年間3回程度開催する。

別記1 コミュニケーション推進会議委員名簿（五十音順、敬称略）

伊藤 潤子 生活協同組合コープこうべ参与（座長代理）
蒲生 恵美 情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所客員研究員
吉川 肇子 慶應義塾大学商学部准教授
小島 正美 毎日新聞社東京本社生活報道部編集委員
田部井 豊 独立行政法人農業生物資源研究所遺伝子組換え研究推進室長
堀口 逸子 順天堂大学医学部公衆衛生学教室助教
三石 誠司 宮城大学食産業学部フードビジネス学科教授・国際センター長（座長）

別記2 専門委員名簿（五十音順、敬称略）

緒明 俊 油糧輸出入協議会参与
大島 正弘 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所稲遺伝子技術研究チーム長
立川 雅司 茨城大学農学部教授
橋本 昭栄 特定非営利活動法人国際生命科学研究機構バイオテクノロジー研究部会長
松尾 和人 独立行政法人農業環境技術研究所生物多様性研究領域上席研究員遺伝子組換え生物生態影響リサーチプロジェクトリーダー

2. コミュニケーション推進会議の開催

(1) 第1回コミュニケーション推進会議

1 日 時：平成22年4月22日(木) 15:00～17:30

2 場 所：三会堂ビル2階S会議室

3 参加者

委 員：伊藤委員、蒲生委員、小島委員、田部井委員、堀口委員、三石委員（座長）、（欠席：吉川委員）

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室：小松課長補佐
事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 岩元理事、河野部長、高野、永富、鈴木、金井、岡田、田淵

4 内 容

挨拶：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室
(社)農林水産先端技術産業振興センター

座長選出

議事

1. 平成22年度コミュニケーション推進会議の開催について
2. 平成22年度のコミュニケーションの進め方について
 - (1) 大規模コミュニケーション計画
 - (2) 小規模コミュニケーション計画
 - (3) 情報提供資料の配布計画について
 - (4) アンケートについて
 - (5) ホームページ運営、メールニュース配信について
3. その他

配布資料

1. コミュニケーション推進会議の開催について
2. 大規模コミュニケーション計画について
3. 小規模コミュニケーション計画について
4. 情報提供資料の配布計画について
5. アンケートについて
6. ホームページ運営、メールニュース配信について

参考資料

1. 情報提供資料「Do you know?—遺伝子組換え農作物入門プログラム」
2. 情報提供資料「遺伝子組換え農作物を知るために—ステップアップ編」
3. 情報提供資料 考えてみよう！遺伝子組換え農作物「遺伝子って何だろう？」
4. 情報提供資料 同 解説書
5. 情報提供資料 考えてみよう！遺伝子組換え農作物「遺伝子組換え農作物ってどういうもの？」

6. 情報提供資料 同 解説書
7. 情報提供資料 考えてみよう！遺伝子組換え農作物「遺伝子組換え農作物を
考える」
8. 情報提供資料 同 解説書
9. 平成21年度「コミュニケーション事業」実績報告書
10. 平成21年度「意識調査事業」実績報告書

5 議事概要

・あいさつ

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室 小松課長補佐
社団法人農林水産先端技術産業振興センター 岩元理事

・座長の選出

委員の互選により、三石委員が座長に選出された。三石座長の指名により、伊藤委員が座長代理に選ばれた。

(1) 平成22年度コミュニケーション推進会議の開催について

- ・推進会議は、年3回、この後2回、9月と2月に開催の予定。第2回は活動実施経過の中間チェック、第3回は22年度の活動結果の取りまとめ、次年度以降の課題の整理を行う。

(2) 平成22年度のコミュニケーションの進め方について

ア. 大規模コミュニケーション計画

- ・事務局から示された年度内2回の開催案をもとに検討したが、今年度の状況を加味して、再度検討して具体案を検討することとした。

イ. 小規模コミュニケーション計画

- ・事務局案をもとに検討し基本的に了承された。小規模コミュニケーションの募集は既に4月9日から開始され、5月後半から来年1月までに55カ所以上で実施予定である。

ウ. 情報提供資料の配付計画について

- ・事務局案をもとに検討し基本的に了承された。詳細は、事務局で別途具体的に検討する。

エ. アンケートについて

- ・コミュニケーションで使用するアンケート改訂案について検討し、了承された。追加意見は、事務局宛に送付する。

オ. ホームページ運営、メールニュース配信について

- ・事務局案について検討し、了承された。

(3) その他

- ・特記事項なし

(2) 第2回コミュニケーション推進会議

1 日 時：平成22年11月2日（火）14：00～16：00

2 場 所：三会堂ビル2階B会議室

3 参加者

委 員：伊藤委員（座長代理）、蒲生委員、小島委員、田部井委員、堀口委員、（欠席：三石委員、吉川委員）

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室：

作田室長、小松課長補佐、飛鳥係長

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター

岩元理事、河野部長、高野、鈴木、金井、岡田、田淵

4 内 容

挨拶：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室

(社)農林水産先端技術産業振興センター

議事

1. 平成22年度コミュニケーション活動経過について
2. 事業計画の変更について
3. その他

配付資料

1. 小規模コミュニケーション応募結果・実施計画
2. 小規模コミュニケーション実施状況
3. 小規模コミュニケーションアンケート結果（中間報告）
4. 平成22年度遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション事業の活動内容の見直しについて

参考配布（小規模コミュニケーション参加者配布資料）

- ・『ブロッコリーからのDNA抽出実験』
- ・『遺伝子組換え農作物について』（プレゼンテーション用）
- ・『「遺伝子組換え農作物」について』

5 議事概要

・あいさつ

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室 作田室長
社団法人農林水産先端技術産業振興センター 岩元理事

- ・三石座長が所用により欠席のため座長代理の伊藤委員により会議の司会進行がなされた。

(1) 平成22年度コミュニケーション活動経過について

- ・平成 22 年度コミュニケーション活動の進捗状況について、配布資料 1 に基づき河野部長から説明があった。平成 22 年度の小規模コミュニケーションについては本年度 97 カ所から応募があり、地域、属性(大学・短期大学、管理栄養士・栄養士、生協、消費者団体、生産者団体等)等を勘案してうち 55 カ所を選定した。
- ・引き続き、高野主任調査役から配付資料 2 及び 3 等に基づき、10 月末日までに実施した 28 カ所のうち 25 カ所についての小規模コミュニケーションアンケート結果について説明があった。
- ・資料の説明に対し、質疑が行われた。コミュニケーションにおける説明の仕方では遺伝子組換え技術に関する懸念等についても触れることとしたほか、分かりやすい説明に配慮した。また、内容については研究開発に関する情報をもう少し加味する必要があること、世界的・社会的情勢も加味すべきこと一般の国民を対象としたコミュニケーションに使用する資料はもっと分かりやすいものの方がよい等の意見が出された。

(2) 事業計画の変更について

- ・平成 22 年度の遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション事業の活動内容の見直しについて、配付資料 4 に基づき作田室長から説明があった。平成 22 年 4 月以降、技術安全室では、国民への情報提供資料の見直し、これまで取り組んでいた遺伝子組換えに関するコミュニケーション等活動全般について点検を行った。
- ・その結果、情報提供資料については 7 月に技術安全室が『「遺伝子組換え農作物」について』を新たに作成し、小規模コミュニケーション活動に利用することとした。また、本年度 2 回実施する予定であった大規模コミュニケーションの開催を中止するとともに、ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」については情報発信の一元化を図るために農林水産省ホームページ「遺伝子組換え技術に関する情報サイト」への統合を行うこととした。同様にメールニュース「バイテクハウスメールニュース」についても農林水産省メールマガジン「食と農の研究メールマガジン」を通じて情報提供を行うこととした。
- ・外部委託事業のうち、「不特定の国民を対象とした遺伝子組換えに関するアンケート」については調査を行わないこととした。
- ・質疑ではコミュニケーション事業の継続、冊子「Do you know?」等の発行の復活、ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」での情報提供の継続、「バイテク小事典」の発行等の要望や次年度以降のコミュニケーション事業の見通し等について意見が出された。

(3) その他

特になし。

(3) 第3回コミュニケーション推進会議

1 日 時：平成23年3月8日（火）15：00～17：40

2 場 所：三会堂ビル2階S会議室

3 参加者

委 員：伊藤委員、蒲生委員、小島委員、田部井委員、三石委員（座長）
（欠席：吉川委員、堀口委員）

小規模コミュニケーション関係者：橋本昭栄（専門委員）、森田満樹

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室：

作田室長、小松課長補佐、飛鳥係長

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 岩元理事長、岩元理事、
河野部長、高野、鈴木、金井、岡田、田淵

4 内 容

挨拶：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室長
(社)農林水産先端技術産業振興センター理事長

議題

1. 平成22年度コミュニケーション活動結果について
2. その他

配付資料

1. 小規模コミュニケーション応募・計画
2. 小規模コミュニケーション実施結果
3. 小規模コミュニケーションアンケート結果
4. その他のコミュニケーション活動の結果
(資料類の配付、ホームページ、メールニュース、他)

参考配布

1. 小規模コミュニケーション参加者配布資料
 - ・『ブロッコリーからのDNA抽出実験』
 - ・『遺伝子組換え農作物の現状について』（プレゼンテーション用）
 - ・『「遺伝子組換え農作物」について』
2. 小規模コミュニケーションにおけるメディアの取材結果

5 議事概要

・あいさつ

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室 作田室長
社団法人農林水産先端技術産業振興センター 岩元理事長

・三石座長の司会のもとで会議が進められた。

(1) 平成 22 年度コミュニケーション活動結果について

- ・平成 22 年度コミュニケーション活動の結果について、配布資料 1 及び 2 に基づき河野部長から概要の説明があった。平成 22 年度は 97 カ所の実施希望があり、地域、属性(管理栄養士・栄養士、生協、生産者団体等)等を勘案してうち 55 カ所を選定して実施することとした。しかし、委託者の支持により、コミュニケーションの実施開始が 8 月にずれ込んだため、最終的には 51 カ所の実施となった。実施箇所の内訳は、大学・短大等が 10 カ所、管理栄養士・栄養士・調理士等が 4 カ所、生活協同組合が 11 カ所、その他が 29 カ所となっている。また、コミュニケーション参加者数は 2,338 人であった。
- ・引き続き、高野主任調査役から配付資料 3 に基づきコミュニケーション参加者に対するアンケート調査結果について説明があった。アンケートは 2,172 人(うち男性 316 人、女性 1,753 人)が回答し、回収率は 93%であった。
- ・アンケートの取りまとめのため、対象者を①大学・短大等、②管理栄養士・栄養士・調理士等、③生活協同組合、④その他の 4 グループに分類し、解析した。対象者が大学・短大等の場合では当然ではあるが 20 代が多く、管理栄養士・栄養士・調理士等や生活協同組合の場合では 40~50 代、その他の場合では 60~70 代が多かった。また、男性に対し、女性が圧倒的に多かった。
- ・今後のコミュニケーション活動に関するアンケート結果ではほとんどの対象者が「積極的に行うべきである」とする回答で、特に生協ではその割合が最も高かった。遺伝子組換え農作物・食品の安全性についてはコミュニケーション終了後では実施前と比べて安全性の認識がかなり高くなっていた。
- ・また、アンケート結果を昨年度の結果と比較したが、傾向はほぼ同様であった等の説明がされた。
- ・最後に鈴木調査役から配付資料 4 に基づき、本年度のコミュニケーションツールとしての資料類の作成・配布、バイテクコミュニケーションハウスホームページ及びバイテクハウスメールニュースについて説明があった。
- ・資料の説明に対し、質疑が行われた。コミュニケーションを実施するに当たって、実施する側の説明したいことと、聞き手側の聞きたい内容についての違い、聞き手側の興味と実施後の意識の変化には乖離があるのではないか。それらを把握するにはアンケート内容等を変える必要があるのではないか。コミュニケーションの中で多くの質問が出ており、現在整理中だが、安全性に関する内容が多かった。コミュニケーション取りまとめ結果はどこかに公開するのか。本年度で委託事業は終了するが、次年度からのコミュニケーション事業はどうなるのか等が論議された。
- ・次年度からの事業実施については技術会議事務局としては、これまでの

実績を踏まえ、続けていくことが大事であり、事業費はないが、ターゲットを20カ所程度に絞り、実施する方向で検討している。また、外部機関との連携については希望があれば人を派遣する等ジョイントすることも考えているとの説明があった。

- 意見として、次年度の開催を技術会議事務局が実施するのであれば研究開発であるが、コミュニケーションを希望する側が何を求めているのか、それに責任を持って回答できるように、政府として食品安全委員会、厚生労働省等との連携を図る必要がある。また、コミュニケーションの内容の改良と最後のゴールをどこに設定するのか、場合によってはミニゴールの設定も必要だ。また、生協、大学生、各ステークホルダー等のコミュニケーションの対象者ごとに内容をパッケージ化して利用する(してもら)ことも必要ではないか等の意見が出された。
- 事務局から、取りまとめ結果の公開については STAFF ホームページの中で報告書として公開する(<http://web.staff.or.jp/tankoubon.shtml>)との説明があった。

(2) その他

- 特になし。

II 事業の実施結果

1. 小規模コミュニケーションの運営

「小規模コミュニケーション」は、21年度と同様に重点対象者の教育関係者、学生、管理栄養士・栄養士・調理師、地方自治体、消費者団体、生協等から募集した少数（数十名程度）の出席者を対象に、農林水産省から情報提供を行い、コーディネーターの進行の下、フェイスツーフェイスで信頼感を構築しながら多様な出席者間の意見交換会をとおしてコミュニケーションを図ろうとした。また、DNA抽出実験も出来るだけ多く実施するように配慮した。

今年度は、小規模コミュニケーションを51回開催した。当センターは、その開催事務局を担当した。

(1) 開催準備

農水省と協議し、教育関係者、学生、管理栄養士・栄養士・調理師、地方自治体、消費者団体、生協等を重点対象者として、開催募集をかけることとした。開催時期は平成22年5月から平成23年1月まで、全国の地域に偏り無く実施することとした。

情報提供は、基本的に農水省担当官が行い、コーディネーターの進行によりコミュニケーションを行う。情報提供内容は、基本的に同じテキストを用いるが、対象者の希望と必要性により適宜内容を付加、変更する。実験については、DNA抽出実験を希望者に対して行う。コミュニケーション方法は、グループ討論方式（デルファイ法）、質問用紙方式を使い分けることとした。アンケートは、21年度とほぼ同じ内容で、コミュニケーション前後に行うこととした。

開催案内と募集は、4月9日に農水省の記者クラブ（農政クラブ40部及び農林記者会30部）に投げ込みの形でプレスリリースを行った。同時に、農水省、STAFF、バイテクコミュニケーションハウスのホームページに掲載した。また、農水省ホームページのメールニュース（食と農の研究メールマガジン、食品安全エクスプレス、Knews）、バイテクメールニュースで行った。また、重点対象者の応募の利便性も考えて、関係団体、地方自治体、研究会・学会等に募集案内、チラシ、応募用紙を送付した。（送付件数：約4,500件）応募は、FAX、メール、インターネットによる申込みとした。募集期限は5月14日とした。

応募総数は97件で、この中から重点対象者を中心に地域性、日程等を考慮して、55件を実施対象として選定した。しかし、委託者の指示により開始が8月に遅れたため、日程等の再調整を行った。その結果、実施が出来ない個所と辞退者が出たため、最終的には51件の実施となった。

以下に、公募から、応募、実施対象の選定・グループ分け、実施スケジュール・コミュニケーション実施内容の決定、情報提供者、コーディネーター、ファシリテーター、事務局間のコミュニケーション方法・内容等に関するオリエンテーションの実施等、それらの過程、実施実績の概要を示した。

① 公募と採用

公募チラシの送付件数は約 4,500 件で、各々からの応募件数及び採択件数の内訳を以下の表に示した。

<公募チラシの送付件数、応募件数及び採択件数>

対象分類	件数*	主な配付先
教育関係者	送付： 21 応募： 0 採択： 0	・日本理科教育学会及び支部、日本家庭科教育学会及び地区会、家庭科教育研究者協議会、全日本中学校技術・家庭科研究会、日本生物教育学会 等
学 生	送付： 380 応募： 19 採択： 10	・フードスペシャリスト協会会員大学(213) ・管理栄養士養成学校、栄養士養成学校
地方自治体等	送付： 1967 応募： 20 採択： 14	・都道府県教育委員会及び市区教育委員会 (1,077) ・市区に所在する保健所、福祉保健部局 (449) ・市区に所在する消費生活センター (394) 等
食品加工・ 流通業者	送付： 420 応募： 0 採択： 0	・(社)全国清涼飲料工業会、日本植物油協会、 ・全国豆腐油揚協同組合連合会等食品業界団体(55)、 ・都道府県食品産業協議会(45) 等、
管理栄養士・ 栄養士・ 調理師等	送付： 100 応募： 1 採択： 0	・(社)日本栄養士会及び支部 (48) ・(社)日本調理師会及び支部 (38) 等
消費者団体	送付： 576 応募： 34 採択： 15	・全国消費者団体連絡会、全国地域婦人団体連盟、 主婦連合会、消費科学連合会、(財)日本消費者協会 (NPO) 消費者機構日本 等
生産者・ 生産者団体	送付： 312 応募： 2 採択： 1	・全国酪農業協同組合連合会、日本養鶏農業協同組合 連合会、日本植物蛋白食品協会、日本農業法人協会 全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会 等
マスメディア	送付： 220 応募： 0 採択： 0	・都道府県に所在する地方紙、テレビ局、ラジオ局 (137)、農林水産省の農政クラブと農林記者会(70) 等
生活協同組合	送付： 369 応募： 21 採択： 11	・日本生活協同組合連合会、全国に所在する生協(グ リーンコープ、Aコープ、生活クラブ生協等) 等
その他団体等	送付： 73 応募： 0 採択： 0	・(社)日本PTA全国協議会及び都道府県PTA連合会、 全国学校給食会連合会、日本フランチャイズチェー ン協会 等
合 計	公募件数： 4,438件、応募件数： 97件、採択件数： 51件	

件数：上段の送付はチラシの送付件数、中段の応募は応募件数、下段の採択は採択件数

② 地域別及び属性別に見た応募件数と採択件数

公募期間：4月9日(金)～5月14日(金)

地域別に見た応募件数と採択件数は、以下の通りである。

公募案内は、ホームページに掲載すると共に、公募チラシを4,438カ所に送付した。その結果、97件の応募があり、下表に見られるように関東地域が34件と最も多かった、各地域から応募件数は特に偏っているということはない。採択に当たっては、実施団体の属性、実施日、地域等を考慮し検討を行い、55件を採択したが、開始時期が遅れたため実施できないところもあり、追加募集するなどして51件実施した。地域別に見た採択件数及び採択比率を以下の表に示した。

アンケートの集計に当たっては、実施団体を属性別に4グループに分類し行った。

<地域別応募件数と採択件数>

	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中四国	九州	合計
応募件数	2	6	34	3	16	16	10	10	97
採択件数	1	6	13	2	9	10	5	5	51
採択比率	2	11.8	25.5	3.9	17.6	19.6	9.8	9.8	100

<属性別公募送付件数、応募件数、採択件数及び採択対象の実施概要>

	短期大学及び 大学	管理栄養士・ 栄養士・ 調理師 等	生活協同組合	その他： 消費者団体 等	合計
公募送付件数	380	1,612	369	2,077	4,438
応募件数	19	5	21	52	97
選択件数	10	4	11	26	51
実施規模：人	25～120	20～300	20～40	15～90	15～300
参加者総数：人	662	414	299	963	2,338
分類	グループⅠ	グループⅡ	グループⅢ	グループⅣ	
参加者比率：%	28	18	13	41	100

<実施団体の属性による分類>

グループⅠ：短大及び大学で、管理栄養士、栄養士、調理師の資格取得を目指す学生及び農学系の学生

グループⅡ：自治体に所属する管理栄養士、栄養士、調理師、学校給食担当者等

グループⅢ：生活協同組合

グループⅣ：その他：消費者団体、一般 等

③ 小規模コミュニケーション関係者によるオリエンテーションの実施

今年度のコミュニケーションの目標、内容を確認し、スムーズなコミュニケーションの運営を行うために、小規模コミュニケーション実施に際して、コミュニケーション関係者（情報提供者、コーディネーター、ファシリテーター）でオリエンテーション（事前打合せ）を行った。

開催日時、場所

平成 22 年 7 月 28 日(水) 14 : 00～16 : 00

三会堂ビル 2 階 B 会議室

参加者

コーディネーター・情報提供者

蒲生恵美、橋本昭栄、堀口逸子

蒲生恵美、森田満樹（8 月 9 日(月) 14 : 00～16 : 00、STAFF 会議室）

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室

作田室長、小松課長補佐、飛鳥係長

(社)農林水産先端技術産業振興センター

岩元理事、河野、高野、鈴木、金井、岡田、田渕

議題

- (1) 情報提供内容について
- (2) 小規模コミュニケーション計画について
- (3) 参加者との質疑、意見交換(コミュニケーション)、アンケート
- (4) その他

(2) 開催結果概要

① 実施スケジュール（月別の実施件数）及びコミュニケーションの方法

応募先の希望実施月及び月別開催計画と開催回数を以下の表に示した。

<実施スケジュール>

	6～7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
開催希望月	23	9	19	15	12	5	14	0	97
当初開催計画	12	6	7	12	5	5	8	0	55
開催回数	0	6	9	13	7	5	10	1	51

小規模コミュニケーションにおいて、情報提供後の参加者とのコミュニケーション(質疑応答)は、グループ討論方式(デルファイ法)、及び質問用紙方式の二通りの方法を利用し、実施団体の参加者数等を考慮し、どの方法で行うかを決めた。

② 配付資料

配付資料は以下の通りである。DNA抽出実験を行わない場合は「DNAって何だろう？」は配布しなかった。配布部数は、各コミュニケーション実施主催者からの参加者情報をもとに必要に応じて加減し決定した。当日参加者が事情により少なくなり配付資料が残った場合は、欠席者や関係者への配布を主催者に依頼した。そのため、配付資料が不足することはほとんどなかった。

- ・DNAって何だろう？(ブロッコリーからのDNA抽出方法)
- ・講演資料「遺伝子組換え農作物の現状について」
- ・質問用紙
- ・アンケート用紙
- ・農水省からの情報提供資料「遺伝子組換え農作物について」
- ・グリーン・イノベーションに向けて ～新たな農林水産研究基本計画～

③ コミュニケーション方法

グループ討論方式(デルファイ法)：11カ所

質問用紙方式：40カ所

グループ討論方式(デルファイ法)：参加者を10人程度のグループに分け、各グループにはファシリテーターを配置して、各グループの参加者に質問を記載してもらい、出された質問についてファシリテーターがある程度回答しながら、グループ内で質問の優先順位を付けてもらった。上位3点程度までを各グ

ループのファシリテーターから情報提供者に順次質問を行い、時間が有れば下位の質問についても回答を求めた。未回答の質問については、各グループ内でファシリテーターが回答するように努めた。

質問用紙方式：この方法は2通りの方式で行った。一つは情報提供前に質問票を参加者に渡しておき、情報提供後に質問票に質問等を書いてもらい、回収してコーディネーターまたは事務局が質問内容を分類して情報提供者（農水省担当官）が回答する。他方は、特に大学などの学生には、指名して質問票の記載内容を読んでもらい情報提供者が回答するという方法で行った。

④ 実施場所毎の実施内容等

＜実施状況1＞ 実施場所、実施先、参加人数、アンケート回答数等

実施場所	実施日	実施先	参加人数	アンケート回答数(人)	回答率(%)	分類
第1回宍粟市	平成22年8月4日(水)	宍粟市学校給食センター	61	57	93	II
第2回潟上市	平成22年8月6日(金)	秋田県潟上市飯田川婦人会	46	32	70	IV
第3回浜松市	平成22年8月10日(火)	静岡県消費者団体連盟 西部支部	42	41	98	IV
第4回姫路市	平成22年8月16日(月)	姫路市教育委員会 学校教育部	292	286	98	II
第5回伊予市	平成22年8月23日(月)	伊予市保健センター	52	52	100	IV
第6回神戸市中央区	平成22年8月26日(木)	生活クラブ生活協同組合都市生活	23	23	100	III
第7回熊谷市	平成22年9月1日(水)	熊谷市めぬまくらしの会	75	68	91	IV
第8回白河市	平成22年9月2日(木)	福島県南生活協同組合	27	23	85	III
第9回徳島市	平成22年9月7日(火)	生活協同組合 コープ自然派徳島	19	19	100	III
第10回本庄市	平成22年9月13日(月)	埼玉県本庄保健所	40	39	98	II
第11回中央区	平成22年9月15日(水)	東京都中央区保健所 生活衛生課	49	48	98	IV
第12回京都市中京区	平成22年9月25日(土)	NPO 法人京都消費生活有資格者の会	27	25	93	IV
第13回京都市南区	平成22年9月28日(火)	京都生活協同組合	28	28	100	III
第14回佐伯市	平成22年9月28日(火)	佐伯市消費生活研究会	34	34	100	IV
第15回北九州市戸畑区	平成22年9月29日(水)	北九州市消費者団体連絡会「食の安全部会」	25	22	88	IV
第16回苫小牧市	平成22年10月1日(金)	苫小牧市婦人団体連絡協議会	27	26	96	IV
第17回世田谷区	平成22年10月4日(月)	東京農工大学 応用生物科学部栄養科学科	67	63	94	I
第18回さいたま市南区	平成22年10月7日(木)	生活協同組合連合会 コープネット事業連合	21	20	95	III
第19回大阪市中央区I	平成22年10月7日(木)	大阪府消費生活リーダー会	31	29	94	IV
第20回香取市	平成22年10月8日(金)	千葉県学校給食センター研究会 第四地区栄養士部会	21	20	95	II
第21回尼崎市	平成22年10月8日(金)	尼崎市生活衛生課	56	52	93	IV
第22回越谷市	平成22年10月13日(水)	生活協同組合 さいたまコープ東南地区エリア会	40	38	95	III
第23回那覇市	平成22年10月16日(土)	生活協同組合 コープおきなわ	15	14	93	III
第24回熊本市	平成22年10月18日(月)	崇城大学生物生命学部 応用微生物工学科	84	67	80	I
第25回米子市	平成22年10月21日(木)	鳥取県消費者協会	33	29	88	IV
第26回下関市	平成22年10月26日(火)	下関短期大学栄養健康学科	44	42	95	I
第27回宇都宮市	平成22年10月27日(水)	宇都宮市消費者友の会	93	79	85	IV

実施場所	実施日	実施先	参加人数	アンケート回答数(人)	回答率(%)	分類
第28回岡山市	平成22年10月27日(水)	中国学園大学現代生活学部 人間栄養学科	121	107	88	I
第29回草加市	平成22年11月3日(月)	草加市市民生活部 消費労政課	20	18	90	IV
第30回越前市	平成22年11月3日(月)	越前市消費者グループ連絡協議会	29	27	93	IV
第31回山形市	平成22年11月13日(土)	山形県食情報研究会 「たいき」	22	22	100	IV
第28回岡山市	平成22年10月27日(水)	中国学園大学現代生活学部 人間栄養学科	121	107	88	I
第29回草加市	平成22年11月3日(月)	草加市市民生活部 消費労政課	20	18	90	IV
第30回越前市	平成22年11月3日(月)	越前市消費者グループ連絡協議会	29	27	93	IV
第31回山形市	平成22年11月13日(土)	山形県食情報研究会 「たいき」	22	22	100	IV
第32回高島市	平成22年11月17日(水)	たかしま有機農法研究会	32	29	91	IV
第33回大阪市 中央区II	平成22年11月18日(木)	全大阪消費者団体連絡会	13	13	100	IV
第34回甲府市	平成22年11月24日(水)	生活協同組合 市民生協やまなし	23	21	91	III
第35回一関市	平成22年11月25日(木)	修紅短期大学食物栄養学科	54	50	93	I
第36回岐阜市	平成22年12月1日(水)	岐阜市立女子短期大学 食物栄養学科	57	57	100	I
第37回葛飾区	平成22年12月3日(金)	葛飾区消費生活センター	25	25	100	IV
第38回京都市 東山区	平成22年12月11日(土)	京都女子大学家政学部 食物栄養学科	51	50	98	I
第39回静岡市葵区	平成22年12月13日(月)	生活協同組合 コープしずおか	31	29	94	III
第40回北九州市 八幡西区	平成22年12月16日(木)	九州女子大学家政学部 栄養学科	90	87	97	I
第41回青森市	平成23年1月13日(木)	青森県消費者協会	55	50	91	IV
第42回船橋市	平成23年1月14日(金)	生活協同組合 パルシステム千葉	36	30	83	III
第43回岡崎市	平成23年1月17日(月)	岡崎市保健所	13	11	85	IV
第44回豊田市	平成23年1月18日(火)	豊田市消費者グループ連絡会	48	43	90	IV
第45回日進市	平成23年1月19日(水)	日進消費生活研究グループ	36	35	97	IV
第46回多摩市	平成23年1月21日(金)	多摩市消費生活センター	32	28	88	IV
第47回熊野市	平成23年1月24日(月)	熊野保健福祉事務所 熊野地域栄養 管理ネットワーク研究会	20	17	85	IV
第48回津市	平成23年1月25日(火)	三重県生活協同組合連合会	36	33	92	III
第49回富山市	平成23年1月28日(金)	富山県食品環境衛生職員協議会	28	23	82	IV
第50回仙台市泉区	平成23年1月31日(月)	仙台白百合女子大学 人間学部健 康栄養学科	70	67	96	I
第51回名古屋市中区	平成23年2月18日(金)	学校法人光陽学園 ニチエイ調理 専門学校	24	24	100	I
参加者合計、アンケート回答者合計、回答率			2,338	2,172	93	

<実施状況2> 各グループの実施場所、実施先、参加者数など

実施場所	実施先	参加人数	アンケート回答数(人)				回答率(%)	実験	コミュニケーションの方法
			女性	男性	無記入	合計			
グループⅠ：大学、短期大学（主に学生、その他教職員など）、10カ所									
第17回世田谷区	東京農業大学 応用生物科学部栄養科学科	67	52	11	0	63	94		質問用紙
第24回熊本市	崇城大学生物生命学部応用微生物工学科	84	20	46	1	67	80		質問用紙
第26回下関市	下関短期大学栄養健康学科	44	38	4	0	42	95	◎	質問用紙
第28回岡山市	中国学園大学現代生活学部 人間栄養学科	121	94	10	3	107	88		質問用紙
第35回一関市	修紅短期大学食物栄養学科	54	44	6	0	50	93		質問用紙
第36回岐阜市	岐阜市立女子短期大学 食物栄養学科	57	57	0	0	57	100		質問用紙
第38回京都市東山区	京都女子大学家政学部 食物栄養学科	51	50	0	0	50	98		自由質問
第40回北九州市八幡西区	九州女子大学家政学部 栄養学科	90	87	0	0	87	97		質問用紙
第50回仙台市泉区	仙台白百合女子大学 人間学部健康栄養学科	70	66	0	1	67	96		質問用紙
第51回名古屋市東区	学校法人光陽学園 ニチエイ調理専門学校	24	14	10	0	24	100	◎	質問用紙
グループⅠ合計		662	522	87	5	614	93	2	0
グループⅡ：管理栄養士、栄養士、調理師、給食担当関係者、4カ所									
第1回宍粟市	宍粟市学校給食センター	61	42	13	2	57	93	◎	質問用紙
第4回姫路市	姫路市教育委員会 学校教育部	292	266	10	10	286	98		質問用紙
第10回本庄市	埼玉県本庄保健所	40	30	9	0	39	98		デルファイ
第20回香取市	千葉県学校給食センター研究会 第四地区栄養士部会	21	18	1	1	20	95	◎	質問用紙
グループⅡ合計		414	356	33	13	402	97	2	1

実施場所	実施先	参加人数	アンケート回答数(人)				回答率(%)	実験	コミュニケーションの方法
			女性	男性	無記入	合計			
グループⅢ：生活協同組合、11カ所									
第6回神戸市中央区	生活クラブ生活協同組合都市生活	23	18	5	0	23	100	◎	質問用紙
第8回白河市	福島県南生活協同組合	27	19	1	3	23	85	◎	質問用紙
第9回徳島市	生活協同組合コープ自然派徳島	19	13	6	0	19	100	◎	質問用紙
第13回京都市南区	京都生活協同組合	28	25	1	2	28	100	◎	質問用紙
第18回さいたま市南区	生活協同組合連合会コープネット事業連合	21	11	7	2	20	95		質問用紙
第22回越谷市	生活協同組合さいたまコープ東南地区エリア会	40	35	3	0	38	95	◎	デルファイ
第23回那覇市	生活協同組合コープおきなわ	15	12	2	0	14	93	◎	質問用紙
第34回甲府市	生活協同組合市民生協やまなし	23	16	5	0	21	91		質問用紙
第39回静岡市葵区	生活協同組合コープしずおか	31	27	2	0	29	94	◎	デルファイ
第42回船橋市	生活協同組合パルシステム千葉	36	19	8	3	30	83	◎	質問用紙
第48回津市	三重県生活協同組合連合会	36	18	13	2	33	92	◎	デルファイ
グループⅢ合計		299	213	53	12	278	93	9	3

施場所	実施先	参加人数	アンケート回答数(人)				回答率(%)	実験	コミュニケーションの方法
			女性	男性	無記入	合計			
グループⅣ：その他（消費者団体、生産者、一般など）、26カ所									
第2回潟上市	秋田県潟上市飯田川婦人会	46	30	0	2	32	70	◎	質問用紙
第3回浜松市	静岡県消費者団体連盟西部支部	42	40	0	1	41	98	◎	デルファイ
第5回伊予市	伊予市保健センター	52	41	8	3	52	100	◎	デルファイ
第7回熊谷市	熊谷市めぬま暮らしの会	75	58	5	5	68	91		質問用紙
第11回中央区	東京都中央区保健所生活衛生課	49	15	30	3	48	98	◎	質問用紙
第12回京都市中京区	NPO 法人京都消費生活有資格者の会	27	17	5	3	25	93	◎	デルファイ
第14回佐伯市	佐伯市消費生活研究会	34	31	2	1	34	100	◎	質問用紙
第15回北九州市戸畑区	北九州市消費者団体連絡会「食の安全部会」	25	19	3	0	22	88	◎	質問用紙
第16回苫小牧市	苫小牧市婦人団体連絡協議会	27	19	5	2	26	96		質問用紙
第19回大阪市中央区I	大阪府消費生活リーダー会	31	21	4	4	29	94	◎	デルファイ
第21回尼崎市	尼崎市生活衛生課	56	32	17	3	52	93	◎	質問用紙
第25回米子市	鳥取県消費者協会	33	23	4	2	29	88	◎	質問用紙
第27回宇都宮市	宇都宮市消費者友の会	93	72	2	5	79	85	◎	質問用紙
第29回草加市	草加市市民生活部消費労政課	20	18	0	0	18	90	◎	デルファイ
第30回越前市	越前市消費者グループ連絡協議会	29	27	0	0	27	93	◎	デルファイ
第31回山形市	山形県食情報研究会「たいき」	22	22	0	0	22	100	◎	質問用紙
第32回高島市	たかしま有機農法研究会	32	9	19	1	29	91	◎	質問用紙
第33回大阪市中央区II	全大阪消費者団体連絡会	13	8	5	0	13	100		質問用紙
第37回葛飾区	葛飾区消費生活センター	25	15	10	0	25	100		質問用紙

実施場所	実施先	参加人数	アンケート回答数(人)				回答率:%	実験	コミュニケーションの方法
			女性	男性	無記入	合計			
第37回葛飾区	葛飾区消費生活センター	25	15	10	0	25	100		質問用紙
第41回青森市	青森県消費者協会	55	32	14	4	50	91	◎	質問用紙
第43回岡崎市	岡崎市保健所	13	7	4	0	11	85	◎	質問用紙
第44回豊田市	豊田市消費者グループ連絡会	48	36	3	4	43	90		デルファイ
第45回日進市	日進消費生活研究グループ	36	35	0	0	35	97	◎	デルファイ
第46回多摩市	多摩市消費生活センター	32	25	2	1	28	88	◎	質問用紙
第47回熊野市	熊野保健福祉事務所 熊野地域栄養管理ネットワーク研究会	20	17	0	0	17	85	◎	デルファイ
第49回富山市	富山県食品環境衛生職員協議会	28	12	11	0	23	82	◎	質問用紙
グループIV合計		963	681	153	44	878	91	20	7
参加者合計		2,338	1,772	326	74	2,172	93	33	11

⑤ メディアの取材結果

新聞、テレビ等への取材案内は地元主催者に依頼して行った。その結果、10 個所にコミュニケーションに関して、13 のメディアの取材があり、その結果は以下の表の通りであった。

表 小規模コミュニケーションにおけるメディアの取材結果

実施場所	主催者	実施日	掲載/放送日	メディア名 (取材社)	分類
北九州市	北九州市消費者 団体連絡会	9/29	9/29、11:40 ニュース	九州朝日放送	テレビ
苫小牧市	苫小牧市婦人団 体連絡協議会	10/1	10/6	苫小牧民報	地方紙
米子市	鳥取県消費者協 会	10/23	10/23、18:00 ニュース	中海テレビ	ケーブル テレビ
下関市	下関短期大学	10/26	10/30	山口新聞	地方紙
宇都宮市	宇都宮市消費者 友の会	10/27	10/21	下野新聞 (募集記事)	地方紙
宇都宮市	宇都宮市消費者 友の会	10/27	11/3	下野新聞	地方紙
宇都宮市	宇都宮市消費者 友の会	10/27	10/28 夜 10/29 朝 ニュース	とちぎテレビ	ケーブル テレビ
青森市	青森県消費者協 会	1/13	1/27	東奥日報	地方紙
豊田市	豊田市消費者 グループ連絡会	1/18	1/20 終日 ニュース 豊田市 HP*	ひまわりネット ワーク	ケーブル テレビ
日進市	日進消費生活 研究グループ	1/19	1/24、10 回 ニュース	中部ケーブル ネットワーク	ケーブル テレビ
多摩市	多摩市消費生活 センター	1/21	1/1	たま広報 (募集)	市広報
熊野市	熊野保健福祉 事務所	1/24	1/26	吉野熊野新聞	地方紙
熊野市	熊野保健福祉 事務所	1/24	1/26	南紀新報	地方紙
熊野市	熊野保健福祉 事務所	1/24	1/24 夕方 ニュース	NHK 津放送局	テレビ

* <http://www.city.toyota.aichi.jp/toyotanow/news1101.html>

(2011 年 1 月 20 日(木)、消費生活専門講座)

(3) 開催結果

第1回（兵庫県宍粟市）

日 時：平成22年8月4日(水) 10:00～12:00
場 所：宍粟防災センター5階ホール（兵庫県宍粟市）
主 催：宍粟市学校給食センター（宍粟市教育委員会）
参加者：宍粟市教育委員会職員、管理栄養士、栄養士、調理師など61名
コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所
客員研究員 蒲生 恵美
情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室
課長補佐 小松 晃
事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の宍粟市教育委員会 小倉庸永教育長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

次いで、事務局からブロッコリーからのDNA抽出方法について簡単な解説と参加者全員によるDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する予備知識を得た。

その後、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から、「遺伝子組換え農作物について」の情報提供があった。

引き続き、コーディネーターの司会進行により、全員に配布した質問票を用いて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA 抽出実験



情報提供

以下、主な質問と意見・感想

宍粟市（質問用紙 33 枚回収）

質問票を回収し、コーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・安全性を慎重に試験・承認されていることがわかり、以前より組換え作物に対する不安は減りましたが、長い年月、組換え作物を直接的・間接的に摂取していった影響はないのか？とも思います。
- ・国内で使用が承認された組換え農作物は、安全だというのはわかりますが、長い間とり続けた場合、本当に安全なのか？
- ・組換えによって、これまでの食品に比べて、アレルギーを引き起こす心配が増えないか。アレルギーの人には、影響ないですか。
- ・飼料の場合の安全性には問題はないのか？
- ・遺伝子組換え農作物を飼料にしている牛、豚、鶏などで、今まで、何か悪影響があった例はありますか。
- ・害虫被害を受けない食物が、なぜ人の体に安全なのかを詳しく知りたい。
- ・遺伝子組換えによって生産性、コスト面は確かに良くなるかも知れないが、食品として人間が食べる場合の安全性は、今の基準で十分なのか？ 今後、改善の考えはあるのか？
- ・安全性の確認評価は、どの程度の人数・段階をふまえて、承認されるのですか。
- ・生産者、消費者共に有益なはずなのに、消費者の懸念が消えないのはなぜか？ 安全性に関する情報公開（広報活動）が不足しているのではないか。

技術、実用的問題

- ・GM について、もう 1 度、その意味をお願いします。
- ・除草剤耐性について詳しく説明してほしい。
- ・今から、国内・海外で使用等が承認されるであろう新しい遺伝子組換え農作物があれば、教えてください。土壌への影響はありますか。
- ・遺伝子組換えの作物と、一般の同一作物等の近隣交配は起きないのでしょうか。もしくは組換え作物は一代限りでしょうか。近隣の農場での交配が起きた時、異種の突然変異が起きないのか。
- ・遺伝子組換え作物の種子は、一般に販売されている（手に入る）のか？ 遺伝子組換え作物を栽培している人は、それが遺伝子組換え作物であることを知っているか（知らずに広まっていないか）。
- ・遺伝子組換えをされた作物などの栽培を簡単に家でもできるのですか。
- ・兼業農家ですが、遺伝子組換えによって、将来、雑草とりなど、楽に農業ができるようになるのか。
- ・家で黒大豆を作っているのですが、黒大豆も遺伝子組換えなどは研究されているのでしょうか？ このところの天候不良とか、連作障害とか、収穫時期のタイミングとかで、なかなかいいものが出来ません。
- ・使用が承認されているものは、8 作物 7 8 品種もあるのに、栽培されているのは、なぜ、「バラ」だけなのか？

- ・今後日本で承認され入ってきそうな作物は何か？
- ・今は農作物の栽培の時に、肥料を使わない方が安全だけど、肥料で作った方がきれいだし、食べやすいのではないかな？ 体に影響はあるのかな？

食料問題

- ・低コストでの量産体制ができあがると、国内での食糧自給率が低下し、遺伝子組換え食品だらけになるのではないかな？
- ・今日の話聞いて、私も何年も先の事が心配です。きちんとした情報がないと、なかなかどんないい試みも手が出にくいです。日本は、海外の遺伝子組換えのものを食べるばかりでなく、自分達の国でも、遺伝子組換えの研究・開発がされているのでしょうか？ 遺伝子組換え商品は、すごく価格も安くなるのでしょうか？

●意見・感想

- ・現在の社会において、人間は、全て実験されている状況だと思います。遺伝子組換え食品を体内に入れて 50~100 年経過した時に、どんな影響が出ているかわからないと思います。その辺りが不安ですが・・・。
- ・遺伝子組換え農作物の安全性を確保する仕組みを知りましたが、除草剤耐性ダイズや害虫抵抗性トウモロコシなどを見ると、身体への害がないか、やっぱり不安ですが・・・。でも、今まで認識不足で不安ばかりでしたが、これから組換え食品を目にしても、今までの考えとは違ったかたちで接していけるとと思います。
- ・遺伝子組換えは、今まで危険だと思っていましたが・・・。これから食べ続けていって安全なのかなと不安に思います。安全だということを、消費者に知らせる方法を考えてほしいと思います。
- ・遺伝子組換えは不安がいっぱいありますが、現実としては、必要な事なんだと思います。でも、やっぱり、除草剤で枯れない作物を見ると、不安に思うのも本音です。今日の講演は勉強になりました。
- ・食品パッケージの裏に、遺伝子組換えでないという事が書かれているが、何か危険性があるから書かれていると思わざるを得ない。どういう事なのか。米の問題もあり、食の安全を考えると、使用しにくいと思うのですが。体内にとり込まずに、将来的な安全性は何も分からないのではないかな。薬の副作用的な。流通はかなりしているのか。危険性→マスコミなら、安全性を農水省が CM 等でしらせては？
- ・知らない所で、多くの遺伝子組換えの物があるのにびっくりしました。でも、今は、いかなと思いつつ、20~30 年後にどうなっているか、少し不安が残ります（安全だと分かっても）。
- ・安全性は高いと思いますが、まだまだ、これまでに分かっていない部分があると思うので、少し心配です。そして、この遺伝子組換え技術を医学の分野に役立ててほしい。
- ・ほとんどの輸入作物は、家畜のえさになっているようですが、宮崎県のような口蹄疫や鳥インフルエンザなど、動物にいろいろな病気が発生しています。そのような事例がある以上、やはり、その肉を食べている人間も、アトピーなど、いろいろなアレルギーがあると思います。やはり、絶対に大丈夫とはいえないように思います。
- ・遺伝子組換え農作物の安全性を守るシステムが、日本では確立している説明をうけて、やみくもに懸念するのはやめようと思いました。もっと多くの人に知ってもらえるように、広告していくことが大切だなと感じた。

- ・テレビで、遺伝子組換えは安全であるという番組を、何となく見た事はありませんが、実際、買い物に行った際、大豆等「遺伝子組換えでない」と書いてあると、そちらの商品を買ってしまいました。普通とはちがうという認識がすごく強いからだとは思いますが。メリットがあると知ると、安心して買えるので、広く告知することが必要だと思います。
- ・小学生の子供に、遺伝子の説明をしてあげるのに、分かりやすく説明してあげたい。
- ・私は、遺伝子組換えの意見がわからないから、どうして安全とか、ダメなのかの意見もわかりません。(なぜ組換えはダメなのか、わかりません)。

第2回（秋田県潟上市）

日 時：平成22年8月6日（金）13：30～16：00

場 所：秋田県潟上市飯田川保健福祉センター（秋田県潟上市）

主 催：潟上市飯田川婦人会

参加者：潟上市飯田川婦人会会員他 46名

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

オブザーバ：東北農政局 秋田農政事務所消費・安全部

消費生活課消費経済係長 伊藤 昭敏

潟上市福祉保健部健康推進課長 伊藤正吉

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の潟上市飯田川婦人会 小玉喜久子会長並びに潟上市福祉保健部健康推進課 伊藤正吉課長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、事務局の司会進行のもとで、質問票を用いて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

潟上市（質問用紙 15 枚回収）

質問票を回収し、事務局司会者が情報提供者に質問の内容について順次聞き、情報提供者から回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・遺伝子組換え作物の安全性を調べるとは、どういうことをするのか？
- ・いいことづくめなのに、ことさら安全性が問題になるのはなぜか？
- ・遺伝子組換え食品を食べることによって、従来持っている人間の細胞が壊される（？）変化する（？）。
- ・除草剤はコストを下げるため（？）除草剤を使用することによって、悪いことはないのですか。

技術、用途

- ・遺伝子組換え農作物と聞けば、ほとんど外国産のものと思いますが、日本の国としては、今現在研究中の作物、今後の方針等は如何様に考えているのでしょうか？ あらゆる研究は日本が優れているのに、遺伝子組換えに対しては安全性を重要視しすぎて遅れているのでしょうか？
- ・とうもろこし、大豆などが、遺伝子組換え作物として多いのはなぜか？
- ・飼料に多く使われているのは、どうしてか？
- ・遺伝子組換え農作物の開発によって、商業栽培の方が（将来的に）主力になる？

表示

- ・『醤油など DNA やたんぱく質が残っていない食品』は表示義務がない」ということに、疑問がある。
- ・「遺伝子組換えの物は使用していない」の表示がありますが、遺伝子組換えの物も出まわっているということでしょうか。

その他

- ・クローンって何ですか？
- ・おいしい「枝豆」が食べたいのですが、品種の見分け方、どこが違うのか。
- ・在来類と外来類と出来た場合どうなるか。その土地の味がなくなるのでは？

●意見・感想

安全性

- ・今までは遺伝子組換えの物を買う気にもなりませんでした、今日の話聞いて少し気持ちが変わった様な気がしました。
- ・ニュースなどでよく耳にする事で、そんなに危険なものであったらダメと決めていいのではと、いつも思っていたのですが、今日のお話を聞いてみて少しばかりわかった気もしますが、まだまだ・・・。
- ・遺伝子組換えに関して、農水省での色々な検査を通っていることで、少し安心できました。
- ・遺伝子組換えでできたジャガイモに巨大・奇形なものが（いっぱい？）で、またこの映像を以前テレビで見たことがあります。やはり心配です。

- ・遺伝子組換え農作物を商業栽培するとして、それは絶対的に安全であるかどうか疑問です。なぜならば、営利が発生する訳ですから、利益重視になり、安全性が損なわれるのではないかということです。

- ・除草剤が一回でいいということは、どういうことですか。毒があるから虫がつかないとも考えられます。人間が食べて害にならないでしょうか。

- ・現在は、すべていいものが作られていても、これから先、他の植物との交雑で人間に害になる突然変異が考えられないか心配です。

- ・農作物に関することであり、私達の食品でもあるので、これからも色々あると思いますので、宜しくお願いします。

技術、その他

- ・遺伝子組換えというネーミングがイメージ悪いと思うのですが。ちなみに豆腐と納豆を買うとき、特に注意していました。今日考えが変わりました。

- ・細菌で遺伝子組換えしている事を初めて知りました。悪影響を及ぼさないか知りたいです。

- ・今日は、ブロッコリーの DNA、本当にびっくりしました。DNA が身近に感じられました。ありがとうございます。

第3回（浜松市中区）

日 時：平成22年8月10日（火）13：30～16：00

場 所：静岡県浜松総合庁舎7階703-4会議室（浜松市中区）

主 催：静岡県消費者団体連盟西部支部

参加者：静岡県消費者団体連盟西部支部会員 42名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所
客員研究員 蒲生 恵美

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室
課長補佐 小松 晃
係長 飛鳥 武昭

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター調査広報部

河野、高野、鈴木

概 要：

はじめに、主催者の静岡県消費者団体連盟西部支部 土屋京子支部長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を5グループに分けて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想をポストイットラベルに書いてもらい、グループ討論（デルファイ法：各グループには司会者がついた）によるディスカッションを行った。グループ討論後、各グループから出た質問等を発表することによって全体で共有し、コーディネーターの司会進行で農水省担当官が回答していった。その際に追加質問、関連質問も取り扱い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

浜松市（49 枚回収）

コーディネーターがグループ討論によって得られた質問等について順次聞き、情報提供者から回答を得た。追加質問、関連質問も扱い、それらの回答も得た。グループ討論によって得られたポストイットラベル質問票の内容は以下の通りであった。

●質問

安全性

- ・ 遺伝子組換えの本当の安全性は、いつになったら、安心できるか？
- ・ 遺伝子組換えをすれば、絶対安全な商品になりますか。本当に難しい事でよくわかりません。
- ・ 遺伝子組換え品は豆類だけとと思っていましたが、花、野菜類にも使われているとは思いませんでした。本当に安全か。
- ・ 10年前遺伝子組換え食品は危険ときいてから、今までほとんど買っていません。国の安全性は、10年前とその調査法は同じですか？
- ・ 日本と各国との遺伝子組換えの基準が統一されなければ、安心して輸入出来ないし、又、口に出来ないのではないのでしょうか？各国との情報も一元化しなければ、対応も難しいのではないのでしょうか？
- ・ 不安。まだ、人間に対する影響が解明されていないのでは？
- ・ 遺伝子組換え食品を人間が食べたら、どの様な結果が出るのか？
- ・ 遺伝子組換え食品の身体への影響はどうか。
- ・ 組換え食品を食べた時の影響は、大人と子どもとどう違うか？
- ・ 生産者にとって、メリットがあるが、虫もくわない、除草剤にも強い作物を飼料として食べた牛、豚、鶏等を人間が長い間食して、影響が本当にないのだろうか？
- ・ 大豆やトウモロコシは、飼料として入ってきていますが、その肉を食べるの安全性の調査は、時間がかかると思いますが、もう結果は出ているのでしょうか？
- ・ 飼料として使用されているが、牛、豚、鶏に到れば、既に食用している。人間の体に対する変化は、（人体実験されていること）どう検証されているのか？
- ・ 丈夫な遺伝子同士の組換えをし、良質な作物を作ることは、良いことだと思いますが、その飼料を使った肉、牛乳に対し、身体的に影響はないか？
- ・ 家畜飼料には、組換え作物が使われている。それを食べる私達は大丈夫？
- ・ 組換え食品の身体への影響が気になります（飼料を食べた畜産物）。
- ・ 組換えられた動物の肉は、本当に安全ですか。
- ・ 遺伝子組換えを飼料用としているが、肥料（牛糞、鶏糞等）として使用して、問題ないか。

技術

- ・ 品種改良とは、ほとんどが遺伝子を組換えてあるのですか？これからの気候の変化に、ついていける作物に改良して下さい。
- ・ 害虫抵抗性トウモロコシに加えたたんぱく質は何？（10年前位の知識では、虫がつかない

いトマトに、ハエの遺伝子を加えると書いてあったような・・・)

・遺伝子組換えは一代の交代で新品種ができるとお聞きしたが、組換えした同士の世代の遺伝は、自然交配の遺伝法則とは違うのか。

・遺伝子組換え食品は飼料や油に使われているようですが、それ以外に使われているものは何か。組換えでないものばかりですが、組み換えたものはどこにいったのか。

・生で食べる白のトウモロコシは、遺伝子組換えではないのですか。テレビで放送していました。

・日本で使用等が承認された遺伝子組換え農作物の中で、商業栽培されているのは「バラ」のみという商業栽培とは？一般的な使用の承認は？商業栽培の意味？

・遺伝子組換えの種子は、元は、どこから取り出していくのですか。

・遺伝子組換え食品は、コストはあがりますか。

・DNAを調べれば、ウナギの国産、外国産などの情報がわかるのですか？

表示

・遺伝子組換え不使用の表示でも、豆腐、納豆など、〇%混入していると聞いたが、どうですか？

・「遺伝子組換え食品」であると明示している食品を目にしたことがありませんが、どのくらいの割合で出ているのでしょうか？

・遺伝子組換え食品ではありませんと表示がありますが、安全かなと常々思っていますが、大丈夫でしょうか。

・肉の表示に遺伝子組換え飼料を使用しているとの表示は、必要ないのか。

・表示してある物が実際信用できるのか、疑問に思うことがある。

●意見・感想

・食品として組換えしていない物を選んで食べていても、家畜飼料に使用しているのであれば、間接的に食べているのと同じであると思った。

・飼料のほとんどが遺伝子組換えと聞きましたが、人への影響が、今後、心配。

・液体（醤油、油など）は、表示が義務でないので、スナック菓子なども知らされず食べている。

・組換えしていない品物だけを求めている。

・遺伝子組換え商品ではありませんと表示してある品物を買った方が良いか。又、経験が浅いので心配です。

・遺伝子組換え食品の表示義務について、表示のないものは不安です。が、今日の講話によって、解ってきた気がします。

・安全確保をしっかりやって欲しい。

・遺伝子組換えをする事に年数がかかるとか、私は安心して、これからの生活に生かさせて行きたい（食生活）他。

・遺伝子組換えではありませんと食品に書いてあると安心だと、思っていました。が、今日のお話をお聞きして、日本で流通しているものは安心との事を知りました。

・遺伝子組換え農作物というと、今まで、何かやたらにこわいと思っていたが、お話を聞

いて少しは、安全と思いました。国で審査している事をもっと知らせた方が良いのでは。ただ、遺伝については長い時間がかかるのでは。

・農業を次ぐ後継者が少ない時、作業が楽で安全であれば、組換えをしても仕方がないが、検査を充分やって欲しい。

・品種改良の一つの方法としての技術であることであれば、受け入れられる。自然の中でも組換えはある。それを人の手でする技術であることが分かりました。

・遺伝子組換えと聞かされただけで、難しく感じた。たんぱく質の働きで生きものなどの形質が決まると言うことなど、早速、家族に話します。

・より安全に、改良されることが出来るなら、よりおいしくできる果物等を作って欲しい。砂漠にも育つ草木等、開発できたら良いと思う。

・お話を聞いて、これからは遺伝子組換えは必要と思いました。正確な情報を消費者に伝えて、安心感を持たせて欲しい。

・何でも人間（私達）の都合に合わせて変えてもいいものなのか？その結果が出るのは30年後ではなく、100年後かもしれない。

・通常あり得ない遺伝子導入がなされている。それでも安全かどうかを見極めることが必要。

第4回（兵庫県姫路市）

日 時：平成22年8月16日(月) 10:50~12:00

場 所：姫路市役所10階大会議室（兵庫県姫路市）

主 催：姫路市教育委員会学校教育部

参加者：姫路市教育委員会職員 6名

姫路市給食担当調理師など 292名

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の姫路市教育委員会学校教育部学事・保健課 白谷妙子統括班長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

次いで、事務局の司会進行のもと、農林水産省担当官から35分間で「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについて、全員に配布した質問票を用い質問・意見交換を行った。質問票は186枚回収でき、所定時間内には全てを回答できなかったが活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



情報提供

以下、主な質問と意見・感想

姫路市 （質問用紙186枚回収）

参加者に質問・意見等を質問用紙に書いてもらい回収して、そのうち太字で書いたものを丸数字の順番に質問で取り上げ情報提供者から回答やコメントを得た。

●質問

安全性

・今までに、**遺伝子組換え食品を食べて、身体に異常が起きたという例はないのでしょうか？②**

・組換えによる数値上の危険度でなく、実際的な害の例はありますか。

・科学的に安全というのは、どうやって決めた事なのか？何十年先にも、人間の体に大丈夫ということが100%保障されるのか？

・遺伝子の一部を組み換えるという事は（トウモロコシ）ではなくなってるのでは、ちがう食物になっていると思うのですが……。虫も食べないような食品を、これから人間が食べ続けても害がないのか？安全性はどれくらい（何年）かけて分かっているのか？

・ヒトへの長期的な摂取における影響に対する研究は、どこまでの結果が出ているのか。また、その長期というのは、現在は、どれだけの期間まで研究結果が出ているのか。

・不良環境でも収穫できる食品ができることは、確かにすばらしいのですが、環境修復植物が間違っって利用されたり、虫に強いということは、摂取し続けることにより、体内に蓄積されて、人体にも害があらわれるのではないのでしょうか。虫に強い飼料を食べ続けた家畜を、食べ続けても害がないのですか。

・遺伝子組換え農作物の中で、飼料等に使用するものについては賛同できるが、食用にする農作物について、人体に与える影響はどうなのか？人体実験済みなのか（マウスでは済んでいると思うが）。人体に何らかの悪影響が出るとすれば、何年位先のことなのか？

・安全ならばそれでいいですが、危険な場合、どのように危険なんですか？どんなことが起きるんですか？

・安全と聞いても、何がどう安全なのか、安全の意味がよく分かりません。もし危険なのであれば、どのような悪影響がでるのか、具体的な例が知りたいです。

・本当に安全・安心な物なのか、食べてもすぐに結果が出ないのではないのか？消費者としては、安価な方が助かります。

・遺伝子組換え農作物を食することによる体への影響の実例は、どんなものがあるのか？何年か先に人体への影響は本当はないのか？

・遺伝子組換え農作物が安全だと認めるのに必要な時間は、どれくらいか？安全だと言われていたのに、その後、環境や健康に影響を与えた場合の保障などはどうなのか？

・遺伝子組換え農作物を摂ることによって起こるアレルギーの症状を教えてください。

・農水省は、遺伝子組換え農作物を推進していると思うのですが、今のところ、何%安全だとお考えですか？

・子ども達が食べ続けて、安心して安全な農作物って、本当にあるんでしょうか？

・安全性確保された物のみとはいえ、本当にそうなのかどうかは、検査だけで測り決められる物なのか、疑問。人類史上初めての物を口にする以上、まだ答えを出せないのでは？

・危険という事しか頭になかったが、今日の説明で安全性がわかったが、100%なのでしょうか？少しずつ蓄積されるかが心配。

・遺伝子組換え農作物は、海外で多く取り扱われていると言っていたのですが、海外での危険度や、農作物を食べたりして、人への影響等ありましたか。

・遺伝子組換えの食品で、人体に悪い影響があった事例を、聞いてみたいです（実験段階で）。

・害虫抵抗性トウモロコシを食べて、ヒトの体内でも安全かどうか、長い目で見ると心配です。害虫が食べない食物を、ヒトが食べてもいいのでしょうか。

・以前、テレビで遺伝子組換えのエサだけ食べたマウスは、通常のマウスの3分の1にしかならなかったと見たのですが、人間もそればかり食べると、成長障害などを起こさないのでしょうか？

・関係あるかわかりませんが、飼料について、以前、犬用のペットフードにアメリカ産のものを輸入していた日本の業者から購入し、ペットに与えたところ、病気が発症し、死亡したことを、ネットで見ましたが、ペット用フードには、規制はないのでしょうか？

・遺伝子組換え農作物について、安全性が高く、開発されるべき理由があるものだということが良くわかりました。日本に導入される時に厳しく検査されているのはわかりましたが、その後、数年後に検査をし直すとか、基準の見直しとかの予定はあるのでしょうか。生物相手のことですので、色々と変わってくることもあるのではと思います。

・結局、遺伝子組換え食品を食べても人体に影響はないのか。気にせず食べても良いのか。

・以前は、遺伝子組換え農作物でないと表示された商品を選んで購入していましたが、一主婦にとっては、コストが安いと聞いて、少しは選んでも良いのかなという気にはなりました。遺伝子組換えの飼料を食べている牛、豚を、私達が食するということの安全性は、いかなるものでしょうか？

・知らないうちに私達は、遺伝子組換え食品を口にしていたと改めて思った。スライドでできたホットケーキミックスは、実際に家にあり、良く使用しています。今まで、あまり深く考えていなかったということがわかった。もっと、もっと、安全性を訴えれば良いのでは？しかし、安全って何？

・学生の時、遺伝子組換え飼料で育った猿山の猿達に、次々と障害を持つ子猿が生まれたビデオを見た記憶があり、未だ不安です。そういった実態は、報告されていないのでしょうか。

・GMの商品は、極力避けて購入していたのですが、それによって農薬などの薬剤を使用することが減っていることを聞いて、どちらが安全なのかと思いました。質問としては、安全性評価というのは、どれくらいの期間でしているのかということです。

・飼料として輸入されたトウモロコシ、大豆を食べて育った牛、豚などを、私達は食べても本当に安全なのですか？（もちろん、子どもも、これから50~60年間食べ続けて）。①

・現代では、飼料として食べて育った牛、豚、鶏を食べている現状、今の時点で何も影響がないが、この先何十年と食べていく中で、影響は出ないのか？

・今の段階では、安全だということになっているが、後になって危険だったという事例は少なくない。データ面などきちんとしたものが使われているのか。

・遺伝子組換え農作物の安全性の試験結果を、どれくらいの期間をもって安全だと言われているのですか。

・遺伝子組換え作物の安全性は、どれくらいの期間、安全性を確かめる研究をされているのでしょうか。

・昔は「遺伝子組換え」なんてものは、なかったわけですよ。昔と食生活が変わってきたものもありますが、日本の平均身長とかが相対的に外国の人々に近くなってきています。何か関係がありますか。

・「安全性が確認された物しか市場に出ない」とありましたが、その安全性とは、100%といえますか？100%でない場合は何%以上なら安全と思われませんか？

・食べても安全であるということが分かりましたが、昔から言われる虫が、食べる物はおいしいという事があるように、味はどうなのでしょう？虫がつかないという事は味が落ちているのでは？

・虫がつかなくなった食物を食べる虫は、今度、どこへいくの？（何を食べるの？）それを（虫を）食べる生物は、どうなるのか？生物の生態系を崩してしまわないのか？1問では聞き取れません（すみません）。

・講演を聞いて、結局、遺伝子組換え食品は、全て生産者の都合のいいように作られている気がします。研究結果を統括されている方々（広報活動をされている方々）は、自分の子どもや孫に、遺伝子組換え食品を「安全だよ」と食べさせようと思いませんか？④

・現状は安全なものが、輸入されていることは理解できましたが、今、スーパーに行って、安価で遺伝子組換えと書かれている物を買われますか？

・本来、虫が寄りついてきたものに、虫が寄りつかない様な作物が増えていって、動物の生態系とかには影響がないものなのでしょうか？⑤

・遺伝子組換えで育った作物からできた種を植えて、又、作物を生産するのか？そうであるなら、毎回、安全性などのチェックをどの様にしているのですか？

・長期間、GM食品を摂取した時の安全性は確認できるのか？外国のGMの生産基準はどのようなもの？

・安全性について、一番心配です。人に及ぼす影響は具体的にどのようなものがあつたのか？それは、どの時点で止められているのか？いつまで継続されるのか？

・遺伝子組換え農作物をエサとした家畜を食べて、人体に影響がないか？というのは、調査に時間がかかることだと思うが、きちんとなされてるか、現状や結果を知ることはできるのか？

・一つのGMに対して、調査し、安全であるという結果に、時間がどれくらいかかるのですか？

・遺伝子組換え農作物等について、期待されていることはたくさんあります。これからの農作物は遺伝子組換え作物になって（表示義務まであって）、具体的なリスクはどんなことがありますか？

・遺伝子組換えをすごく研究されていて、安全なのは何となくわかりましたが、その遺伝子組換えを小さいときからずっと長年食べ続けても、発育に問題はないのでしょうか？

・安全と確認されてから出されているが、食べ続けても体に害はないのか、気になります。

・遺伝子組換え技術が始まってまだ年数的に経っていないように思えるし、それを使ったGMの食品が及ぼす影響が長いタームでみられているのか疑問。よく何十年経って、体に影響を及ぼす化学物質は多いのだから、GMでも、その点は大丈夫なのでしょう？

・日本では例がないと思いますが、海外において、食品として人間が食べて、何か影響を及ぼした例があるのでしょうか？

・遺伝子組換えの農作物は、安全だと言われるが、3代、4代後も安全か？人体等に影響、

又は、環境などの影響などはないのでしょうか？

- ・安全性について、今後も大丈夫なのでしょうか？
- ・遺伝子組換えの作物が必要なのは理解できたのですが、人の体内に入り、蓄積して悪影響を及ぼさないとどうして言いきれのでしょうか？
- ・P11にある除草剤散布区で育てたダイズには除草剤の成分を吸収しているように思うのですが、体内に入っても安全？
- ・組換え飼料を食べた牛、豚は大丈夫なのか？しかし、中国の農薬がたっぷりかかった野菜など食べるよりは、組み換えの方が安全だと思う。
- ・遺伝子組換え農作物、日本でも作っていく可能性はどのくらいありますか？飼料の安全点検、確実に調査行えていますか？
- ・今回の例にあった害虫抵抗性トウモロコシが大量生産された地域等で、生態系の変化は見られたのでしょうか？オオタバコガは、トウモロコシ以外の物を食べるようになったのか。個体数が減ったのでしょうか？
- ・GMトウモロコシ栽培率 80%と聞き、やはり虫の食べない食材が身体に影響がないか疑問。輸入が多いだけに心配。
- ・遺伝子組換え商品が数年数十年食べ続けていても体には何の影響もないのか？
- ・今現在では、長年食べてきている人がいない中で食べ続けて、自然界では今までなかった遺伝子が、体の中で蓄積されることは、絶対に無いのでしょうか？
- ・遺伝子組換え飼料で育った食肉を食べて本当に安全か、人体に影響がないかという点は、調べきれないのではないですか？（これだけ広まっていれば）意味があるのか？
- ・遺伝子組換えの安全性についてももう少し詳細が知りたかった。
- ・飼料に使われていますが、動物に変化が、何かあったのか。

技術

- ・害虫抵抗性や除草剤耐性など、どうして虫や雑草が強くなるのか。もっと詳しく知りたい。
- ・遺伝子組換え技術は、どこで日々研究開発されているのでしょうか？
- ・安全性が確認された物しか市場に出回らないと説明されていましたが、長期間繰り返し栽培されることにより、人間がわからないうちに品種が変わってしまった、ということは起きないのですか？
- ・組換えをしたら、アレルギーのある子ども、大人でも食べられるようになってくるのですか？
- ・今まで、果物野菜等品種改良されて、おいしくなってきましたが、品種改良と遺伝子組換えの違いが分からない。
- ・遺伝子組換え作業は、同じ農作物同士のみで行われるという決まりはあるのですか？
- ・遺伝子組換えの農作物を作るのは、一代だけで終わりでしょうか？種子をとって何代も続くのでしょうか？その過程で遺伝子に突然変異が出た時のチェックは管理できますか？
- ・遺伝子組換えの食品は、日本の主食であるお米にも影響が及ぶのでしょうか？
- ・枝豆、スイートコーンを家で作っています。カメムシがわきます。種自体は日本製でしょうか（山陽種）。トマトも自家製です。遺伝子組換え作物は、"ガン"の影響は大丈夫ですか？
- ・食料自給率の低い日本にとって、海外からの輸入食物はなくてはならないものだと思います。

ます。遺伝子組換え作物は、たいへん量も増え、その全てを検査、承認できるのでしょうか。検査していない食物を知らずに食べることはないのでしょうか？

・日本の食料自給率は40%と聞いていますが、今後、遺伝子組換えをしていくなれば、将来的には、農作物が作られる全体の内、どの程度まで作られるのでしょうか？

・組換え品種大豆はもっと国内生産できないのか？

・一部分だけかえるだけで遺伝子組換えができると聞きましたが、全部まではいかないけれど、何か変えないといけないといったこともでてくるのでしょうか？そうなったらまた表示方法が変わってくるんですか？

・遺伝子組換えをすることによって、コストをかなり低減できることによって、日本国産の農作物をもっとたくさん増やすことはできないのですか？

・国内で使用等が承認された遺伝子組換え農作物は、現在54件ですが、これからもまだまだ増えていくのでしょうか？

・無農薬の遺伝子組換え農作物と、農薬を使用した農作物の比較をもっと知りたいと思いました。

使用実態

・栽培しやすい野菜の生産が増え続けると、古くからの地野菜の栽培がなくなってしまうのは、寂しい事ではないでしょうか。

・日本での純真な大豆の生産数はどれくらいですか。

・育成が簡単だと言われていますが、その種や苗は私達でも入手できるのでしょうか？もう栽培されているのか？

・日本で使用されている農作物にイネがありますが、現在、遺伝子組換えで育てているお米の割合は、どれ位なのでしょうか。

・遺伝子組換えが承認されている大豆ですが、それを原料とする豆腐製品に遺伝子組換えでない製品をよく見ますが、遺伝子組換え大豆を使った豆腐は流通されているのですか？

・今後も遺伝子組換え農作物の量が増え続けていくのか？

・遺伝子組換え農作物に対する安全性は、話を聞いてわかりましたが、海外で多く作られていて、日本で少ないように思えました。なぜですか？

・従来の育種と遺伝子組換えによる育種では、作物（苗）の価格の違いはあるのですか？又、種としても流通していくのですか？

・普通一般の農家の人が栽培するための種は、すでに遺伝子組換えなのですか？

・遺伝子組換えされている野菜を実際に生で食べることに、買えることはありますか？

・イメージでは海外でのGMが進んでいるように思いますが、国内での農作物のGMはどれ位進んでいますか？話を聞いてGMはこれから必要なものだと思います。

・必要としていないのに、食べていないといけない現実がありますが、最後に共存と言われていましたが、本当に避けて、食生活ができるのですか？

表示

・今まで遺伝子組換えと言う単語だけで、すごく怖いイメージがありました。もう少し抵抗の少ない名称で言い換えされる事はないのでしょうか？

・中国から輸入された加工食品で、遺伝子組換え等の表示等、信じて良いのか？世界の表示基準について。

・豆腐のケースに遺伝子組換えの大豆は使用していませんと表示がほとんどしてあるので、

遺伝子組換えは良くないのかと思っていましたが、なぜそのような表示がしてあるのでしょうか？

・「遺伝子組換えでない」の信憑性…分別生産流通管理はどこまでできてるのか？

・「遺伝子組換えトウモロコシは使用してません」と書いてあると、逆に遺伝子組換え商品は、危険なんだと思ってしまうのですが、どうして表示しないといけないのですか。

・**遺伝子組換えされた飼料を食べた牛や豚を商品として出す場合、そのことを表示する義務はないのか？その必要性は検討されていないのか？③**

・遺伝子組換え食品の表示をもっとわかりやすく、誰が見てもわかりやすく表示されているのですか？

・表示についても、色々の食品の偽装がよく聞かれるが、チェック体制・機能はありますか？どれくらいの頻度でチェックされているのか？

・「遺伝子組換えでない」とか食品表示は本当に信じて良いのか？

・ここ数年、食品偽装が多いですが、遺伝子組換え食品を「遺伝子組換えでない」と偽装している会社がないとは限りません。その場合どうやって見抜くのか。それとも会社側からだけの書類、食品提出物だけで済むのか。その場合、偽装しやすいと思うのですが。抜き打ち検査みたいなのはされないのでしょうか？

・醤油、豆腐等に遺伝子組換え大豆は不使用と書かれているので買っていましたが、使用されている大豆は逆に農薬が多く使われているということになるのでしょうか？

情報

・日本と海外の人の遺伝子組換え食品に対する考え方は？（一般の人、生産者でない人の考えは？）

・トウモロコシや大豆などは、広く浅くだが、知ってはいたが、他の食材についても詳しく知りたいと思った。

・今まで気にもとめていませんでした。遺伝子組換え農作物をしていく必要性が全くわかりません。何のためになのでしょうか？

・私自身が良く理解できず、説明できないのですが、子どもに遺伝子組換えっていいの？悪いの？と聞かれたら、何に？どう答えればいいのか。

・私達は、情報をメディアからしか受け取れない。もっと身近に情報を受け取る事はできないのか？

・遺伝子組換え農作物が輸入による物が多いようですが、輸入に頼らず日本でできないのですか。

・遺伝子組換えについてまだまだ懸念され、理解されていないが、理解されるためにどのような努力をされていますか？

・世間では、遺伝子組換え農作物は危険だという意見が一人歩きしていますが、なぜ、悪いイメージしか出ないのでしょうか。

・結局、農林水産省とし、遺伝子組換え農作物は、消費者に対して、お勧めなのか？「危険だ」という報道だけを流しては、わからないので、今日のように、わかりやすく説明を受ければ、理解できる。

・情報を正確にして欲しい。正しい情報が得られないのはどうしてか？間違った情報が正しい物かは、私達としては判断できない。事実、組換え食品は安全ではないと思っていました。お話を聞いて、少し考えを改めました。

・中国の毒入りギョウザの様に、一時的に害のある組換え作物が混入された場合、市場等に出回る前に防ぐ事はできますか？

・遺伝子組換え農作物に関して、間違った認識をしていた。これからどういう物ができるのですか？

●意見・感想

安全性・安心

・正直、今まであまり関心ありませんでした。スーパーに売っている物は、全て安全と思っていたからです。日本にいと、豊かで食に困る事があまりないのですが、結構、輸入に頼っている。

・遺伝子組換えについて、それ程関心を持っていなかったのですが、今日の話を知ったことが良かった。もっと関心を持っていきたいです。

・大変勉強になりましたが、正しい情報をどういう風に理解すれば良いのか？記入されている表示を全て信用できるのか？まだまだ不安はありますが、GMOというのは受け入れて、もう少し自分なりに考えてみたいと思います。

・遺伝子組換え農作物や食品は、きちんとした情報を知った上で消費するのは安全だということになりました。まだまだ勉強していきたいと思います。

・今まで遺伝子組換えについての意識していなかったが、自分が利用していた商品があり驚いた。話を聞いて、怖いものではないというのは、分かったのですが、すすんで購入するかというのも、まだ、はっきりしませんが、今日教えていただいて良かったと思います。

・「遺伝子組換え」について、全然とっていいほど、何の知識もなかったのですが、詳しく聞くことができ良かったです。安全、アレルギー、栄養など、すべてが完璧な作物が、遺伝子組換えで何種類もできたらいいと思いました。

・今までよく分からなかったけど、説明を聞いて理解できた。

・今まで余り遺伝子組換えの事を理解できていませんでしたが、研修を受けて少し理解できました。まだ、これとって質問はありません。

・子ども達の世代に、安全で安心な食物を食べさせてあげるのにどうしたらいいのか、考えさせられる話でした。

・物を買う時に、「遺伝子組換えでない」と書いてある物にはすぐ手を伸ばして、組換えについていろいろ書いてある物はさけていた。でも、今日のお話を聞くことができ、少しは安心することができたので買ってみたいと思う。

・遺伝子組換えをしている食品を知らず知らずに食べている事が分かり、不安にもなりましたが、安全な物だときちんと調べてもらっているので、コストも低く安心であれば、これから日本も生産していけば良いと思いました。良く目にする"遺伝子組換えでない"ばかりを買っていた自分が不思議になった。

・安全性を短期間で評価する事には不安がありますが、農薬と遺伝子組換え農作物が体に与える影響が、どちらの方が危険と考えると、農薬の方が悪影響では・・・？という思いもあります。

・飼料として使っている牛肉や豚肉を、国産で安全と思って食べている私達。どこまで安

全か、少し不安が残りました。

・遺伝子組換えはこわいものだと思い込んでいました。安全だとわかって、少しは安心しました。でも、まだ、不安な部分も残っていますので、まだ食べるものの使用などはできないと思います。

・アレルギー試験があるという点で、良いのではと思います。薬品（消毒）の回数が減っているのは、良いのかなと思います。

・調理をする上で、使用する食材が、安全で安心な物でないといけない事であり、その食材が、子どもの健康に害になる物ではいけないと思いました。

・遺伝子組換え作物は必要な物だけ、という事を聞いて、少し安心しました。

・昨日、テレビで、シャインマスカットとか桃など品種改良して、すばらしく、巨峰より大きく甘いブドウが市場に出てるそうですが、研究費用にコストがかかるから、一般人には食べたくても価格が高くて手が出そうにない。やはり、全てコストが高くなるのでは？安全性はよく理解できました。

・安全性が確認されたもののみの使用を認めている仕組みを導入しているようだが、やっぱり不安。でも、知らず、知らずに口にしているのでしょうかね。

・遺伝子組換えの飼料を食べた畜産物から産出されたものを、人間が食べても大丈夫なのかなという疑問や、不安は残りましたが、自然の物でも毒性が含まれていることは思ってもいなかったけど、納得できました。

・組換え商品は体に害がないことはよくわかりましたが、安く手に入ることで、かえって不安になっていました。輸入に頼らず国内生産できれば、将来安心。

・今までは、組換え農作物はアレルギーなど避けてきましたが、安全だと確認された物しか市場に出ないので、少し（まだ）安心しました。

・安全な物しか市場に出ていないと説明があったが、将来身体にどんな影響が出てくるか不安である。

・安全性という面では、まだまだ信用ができず、実際に子どもの口に入れるのはどうかと思います。国が安全を主張していても、例えば、添加物を組み合わせて食べた時の安全性までが実験されてなかったり、という事もあり、長期多量に摂取してどうなのかという不安があります。

・ウナギなど、中国産は買わないし、値段の高い食品を買っていますが、もちろんそれでも、人体に悪い食品は、体に入ってくるとは思いますが、産地偽装をされてもわからないです。食物の表示を見て、遺伝子組換えをなるべく買わないように、産地も近くの物を購入しています。

・業務スーパーなどに中国産の食品がありますが、品目にはかいてありますが、本当に大丈夫なのか心配です。

・タイ、中国などの農薬を多量に使った輸入作物を食べるよりは、遺伝子組換え農作物を食べる方が安全だと思いました。

・遺伝子組換え食品の方が、価格が安くて、安心して食べられるのなら、このような食品を買う方が、経済的にもいいと言うことですね。

・安全性であると理解しましたが、使用するのにはまだまだ不安があります。

・農薬は少ない方がいいけど、遺伝子組換えはやはり不安です。豆腐を買う時など必ず気にして見えています。

・マーガリンなどの加工食品にまで含まれているのは知りませんでした。安全性とか深く考えたことはありませんが、自然でない物という意識の中で、生態系への不安などは確かにあります。今現在には出なくても、100年先、200年先までを考えなくてはならないと思いました。

・遺伝子組換え農作物・食品に対する印象として危険だという印象しかなかったが、安全が確認された上での出回りで、使っていきたいと思うし、コストもかなり安くなるなら使っていきたい。

・いままで遺伝子組換えは危険だと思っていたけど、今日話を聞きそうではないと思いました。これからは自分の目で、しっかり確かめながら、選んでいきたいです。表示に安全の文字があれば、もっと安心かと思います。

・食品を購入する場合は選択できるが、加工食品、外食等では知らない間に食べてると思う。10年、20年、子や孫の代ではどうなのかが心配だ。

・遺伝子組換えの今の時点での必要性和安全性は何となくわかりました。ただ、これからの「安全」という部分では、まだ、理解しにくかった。

・生産国である開眼の農業者のメリットで、大量に輸入された農作物で、低価格で、商品がつくられる事により、国内の農業が下がるのではないか？完全な分別ができないサイズ、コーンなどで、長年摂取することで、将来に影響する事への不安があります。

・体に良くない影響を及ぼす物だと勘違いしていました。これからは安心して商品を購入して食べてみようと思いました。

・遺伝子組換え飼料で育った牛、豚等が私達の口に入っているとは思いませんでした。今の価格の維持ができるのは、その飼料があるからだと言うこともわかりました。安全性が少し理解できたと思います。

・安全性が本当に心配です。

必要性

・生産側のメリットであり、消費者側としては必ずしも必要とは思わない。自然に手を加えることは基本反対です。食品表示も現状では信用できない。

・やはり、遺伝子組換え作物のみに依存したくないと思います。日本の国内でも、この技術を使用しないで欲しいと思います。絶対に無理なのでしょうか？

・環境問題の影響で、生産物の生産と流通をうまく保つためにも、遺伝子組換え農作物は、不可欠だと思いました。

・遺伝子組換えは、余り良く分からないですけど、話を聞く限り、本当に大丈夫かと思ひ、でも、これからは必要なんだと思いました。

・遺伝子組換え食品と、組み換えていない食品と両方選べる市場が必要であると、最後の方に教えていただきましたが、遺伝子組換え農作物の生産者のメリットが大きく、この方が、もっともっと増えていったら、当然、価格の差が出てきて、組み換えていない食品を買いたいと思っても買いにくくなるのでは？と心配です。

・スーパー等で買い物をする時、思わず、米国産のポテトチップ等を避けてしまう。(納豆も思わず表示を確認する)。今回の説明等で安全だとは思うが、少し心配である。

・外国では、食糧不足や不作など苦しんでいる国も多いので、遺伝子組換えはとても大切な事だと、今日話を聞いて、初めて知りました。食の安全性が確認されれば、是非、進めていって欲しいと思いました。

- ・遺伝子組換えに対する偏見がなくなった。不安が少し解消されたので、興味がわいた。生産があがるなら、遺伝子組換えの技術も必要なのかなと思う。
- ・今までは、遺伝子組換えと書いてあると、なるべく食品を買わないようにしていたが、話を聞くと、安全性があることが分かり、世界的には、必要になってくるのではと思いました（干ばつ等があるため）。
- ・今日の話聞いて、遺伝子組換え農作物の必要性というのはわかりました。

表示

- ・今まで「遺伝子組換え」と書いてあるのを見たり聞いたりしていましたが、あまり理解していなかったのが、少し理解でき、その目的がわかった。あまり影響がないということで、少し安心して食べれると思った。
- ・食品などの表示に遺伝子組換えの文字は、見てはいたけど、理解していなかったが、今日の話で大体理解できました。
- ・「遺伝子組換え」という表示だけで商品を買わないようにしていたが、少し考え方が変わった。
- ・豆腐のパッケージなどによく書かれていますが、遺伝子組換えはしていないと記述されているのを購入しています。その方が安心かなと思っていましたからです。自分が納得できるまでは、かえないつもりです。
- ・豆腐に、遺伝子組換え商品の大豆を使用していませんと表示してあるのを、安心して使用していたが、牛や豚や鶏が遺伝子組換え大豆を食べて育て、私達の食卓に並んでいるのは、知らなかった。国産と書かれて、安心してはいけなかった。
- ・遺伝子組換えが、どういう物なのかが、わかりました。豆腐のパッケージに、いつも目にしていたが、農林水産省が安全と認めているのなら、安心して食べてもいいのかなと思うが、大豆のほとんどが国産ではないので、本当に大丈夫かと不安にも思う。国産の肉も、飼料が国産ではないと知り、少し不安を感じるが、外国産よりも、やはり国産を選んでしまう。
- ・「遺伝子組換えは使用していません」と豆腐などに書かれていたら、それ以外のものが全部悪いものに思ってしまうのは私だけ？
- ・大豆と大豆食品のパッケージには「遺伝子組換えでない」と強調して書かれているので、何か「遺伝子組換えは危険だから注意して下さい」と訴えているかの様に捉えていました。生産者の意志、希望というのは、考えたことがなかったので、大変有意義なお話を聞かせていただきました。日本では、隔離栽培とのことですが、将来的には、遺伝子組換えの種子が、誰でも、スーパー等で買える日が来るのでしょうか？楽しみでもあり、不安です。
- ・表示がされ、消費者が選べるというのは、個々の価値観で選べるので、とても良いと思いますが、肉加工品、卵などと選ぶ時、飼料で使われているかどうか、わかりにくいのが難点です。又、外食などの時もわからないので、とても不安です。
- ・直接口に入れる納豆や冷凍コーンなどは、表示されるので、選ぶ自由がありますが、飼料用には何を使われているか分からないというか、牛、豚、鶏のほとんどの飼料に使われているようなのに、それが分からない、知らされていないというのは、どうかと思います。飼料用も表示されるべきでは？
- ・遺伝子組換えが分別されていない農作物（遺伝子組換え不分別）の意味をもう一度説明して欲しいです。「組換え」はよくわかりました。

・遺伝子組換え不分別という表示を初めて知りました。全ての食材が安全というわけではないと思うので、給食に取り入れてもいいと思います。

・「遺伝子組換えでない」という表示しか知らなかったのも、「遺伝子組換え不分別」という事を知り、勉強になりました。価格的にも違い、生産量もアップするのなら、いいかと感じました。

・遺伝子組換え農作物が、意外にも、多くあることにびっくりしました。これからは、食品購入時表示をみて、購入したいと思いました。

・遺伝子組換え食品が、店に並んでいるという事が、初めてわかりました。これから、買うときに注意してみようと思います。

情報

・遺伝子組換えが、必ずしも良くないとは言えないと思いました。消費者にもっと情報公開をして欲しいです（簡単に）。

・テレビ等で、いろいろな情報が流れていて、危険は物だと思ってしまうので、もっといろいろ知っていきたい、理解を深めたいと思います。

・質問ではないですが、話を聞いて、ニュースや新聞等イメージに流されず、ちゃんとした理解をして自分ですべきだと思いました。

・このような機会がない限り、一般には、マスコミからの情報が全てになりがちですが、風評被害を出さないためにも、情報公開を、常に行っていただきたいと思います。最新技術の開発研究等も必要とは思いますが、自国での、農・林・水産の安定した次代への育成にも、目を向けていただければと思います。

・遺伝子組換え食品については、わかりやすく、少しは理解できたと思います。今後、どのような食品が、遺伝子組換え農作物によって食品化されるのか、又、消費者にもっとわかりやすく情報提供して欲しいです。

・感想ですが、遺伝子組換えと言うことが何なのか、全然わからなかったのですが、今回の講演で分かりやすい説明のおかげで、少し理解できて良かったです。

・自分の知識がなかったので、どんなものか不安だったし、買い物へ行っても特に手を出すこともなく済んでいました。

・安全な物であると理解できたが、何故遺伝子組換え作物は避けられがちになるのか？もっと必要性を世間にうたっていてもよいと思うが。

・安全面が一番心配なので、きちんと評価を行い、情報を公開して欲しいと思います。安心できる情報がないと共存は難しいと思います。

・実際、「安全なもの」という流れの講義を受けた後でも、正直、どこまで？！本当に？！と思ってしまう。まだ、始まったばかりの状態だと思うので、確実なデータ等はこれからだと思いますが、やはり私自身、幼い子どもがいるので、本当に大丈夫？と思ひ、そのような情報をどこで手に入れるのがよいかと思います。

・今後も、安全な遺伝子組換え食品の研究をすすめていかれるのですが、私達に正しい情報を伝えるのは、やはり、マスメディアにあると思います。民間放送で伝えようとするのではなく、公共放送を使って、もっと安全性をうたえるべきだと思います。そして、何か不具合があれば、すぐに伝達できるようにして下さい。

・遺伝子組換えという言葉は食品表示でよく見かけていたが、詳しいことは何も分かっていなかったのも、今日このような形で話を聞くことができ、大変良かった。いろいろな方

面からの安全性がきちんと確認されている物だけが使われていると言うことで安心した。安心、安全な物であるのですが、やはり、消費者としては、購入の時には買えないなと思う。もっとアピールするべきでは？

・遺伝子組換えの農作物は、安全安心はもっともですが、国が情報をすぐに流して対策も早くして欲しい。今まで国は国民の事より、自分たちの事を先に考えてしまってきたのでは？（責任逃れするのではなく、戦後起きた事件は責任逃れのため長引いて数年かかっているように思います）。

・食品を購入する時には、「遺伝子組換えでない」ものを選んでいただけ、お話を聞いた上では、安心できるのではないかと感じたので、もっと安全性をPRすればいいのではないかと思います。

第5回（愛媛県伊予市）

日 時：平成22年8月23日(月) 9:30～12:00
場 所：伊予市保健センター（愛媛県伊予市）
主 催：伊予市保健センター
参加者：食生活改善推進協議会会員、一般市民 50名
伊予市保健センター職員 4名
コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所
客員研究員 蒲生 恵美
ファシリテーター：伊予市保健センター健康保険課 主任 山内 朋子
情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室
課長補佐 小松 晃
係長 飛鳥 武昭
オブザーバ：農林水産省中国四国農政局愛媛農政事務所消費・安全部
消費生活 課長補佐 穂積幸和
事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の伊予市保健センター健康保険課 久保尚勝課長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を5グループに分けて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想をポストイットラベルに書いてもらい、グループ討論（デルファイ法：各グループには司会者がついた）によるディスカッションを行った。グループ討論後、各グループから出た質問等を発表することによって全体で共有し、コーディネーターの司会進行で農水省担当官が回答していった。その際に追加質問、関連質問も取り扱い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

伊予市（17枚回収）

コーディネーターがグループ討論によって得られた質問等について順次聞き、情報提供者から回答を得た。追加質問、関連質問も扱い、それらの回答も得た。グループ討論によって得られたポストイットラベル質問票の内容は以下の通りであった。

●質問

安全性

- ・遺伝子組換えの安全性の人体実験はどの様にするのか。
- ・遺伝子組換え食品は、まだ人体に対する影響が確認されていないのではないかと。子ども親。50～100年くらいはかかるのでは？
- ・遺伝子組換え食品を永年に渡って摂取し続けた場合、将来、染色体に影響は出ないのか？
- ・GMが安全とされた場合の検査技術が、本当に確かなことですか？食品添加物の検査は、1つずつは可の範囲であっても、複合の検査はできないとのこと。
- ・普通のタンパク質のアミノ酸は共通で分解されると決まっているが、遺伝子組換えのタンパク質は新しいアミノ酸だったり分解されなかったりするのではないかと？
- ・害虫に強い品種は、人には問題ないのでしょうか。
- ・家畜が飼料として食べたものは、肉として、人が食べても大丈夫？
- ・組換え作物は、栄養の面からみてどうでしょうか？
- ・今までに組換えが問題となったことは何でしょうか（危険）。
- ・ダイズの雑草のみに効く農薬を散布して作物を多く収穫しているが、長年続けて農地は大丈夫か。
- ・遺伝子組換えで、今後、元の良い品種が無くなるのでは、心配です。
- ・遺伝子組換え技術ばかりの植物が増えてしまうと、在来（固有）の植物が衰退してしまわないのか。

技術、実態

- ・ 遺伝子組換え農作物は、世界的にどこまでの国に広がっているのですか？（食べることと、栽培と、それぞれについて）
- ・ 我が国で研究・開発している遺伝子組換え農作物は、栽培試験中とのことですが、日本でも出回るのはいつ頃ですか？（日本の農家が本格的に栽培し始めるのはいつか？）
- ・ 遺伝子組換えした農作物を家庭でも作れるようになるのは、いつ頃になりますか？
- ・ ダイズなどできた種子を再度利用してどうなるのか？
- ・ 遺伝子組換え肉はつくれるの？（子どもたち）
- ・ 良いところだけを取りだし、Bに入れるとのことでしたが、BのDNAは、数が増えると思うのですが、そのことで、異常が起こったりしないのでしょうか。

●意見・感想

- ・ 遺伝子組換え農作物が時代背景を踏まえ、必要に迫られているのだということは、何となくわかりました。また、安全性を確認していることもわかりました。でも、やはり、不安は残ります。デメリットについての情報も、比較する上で、正しく知りたいと思います。
- ・ 今回、正しい知識を得られたのは良かったです。自身の選択する能力を向上することが大切だと思います。
- ・ 野菜、果物、花の色を変えてみたい。金色のバラなど。（子どもたち）
- ・ 一口サイズの食品も出来ないか？（子どもたち）

第6回（神戸市中央区）

日 時：平成22年8月26日(木) 10:00～13:00

場 所：大学生協神戸会館（神戸市中央区）

主 催：生活クラブ生協 都市生活

参加者：生協役員、職員 23名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所

客員研究員 蒲生 恵美

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

コメンテーター：特定非営利活動法人国際生命科学研究機構

バイオテクノロジー研究部会長 橋本 昭栄

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の生活クラブ生協都市生活 山田多美子理事長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



情報提供

以下、主な質問と意見・感想

神戸市（19 枚回収）

質問票を回収し、コーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・遺伝子組換え技術は、研究されてまだ年数が短く、人体への影響など、十分に検証されていないと思う。本当に安全が確保されていると考えるか。影響が出てから考えるという日本の姿勢には、大きな疑問を感じる。予防原則を取り入れることはないのでしょうか。
- ・安全性評価において"「実質的同等性」等の概念を基に"とあるが、そもそも「実質的同等性」とは、何を持ってどのように判定しているのか？
- ・実質的同等性が納得できない。同じではないのに、なぜ同じと思えとなるのか？
- ・実質的同等性の概念を基に安全性を評価するとのことですが、動物実験で内蔵障害があらわれた例がありますが、動物実験はしないのですか？
- ・GM 食物がアレルギーを引き起こさないかどうかを、どのように判定するのか？食べられるはずの食品でも、じんましんやショックを起こす可能性があるはずですが。成人より、子どもや大人に影響がないかどうか、もしくは子々孫々に至までの影響はないのかが気になります。
- ・遺伝子組換え作物の安全性評価の仕組みを、もう少し詳しく説明していただきたいです。確認する時間は、どれぐらいが適当なのでしょう。
- ・安全性が確認されたものしか市場にでないとおっしゃっていましたが、どのような安全性を確認しているのか、どのような方法をとっているのか？（動物実験はしないのか？）
- ・日本国内で流通が認められた GM 作物は、すべて日本国内で安全性の確認が行われましたか？
- ・安全性評価で、直接、動物実験などを行っていますか（農薬などと同様の）。
- ・人体への影響について一番心配しています。たんぱく質は、共通性の高い化学構造をしているということですが、GM食品を食べても唾液によってGMは分解されるとおっしゃっていましたが、本当なのですか？
- ・実際にGM作物を作っている海外の農家で、農薬の量がかえって増えたり、収量が減ったり、飼料として食べた家畜に健康被害が出ている事実をどう考えますか？
- ・「国で安全性を担保してくれるのであれば、共存してもいいと思われませんか？」ということをおっしゃいましたが、もし、健康上で問題が出てしまった場合は、保障してもらえるということで、いいのですか？ その場合、国が責任を持たれるということでもいいのか、種の生産者が持つのか、明確ではないので、不安は残ります。

環境安全性、交雑

- ・日本では、今、栽培されているのはバラのみとあったが、輸入されたナタネが、輸送中にこぼれて、道路脇などに生えている。それが、日本のナタネに影響を与えるのではないのでしょうか？
- ・中日新聞にて、遺伝子組換えブロッコリーが報道されていましたが、農水省としては、それについて、どのように考えておられるのでしょうか？調査されたりしているのでは

うか？

・生物多様性への影響のところ、GM植物と近縁種との交雑が認められたら許可はしないとのことですが、実際に雑草と交雑しているGMナタネが流通しているのはどうしてですか？

・農水省の資料 18 ページにナタネ調査のことが載っています。20 年度に 1 件のみ・・・ナタネ調査は生協で、全国で、行っていますが、この件数ではありません。今年雑草との交雑も確認されたことから、生物多様性への影響がないことが確認されていますと明言されている根拠は何か、教えて欲しいと思います。

・隔離ほ場で栽培されていても、他のほ場に影響を与えるのを防ぐ方法等をお考えですか。

・地球上には、多様な生物が存在して成り立っていますが、GMO は、少数の企業が開発した種で栽培されています。そのことはどう考えますか？ メキシコでは、トウモロコシの原種が GM のものと交雑してしまったということです。

表示

・EU等に比べて、日本のGM表示は不十分だと思います。世界で最も多くのGM食品を食べているのは日本人ですが、そのことを認識している国民はわずかだと思います。はっきり分かる表示にすることはできませんか？

・「選択の共存」を実現するのであれば、今の表示制度は、いささかお粗末ではないでしょうか？ 消費者まで分かりやすい情報がおりにきてないように思いますが、いかがですか？

・消費者として、今の表示はわかりにくい表示です。「遺伝子組換え使用、不使用」というように、わかりやすい表示にしないと選択しにくい。

・表示問題でもっとわかりやすい・・・。

・トレースをはっきりさせれば、油などでも表示は可能です。消費者の選択権の保障の為、全ての食品でGM/NONGMの表示を義務づけませんか。

・正確な情報提供ということですが、私達が食品を選ぶ際の表示は、私達が知りたいと思う情報をのせているようには感じないのですが、今後、表示についてはどのようにしていくのか。

・GM食品の有用性、安全性を高める取り組みについて、できる限り、努力をされているような印象を受けました。最後の、選択の自由があるのは良いことだ・・・というのも分かります。ただ、GM食品について、例えば、このような学習会等を持つ生協組合員等以外、あるいは子どもなど、どのように捉えているのでしょうか。まず、関心がない、知らないなどの人が多いのではないのでしょうか。そういう人達にも「選ぶ」ことはできるのでしょうか。また、表示についても、ないものが多いわけですが（油など、表示義務のないものも含めて）、その状況で、知っている人も「選ぶ」ことができるのでしょうか。

情報、技術的事項

・隔離ほ場での試験栽培においては、実際に使用農薬量が減らせるとか、収量が増えるという確認ができているのか。確かな情報提供・表示の必要を言っていたが、具体的な方向性や動きについて教えて欲しい。

・GM作物を作ることによって、本当に農薬が減っているのでしょうか？

・農薬使用量は減少しているのか。

・先日、神戸検疫所の見学会は行った時、「遺伝子組換えについての情報を得られているもので、検査方法の確立しているものが検査対象」と聞きました。情報は確実に入手できていますか。日本での検査状況は。

・組み換えた遺伝子情報は、次の世代、また次の世代へと伝承されていくのか？①伝わっていかないとしたら、遺伝子組換えは毎世代でやり続けなければいけないのか？②伝わっていくとしたら、世代を追っていった時に、何代かあとで突然変異等、遺伝情報が変わり易いということはないのか？

・遺伝子組換え大豆など、毎年、種と農薬とセットに購入栽培をすると聞きますが、収穫された種子にも同等の性質が残っているとすれば、それを栽培するという選択がなされると思うのですが、毎年購入するというのは、企業の利益追求のためだけなのですか。企業が世界の食を牛耳るということになると思うが、いかがか？

・種(特許かけられる)を大手企業にぎる。

・生産者が生産に有利なものを選ぶための情報は、GM種子を作る側の情報だけではないのか？ 偏りはありませんか？

・それから、種子は良い物が選ばれるというのはわかりますが、農家もいろいろ知って選択しているのでしょうか。知らないが故に、マスコミの報道に不安になったり・・・知らせて欲しいです。

・受け入れるか、拒否するか、判断するための情報を、消費者にどのように提供されているのか？(私は乏しいと感じています。)

・選択が重要との事ですが、現在の動きは、GM作物への移行一辺倒であり、後戻りできない状況になりつつあるのでは？

●意見・感想

・品種改良は植物同士の掛け合わせですが、遺伝子組換えは種の壁を越えることで、遺伝子を組み換えることが不安です。

・生産者が選んでいるというお話がありましたが、責任を転嫁しているという印象が残りました。

第7回（埼玉県熊谷市）

日 時：平成22年9月1日(水) 13:30～15:00
場 所：熊谷市めぬま農業研修センター（埼玉県熊谷市）
主 催：めぬまくらしの会
参加者：めぬまくらしの会会員、農業者、一般市民 75名
熊谷市市民部市民活動課 主事 山田義和
埼玉県消費生活支援センター熊谷 所長 小谷邦子 合計77名
コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所
客員研究員 蒲生 恵美
情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室
室長 作田 竜一
係長 飛鳥 武昭
事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部
河野、高野、鈴木、金井

概 要：

はじめに、主催者のめぬまくらしの会 石田ヒサ子会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

熊谷市（18枚回収）

質問票を回収し、コーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・説明の中にもありましたが、遺伝子組換えの食品等と、私達がスーパーで普段口にして
いる食品とでは、安全性の部分がわからないのです。確実に大丈夫なのですか？
- ・長期にわたり沢山食べ続けた結果（量的）には、体に変化が現れないのか？
- ・体に長年蓄積された場合等、赤ちゃん等、小さな子ども、乳児等でも、大人等と同じに
考えて良いのですか？
- ・19ページの"従来の食品と同じように食べても安全であることが確認された…"とあり
ます。その確認の内容を、もう少し詳細に教えて下さい。
- ・安全性の確認には長年月が必要でしょうが、本当に確認できて承認に到っているの
でしょうか。
- ・食品の安全性確認試験から承認までの研究期間は、どれくらいですか。
- ・遺伝子組換えをやって野菜は安全なのか。遺伝子組換えの事ははじめてなので、良くわ
かりません。
- ・基本的な事ですが、環境や人間に対しての影響はどうなのか？そこの所が一番気になり
ます。「バラ」などは目に触れる物、口から入るものの安全性に関してとても気になります。
どうなのでしょう。
- ・それらの出したゴミは環境に悪影響はないのですか？
- ・カルタヘナ法とは、はじめて耳にしました、具体的に。

技術

- ・育種の時点で、除草剤耐性の原理を知りたい。
- ・遺伝子組換えという言葉はよく聞きますが、遺伝子を取り出す方法は、まだ組換えする
作物にはどのように入れて組換えするのですか。
- ・遺伝子組換えには飼料作物が多い様ですが、野菜に品目には普及するのでしょうか（野
菜生産者より）。
- ・どうしても組換えが必要なのでしょうか？

表示

- ・作物や食品等に遺伝子組換えではないと表示がされていますが、これからの問題で組み
換えていない物の方が良品の物なのでしょうか？
- ・国産大豆とは表示しているが、種は、どこの国の種かわからない。種が米国産だとした
ら、遺伝子組換え大豆になるのではないか？
- ・豆腐や醤油で組換えしておりませんが、書いてありますが、表示義務はいらぬのか。
- ・ダイズ油、醤油などのDNAやたんぱく質が残っていない食品は、表示義務がありませ
んと言うことですが、現在、既に遺伝子組換えダイズが含まれているかも知れないダイズ
を使った油や醤油が、商品として出ておりますか。
- ・表示義務のない食品があるので、私達は知らず知らずのうちに食しているのではないか。

●意見・感想

・地球の世界は人間が何から何までもかえてゆく世の中。日本の植物分布が変わってゆくのに、わざわざ人間がいろいろ変化をつけてゆくことばかり、果たして、地球はどうなってゆくのか心配です。遺伝子組換えの必要性が分からない。

・遺伝子組換えの安全性が良くわからない、まだ安心できない。

・「遺伝子組換え」と云う言葉は耳にしていますが、本格的、具体的な説明を受けたのは初めてで何を質問して良いのかも分かりません。恥ずかしい事ですが、今後この言葉を頭において、勉強の第一歩にしたいです。

第8回（福島県白河市）

日 時：平成22年9月2日(木) 13:30～16:00

場 所：福島県南生活協同組合白河市天神町店（福島県白河市）

主 催：福島県南生活協同組合

参加者：生協理事など 27名

コーディネーター：順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助教 堀口 逸子

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野、高野、鈴木

概 要：

はじめに、主催者の福島県南生活協同組合 近内正子理事長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

白河市（22枚回収）

質問票を回収し、コーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・安全確認は、どのようにして、安全であると判断しているのですか。
- ・基本的な考え方の②はとくに重要だと思うのですが、申請から承認までの年月は、どの位かかっているのですか。
- ・遺伝子組換え食品が安全と認定されるには、どの程度の臨床データを取るのですか？現在、多くのアレルギー症状や奇形児等が、多く事例があるようです。第一世代の遺伝子組換え食品が、第二世代、第三世代・・・となってゆくにつれ、どのように影響されるのが心配です。
- ・人体や動物への安全性については、具体的にどのような形で実験、研究をしていますか？（どの動物を使っているかなど）
- ・安全性が確認されている物しか出ていないという事ですが、遺伝子組換えの食品ばかりを食べたら、どうなるのですか？ 人の遺伝子などへの影響はないのでしょうか？
- ・NON-GM 飼料を食べた乳牛の乳と、GM 飼料を食べた乳牛の乳は、その栄養について違いはあるのですか？又、その乳を人間が摂取した場合に何か影響は出るのでしょうか？
- ・私達の体の中に遺伝子組換え食品が入った場合、DNAは傷つかないのか？

技術

- ・遺伝子組換えされた大豆を日本に持ってきてても再生産はOKか？聞く所によると、発芽しないとの話もあるようなので。
- ・遺伝子組換えの大豆やとうもろこし（害虫に強い）を輸入する時などの消毒は減らされるのでしょうか？
- ・卵の黄身の色素は濃すぎて（薄いのも有で）不思議なのです。これは遺伝子組換えの影響なのか。
- ・狂牛病との関係にふれて下さい。

●意見・感想

- ・種の会社に食糧が支配されないのか心配。
- ・聞いてますと多少不安はなくなりましたが、アメリカに頼りすぎず、減反しないで済む方向に、なぜ、いかないのでしょうか？ 荒地が沢山あります。自給率を上げて、少しでも不安のある遺伝子組換えはない方が良いでしょう。
- ・できるだけ客観性に基づいたご説明だったと思いますが、資料に無くて映像にあった「消費者として知りたい情報」が物語るようにやはり・・・？
- ・表示は農水省の管轄ではないでしょうけど「不分別」という表示はいかかなものか？できれば無くして欲しい。
- ・DNAの実験、良くわかった。遺伝子組換えって、安全であるのか？なんとなく必要なのか？まだ良くわからない。が、お話を伺って良かった。

・アメリカの農家のように広大な作物を作るには、ある程度、組換えは必要ではないかと思う。頭から危険だという考えは、間違っていると思う。

・世界的な食糧不足が必ずあるとニュース等で聞きますが、その為にも、遺伝子組換えの技術が必要不可欠だとは思いますが、未来の子ども達の健康のため、チェックを充分に行って欲しいと思います。

・普段、あまり聞くことができないお話、そして初めて見るブロッコリーの遺伝子の実験、大変勉強になりました。質問というより、感想になってしまいましたが、遺伝子組換えはいつも反対と思っていました、これからの時代、考えなければいけないとも思いました。とにかく安全性をお願いしたいと思います。

・遺伝子組換え農作物は、不安なことばかりが情報として入っていたのですが、今日初めて、安全な上、作物を作る為、国で安全性の評価の仕組みがあるという事を知り、少しばかり安心しました。今後も安全な農作物ができ、私達の生活に入ってくる事を望んでいます。

・一般に生活している私達は、遺伝子組換えされている物について、知る機会があまりないように思います。

・とてもわかりやすい説明で、勉強になりました。遺伝子組換えだけですべて敬遠していたのですが、考え方が変わりました。ありがとうございました。

・わからないながら、良いお話を聞かせていただき、良かったですと思います。

・飢餓を救うために遺伝子組換え作物を作って貧しい口を救いましょうと導入した中へ→結果はみんな貧しくなった—アフリカの事例。

第9回（徳島県徳島市）

日 時：平成22年9月7日(火) 10:00～13:00

場 所：コープ自然派徳島2階会議室（徳島県徳島市）

主 催：コープ自然派徳島

参加者：生協理事など 19名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所

客員研究員 蒲生 恵美

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者のコープ自然派徳島 環 滋子理事長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

徳島市（7枚回収）

質問票を回収し、コーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

環境

- ・占有率がすごく、人体や生物への影響が明確になった時、作物をなくすることができるか？
- ・日本の自給率と同じように、土壌のこと、他に作られている量が減少している中、どう切り抜けていくのか。もっと、一般的に情報公開をして欲しい。
- ・遺伝子組換え技術は危機管理という位置づけとしてはあまりに広がりすぎではないか？また、輸入に頼らなければならないという現状はその背景にあるCO₂、水、窒素流入の問題などをどのように考えられているのか？ 組換え技術に対する過剰の期待が個人差。
- ・世界の飢餓を救うということだが、収穫量は実際に増えるのか？
- ・除草剤耐性GMについて、実際にはそれより強い物が出てきていて、その効果がないのではないか。本当に必要か。
- ・交雑しないということだが、実際に輸入港近くのコナネに、GMコナネが発見されているが、これについてどう考えるのか？

表示

- ・5%以上含まれるものへの表示→5%の根拠は？ 選択できるといっても、実際はできない。

●意見・感想

安全性

- ・遺伝子組換え作物はまだ新しいものです。人体への影響が気になります。実験結果がいろいろと出てきています。きちんとした情報を出して下さい。今の段階では「自分の体は、自分で守れ！」と言われた気がします。
- ・害虫が死んでしまうような農作物がヒトにも安心だとは思えません。現在、影響がなくても、子どもや孫の代で何かあったら心配です。
- ・遺伝子組換え農作物に対する懸念に対して充分配慮いただいていることがよくわかった。それ故に情報提供の仕方が重要。"とにかく安全な食べ物を食べたい"との願いを強くした。ゆるぎない国の安全性基準の確率をお願いしたい。
- ・危険なもの（ソラニン）などが含まれているということだが、それらは排除できる、しかし、GMは排除できない。

その他

- ・良い講義と有用なディスカッションでした。難しい内容でしたので予備勉強してくれば良かったと思いました。実験は楽しかったです。

第10回（埼玉県本庄市）

日 時：平成22年9月13日(月) 14:00～16:00

場 所：早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター（埼玉県本庄市）

主 催：埼玉県本庄保健所

参加者：管理栄養士、栄養士、調理師など 40名

本庄保健所 3名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所

客員研究員 蒲生 恵美

ファシリテーター：消費生活コンサルタント

森田 満樹

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室長

作田 竜一

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部

岩元、河野、高野、鈴木

概 要：

はじめに、主催者の埼玉県本庄保健所 柳沢秀明所長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を5グループに分けて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想をポストイットラベルに書いてもらい、グループ討論（デルファイ法：各グループには司会者がついた）によるディスカッションを行った。グループ討論後、各グループから出た質問等を発表することによって全体で共有し、コーディネーターの司会進行で農水省担当官が回答していった。その際に追加質問、関連質問も取り扱い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

本庄市（35 枚回収）

コーディネーターがグループ討論によって得られた質問等について順次聞き、情報提供者から回答を得た。追加質問、関連質問も扱い、それらの回答も得た。グループ討論によって得られたポストイットラベル質問票の内容は以下の通りであった。

●質問

安全性

- ・遺伝子組換えは危険というぼんやりした認識しかありませんでしたので、少し理解できましたが、10～20年先は安全かと疑問に感じます。
- ・「食の安全性について」動物実験は何年されているのか。発がん性試験など行われているか。何十年経って、何か起こるか。
- ・小さい子ども達が将来、大人になった時、体への影響は本当に何もいいのか？何かあった場合はどうするのか？
- ・遺伝子組換え食品と、アレルギー性の子どもにはどうか。
- ・ヨーロッパで流行した狂牛病は20年以上の潜伏期間があり、20年経って発病していますが、遺伝子組換え食品については使用するようになってまだ10数年です。人体への安全性について、もっと試験などしているのでしょうか。
- ・虫や除草剤には強いのに、なぜ人の体とかには大丈夫なのか？
- ・草が枯れ、ダイズが枯れない除草剤耐性ダイズを食べた場合、体への影響は大丈夫なのか？
- ・「除草剤耐性のダイズ」写真をみると、枯れないような強い性質のもの、そんな安全性は調べられているか。除草剤が残っていそう。
- ・飼料の安全性、動物の安全性はどうか、影響は？
- ・遺伝子組換えされているエサを食べた家畜を食肉として食べると、遺伝子組換え食品を食べたのと同じ？
- ・ミツバチ等の影響→環境影響は事前に確認されている。
- ・遺伝子組換えの安全性を確認できるまでの年数、実験数等を知りたい。
- ・遺伝子組換え農作物で最終OKを出すまでの期間はどの位ですか？
- ・栽培するのにうまくこの技術を活用すればかなり有効に活用できそうだが、現状で食品として使用されている種類が思ったより少ないのは、やはり実験で危険と判断されている物がたくさんあるのか？
- ・スーパーで売っている農薬を使用したキレイなハウレン草などは、発がん性があるようですが、除草剤を使用した遺伝子組換え大豆に発がん性はないのですか？

技術

- ・遺伝子組換えの必要性がわからない。
- ・遺伝子組換え農作物についてはいつ頃から研究していたのか？
- ・除草剤は作物には影響はないのか？なぜ、雑草にだけ効くのか？
- ・遺伝子組換えに関する研究開発を行っている所は、国内で何カ所くらいあるのか？
- ・遺伝子組換えをする部分は、どこのところが良いのでしょうか。

使用実態

- ・「遺伝子組換え」などと表示すると、逆に安全であったとしても、考えてしまう。もっとイメージの良い言葉はないのだろうか？
- ・日本で商業栽培されているのは、なぜ「バラ」だけなのですか？
- ・19P.PPT「なお、日本で商業栽培されているのは『バラ』のみです」という記載をみると、やはり日本で「遺伝子組換え食品」の栽培は難しいと思ってしまうのでは？
- ・米国での遺伝子組換え食品の承認実績は、何品目くらいありますか？

表示

- ・「遺伝子組換え」はしていないと表示してあるものの、実際は、私達の生活の中で、どこまでその言葉の正しい意味がわかっているのでしょうか。私を含めて、正直よくわからないのではないのでしょうか。
- ・「遺伝子組換えではない」という表示はよく見かけますが、「遺伝子組換え」という表示はあまり見かけないように思います。一般にはどの程度流通されているのか疑問に思いました。

●意見・感想

安全性

- ・除草剤耐性ダイズの農薬の安全性について、まだ安心できないところがある。
- ・遺伝子組換えの食品は安全性が心配です。
- ・遺伝子組換え食品の安全性について、もっと一般に知ってもらわないと、お客様の「食べたくない」リクエストに答えられない（中国ギョウザ）。→コストアップを余儀なくされる。

表示

- ・納豆等に遺伝子組換えではないと表示がありますが、遺伝子組換えが悪いように感じてしまいます。
- ・テレビのコマーシャルで、遺伝子組換えではありませんと言っていますが、遺伝子組換えでない物の方が良いという風に聞こえます。
- ・「遺伝子組換え食品を使用しても、たんぱく質が残っていなければ表示しなくてよい」など知りませんでした。糖類については、表示義務はないとのことですが、化学合成品のようで心配になりました。

技術

- ・スギ花粉の対策の他に、アレルギーのない花粉のスギができたらうれしいのですが。
- ・遺伝子組換えは止められたに思うし、これからは時間をかけて安全性を増やしてもらいたい（人間に使用できる位）。
- ・全部が遺伝子組換えをしてしまっているのだから、昔の野菜がなくなってしまうのが、自分としては残念です。

第11回（東京都中央区）

日 時：平成22年9月15日（水）14：00～16：30

場 所：中央区保健所（東京都中央区）

主 催：中央区保健所

参加者：調理師、食品事業者、消費者団体、区民など 49名
中央区保健所 4名

コーディネーター：順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助教 堀口 逸子

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室
課長補佐 小松 晃

係長 飛鳥 武昭

オブザーバ：情報セキュリティ大学院大学 客員研究員 蒲生 恵美
消費生活コンサルタント 森田 満樹

関東農政局東京農政事務所消費安全部消費生活課 渡邊、長谷川

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター調査広報部

河野、高野、鈴木、田渕

概 要：

はじめに、主催者の中央区保健所生活衛生課 山崎 賢一食品衛生第2係長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験

以下、主な質問と意見



コミュニケーション

中央区（29 枚回収）

質問票を回収し、コーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・ GMOで安全性に問題となった例はありますか。
- ・ 遺伝子組換え農作物が流通してから発生した事故はあるのか？
- ・ 安全性が確認されなかった例。食品名とその理由。
- ・ 今まで承認されなかった植物は？
- ・ 食品としての安全性評価をする際、人体への影響を確かめるのは、実際に人間の体を使って行うのか？
- ・ 遺伝子組換え作物が、害虫に食べられてしまわない仕組みは公表してありますか？耐性害虫の心配はありませんか。
- ・ 遺伝子組換えは安全かそうじゃないのかを知りたい。虫が死ぬという懸念は説明されていない。
- ・ 同質同等性（安全）と云われているが、消費者としては不安を感じます。もっと情報を提供して欲しい。
- ・ 食品、加工食品などは、多種の原料を使用するが、安心安全の面での検証は、どこまで考えているのか。
- ・ 安全性について「科学的知見によって…」とありますが、直接食したり或いは動物飼料として使われた後に間接的に食したりしているが、「遺伝子組換え」が始まって年数が浅く、どうして安全と云えるのか？ 世代交代を重ねて 50 年とか 100 年程度を経ないと本当の安全性はわからないのではないかと。例えば農薬とか薬物が食品から検出された場合、「直接健康被害を及ぼす量ではない…」とニュース等で発表されるが、一時的に食した場合はそうかも知れないが、恒常的に飼料として与えられた豚が世代を重ねてでないとわからないのではないかと思う。
- ・ 安全性の評価で安全であるとして、市場に出た後に危険（毒性や環境への悪影響）がわかることはないのですか？ 1 回評価したらもう終わりなのではないでしょうか？ もし危険性など確認されたらどうなるのでしょうか？
- ・ 生物多様性への影響評価に関して、どれ位の期間調べるのか。隔離ほ場試験等は一世代だけなのか。隔世（次の代、次の次の代）で問題が顕在化することはないのか。
- ・ 枯草、雑草に強い組換えとうもろこしがありますが、それは農薬を大量に使うことになりませんか。実際、農場へ行ったことがあるので、効果は素晴らしいと思います。
- ・ 除草剤で枯れない遺伝子組換えの性質は、畑の周辺の雑草に遺伝しないですか？
- ・ GMO による土壌菌の変化はどうか。
- ・ 各国基準の平準化の動きはありますか？ またあれば、現在どのレベルですか？
- ・ 安全性審査の申請をしてから承認が下りるまでの期間。
- ・ セルフクローニングでも安全性審査が必要か？ 必要な理由。
- ・ 安全性確認審査に罰則はありますか。（審査する委員に罰則がない）

技術、実態

- ・遺伝子組換えでの突然変異の混入の危険性。
- ・イノシンやシカに食害されない組換え作物は可能ですか。
- ・これから日本で承認されそうな7品目以外の遺伝子組換え作物（食品）はあるのでしょうか？
- ・アレルゲン低減イネなど、なかなか隔離ほ場から表に出てきません。栽培しても売れないからということなののでしょうか？それとも、まだ技術的な問題が残っているのでしょうか？おわかりになれば教えてください。
- ・隔離ほ場で栽培実験後、承認された物の中に、日本で農家が栽培されているものは、どんな作物（品種）があり、それぞれどのくらいの面積があるか、また、まわりの農家にも周知されているのか、教えてください。
- ・遺伝子組換え作物の種子はどのように栽培していますか？
- ・米の遺伝子組換えは全体の農作物を含め何%？
- ・トウモロコシやダイズに遺伝子組換えが多いのはなぜですか。
- ・すべてが遺伝子組換えになる食品（例：ダイズ、小麦粉）は何年後にきますか。
- ・全体の遺伝子組換えの農作物輸入量に対し、加工品に占める割合はどの位あるか。
- ・IPハンドリングについて教えてください。
- ・遺伝子組換えが「怖い、危険」とイメージされてしまう理由は何でしょうか？20年程前は、バイオテクノロジーとして世間一般的にも注目された技術だと思いますが。

●意見・感想

- ・推進する理由が分かりづらいと思います。これを行わないとこうなってしまう、又はこうしたメリットがあるなど、もっと国民が分かりやすい説明をして欲しい。例えば、自給率のUPなど。
- ・遺伝子組換えは減反政策と矛盾しているのでは？ 減反政策はやめるべき、ODAとマッチングすべきではないか。
- ・冷凍野菜について、①輸入品は残留農薬が問題となる。②減農薬にして（例、枝豆など）に昆虫がいると異物混入のクレームとなり、「食べたけど安全か？」と問題になる。③国内での自給は限界。「組換え食品絶対ダメ」というなら、「非組換え」をいうなら、以上3点について、明確に答える必要があると思うがどうか。
- ・安全性について啓発するとともに、不測の事態が発生した場合には国が責任を持って補償するというようなアナウンスがあれば、安心感が増すと思います。水俣病では、有機水銀排水によるものと確認されていながら、未だに十分な補償がなされていない例を見ると消費者の安心は得られないのではないのでしょうか？
- ・遺伝子組換え食品の表示制度がわかりにくいと思います。
- ・組換えによって優秀なものばかりできて、個性的なもの（人）がなくなってしまう。

第12回(京都市南区)

日 時：平成22年9月25日(土) 13:30~16:00

場 所：京都府民総合交流プラザ(京都テルサ) 東館2階研修室(京都市南区)

主 催：NPO法人 京都消費生活有資格者の会

参加者：NPO法人京都消費生活有資格者の会会員、一般府民 27名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学 セキュアシステム研究所

客員研究員 蒲生恵美

ファシリテーター：特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構

バイオテクノロジー研究部会長 橋本昭栄

情報提供：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者のNPO法人京都消費生活有資格者の会 小嶋信婦会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を4グループに分けて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想をポストイットラベルに書いてもらい、グループ討論(デルファイ法：各グループには司会者がついた)によるディスカッションを行った。グループ討論後、各グループから出た質問等を発表することによって全体で共有し、コーディネーターの司会進行で農水省担当官が回答していった。その際に追加質問、関連質問も取り扱い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見

京都市中京区（39 枚回収）

コーディネーターがグループ討論によって得られた質問等について順次聞き、情報提供者から回答を得た。追加質問、関連質問も扱い、それらの回答も得た。グループ討論によって得られたポストイットラベル質問票の内容は以下の通りであった。

●質問

安全性

- ・子孫の代まで安全と言えるのか？
- ・遺伝子組換え食品の歴史はまだ浅く、今まで健康に対して悪影響はないと報告されていますが、これから将来において考えられる影響はないですか。
- ・除草剤耐性、害虫耐性が組み込まれた作物を人間が食べて大丈夫ですか。
- ・アレルギーの人が増えてるのに、遺伝子組換えは本当に安全？
- ・人体の遺伝子に傷をつけないのか？
- ・GM 農作物が安全と認定されるにはどのくらい時間がかかるか。
- ・遺伝子組換え食品の審査がどのようにされていますか。企業の安全性の検査を審査するだけですか。国としての検査はどうなっていますか。
- ・基準は日本がきびしい方か？ 安全について輸入の時の消毒の関係。
- ・どれくらいの審査項目があり、海外と較べてどうなのか？
- ・安全性審査に癒着はないのか？
- ・日本では遺伝子組換え作物は花だけのようですが、輸入作物の安全性評価は輸出国でも日本でも行っているのですか。
- ・過去の事故についての検証はどうなっていますか。
- ・遺伝子組換えを栽培し続けて何年か後に、突然変異を起こしてスーパー雑草が出てきて、

人間のコントロールが効かなくなることがあるのではないか？

表示

- ・輸入品の安全審査、全数でなく抜き取りでやるにしても基準は？
- ・意図せざる混入の許容混入率の求め方は、正確に数値が出るのですか？
- ・不分別の表示が 5%以下ならしなくていいのは知っていたけれど、韓国で 3%以下だとはびっくりです。なぜ 5%と決められたのか？
- ・今後の表示はどうなっていくのか？
- ・「遺伝子組換えでない」という表示がある大豆は日本製か？
- ・遺伝子組換えの表示について正確かどうか。「組換えでない」という表示。
- ・GM は夫々の特性のモディファイ。夫々特性を別々に表示する必要はないのか。

技術、実態

- ・日本では遺伝子組換えの大豆やトウモロコシを輸入しているが、日本国内では実際に栽培はされているのでしょうか？販売等されているのでしょうか？
- ・日本では組換え種子は出回って（売って）いるのか？
- ・GM トウモロコシ、米国での栽培率 80%。あと 20%は本来のトウモロコシ？何%位までが適正か。
- ・現在の大豆の自給率は？
- ・日常生活では、遺伝子組換えに注視しているのは、大豆、トウモロコシに殆どであるが、今後、作付面積が多くされるものとなる作物は何か。
- ・納豆は、GM 大豆ではつくれないというのは本当か。
- ・農産物が国内における自給力が低いので、遺伝子組換え品も輸入せざるを得ないのか？・世界の食料事情について説明されると、遺伝子組換え技術については何も言えなくなる。飢餓が選ぶか、生き残るのが選ぶのか、この選択の余地がなくなる。他に方法はないのかな？
- ・技術力のある国の農作物のみが多くなるのでは？
- ・先日新聞で遺伝子組換えされたサーモン（成長が 2 倍だそうです）の話を読みました（米国）。今後日本でも輸入されたりするのでしょうか？
- ・遺伝子組換えの玉子の場合。

●意見・感想

- ・組換え食品の普及状況をもっと知らせる必要があると思った。（国内、国外（諸外国）のものも）
- ・スーパー等で遺伝子組換え商品に関する事が一般人もわかりやすく表示、説明があればいいと思う。
- ・生産量の増加と安全性との関係について、いつでも Web 上で検索できることが必要。
- ・不分別表示がされているのは認識が甘い。表示が分かりやすい様にされたらどうか。

- ・大豆製品の「組換えでない」の表示、つい疑問を感じてしまう。
- ・組換え食品の表示で不分別の表示が出ていることを知らなかった。我が国はほとんどないようだが、もっとしっかりした表示記載と安全性の啓発が大切。
- ・遺伝子組換えの技術というものは「していない」の表示があれば安心していましたが、それも任意で表示ということで驚きました。
- ・遺伝子組換え農作物を使用した食品を食べないようにしたくても、5%の微量混入を認めているので、完全に避ける事はできないのが現状。
- ・国内産肉でも飼料はGM、知らないことが多い。
- ・自給率上げるのに、輸入増え、妨げになってる。
- ・肉類に値段が違うのにあまり組換え等分かりにくい輸入品。
- ・人口増加に伴う食糧不足の時代、遺伝子組換え商品は益々必要と思う。(安全性についても確信が高く思ったので)。
- ・本当のことがわからないので、よくわかりません。理論的には安全だとしても、自然がすべて理論通りとは限らないし。アレルギーがないよう実証されているといわれても、現実にアレルギーがでる人もいる…ときく。
- ・9月初旬、鮭の遺伝子組換えが新聞に載っていたが、病害虫に強くても、人間に有害かどうかは、きちんと書かれてなかった。金儲けの為の遺伝子組換え（トウモロコシ、絹が特別にそうだと思うが）、世界的に意見交換の場が無いような印象なので、残念に思う。本当に消費者に必要なのは闇の中。

第13回（京都市中京区）

日 時：平成22年9月28日（火）10：00～12：30

場 所：京都生活協同組合せいきょう会館 4F第1会議室（京都市中央区）

主 催：京都生活協同組合

参加者：生協組合員など 28名

コーディネーター：消費生活コンサルタント 森田 満樹

情報提供者：特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構

バイオテクノロジー研究部会長 橋本昭栄

農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

技術安全推進第2係長 飛鳥武昭

コメンテーター：（社）農林水産先端技術産業振興センター 理事 岩元明久

オブザーバ：近畿農政局 消費・安全部消費生活課 館田吉子、高木千賀子

同 生産経営流通部農産課 西野嘉一

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 高野

概 要：

はじめに、主催者の京都生活協同組合 二場邦彦理事長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で橋本昭栄氏から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、コメンテーターを含め活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験

以下、主な質問と意見



コミュニケーション

京都市南区（13枚回収）

質問票を回収し、コーディネーターが情報提供者及びに質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・安全性の毒性…まだわかっていない毒はないのか。
- ・虫も食べないトウモロコシを人間が食べ続けて良いのか。安全性の確認されたものしか市場に出ないとありますが、長い年月をこれから食べ続けていいのか。
- ・歴史がない。長年、代々・・・危険性は？
- ・除草剤耐性作物に関して、除草剤を撒いた土から出来てくる作物は、健康に良くないと聞いたがどうか？
- ・アレルギー試験など人体に影響がないかどうかは、どうやって調べているのか？
- ・実際に人が食べたときにどうなるかを、人で実験しないのか？
- ・蛾を殺すことは生物多様性に影響を与えていると思う。地球は人間だけでなく全ての生物が多様性に係わっている。ミツバチの失踪の問題もある。ここに GMO が係わっているのではないのか？
- ・食品安全委員会の構成は？どんな方々がメンバーなのですか？
- ・「科学的知見」という言葉に具体性があるようであり、信頼の根拠にするには、具体的には見えない。言葉の一人歩きにならない「科学的知見」は、どう理解（意味というか、概念というか）したらいいのでしょうか？ 抽象的な質問ですみません。

技術

- ・日本で栽培されている組換え技術は、日本独自の研究開発のよるものなのか？ 外国のモンサント、ダウ・ケミカルなどの輸入種子に頼ることは、日本農業の根幹を外国企業に委ねることになるのではないかと恐れるが。
- ・突然変異など、遺伝子組換えをした後に起こるがあるのでしょうか。
- ・関係ないかも知れませんが、医学の方での組換えが行われていて、様々な薬ができていくように思いますが、そちらと農作物（遺伝子組換えのもの）と一緒に摂取する場合など、研究されているのでしょうか。
- ・遺伝子組換えの技術によって、逆にアレルギー反応を起こさないダイズなどを作ることも可能ですか？
- ・油等はタンパク質が残らないとのことですが、遺伝子組換え、遺伝子操作していないものも、全く同じものができるのですか？

実態、政策

- ・インドの綿の種が、モンサント社に独占されて、農民は高い種を買わされています。種の安全保障に関する考え方がありますか？
- ・農水省は、日本の遺伝子組換え技術が世界のグローバル企業に対抗して改発する考え方がありますか？それとも輸入の許可のみの政策ですか？
- ・グリーンイノベーションに関係して質問する。食料の自給率向上、安定供給に関して、遺伝子組換えを推進している。GMO 以外に方法はないのか？

・国内の市場では青いバラのみということでしたが、他のものは実験でしかつくられていないということですか。将来、日本でも栽培される可能性が高いと考えられますか？

表示

・生協のマーガリンで、分別と不分別の値段が一緒なのはなぜですか。

・「遺伝子組換えが分別されていない農作物またはそれを原材料とする加工食品」で、「遺伝子組換え不分別」となっているものは、マーガリン以外どのようなものがあるのでしょうか。

第14回(大分県佐伯市)

日 時：平成22年9月28日(火) 13:00~15:30

場 所：佐伯市民教育ホール「まな美」(大分県佐伯市)

主 催：佐伯市消費生活研究会

参加者：佐伯市消費生活研究会会員 31名

佐伯市役所総務部広聴広報課長 1名

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

同 研究開発官室 研究専門職 白神 康範

オブザーバ：九州農政局大分農政事務所消費安全部消費・安全課

消費経済係長 渡辺真美子

調査指導係長 梅木 知明

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野 敏明

概 要：

はじめに、主催者の佐伯市消費生活研究会の福島市子会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続いて、事務局の司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、事務局の司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見

佐伯市（26枚回収）

質問票を回収し、事務局が司会をして情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・遺伝子組換えによって、安全性は保たれるのでしょうか。
- ・GM農作物を食べても身体に影響はないか。
- ・組換えまでして食べなくてもと思っていますが、今日の話聞いて、必要性が少し解った気がします。でも、栄養的にはどうなのでしょう？
- ・遺伝子組換えにより作られた作物は不安がありますが、それ以外に外国での殺虫剤使用が気にかかります。
- ・納豆など遺伝子組換えを使っていないと表示されている商品は安全なのか、安全でないのか、よくわかりません。
- ・野菜の種（スーパーや種や）アメリカより輸入されていますが、本当に安全性は良いのでしょうか。

技術、実態

- ・遺伝子組換えとありますが、技術的なことが良くわからない。
- ・遺伝子でできた野菜や果物の種で、代々それと同じものができますか。
- ・遺伝子組換えでできた作物の種は次に蒔いても同じ物ができるのでしょうか。
- ・種の遺伝子組換えを求め、それを畑に蒔く。できた野菜の種は何年か繰り返していると、昔の（もと）種になりますか？
- ・除草剤に強い作物は、除草剤が助けて強くなるのか？
- ・遺伝子組換えでおいしくすると、虫がつきやすくなると思います。家庭菜園をしているので、どんな書き方をしている種や苗を買えば良いのでしょうか？
- ・花の苗も遺伝子組換えをしているのだろうと思っていますが、それによって花の育苗農家は収益が上がっていますか。
- ・牛肉とかウナギとか生産地を見分けるのに使うようですが・・・。

表示

- ・生協で食品を買うことが多いのですが、「遺伝子組換えでない」とほとんど書いています、なぜ？
- ・生協のマーガリン表示を大手の業者が行わないのは理由（現在は表示義務がないため）があるのでしょうか？消費者の選択肢を増やすためにも、表示の義務化（仕入れルートがわかっているもの）を早急にするようにできないものなのでしょうか。
- ・豆腐等の食品に遺伝子組換えでないと表示されているが、どこまで信頼して良いか？
- ・スーパー、デパート等にて食料品を買う場合、最低限気をつける事を知りたい。
- ・今日のような大切な情報は、どのように一般の人に国から提供がなされているのでしょうか。

●意見・感想

安全性、安心

- ・遺伝子組換えといえば、ダイズとっていました。話によると安心して良いのではと思います。
- ・安全性は心配ないと思うような所もありますが、やはり心配です。農薬がいない植物はどうも気になります。
- ・遺伝子組換えが私の浅知恵では解りにくいので、時代の流れかなくらいに考えますが、孫・子の時代に食料自給が完全であればと思います。
- ・安全性に対する不安の情報に目を向けていました。片寄らない情報を取り入れて、判断してゆきたい。
- ・遺伝子組換え分は、怖いと思っていたけど、安全性には十分注意されているというので安心しました。
- ・今回のお話で分かったような、分からない部分もあります。これからも正しい情報が欲しいです。マスコミの情報を聞いて本当かどうか判断に苦しむことがあります。安全ならば、(食物) いいのではと、今は思っています。
- ・遺伝子組換えの農作物等、今まで真っ向から反対だと思っていたが、今日のお話をきいて、或る程度受け入れなくてはと思います。が、特に食肉等とかに、まだ不安です。
- ・遺伝子組換えの作物が多くなっているのにびっくり…生産者と消費者の関係など考えていると、とても複雑になってきますが、やっぱり安心安全のものを食したいです。
- ・遺伝子組換えをすることで、作物は病害虫に強いものに育っていることもあること、分からせていただきました。
- ・GMは悪いと思っていたのですが、わからなくなった。
- ・農業が米の減反をやっています。何だかもったいない気がします。素人考えですが、その空き地に昔ながらのダイズなど植えてもらえないのでしょうか。そしたら、きれいな豆腐や味噌が心配なく食べられると思うのですが。やはり組換えは心配！こわい感じ！でも無理なのでしょうね。
- ・正確な情報を伝えてほしい。

第15回(北九州市戸畑区)

日 時：平成22年9月29日(水) 10:00~12:30
場 所：ウェルとばた 83・84 会議室 (北九州市戸畑区)
主 催：北九州市消費者団体連絡会
参加者：消費者団体会員、生活協同組合員 25名
報道関係者：九州朝日放送 3名
コーディネーター：順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助教 堀口 逸子
情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室
課長補佐 小松 晃
同 研究開発官室 研究専門職 白神 康範
事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野 敏明

概 要：

はじめに、主催者の北九州市消費者団体連絡会 山下伸子食の安全部会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見

北九州市（15 枚回収）

質問票を回収し、コーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・遺伝子組換え食品が健康に与える影響は、誰がテストし、追跡調査をしているか。
- ・遺伝子組換え食品で抗生物質が効かなくなるのでは？（遺伝子組換え作物には、そのすべての細胞に抗生物質に耐性を持つ遺伝子が入っている。）
- ・自然の壁を乗り越える力を持っている遺伝子組換えが従来の食品と実質的同等ということには疑問。
- ・有機農業にはどんな影響を与えているか。他の作物との交雑して遺伝子汚染が起こるのでは。
- ・ニュースで、港の近くに遺伝子組換え農作物が繁殖しているというようなことが、取り上げられていますが、調査等はされているのでしょうか。

技術、実態

- ・今の遺伝子組換えは、主に、どの部分が組み換えられているのですか。（例えば、成長を早める実を多く付けるのですか？）
- ・今日の学習では農作物でしたが、家畜（牛、豚、鶏）や養殖の魚などの遺伝子組換えの研究なども、行われているのですか？
- ・クローンとはどう違うのですか？ 牛の口蹄疫などの病気等の対策になると良いですね。
- ・アレルギーの原因になる成分が低減されたものが作られるということですが、現在では、どこまで進んでいるのでしょうか。アレルギーで悩まされているお子さんをお持ちの方は大変苦しまれているので、そういうものであれば、将来的に商業栽培されるのは反対しませんが
- ・私はスギ花粉症（35 年来もっています）、日本で 5 人に 1 人とも言われ、これはもう国民病では？花粉症緩和米が栽培されてると聞いています。1日1合で数週間で効果があるとか。私は欲しいですが、手に入れる方法はありますか。
- ・隔離されたほ場での栽培は、どんな所で誰が作っているのですか？またできたものを食べているのか？
- ・世界で飢餓の状況にある人が、約 10 億人とされています。遺伝子組換え技術は、この状況を改善するために、有効でしょうか。
- ・日本の農地は狭いので、アメリカで使用する農薬よりずっと少ないと思うが、それでもメリットはあるのか。
- ・バイオテクノロジー企業が世界の作物と農薬を支配することになるのではないか。

遺伝子組換え作物に最も期待していたのは、全地球的な食糧確保であり、中でも砂漠に育つ植物の定着、それに続く農地の改良に基づく食料作物の養育が重要であろうと思います。現在、米国での食料生産や日本での GM 流通の賛否が話題となる事が多いのですが、本来の目的の1つである。「地球規模での食料作物増産」については、現在、どうなっているの

でしょうか。特に砂漠地帯での実験～実用の状況が知りたいです。

情報

・遺伝子組換えの言葉をきいて、長い時間がたっていますが、良いということは聞きますが、悪い事、不利な事、危険な事なども情報として出すべきではないでしょうか？

・遺伝子組換えへの懸念の割合は大きいのでしょうか。消費者と生産者のメリットは違うようですが、消費者の懸念をなくす努力は、安全性を伝える事と、流通（表示）の中での信頼だと思います（表示は本当に信頼できるのか…）

・農林水産省が一番不安、問題点としていることは何ですか？（消費者ではなく）。良いことばかりで科学的評価により安全としているが、現実の問題が起こっていることがあるのでは？メリットがあればデメリットもあると思う。両方の情報を出していただかないと余計に不安になる。

・「正確な情報を知ってもらうことの大切さ」について、冒頭のごあいさつでありました。私もそう思っています。STAFFのHPから、5月頃でしたか、突然情報が消えてしまいました。何があったのでしょうか？情報提供もリスクミととらえるなら、一方的なことでしたし、消費者のことを考えていない…とさせていただきます。よりどころにしていたサイトなので、残念です。

●意見・感想

・遺伝子組換え作物には不安をもっています。

・科学的知見による評価は、説明としては理解できるが、やはり自然界ではあり得ない遺伝子の組換えは、受け入れがたく、次世代への影響も心配で、できれば、日本での栽培（直接口にする農作物）は認可しないで欲しい。

・人が手を加えて自然が崩れてきたので、私は遺伝子組換えには反対です。安易に食物を手に入れることを目指しているようです。楽しんで良い物はできないと思います。それよりも、現在、働きたくても仕事がない若者が多くいるので、人の力で（昔ながらの（→今しないと元に戻すことは、できなくなるので心配です）…）自然の力を生かして作るべきです。頭ばかりを使わず、体を使えば、人間にとっても健康的だと思います。何でも見かけより中身が大事です。（見かけが良ければ尚更良いですが、楽しんでできた物は、安く手に入れば嬉しいけどおいしくありません。）若者も自分で作ってみれば、きれいな作物が当たり前ではないこともわかるし、良い所だけを食べていれば良いのです。

・遺伝子を組換えると良いものができるのですが、やはり自然が一番だと思っているので、将来体に影響出ないのかとか、悪い事を考えてしまい、安全性がとても不安になります。素人の考えですみません。牛乳も、組換えていないトウモロコシを食べている牛からの乳が安心で利用しています。

・遺伝子組換えでないという表示をなるべく使わないようにしていましたが、今日のお話を聞いて少し分かるような気がします。遺伝子組換え農作物、食品の安全性についてはどちらが安全だか分かりません。

・私自身は、農薬の少量が減ったり、環境の変化にも耐えられて、安定して供給できる農作物が増えることはいいことだと思っています。かたよった情報だけが、センセーショナル

ルに報道されるだけでなく、正しい情報がいきなり、理解と共存できることが望ましい
と思います。

第16回(北海道苫小牧市)

日 時：平成22年10月1日(金) 13:30~15:00
場 所：苫小牧市市民活動センター3階(北海道苫小牧市)
主 催：苫小牧市婦人団体連絡協議会、苫小牧市教育委員会
参加者：苫小牧市婦人団体連絡協議会会員、市民 25名
報道関係者：(株)苫小牧民報社 1名
コーディネーター：順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助教 堀口逸子
情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室
課長補佐 小松 晃
オブザーバ：北海道農政事務所消費・安全部消費生活課 川上 晃
農政推進課 花井智也
地域第九課 紺屋明義、福田直樹、石崎幸治
事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の苫小牧市婦人団体連絡協議会 矢島 和 会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、情報提供の前後に質問票等を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての疑問・質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

苫小牧市（情報提供前の質問用紙 20 枚回収、情報提供後の質問用紙 8 枚回収）

質問票を回収し、コーディネーターが情報提供者に情報提供後の質問の内容を中心に順次聞き、回答を得た。事前質問、追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

情報提供前

●質問

安全性

- ・ 遺伝子組換えを行う手順において、その方法がアレルギー等何か影響されたりしないのか。
- ・ 遺伝子組換え農作物の承認の基準とは？
- ・ 植物への生態系への影響は？
- ・ 作物についての安全性を確認したい。
- ・ 遺伝子組換え大豆について、身体にどのような影響があるのか？
- ・ 遺伝子組換え農作物に「虫がつかない」ときいたが、身体に悪いものが入っているのではないか？
- ・ 組換え作物（大豆、トウモロコシなど）を食べ続けたら、どのような身体への影響があるのか？
- ・ 孫のためには、はっきり安全かどうか知りたい。
- ・ 海外で組換え作物を（開発等）すすめている企業の社内食堂で食材として用い、安全性 PR をしていたのをむかし TV で見た。あの人達は今も健康を Keep しているの？
- ・ 将来の安全面での問題は検証されるのか？

技術、実態

- ・ どんな作物が遺伝子組換えされているのか？
- ・ 遺伝子組換えは、なぜ必要なのですか？（組換えをしなければならない意味がわからない）
- ・ 遺伝子組換えによつてのメリットは何か？
- ・ 遺伝子組換えによつてのデメリットは何か？
- ・ 日本国内で遺伝子組換えが、なぜ、認知されないのか？

表示

- ・ 表示の必要性はどこからきているのか。
- ・ 遺伝子組換えの農作物を使用していないという表示について、調べる専門機関などがあるのか？

●意見・感想

- ・ 安全性がとても心配です。
- ・ 大豆製品など、遺伝子組換えでないという表示をみると、表示が必要ということに不安をもつ。
- ・ 特に不安に思っていないので別にありません。

情報提供後

●質問

安全性

- ・知らないうちに食品として食べていたとは…本当に安全なんでしょうか？
- ・1996年から組換えをしているという事ですが、ただか14年しか経っていませんので、結論はもう少し先になるのではないですか？
- ・遺伝子組換え食品の承認はどこで誰がしているのか？

実態

- ・遺伝子組換えをしようとした人物又は国はどこからですか。
- ・国は遺伝子組換えを国民に勧めていて、その理解を求めているように思う。EC等では、今まだ、否定的で進んでいないし、有機等へ進んでいる。日本は一方で有機減農薬をすすめている、整合性が無いのでは？

情報

- ・正確な情報が速やかに国民に伝わっていますか。

●意見・感想

- ・いつも思うのは、遺伝子組換えが必要なのか。いくら聞いても、不思議に感じるだけ。
- ・競合、交雑についても、人間への安全性についても、P.P.26(1)世界のGMOを見ても、古い技術ではないため、安全性は言い切れない。
- ・"安全"を訴えるような講義に聞こえてしまった。

第 17 回(東京都世田谷区)

日 時：平成 22 年 10 月 4 日(月) 13:00~16:10

場 所：東京農業大学 13 号館 316 教室(東京都世田谷区)

主催者：東京農業大学応用生物科学部栄養科学科

参加者：東京農業大学応用生物科学部栄養科学科 3 年生 67 名、教員 2 名

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

係長 飛鳥武昭

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野

概 要：

はじめに主催者の、東京農業大学応用生物科学部栄養科学科 日田安寿美講師から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。次いで事務局の司会進行のもと、農林水産省担当官から 50 分間で「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについて、全員に配布した質問票を用い質問・意見交換を行った。質問票に基づき学生から質問を受け、情報提供者が回答していった。質問・討論時間は約 90 分であった。学生たちも活発で熱心なコミュニケーションを行った。

質問用紙は回収し、また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

世田谷区 (61 枚回収)

●質問

安全性

- ・ 遺伝子組換え農作物の安全性は、人体実験で証明されているのか。
 - ・ 人間で実験していないのか？
 - ・ ヒトへの害がないように、たくさんの審査がありますが、実際に対象をヒトにして、摂取し続けることで影響がないと言えるような、対ヒトという調査はありますか？→パーツパーツで調査。ラットを使う。ヒトの対象実験はない。
 - ・ もし人体に影響を及ぼすとしたら、どんなことが現れる。
 - ・ 遺伝子組換えを行うことで動物には害が無くても、人間で試して害がでたときはどうするのか？
 - ・ 食品の安全性を評価するには、どのような専門家が関わりますか。
 - ・ 安全性評価を行う際の安全の定義、水準はあるのか。
 - ・ 日本と米国では安全性の評価基準は違うのか？ 遺伝子組換え作物の開発を始めようとする段階で規制はあるのか？
 - ・ 外国の基準はどうか。
 - ・ 外国から遺伝子組換え食品も多く輸入しているとのことですが、安全性評価の基準はどの国においても共通になっているのですか？同じ人間が食べるのだから、同じ基準であるべきだと思いました。
 - ・ "安全性の確認"とはどのような実験を行うのでしょうか。
 - ・ 科学的知見による評価とは？具体的に何する？現在までに問題は起こっていないのか。
- 改善策は？
- ・ 最近の科学的知見により評価→具体的には？
 - ・ 安全評価を行うのはタンパクだけなのか。
 - ・ 今まで遺伝子組換えで毒性がでたものはありますか？
 - ・ 外国で問題が起きた事はあるのか。
 - ・ 米国では認められていても日本では認められなかった例。
 - ・ 遺伝子組換え食品を作ってみて、ヒトに悪影響を与えるものが、できたことはありますか？
 - ・ 今まで承認されなかった農作物は具体的にどのようなものがあったのですか。またどのような理由で承認されなかったのですか。
 - ・ 今まで遺伝子組換えの安全性に関する研究で、何らかの害が確認されて、市場に出すことができなかった例はあるのか。
 - ・ 遺伝子組換え作物の研究段階で、動物に害がでた例はありますか？また、その内容も知りたいです。
 - ・ ヒトに対する影響がない理由は？ヒトは消化する？→B t タンパク質ヒトには受容体がない。→蓄積しないんですか？ペプシンで分解可能。→分解された後は大丈夫？
 - ・ 10年、20年単位での危険性は証明されているのでしょうか。

- ・1996年から取り組み始めたばかりということで、まだ14年…継続して摂取した場合の影響が気になる。どのように安全性を確認しているのか
- ・昔は遺伝子組換え食品はなかった。今の老人達は食わずに生きてきた為、長生き？ 将来については（体はどうなるのか）考えたことありますか。
- ・今現在、安全だと言われているが、「長年、遺伝子組換え食品を食べていると、どのように健康に影響してくるかわからない」と聞いたことがあるが、どのように考えていますか。
- ・BSEの様にある程度の年数をかけて病気を発症する可能性はないのでしょうか。
- ・健康なヒト（動物）への悪影響は少ないと分かりましたが、病気や体調が悪いときに食べることよっての影響などは検査しないのですか？
- ・疫病患者に対しても無害？ 実験などでは主に健康者対象だと思うが、管理栄養士として病院で働く際に、免疫が下がっていたり薬を服用している患者に対し使っても影響はないのか？
- ・消化不良など問題がある人が多く集まる病院での食事として出すのは適していないのではないかと感じました。
- ・今は健康に問題がなくても、自分がおばあちゃんになって抵抗力が弱くなった時に、今まで蓄積されてきた遺伝子組換え食品が何らかの形で体に悪影響が出てくるのではないかと怖い。
- ・食品としての安全性を評価する際、各種評価をしたいと思います。1つの食品を安全と見なすまでに、だいたいどのくらいの時間がかかりますか。
- ・1つを認めるまでにだいたい何年かかるか？→期限は決めていない、2年～無期限。費用は会社側が出す。1億ドルぐらい。
- ・遺伝子組換え農作物は、1年でできるとおっしゃっていましたが、この期間中に何項目もの安全性確認を終えて商品化までもっていつているのでしょうか。干ばつ等ですぐ必要という状態になったときでも、これは守られるのか。
- ・GM トウモロコシを飼料として食べた動物への影響は？
- ・飼料に使用する際は、何%までとかと決まっている？
- ・遺伝子組換えをすることで、自然化に悪影響は起こるか。
- ・遺伝子組換え食品の食品としての安全性、生物多様性への影響について、いかに色々な評価項目をクリアして承認されているとしても数十年、数百年といった長期的な視点で見ないと得られないデータもあると思うので、いまいち安全性や環境への影響について不安が拭えません。そういったことはどうお考えですか？
- ・将来、作付けされる主な作物が全てGMになってしまう（ダイズやトウモロコシなど）可能性はありますか。もしそうなったら原種の保存や多様性は危険にさらされませんか。
- ・しっかりと対策している国はいいが、よく対策していない国からの輸入対策は？ 輸入品すべてに対し、検査はできないですね？
- ・遺伝子組換え農作物は、人体に影響がないと示され安全が確保されているものだが、栽培していくうちに変わってしまうことはないか？
- ・生物多様性へのチェック項目が100個あり、それをすべて分かるまでにどれくらいかかりますか？

- ・ 100 項目検査で大丈夫？ 確証は？
- ・ 遺伝子は大丈夫っていう立証は？ 良い部分はわかる。悪い部分が必ずあるはず。それに対する策（解決策）は？
- ・ 人為的な組み合わせへの懸念への対応はどのようなもの。解決しているのか？
- ・ なぜ遺伝子組換えというのが恐れられているのか？ → J A S 法で首をしめてしまい、任意表示にしてしまったため。
- ・ 安全性評価をすり抜けた例はあるのか。 A. ない、1 例も。

技術

- ・ なぜ遺伝子組換えをしようと思ったのか？
- ・ 生命倫理的な問題はないのか。
- ・ 遺伝子組換えの農作物は必要な物しか開発・実用化されないとおっしゃっていましたが、どのような判断で、遺伝子組換えが必要だと決め、栽培できる農作物が選ばれるのですか？
ダイズやトウモロコシなどは必要性が感じられるのですが、青いバラの必要性がわかりません。
- ・ どうやって生物から遺伝子を取り出しているんですか？
- ・ 交配によって、新しい種類を作るのに、7、8 年かかる → 1 年でできるものもあるのですか？
- ・ 交配よりも時間がかからずに欲しい品種を作れるとおっしゃっていたのですが、安全評価をするとすると時間がかかってしまうのではないかと？
- ・ 遺伝子組換えは必ず成功するのですか。
- ・ 収穫量 UP のため等に遺伝子組換え農作物を使っている国があるけれど、貧困や飢餓対策のための GM 使用はありますか？
- ・ 今取り組んでいる遺伝子組換え開発は何ですか。
- ・ これからどの食品を遺伝子組換えしたいか。
- ・ 味や成分は変わらないのか？ → 安全性があれば味も変えることもできる。
- ・ 遺伝子組換えしても味は変わらないんですか？
- ・ 遺伝子組換え作物との味の違いはありますか？
- ・ 味と品質は変化しないのか。
- ・ 食品の味、品質は変わらないのか。（トウモロコシ → 甘味 ↓ とか） … 味とか変えるためにも組み換えることができる。
- ・ 病気に強いたんぱく質に対応する遺伝子は、どの生き物がもっているのかどうやってわかるのか？
- ・ B t タンパク質は、害虫に強いトウモロコシを作るのにだけ使われるのか？ 除草剤耐性ダイズなど、他の遺伝子組換え作物には使われないのか？ → B t とは別のものが使われる。
- ・ 誰でも遺伝子組換えできるんですか。バクテリア？ はどこにでもいるんですか。誰にでも手に入るんですか。
- ・ 遺伝子交配を行うアグロバクテリウムは、どのようにして、遺伝子交配を行うのか詳しく教えて下さい。

- ・アグロバクテリウムに枯れにくいDNAを持たせて、米にそれを感染させて遺伝子組換えを行い、再分化を米がすると、枯れにくい米が？
- ・年間にどのくらいの数ができてくるのか？
- ・どんなものに遺伝子組換えがあるのか、植物だけ？
- ・自然界でありえない組み合わせの遺伝子組換えの例は？
- ・遺伝子組換えを栽培していて、遺伝子に変異することはないの？
- ・5～10年で食糧の危機が起こるのですが、クリーニングクロックの有害物質の吸収、米、麦はまだ成功していないのですか。
- ・カイコの絹を利用した医療品の話があったが、その際にはどのような組換えが必要か。
- ・研究開発。将来の国際的な貢献について、具体的にどうするのか。
- ・有用な遺伝子の見分け方。
- ・除草剤に耐性を持つ仕組み、何故耐えられるのか。
- ・遺伝子組換え農作物をつくっている畑で、また違う作物を育てたらどうなるか。
- ・家畜では遺伝子組換えしていますか？
- ・小麦・トウモロコシに強くして、また育たなくなったら、また品種改良するのか。土にも関係。
- ・品種改良されていないものがなくなっていくのですか。
- ・大量生産するために作られているもの？遺伝子組換えのものは、農薬は全く使っていないのですか？そういう品はあるのか？
- ・大量生産を目的に遺伝子組換えを作ってきたと認識してきましたが、大量に生産を目的にしなければ、使わなくてもやれる？
- ・保存にも良いのか？くさるのも早いのか？
- ・土地がやせる？緑の革命。
- ・GMさらにGMは何故できていない。
- ・早急に干ばつ、寒冷地で育つものが必要。
- ・簡単な試験でGMかそうでないか分かるのか？
- ・害虫耐性植物を植える時、これらに対する耐性を持つ虫が産まれないように、普通の植物も一定間隔で植える。
- ・突然変異。

実態

- ・日本で商業用としてGMトウモロコシなどが栽培されるようになるのはいつ頃から？（これからの日本の農家がGMを使う可能性はあるか。）
- ・海外ではGMトウモロコシ等の遺伝子組換え作物は流通しているが、日本で可能性はどう見ているか？
- ・海外の企業から日本に向けて、GM作物の種の売り込みがあるのか？
- ・日本で種（遺伝子組換え）を販売する会社はあるのか。
- ・隔離ほ場、日本のGM企業はどれくらいあるのか。
- ・日本の企業で海外へ向けて種（GMO）を販売しているところはあるのか（やはり制度上

の問題で難しいのか)

- ・使用している農家数は何割？
- ・日本国内では試験以外で遺伝子組換えの作物は作られているんですか。
- ・日本でもGM作物の作付けは進んでいますか。
- ・日本国内で遺伝子組換え作物の栽培は行われているのか。
- ・実際に食べたことがないが、大量調理の現場で使われているのか？
- ・遺伝子組換え 100%原料の食品はあるのか。
- ・動物にも使用されているのか。
- ・今現在で日本ではどれくらい遺伝子組換え食品は普及していくのか？
- ・農家がないから、安定供給できない。
- ・日本の企業で多く申請をしているところはあるのか？
- ・開発費はどれくらいか？→申請主義（10年、1億ドル/1作物）
- ・申請した側がお金を出す。（1億ドルくらい）。
- ・申請費用は企業持ち。
- ・値段（種、コスト低減による（収穫量増）市場への影響は？）→他の品種改良によって収穫量が上がる。さらに遺伝子組換えと農家に奨励等をした場合に、市場の価格はどうなる？
- ・遺伝子組換え食品（大豆を使った納豆）は普通の食品（納豆）より安いのか？いろいろ手間がかかっているのでは高そう。
- ・値段は高くないのか。
- ・コストとしては下がるのか？
- ・交配でなく GMO にすることで、どれくらいコストが下がる？
- ・低コストなのに青いバラは3,000円するのか。
- ・ダイズ油や醤油は表示義務がないが、どのくらいの量が組み換えられたものが使われているのか。→わからない（調べられない）。
- ・なんで「バラ」のみなのですか？他の花は商業的に認められないのですか？
- ・バラ、カーネーションは必要？ 経済効果はあるけど・・・。農作物、食品とは？
- ・もやしやダイズやトウモロコシくらいしか遺伝子組換え食品を知らないのですが、他にどんなものがあるのでしょうか。
- ・飼料用に主に使用されているのか。実際には、飼料用や低アレルゲンのもの以外にできているのか？
- ・植物の遺伝子組換えは抵抗がないのですが、動物の遺伝子組換えはかなり抵抗があります。どこまで研究は進んでいるのですか？
- ・遺伝子組換え食品は世界で開発されていると思うが、日本国内で使用が承認されるのは、どれくらいの割合か。
- ・遺伝子組換え食品で今後承認が考えられるもの、海外で承認されているものは？多い国で何種くらい？
- ・遺伝子組換え食品の承認作物について、他の国の現状はどうなっていますか？
- ・外国での承認について。

- ・今現在で日本ではどれぐらい遺伝子組換え食品は普及していくのか？
- ・具体的に小松さんが遺伝子組換え農作物について、どうなってほしいですか？

表示

- ・DNA やたんぱく質が残っていないからといって、表示しなくて本当にいいのでしょうか。
→自ら表示してもいいけど調べられない。
- ・遺伝子組換えが安全であるなら、なぜ「遺伝子組換えでない」という表示をするのか。(→企業イメージアップ)
- ・分別生産、流通、管理の評価方法は？
- ・遺伝子組換え大豆でないと書いてあるのしか見たことないが、遺伝子組換え食品はあるのか？

情報

- ・遺伝子組換えのイメージは悪いままでいいか？→少しずつ改善を。
- ・なぜ安全なのに、マイナスイメージが大きいのか？
- ・消費者に遺伝子組換えの悪いイメージを払拭してもらう具体的方法は？
- ・消費者のイメージを変えるための取り組みは？
- ・消費者からのイメージをどうよくしていけばいいか。(虫、ウイルスとか耐性ができないか)
- ・「遺伝子組換え」というものに対して、メディアなどから悪いイメージや不安もあります。私達のように関係のある勉強をする方々以外に、一般の方にはわかりやすい情報提供はあるのか？
- ・アメリカではGMかどうかなんて、そもそも気にしていないのでしょうか？
- ・アメリカ等では消費者はGMを食べているのですか？
- ・納豆の表示には「遺伝子組換えでない」と書かれているが、やはり遺伝子組換えは安全でないというイメージ強く、嫌悪感を抱く人が多いと思うが、そう思わせる原因は何か。
- ・正確な情報、遺伝子組換え食品の安全性を広めるには、今後どのようなことをしていくのか。
- ・遺伝子組換えと聞いたり見たりすると避ける人も多いと思いますが、遺伝子組換え食品が増えても買ってはくれず(せっかく低コストで安い値段で販売しても)売れないと思いますが、どの様なアピールをしていこうと考えていますか。
- ・世間ではやはり「遺伝子組換え食品は体に悪い物」という認識をされてると思う。そこで農水省では正しい知識を広めるためにどのようなアプローチを行っているのか。
- ・なぜ世間には不安がられているのか。
- ・日本国民の遺伝子組換え食品に対するマイナスイメージをどうプラスイメージにするか。
- ・報道は、危険性ばかりが流れてしまい、安全性が確認されてもそれは報道されにくい。それを農林水産省で公表するように進めていると言っていたけど、それはどんな形で？
- ・他の外国では、GM農作物についての認識はどうなんでしょう。マイナスイメージは？
- ・「安全だ」ということを全面的に打ち出すことはしないのか。

- ・安全性のアピール、企業のデメリット。
- ・マスコミなどでも危険性の方が大きく取り上げられ、なかなか一般の人の理解の普及は難しいように思うが、どう考えているのか。
- ・今の話を聞いて、遺伝子組換えの安全性や仕組みがわかりました。正確な情報をもっとプロモーションするための、日本にひろめるための手段として、どのような取り組みをしていますか？←食に興味がない子どもも、遺伝子組換えについてある程度知識が必要だと思うんですが、そういう対象者に対してのプロモーションは将来どのような取り組みをする予定ですか。私はスーパーのところにカラフルで説明をかみくだいた冊子をおくなどがいいと思います。
- ・一般の人は情報をテレビや新聞から主に得る人が多いと思います。安全性を伝える手段として、テレビや新聞などにしっかりと報道してもらえるようになっていきますか？
- ・遺伝子組換えが危ないと騒いでいるのは日本だけですか？
- ・GM食品に対するイメージを払拭するために？
- ・海外では受け入れられているの？

その他

- ・日本の食料供給にとって必要だと思いますか。
- ・遺伝子組換えをすることで、食糧自給率は上がるか。
- ・農水省としてはGMを推進していくのか？それとも対策メイン？
- ・遺伝子組換え食品を増やしていく方向なのですか？
- ・日本が海外依存しているが、輸入を止められた場合を考えて、GMを増やそうと思っているのか、日本では栽培を盛んにしていくのか？
- ・農家の人に、栽培に取り組んでもらえるような取り組みは？
- ・日本ではまだ遺伝子組換えに関して認知が少ないですが、その中で企業側が遺伝子組換えを行う利点。
- ・日本で遺伝子組換え農作物を認める仕組みが完全に導入されたとき、1番利益を得るのは誰か。
- ・将来、食用でもGM作物が入ってきた場合（粉食や大豆水煮など）、国や農家、企業はどんな対応を取るのでしょうか。ご自身ではどうお考えですか。
- ・国民が遺伝子組換え農作物を買えば、国の経済に影響はでるのか？
- ・輸入分が国内でできるようになったらやはり良いのか？
- ・国際的貢献。日本ではまだあまり良く思われていないが、海外ではどうなのかな？と思いました。飢餓が多発するような地域では、強く改良されたものが、非常に求められると思うのですが。
- ・遺伝子組換えの技術を利用すれば、アフリカ等の飢餓を改善できるのでは。
- ・国によって食料の格差がうまれないか。（遺伝子組換えが進まない国←お金の問題で）
- ・ターゲットの国を決めて、その国向けに作るのか。
- ・売るとか、求めているのは発展途上の国とかなのに？
- ・他国との争いは？

・プラスの変化でも、それが想定外なら流通させないとありましたが、それに目を付けた人が手を変えて、勝手に販売するということもあるのでは？それを規制する法律などあるのでしょうか。

・この職につくまでは、GMについてどう思っていたか。また、現在自分が消費者としてGMとそうでない食品があったらどちらを買うか。

●意見・感想他

・知らない事がたくさん知れて、私の誤解もとけて、有意義な講義でした。ありがとうございました。

・農水省のスタンスは、①作物育種の 1 つの手段と見る。②環境、健康への評価をする。

③国民の関心に的確に答える。

・別に 1 作物に全ての栄養素を求めなくても、それぞれの食品を組み合わせればいいのではないか。コーンフレークみたいに。

・管理栄養士の資格を持っていたら、農林水産省の中で、(この遺伝子組換え農作物の分野で) どのように生かして仕事ができますか？現在働いている人が居たら、その人について聞かせて下さい。

第18回（さいたま市南区）

日 時：平成22年10月7日(木) 13:30～15:00

場 所：生活協同組合連合会 コープネット本館3階A会議室
(埼玉県さいたま市)

主催者：生活協同組合連合会コープネット事業連合

参加者：コープネット事業連合理事及び役職員 35名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所
客員研究員 蒲生 恵美

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室
室 長 作田 竜一

オブザーバ：特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構
バイオテクノロジー研究部会長 橋本 昭栄

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 理事 岩元 明久
調査広報部 高野、鈴木

概 要：

はじめに、主催者の生活協同組合連合会コープネット事業連合 土屋敏夫専務理事から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想等を出してもらった。それらをもとに質疑応答、意見交換をして活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

さいたま市（18枚回収）

質問票を回収し、コーディネーターが情報提供者に情報提供後の質問の内容を中心に順次聞き、回答を得た。事前質問、追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・遺伝子組換え食品の安全性は評価として、安全性審査を受けることが義務づけられているとありますが、どのような審査が行われていますか。
- ・それによって安全性は、本当に確保されているのですか。
- ・「食べても安全」と言われても、長い年月、口に続けた場合、安全性の確保はできるでしょうか。
- ・（以前、組合員からの意見で）人工的に作った食物（農作物）なので、短期的でなく長期的な安全性はわからないのでは？
- ・「安全性は科学的知見で確保されているとはいえ、50年、100年たたないと本当の所はわからないでしょう」といわれますが・・・。
- ・組換え食品の事故は、どのくらい起きていますか。
- ・害虫抵抗性・・・他の虫が増えるということはどう理解すればよいか？
- ・除草剤耐性・・・毎年使用していると、抵抗性を持つ野草がでるのではないか？
- ・遺伝子組換え農作物が、一般に普及していったときに、やはり不安に思うことは、生物多様性への影響かと思う。どんなレベルで、どんな確認がされているか、される必要があるのか？
- ・例えば大豆ですが、日本に定着している品種は何らかの理由があって定着をしているわけですが、遺伝子組換え作物のベースの品種は、そういうものを考えて選んでゆくものなのでしょうか？長いスパンで考えた時に、1つの品種ばかりになる心配（生物多様性の面からも）はないのでしょうか。
- ・30年後、50年後の世界的人口増加に対応する手段として、必要不可欠な技術とは思いますが。そういう意味で、基準という観点から言うと、世界基準みたいな議論にはならないのでしょうか？現在のところ、各国でバラバラだと思いますが・・・。
- ・遺伝子組換えが今後もっと一般的になる時、種子の提供が一社独占になることはないか。遺伝子組換えで有利なこと（水か少なくてもよいとか、塩害のあるところにも可能など）一層重要だと思います。この独占は避けたいと思うのですが、いかがでしょうか。
- ・遺伝子組換えが今後もっと一般的になる時、種子の提供が一社独占になることはないか。遺伝子組換えで有利なこと（水か少なくてもよいとか、塩害のあるところにも可能など）一層重要だと思います。この独占は避けたいと思うのですが、いかがでしょうか。

技術

- ・遺伝子組換えのメカニズム（特定の細菌を使って組み換える）について、わかりやすく説明する必要があるのでは？
- ・遺伝子組換え食品は本当に大丈夫なの？技術は信頼できるのか。
- ・組換え＝無理矢理に異物を組み込むような印象を持っている人が多い気がします。

- ・承認された一般的な使用について、特に栽培方法について、ほ場はどんな状態？
- ・遺伝子組換え作物の種は、次の年も同じ性質を持ち、使えるのか。

情報

・10年ほど前の遺伝子組換え農作物についてのすごくこわいもの、おそろしいものだという印象のニュースや本が、記憶に残っています。それ以降の公報などの情報提供で、工夫していることはありますか？

・遺伝子組換え食品が日本に、油になったり、水飴になったり、家畜の肥料になったりして利用されているのに、なぜアレルギー反応を示すのだろうか。やはり情報提供が少ないのだと思う。いろいろな場で最近の情報を伝えていく場が必要なのだと思う。広く広報することを考えていますか。

・遺伝子組換えに反対する意見にどのようなものがあり、それに対するどのような考えがあるのかなど、コミュニケーションが大切だと思います。そのコミュニケーションが、世の中にアピール（広報）できるように、工夫されていることがありましたら教えて下さい。今回のような場も、もちろんそうだと思いますが。

・組合員に対して、理事として、説明していかなければならない、重い責任。危険視している組合員は、とても多い。また、安全性を評価する食品安全委員会のことを知らない消費者も大変多い。

実態

・遺伝子組換え農作物の歴史について、いつ頃から研究され、実際に「食べる」ということが開始された時期は？

・日本で遺伝子組換えの農作物（食用、商業ベース）の栽培は、いつ頃から本格的にスタートすると予想されていますか。

・食料問題解決や医療問題など、持続可能な社会をつくる上で非常に大事な点が遺伝子組換え技術だと思いますが、民間の資金力のある企業が、もっと積極的に研究投資や商品化できる環境を国をあげて作っていくことは考えられているのでしょうか？国の取り組みの方向性について教えて下さい。

・遺伝子組換えが今後もっと一般的になる時、種子の提供が一社独占になることはないか。遺伝子組換えで有利なこと（水か少なくてもよいとか、塩害のあるところにも可能など）一層重要だと思います。この独占は避けたいと思うのですが、いかがでしょうか。

●意見・感想

・モンサント社のほ場見学をして、非常に気が重くなり、帰宅した。私自身・・・科学的なこと、有用性など理解した。必要な技術だということも。しかし、太古からの生命の時間軸に対して、ひずみをもたらすのではないか、本当にやっていいのかという、おののきがある。

・先月モンサントさんに行ってみて、ほ場を見学し、話を聞いてみて、恐い商品ではないと安心しました。だからと言って、自分が遺伝子組換えの物と非遺伝子組換えの物どちらかを購入しますかと言われたら、少し高いけれど非遺伝子組換えの物を購入すると思う。安心と言うけれど、本当に安心なの？遺伝子組換えに悲観的な人もいます。私達はOKでも、

子ども達、孫の時代には大丈夫なの？勉強会に参加して、安心という気持ちと、本当にどうなの？勉強会に参加すればするほど、わからなくなるような気持ちになります。

・GMO 農作物の商用栽培がはじまると、交雑問題を気にする人が出ると思います。GMOが作付けの中心になるまでは、管理の難しさが想定されます。

第19回(大阪府中央区I)

日 時：平成22年10月7日(木) 13:30~16:30

場 所：大阪府消費生活センター 生活情報ぷらざ (大阪府中央区)

主催者：大阪府消費生活リーダー会

参加者：大阪府消費生活リーダー会会員 31名

コーディネーター：消費生活コンサルタント 森田 満樹

ファシリテーター：京都大学大学院地球環境学堂資源循環学廊

食糧資源科学論分野環境マネジメント専攻 岸 靖之

情報提供：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

オブザーバ：近畿農政局大阪農政事務所消費・安全部安全管理課

安全管理第一係長 中野 毅

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野 敏明

概 要：

はじめに、主催者の大阪府消費生活リーダー会の横田康生会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を3グループに分けて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想をポストイットラベルに書いてもらい、グループ討論(デルファイ法：各グループには司会者がついた)によるディスカッションを行った。グループ討論後、各グループから出た質問等を発表することによって全体で共有し、コーディネーターの司会進行で農水省担当官が回答していった。その際に追加質問、関連質問も取り扱い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

最後に大阪府消費生活リーダー会の秦副会長から閉会挨拶があった。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見

大阪市（デルファイ法 44 枚回収）

デルファイ法によるグループ討論の結果、得られた質問・意見は下記の通りであった。

●質問

安全性

- ・安全性。
- ・遺伝子組換えは安全か。
- ・人工的に組み換えられた遺伝子、自然に交わる物等、安全とは何か？はっきりと解らない。
- ・10年後、50年後食べていて何も問題がおきないかどうか予想できますか。
- ・将来もし安全でないとわかった時どうするつもり？
- ・輸入品の安全性に不安を感じています。ほとんどが遺伝子組換え作物と聞いています。各国の様子(法律の整備など) (→各国の評価、日本へ来る場合) がわからない。
- ・牛乳の飼料はほとんど海外に頼っているようですが、病気などは大丈夫ですか（飼料からの伝染）。
- ・組換えで作られた品物の栄養成分が、以前と変わりますか。
- ・食品は体内で消化するようだが、栄養成分の吸収は。
- ・多くの組換え食品の同じ時に摂取したときの影響は。"
- ・環境修復植物について、吸収した毒物の毒性はどうなるのか？分解されないとすれば、植物のあと処理は？
- ・遺伝子組換えできた植物の種は、大丈夫ですか。どうなるのですか。
- ・日本の GM の安全は理解できたが、外国については不安が残る。どのように国はチェックしているのか。
- ・他国の安全性の基準について、バラツキがあるのでは。
- ・他国との安全性の規準。
- ・日本の安全性の検査人員。

- ・安全性の検査、人員の数、何年間ぐらい調査するか。
- ・日本の GM の安全は理解できたが、外国での安全性は不安が残る。日本の国のチェックは。
- ・日本と外国。
- ・安全性が確保できていない、できなかった生物が、貧困国に流れないか。
- ・安全性の検査、人員の数。

技術

- ・遺伝子組換えが進み過ぎて、もともとの味、風味とかが、損なわれていくことはないのでしょうか。何を優先順位とするか？

情報

- ・国のスタンス。
- ・GM に対する国の基本スタンス。
- ・GM に対する農水省の基本スタンスは？
- ・遺伝子組換え作物が、日本で作られている種類がわからないので、どれだけ口にしているかわからない。

実態等

- ・現在は、トウモロコシが代表的な物だが、5 年後、10 年後、20 年後は、どのような物が組換え食品になっていると考えられるか。
- ・現在（今年）の申請数と承認件数→増加傾向なのか？
- ・組換え後の食物に、農薬とのあり方。
- ・組換え後の食物と農薬の関係。
- ・国内で牛、鶏などの飼料を自分（国）で作れないのか。
- ・我が国においてはという説明でしたが、外国の状況はどうなのでしょう。

●意見・感想

安全性

- ・GM 作物が農薬を使用しなくて良かったら、この方が安全な作物かな？と思えるようになった（GM が人体への影響がない物として）。
- ・安全だと言ってもやはり？
- ・一つ一つの遺伝子は大丈夫であっても組み合わせられるとどうなるのか、不安だ。
- ・新しい技術は時間をかける必要があると思う。右へならえは、とても怖い。

技術

- ・種の持続性が無いので、種を残す事ができず、手に入れにくいし、種を植える時期を逃す。不足をきたす。
- ・大豆が遺伝子組換えにより自家受粉から他家受粉に変わってしまう。自然界にあり得ないものができるのが、不安。

表示

- ・遺伝子組換え食品の表示について
- ・食品の表示「遺伝子組換えでない」信用せざるを得ない？

- ・スーパー等で買い物の場合、遺伝子組換えでない食品を選んでいたが、ほとんどがそれでないのにビックリ。

その他

- ・日本で国営農業ができない限り、今の農家を基準にしても作物では、日本はやって行けないと思う。そうでなければ、組換えに頼らざるを得ないのが悲しいです。
- ・歴史的な検証を終えないまま進められていくことに不安がある。
- ・農業とか添加物とか次世代に心配なことばかりです。
- ・DNA 抽出の実験にびっくり。

第20回（千葉県香取市）

日 時：平成22年10月8日(金) 14:00～16:30

場 所：小見川社会福祉センターさくら館(千葉県香取市)

主催者：千葉県学校給食センター研究会第四地区栄養士部会

参加者：管理栄養士、栄養士など 23名

情報提供者：特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構

バイオテクノロジー研究部会長 橋本 昭栄

コメンテーター：(社)農林水産先端技術産業振興センター

理 事 岩元 明久

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 高野、鈴木

概 要：

はじめに、主催者の千葉県学校給食センター研究会第四地区栄養士部会の木内裕美会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、事務局の司会で国際生命科学研究機構の橋本部会長から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、事務局の司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想等を出してもらった。それらをもとに質疑応答、意見交換をして活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見

香取市（14 枚回収）

質問票を回収し、それをもとに、情報提供者、コメンテーターが質問の内容について順次回答した。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・動物や人間が、遺伝子組換え作物を長期にわたって食べて安全なのか、という実験は、実際できるのでしょうか。
- ・安全が第一と思います。安全性のチェックはどこで、どのようにしていますか？
- ・油や醤油などの調味料は、最新の技術でも検出できないので、表示不要と聞いたことがあります。検出を行っていないだけでも、安全性は大丈夫なのでしょうか。
- ・随分前（10 年以上）に「遺伝子組換えした昆虫が何代か後に全滅した。だから危ないものだ」と聞いたことがあります。それはどうなのでしょう？
- ・先程の説明の中で、「遺伝子組換え作物によって、アレルギーになった」と訴える人がいるということでしたが、具体的にどのような事を訴えているのでしょうか？
- ・生物多様性への影響を不安に思っていたので、どのような試験がされているのか、わかり良かったです。
- ・実際に、隔離ほ場での栽培試験により、栽培してはいけないとなった食品はありますか。あれば、その数とどんなものがあるのかを教えてくださいたいです。

技術

- ・遺伝子組換えと品種改良の違いは何ですか。
- ・国内外問わず、今、遺伝子組換え技術が、本当に必要とされているのは、どんな分野、状況ですか？干ばつなど？
- ・1つの株から異なる果物を作ったりできるか？
- ・花の苗か、農作物の苗かで、その年は実はなるが、次の年、その種から育てても、うまく育たないものがあり、企業が、その苗が売れるようにしているといううわさを耳にしました。本当ですか？
- ・今後、国内で承認される予定の農作物はありますか？

●意見・感想

- ・遺伝子組換え農作物の技術や安全性の事など話していただき、ありがとうございました。今まで何となく、遺伝子組換えの食品について、安全なのかどうなのか、よくわからないのが、気持ちの中にありましたが、今回お話を聞き、安全な事がわかりました。
- ・安全性が確認されたものしか、出回っていないという事で安心しました。
- ・表示で「遺伝子組換えでない」というのを良く見かけるので、組換えの物は悪い様な印象を持ってしまう。
- ・貴重なお話をありがとうございました。大変勉強になりました。

第 21 回(兵庫県尼崎市)

日 時：平成 22 年 10 月 8 日(金) 14:00~16:30

場 所：尼崎市立すこやかプラザ（兵庫県尼崎市）

主催者：尼崎市生活衛生課・尼崎集団給食研究会（共催）

参加者：尼崎市消費者、食品加工販売事業者、栄養士・調理師他 51 名
尼崎市健康福祉局、保健所 5 名

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

係長 飛鳥武昭

実験協力：京都大学大学院地球環境学堂資源循環学廊

食糧資源科学論分野環境マネジメント専攻 岸 靖之

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野敏明

概 要：

はじめに、主催者の尼崎市健康福祉局医務監 大橋秀隆保健所長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、事務局の司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、事務局の司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

最後に共催者の尼崎集団給食研究会 阿瀬 貢会長から閉会の挨拶があった。また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見

尼崎市（32 枚回収）

質問票を回収し、事務局が司会をして情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・(リスクの事について) 遺伝子組換えのリスクで、もっとも大きなリスクは、人にどのような影響があるのか、具体的に示して欲しい。
- ・現在、悪影響を与えた事例がなくても、将来問題が出てくる可能性はありますか？また、それはどんな問題ですか？
- ・全く知識がないので恐縮ですが、現在、アレルギー体質、アトピーの人が増えていますが、遺伝子組換え食品を摂取することによって、何か影響はありますか？(大人になってから、体質が変わってしまうなど)。
- ・遺伝子組換え食品は、今までの食品よりも、アレルゲンや有害な物質が増えるのではないのでしょうか。それによって、アレルギーを起こす人が増えないか心配です。また、遺伝子組換え食品を一生食べ続けても大丈夫なのでしょう。子どもや孫の代まで影響がないものか、確認できているのでしょうか。
- ・遺伝子組換え食品による人体への影響について、20 年後やもっと先への影響も、安全だと言えるのでしょうか？子どもにも。それはどのような実験により証明されているか？
- ・やはり、食するものなので、安全面に対して、多少の不安が残るのですが、日本では、かなり厳しい条件をいくつもクリアしないと、市場に出回ることがないのでしょうか、外国ではどうなのでしょう。日本では、人に害が出たという報告は 1 件もない？ということでしたが、外国でも、そういう報告の例はないのでしょうか？
- ・生物多様性へ影響について、今、認められているのは、本当に影響がないのか。また、これまで審査されたもので、影響があり、承認されなかったものはあるのか。
- ・遺伝子組換えにより、病気に強い作物を同じ畑で栽培し続けたりすると、抵抗力の強い害虫が生まれるのではないのでしょうか。また、害虫に薬剤耐性ができて、他の農作物を栽培するときに農薬が効かなくなるのでしょうか。作物、害虫共に、農薬に対する耐性が変化しないか心配です。

実態

- ・国内での遺伝子組換え農作物は、まだまだ少ないですが、国外ではどのようなものが商品化されているのでしょうか。また、その利点があればお願いします。
- ・正確な数字はわかりませんが、例えば大豆の国内輸入量は 480 万トン程度と聞いておりますが、現在、その内「遺伝子組換え大豆」は何トンくらいですか。又「遺伝子組換えしていない大豆」はどれくらいの量ですか。
- ・害虫抵抗性、除草剤耐性にしても、生産者用で、消費者にとってのメリットはありません。
- ・モンサント社独占種子で、生産者は毎年購入しなければ行けない仕組みになっているのでは。

・過去に承認されたにも関わらず、「アルファルファ、テンサイ、ジャガイモ」が流通していないのはどういう理由ですか。

・遺伝子組換えの表示をしている食品を見たことがないが、海外で多数栽培されている。表示の必要のない物に使用されているのだろうと思っていましたが、今日の講義で、飼料と油に使用されていることがわかった。国内の油で、遺伝子組換え作物が何%くらい使用されているのでしょうか。

技術

・日本で、現在、研究されている組換え技術（米など？）の状況を教えて下さい。

・除草剤耐性の組換え技術はどのようなことでしょうか。

・今後どのような物が開発される見通しですか？また、新しい物が開発され、どれくらいの期間で市場に出てくるのですか？

・環境に強く、一年ずっと収穫できる作物ができるのは、食材の安定供給に重要だと思われるが、四季折々の農作物が忘れられているように思われる。本当に必要な技術なのだろうか？

・説明はわかりやすく良かったです。遺伝子組換えというのはすべての細胞において、どうやって組換えられるのですか。組換えたはずなのに、その単体の中で組換え損ないとか、数世代後変異とかしやすいつかは、長期でないと分からないとおもいますが。

・近年、遺伝子組換えという言葉聞くようになりましたが、昔からある種なしブドウも、種なしスイカも、遺伝子組換えでしょうか。

・必要な物しか開発・実用化されないとおっしゃっていましたが、トマトとジャガイモを遺伝子組換えでかけ合わせた野菜があると聞いたことがあります。こういった新しい野菜（？）は今後作られたりするのでしょうか。

・遺伝子を見て、すぐに異常ということは、わかるのでしょうか？

・有機栽培と無農薬栽培とは同じですか。

情報

・食の安全性など、一般消費者の安全性に対する漠然とした不安感に対する啓蒙の手段として、どのような情報の発信を農水省として考えておられますか？今日の講演はとても興味深く聞かせて頂きました。

・まさしく肯定、否定それぞれ自分が決めるべきことと思う。否定的風潮が強い（と感じる）のは、何故？良い技術と思うが、全面的に広がらないのは、技術の問題？マインドの問題？

表示

・表示制度の中で、検出ができないから表示しないというのは、納得しにくい話です。今後、変更の可能性はありますか。

・最近表示の偽装の事件がよく思っています。遺伝子組換えでない并表示した豆腐などの大豆製品が多く出回っていますが、表示通りですか。加工食品についても、表示どおりなのかどうか、国はもっと検査や調査をして欲しいと思います。実際は、どのくらいの検査をされていますか。

・遺伝子組換えでないとする大豆製品豆腐などに使われている大豆は、ほとんどが外国産

ですか？製品になると原産国の表示がなく、国産とも書いていない。

・P27、遺伝子組換え農作物の栽培面積構成比ダイズ約 70%。スーパー等で販売しているダイズはほとんど組換えなし。実際の構成比とアンマッチでは？

・遺伝子組換え食品の表示制度（P24）は、ヨーロッパ、アメリカ等と同等ですか。許容混入率を EU と同程度に低くすべきではないですか。できないとすれば、どんな理由がありますか。

その他

・農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室でお仕事されている方々が、遺伝子組換え農作物と、そうでない農作物と両方提供されたら、どちらを食べられますか？

・ブロッコリーからの DNA 抽出実験をされましたが、輸入とブロッコリーと日本製のブロッコリーとの、どのような違いが、どうあって、何がいいのか、悪いのかが、はっきりとはわからないのでしょうか？

●意見・感想

・遺伝子組換え作物は、心配、こわいと思っていましたが、実際、品種改良とかに役立てられていたりすると知り、そういう面では、いいのかなと思えてきましたが、じゃあといって、すぐ飛びつける感覚にはなりません。十分な安全性の確認がこれからも行われて、出回るようになると、また違ってくるかもしれません。

・本日の遺伝子組換えの話聞き終えて、今まで思っていた知識と全然違ったので驚きました。食品として食べてしまうと、人間の体にとって害が或る物だと言う知識しかなく、避けてきていましたが、今回が講義を聞いて、勉強になりました。これから商品を買うとき等も、チェックして行こうと思います。

・食べ物は豊富である方がいい。だが、過食になりすぎて生活習慣病を引き起こしたり、食べ残しや売れ残りで廃棄しているのも現状です。そのためには、より健康的で安全なものが、ある量、必要であるが、量的規制も必要と思う。人口増加に伴い、食料は欠かせないが、生態系を破壊しない工夫が必要ではないのか？

・遺伝子組換えは必要だと思いますが、厳しい規制は守っていただきたいと思います。

・もう少し長いスパンで考えるべきではないでしょうか。例えば 50 年～100 年といったように、将来的に食料自給率を 100%ぐらいまでもっていけるよう、農業の方法から考えるべきだと思います。

第 22 回（埼玉県越谷市）

日 時：平成 22 年 10 月 13 日(水) 10：00～12：30

場 所：プラザ越谷(埼玉県越谷市)

主催者：生活協同組合さいたまコープ 東南地区エリア会

参加者：生活協同組合さいたまコープ 東南地区エリア会 組合員 40 名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所
客員研究員 蒲生 恵美

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

係長 飛鳥 武昭

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野、高野、鈴木

概 要：

はじめに、主催者の生活協同組合さいたまコープ東南地区エリア会から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を5グループに分けて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想をポストイットラベルに書いてもらい、グループ討論（デルファイ法：各グループには司会者がついた）によるディスカッションを行った。グループ討論後、各グループから出た質問等を発表することによって全体で共有し、コーディネーターの司会進行で農水省担当官が回答していった。その際に追加質問、関連質問も取り扱い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



情報提供

以下、主な質問と意見

越谷市（44 枚回収）

グループ討論の結果、得られた質問・意見は下記の通りであった。コーディネーターが、これらの質問、意見等を整理した後、順次情報提供者に回答・コメントを求める形でコミュニケーションを進めた。必要に応じて、参加者からの追加・関連質問等も扱った。

●質問

安全性

- ・ずっと食べ続けていく上での安全性はどうか。
- ・長年摂取した場合の体への影響についてのデータをとっているのか？
- ・安全性について、国で安全性の評価をしていますが、現在考えられる項目についてだと思います。思いもよらないような影響が、何年後、何十年後に出る事はないですか？
- ・安全性の評価。長い時間をかけた評価になっているのか？孫子の代まで大丈夫か。
- ・結局のところ、確実に人体に害がでないという保証はあるんですか？何十年か後に、体に出ないのでしょうか？
- ・私達が日常に食べている豚肉、鶏肉、牛肉の飼料は、人体に蓄積されていく訳で、安全性は本当に担保されているの？
- ・今までの研究中に、人体に問題のあったものは（吸収されるものとか）、どんなものがあるのか？
- ・「虫が食べたら死んでしまうものを人が食べて大丈夫？」の答えは？
- ・安全性の基準は国によって違いますか。
- ・国の安全性評価は信頼できるものなのか？
- ・安全性の確認の仕方。
- ・安全性、年数は？どのくらい行われるのか？人で（動物？）で行っているのか？
- ・食品としての安全性評価のところ、「意図しない」とおっしゃっていたが、根本の基準は、どうなっているのか？
- ・安全性審査。隔離ほ場栽培試験は、1つの種をどのくらいの期間栽培し、経過をみているのか？
- ・遺伝子組換えした植物が雑草化してしまった（ヤバイ）諸外国はあるの？
- ・生物多様性への影響など 108 の評価項目の結果が出るのに、どの位かかるのでしょうか？
- ・環境への影響。
- ・農林水産省の皆さんは、抵抗なく食べていらっしゃいますか？

技術、実態

- ・大豆、遺伝子組換えをもう少し、わかりやすく教えて欲しい。
- ・遺伝子組換え食品の作り方。組み換えた細胞を一つ取り出し、細胞分裂させていくのでしょうか。GMサケの作り方。
- ・組み換えるタイミングは？花粉の遺伝子を組み換えるのですか？
- ・遺伝子組換えを行う過程で、突然変異したりすることはありますか？
- ・遺伝子組換えを同種間ではしないのですか。
- ・「近縁種が交雑種に置き換わることがない」ということは、あり得るのですか？（花粉が飛んで、交雑しないことはあるのか？）
- ・技術的には、すべての作物を作れるとの事ですが、誰が、何の目的で、作っているのか？研究レベルなのか？

- ・遺伝子組換えが始まったのはいつからですか？
- ・遺伝子組換え農作物の種類をすべて教えてください（世界各国）。
- ・遺伝子組換え農作物の種類を教えてください。
- ・将来、遺伝子組換えでないダイズとかトウモロコシが無くなってしまう心配は？
- ・今後、GM作物で、近いうちに食用として出てくる作物は何があるのか？
- ・今後、承認される予定がある食品があったら教えてください。
- ・パパイアの遺伝子組換えの話をきいたが、どういう経過になっているか教えて欲しい。
- ・カップラーメンのコーンは、全て遺伝子組換えといわれていますが、本当にそうなのですか？
- ・スライド27→遺伝子組換えとそうでないものの割合と、輸入されてくるものの割合は、ほぼ同じですか→例えば、日本向けに遺伝子組換えの物を作っているとか。
- ・生産者としては、組換えに賛成の人が多いのか？
- ・国内での生産の現状は？
- ・遺伝子組換えをした作物を生産している生産者を国は把握しているのか。
- ・食料自給率の低い日本は、やはり遺伝子組換え作物に頼らざるを得ない状況なのか？今後は、どのようになっていくことが予想されるのか。
- ・国は積極的にGM食品を増やしたいんですか？

表示

- ・過去に遺伝子組換え商品と表示されたものはあるのか？「遺伝子組換え商品ではありません」しか見たことない。
- ・「遺伝子組換えでない」と表示されていると、そちらを購入するが、実際「組換えでない」商品の方が、少ない気がする。表示方法について、検討した方がいいのでは？
- ・意図せざる混入？難しい言葉が多くて・・・。
- ・遺伝子組換えでないとの表示は、0%ないではなくて、5%以下でも組換えでないとした根拠を知りたいと思います。

情報

- ・生産者と消費者との情報交換が、どのようにしているのでしょうか？

●意見・感想

- ・「遺伝子組換え」の情報に接する機会が少ない。生協でも、勉強会、情報を提供して欲しい。
- ・食品成分表の無いファーストフードのポテト等は、遺伝子組換えの物なのかどうか気になりました。
- ・今後、遺伝子組換えの商品が増えると買い物するときに悩みそうです。

第23回（沖縄県那覇市）

日 時：平成22年10月16日(土) 14:00～17:00

場 所：コープあっぷるタウン3階組合員活動室(沖縄県那覇市)

主催者：生活協同組合コープおきなわ

参加者：生活協同組合コープおきなわ 理事、組合員など 15名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所
客員研究員 蒲生 恵美

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室
課長補佐 小松 晃

オブザーバ：内閣府沖縄総合事務局 農林水産部生産振興課
野菜係長 川平 綾

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の生活協同組合コープおきなわ 東條渥子副理事長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。

終了後には、コープおきなわの役員らと遺伝子組換え農作物等に関して、さらに懇談しコミュニケーションを深めた。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見

那覇市（10 枚回収）

質問票を回収し、コーディネーターが情報提供者に情報提供後の質問の内容を中心に順次聞き、回答を得た。事前質問、追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・ これまでもっていた遺伝子組換えに関するイメージが、何だか恐ろしい(?)ものから少し安心できる感じに変化しましたが…。チェックされているという事ですが、ずっと何年も何十年も取り入れて（食べ続けて）いても大丈夫なの?という気がしています。
- ・ 今の情報から 1996 年からスタートした（技術導入）と思うが、何世代くらいの検証実験がなされたか。
- ・ 遺伝子組換えによって、新たに出てきたタンパク質が、虫などに強い影響を与えてしまうことはありますか。（虫が元気になって困るとか。）虫への影響は、作付けしたご当地ごとに調べる必要がありそうなので、気になります。
- ・ 自生しているニュースを聞きました。
- ・ 最終結論はいつ頃?

技術・実態

- ・ 4 p の遺伝子操作作物はその単体だけに有用だけではないのか?種子を通して何代までも可能ですか?
- ・ 遺伝子組換えした植物は、次の世代もずっと同じ育種?隔世遺伝はおこらない?
- ・ 除草剤耐性、害虫耐性のご説明がありましたが、高温耐性の研究・開発等も進んでいるのでしょうか。沖縄は夏場の葉野菜がないので、高温耐性の野菜が開発されれば、県産県消が実現できると思います。
- ・ 有害物質（カドミウムや残留性汚染物質など）を吸収する植物で、環境修復なされているとのことですが、どれくらいの期間で修復されるのでしょうか。
- ・ 国内で組換えした大豆（他の物でも）とかあるのでしょうか。外国で組換えして育てたものより、国内が安心かも。
- ・ 日本の実験の実態は?
- ・ 野生植物との交雑が新聞のニュースにあったが、その調査は定点観測か?
- ・ 種子の支配。
- ・ 現在の日本のGM使用の食品の状況は?広がっていますか?
- ・ 市場商品の国の検査の実状はどうなってるのか?

表示

- ・ 日本が5%としている理由は?
- ・ 飼料に遺伝子組換えしたものが使われている情報を、はっきり銘記（表示）する義務づけはされている?

第 24 回（熊本県熊本市）

日 時：平成 22 年 10 月 18 日(月) 14：40～17：10

場 所：崇城大学 H 号館 H205 大講堂室(熊本県熊本市)

主催者：崇城大学生物生命学部応用微生物工学科

参加者：崇城大学生物生命学部応用微生物工学科学生、教員 84 名

情報提供者：国際生命科学研究機構バイオテクノロジー研究部会長 橋本昭栄
オブザーバ：

九州農政局消費・安全部消費生活課 係長 福岡照美、 寄野聡弘

安全管理課 係長 水田好智

生産経営流通部農産課 農政調整官 久保忠弘

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部長 河野敏明

概 要：

はじめに主催者の、崇城大学生物生命学部応用微生物工学科 寺本祐司教授から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。次いで事務局の司会進行のもと、国際生命科学研究機構 橋本昭栄部会長から 45 分間で「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについて、全員に配布した質問票を用い質問・意見交換を行った。質問票に基づき学生から質問を受け、情報提供者が回答していった。質問・討論時間は約 90 分であった。学生たちも活発で熱心なコミュニケーションを行った。

質問用紙は回収し、また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見

熊本市（16枚回収）

●質問

安全性

- ・遺伝子組換え作物を食べてから、今自分に影響がなくても、何代か後で危険な遺伝子が発現することはないのか？
- ・現在承認されている作物の2種類以上の組み合わせで安全性は確認されているのでしょうか？
- ・農薬と遺伝子組換え食品、どちらが安全なのか？

技術・実態

- ・青いバラや青いカーネーションを作る必要はあったのですか？
- ・遺伝子組換え食品を作る過程で毒性を持つ株もできるのでしょうか。
- ・バラの葉からカルスを誘導した後、青色遺伝子を導入するようですが、具体的にはどういった方法で導入を行うのでしょうか。キメラ化しないのか。導入後の選抜は？
- ・カルスから植物体へする時、どのくらいかかったか、キメラ化しなかったのか。導入した遺伝子の選抜のしかた。植物は細胞壁があるのに遺伝子は入りやすいか。
- ・青いバラを製造するとき、暑いと酵素が作りにくいとありましたが、青い遺伝子を入れることで何か支障はありましたか。
- ・ニュースとかでやっている青と赤の光をあてて植物を育てるのは、組換えと関係ありますか？
- ・青いキリンや緑のゾウなども可能ですか？ビールの色もかえられますか？
- ・遺伝子組換えをするのに資格等はいるんですか？
- ・従来の育種と遺伝子組換えによる育種では、商品化する期間はどちらが早いのか。
- ・遺伝子組換えの作物を育てるという事に農家の方々の声というのは、どのようなものがありますか。

表示

- ・食品の表示制度について、遺伝子組換え植物にはB T酵素発現作物や除草剤耐性作物等数多く存在するにも関わらず、「遺伝子組換え」という1つのワードで表示するのはおかしいのではないか？

情報

- ・遺伝子組換え農作物が多く作られている国、例えばアメリカ等での国民の遺伝子組換えに対する意識はどうなっているか。
- ・遺伝子組換えに問題がないのならば、もっと宣伝するべきだと思う。宣伝なしでは、いつまでも消費者に伝わらないままだと思う。

第 25 回（鳥取県米子市）

日 時：平成 22 年 10 月 23 日（土） 13:30～16:00

場 所：米子駅前サティ 4 階 米子市男女共働参画センター

かぶりあ第 1 会議室（鳥取県米子市）

主催者：鳥取県消費者協会

参加者：鳥取県消費者協会会員及び一般市民 32 名

米子市市民相談課長 1 名

メディア：(株)中海テレビ放送 1 名

コーディネーター：順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助教 堀口 逸子

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

同課係長 山澤英之

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の鳥取県消費者協会 安本仁子会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局から DNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからの DNA 抽出実験を行い、DNA や遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

閉会の挨拶は、同協会副会長からなされた。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見

米子市（22 枚回収）

質問票に記入し、それに基づいて実際に質問してもらった方で、コーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

・食べ物ですので、人体への影響については、短期で結論付けはできないと思います。具体的に動物実験で組換え食品のみを数年、数十年食べさせるような実験は国でしておられますか？ もともと自然界にない未知の物ですので、人間の理屈だけで計れないという恐ろさが常にありますが・・・

・安全性の確認について、もう少し詳しく知りたいです。GM 農作物が出来た時に、一度だけなのか、長期的に人体における影響等も調べているのか等。

・組換えは具体的にどうしてするのですか。バクテリアとかを利用？←そこに危険はないのですか？

・動物の食物に使用されている飼料は、どの程度まで許可されているのだろうか。例、サルの体の異常、養殖魚の異常など。異常が出た時の対応は？

・食品の安全性（悪い性質が出た場合）何代かで変わる事はあるのか？

技術・実態

・組換えは具体的にどうしてするのですか。バクテリアとかを利用？

・安全性の確保が一番気になる場所ですが、どんな作物が、GM 作物として現在研究されているのでしょうか。何か情報がありましたら教えていただきたいです。

・GM 農作物の種子は、毎年買うものなのですか。種子がとれない？ 話の中、でダメなら翌年は買わないという話でしたので。

・遺伝子組換え飼料はなぜ輸入するのですか？（国内で供給が何となく安心）。

・動物の食物に使用されている飼料は、どの程度まで許可されているのだろうか。

・日本の政府は遺伝子組換えに対してどのくらい力を入れ、予算を取って開発しているのか？

・日本は今後、食糧需要をどのように考慮しているのか。

表示

・動物の飼料は何を使っているかの表示について、どのようになされているのか、又、現状を知りたい。

・遺伝子組換えで良い結果が出るのに遺伝子組換えはしていないと表示されるのでしょうか。

・商品の組換えはありませんと納豆等表示してありますが、値段は安いのです。本当かどうかと思います。それを（商品）を検査はされるのでしょうか。

・中国からの輸入食品にはいろいろとありましたが、この頃、中国産の表示食品が見受けられます。中国産の食品・農作物は遺伝子等大丈夫でしょうか。

・他国が 5%より低いパーセンテージでより厳格に取り扱えているのであれば、日本も取り入れることは可能なのではないのでしょうか。

・何気なく遺伝子組換えでない物の方がいいだろうと、購入していました。5%までは組換えの物が入っていても良いというのは、安全性が確認されているからですね。他国は

3%とか0.9%とか厳しいのに、日本はどうして5%なのですか。

情報

・正確な情報は、ネットで調べればわかると思います。その他（ネット情報以外）の情報はどこで手に入りますか。他に、どんな広報がなされていますか。（今日のような回は有難いですが、こういう機会は滅多にないですから）。個人的には、とても勉強になりました。

●意見・感想

・ただ単に遺伝子組換え農作物はダメと決めつけしないで、自分で選択することが大切だと感じた。まずは知ることが大事だと思う（本日は少しだけ違いがわかりました。有難うございます）。

・今まで遺伝子組換え農作物について、耳にすることはあったが、あまり疑問を持つこともなく、売られているものは、安全であることが前提だと思っていました。でも、色々な物を自分たちで選べるような商品が出てくれば、いいと思いました。これからは、もっと関心を持って、表示を見たり、あらゆる事に疑問が持てるようにしたいと思います。

・本日は簡易な実験で遺伝子に対して身近に感じる事が出来ました、ありがとうございました。日々口にする食物に生活の中で必要とする物に、今までの生産方法では壁にぶつかること、未来を考えれば私達の知恵を使って未来の人類の為に開発しないとイケないことは何となく解りましたが、やはり長期的な実験の上で安全性を確保して頂きたいと思います。

・今まで遺伝子組換えは漠然とあまり取りたくないと思っていました。説明を聴いてある程度安全性が証明されたけど、今後購入するとき遺伝子組換えではありませんと表示したのを買うのか、迷います。あらゆる食品に表示してあるわけでないし。

・食するものでなければ、遺伝子組換え農作物を作ることは賛成です。

・今後、世界的に食料不足が予想される。食料が既に武器として使われてもいる。飢えに直面した時、有害であったとしても、人は食料を求めずにはおれない。原爆を使用したように、人は有害な物を必要とする日が来ないとも限らない。日本は今後、食糧需要をどのように考慮しているのか。

・遺伝子組換え農作物でも輸入物より日本の物が良いと思いますし、飼料においても（動物）においても日本製が良いと思われれます。それには、日本の農業の考え方等色々問題がありますが、農家の支援も大事かと思われれます。食品については、口に直接入れる物ですのでもっと意識を持たないといけませんね。

・同じ植物同士間での組換えばかりと思っていましたが、麦と米でも出来ると聞きました。

・分かりやすい講演をありがとうございました。安全性について、108項目にもわたって検査項目があることにびっくりしたと同時に安心も抱きました。ただ人によっては、このような遺伝子組換えに敏感が方もいるので、混入の許容混入率の「5%程度の混入の可能性は否定できない」という部分については、少し寛容ではないでしょうが。

第 26 回（山口県下関市）

日 時：平成 22 年 10 月 26 日(火) 9:00～12:10

場 所：下関短期大学（山口県下関市）

主催者：下関短期大学栄養健康学科

参加者：下関短期大学栄養健康学科学生、教員 53 名

メディア：下関新聞 下関支社 1 名

情報提供：特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構

バイオテクノロジー研究部会長 橋本 昭栄

実験協力：京都大学大学院 地球環境学堂資源循環学廊

食糧資源化学論分野環境マネジメント専攻 岸 靖之

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 高野 博幸

概 要：

はじめに、主催者の下関短期大学栄養健康学科 木村秀喜教授から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと5グループに分かれ、参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

次いで事務局の司会進行のもと、国際生命科学研究機構 橋本昭栄部会長から45分間で「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについて、全員に配布した質問票を用い質問・意見交換を行った。質問票に基づき学生から質問を受け、情報提供者が回答していった。質問・討論時間は約80分であった。学生たちも活発で熱心なコミュニケーションを行った。

質問用紙は回収し、また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

下関市（12 枚回収）

●質問

安全性

- ・ 遺伝子組換え作物は安全とされていますが、万が一、人体に害が及ぶことになったら、アレルギー等以外の事態は何か考えられますか？
- ・ 薬などは（治験）をしたりするが、遺伝子組換え食品も治験をするのでしょうか？
- ・ 遺伝子組換え食品などの影響で生態系が崩れたり壊されたりすることがありますか？

技術・実態

- ・ 長い間で品種改良されたものが、別の物と交配して変質することがないのか。
- ・ 遺伝子を組み換えることでその野菜独特の風味等を変える事は可能ですか？
- ・ キウイやみかんの皮を遺伝子組換えで食べられるようになりますか？
- ・ 果物の皮等が遺伝子組換えで食べられる様になるといいましたが、逆に、遺伝子組換えで食べられなくなるような物はありますか？
- ・ アレルギーの子どもが増えていて、私も少しアレルギーです。遺伝子組換えでアレルギーが治るということも可能ですか。
- ・ 遺伝子組換えを使い、環境面（例えば CO₂ をたくさん吸収する木）を改善する事は可能ですか？
- ・ 青バラは日本で栽培できますか？
- ・ 遺伝子組換え農作物が広がっている国と広まらない国の違いは何でしょうか。宗教や文化等が影響しているのでしょうか。
- ・ 遺伝子組換えを利用したら、超電磁砲は使えるようになりますか？

第 27 回（栃木県宇都宮市）

日 時：平成 22 年 10 月 27 日(水) 10：00～12：30

場 所：宇都宮市男女共同参画推進センター（栃木県宇都宮市）

主催者：宇都宮市消費者友の会

後援者：宇都宮市消費生活センター、栃木県市町村消費者団体連絡協議会

参加者：宇都宮市消費者友の会会員他 100 名

メディア：(株) とちぎテレビ 1 名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所

客員研究員 蒲生恵美

情報提供：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

係長 増田恭久

オブザーバ：関東農政局栃木農政事務所 消費・安全部安全管理課

課長補佐 平野 聡

同安全管理第1係長 蛭田保子

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部

河野、鈴木、金井、岡田

概 要：

はじめに、主催者の宇都宮市消費者友の会 金枝右子会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員が10グループに分かれてブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見交換を行い、活発で熱心越なコミュニケーションを行った。

閉会の挨拶は、同会副会長からなされた。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



情報提供

以下、主な質問と意見・感想

宇都宮市（23 枚回収）

質問票に記入してもらい回収し、それに基づいてコーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・遺伝子組換え食品が、人間の遺伝子組換えの影響はないのか。その理由をききたい。
- ・遺伝子組換えの農作物を日常食べ続けた場合、人間は遺伝子組換え体質にならないでしょうか。
- ・本当に安全なのかどうか。続けて食べても良いのか。
- ・遺伝子組換えの食物は、人体に安全ですか。個人の選択に任されていると結論されていた。正確な情報を明示されて安心した。
- ・私達もトウモロコシをいただいています（虫がくっていない）。昆虫はアルカリ性、人間は酸性の胃液や腸液で分解されていると言われてはいますが、心配です。
- ・安全確認は農水省で行っているのですか。確認するには、どれ位の期間がかかっていますか。小松先生は、COOPのマーガリン、どちらを購入しますか。

技術・実態

- ・何故、遺伝子組換えが必要なのか。
- ・略号GMをフルネームでその語源説明。
- ・数年かかるものが短時間で改良され、耕作される。消費者の無駄使いにつながらないか。
- ・家庭菜園で、色々な野菜を作っていますが、種は遺伝子組換えになっていますよね。それを使った場合は？
- ・何年かその種を使用した場合、この形にもどってしまうとか。
- ・遺伝子組換えの方法とは。（1年で可能というので）種と種との配合は知っているけど。
- ・食料は安心して食べても良いと理解しました。ただ、野菜を調理するには、どの程度洗ったら良いか、農薬を落とすため、洗剤を使ったらよいか教えて下さい。

・とうもろこしや大豆は大部分が、合衆国依存は仕方ないが、アメリカ当局は、日本の研究所のような、DNAの施策を実践しているのでしょうか？ 私の経験で US-JAPAN の共同研究で訪れたインディアナ州の大農家の耕作論は、地平線まで広がるトウモロコシ、大豆畑で飛行機で種まき、肥料散布、そしてトウモロコシなど 1 本の木に 1 本なればよいといった大まかな考え方で、どの程度、品種改良や DNA 対策をやっているのだろうか。

・国が 90%以上もすでに輸入しているのに、これからも反対する、食べないというのは、難しいのでは。

・植物のDNAの抽出方法はわかりました。動物や特に犯罪などによくDNAの鑑別が使われていますが、どのように抽出するのですか。

豆類などは、遺伝子組換えなど表示がありますが、他にどんな物がありますか？ 植物などの遺伝子組換えなど、花はよいけど、食品などは、あまりしてはいけないと思います。

・現在、とうもろこしと大豆のみの食材ですが、今後、他の農産物にも組換え産物が増えていくか？

・販売流通が認められている遺伝子組換えは、7作物だけですか。それ以外のものは、作られていないということでしょうか？

・テレビで、花粉症を、ご飯で 2 ヶ月ほど、三食、食べていくと、軽くなるという研究がなされていると放送していました。花粉症は毎年起こって大変な事態となっていますので、この研究がより進んでいくと良いと思いますが、症状のある人にとっては朗報と思うが、どのように考えていますか？ 花粉を出さないスギの苗木を研究してもらった方がよいと思います。

表示

・遺伝子組換えの商品をもっと表示して欲しいです。

・遺伝子組換えでないと表示されてありますが、5%使われていると知り、もう少し改善して頂けると良いように思います。

・輸入で遺伝子組換えの5%以下であればということでしたが、諸外国で3%以下としていることもふまえて、検討してみたらと思います。(安全性を考えてということ)。

・遺伝子組換え食品の表示制度のことで、意図せざる混入の許容混入率が、最大で5%程度混入する可能性は否定できないことからとあるが、EU とかは、低く設定されてる由。その所の違いと、これからの日本の方向性は？

情報

・日本の国は、身体にどう影響があるか、もっと詳しく説明すべきではないか(安全性を)。

●意見・感想

・遺伝子組換えの食品に関する安全性が理解できました。

・説明を受けてさせて頂き、この様に取り組んで下さっていること良くわかりました。どこまでも健康第一、環境第一を目指して取り組んで頂きたいと思います。

・お米、小麦共に、遺伝子組換えを、もっと詳しく説明して欲しい。

・テレビ報道で見ましたが、東北地方では除草剤が効かない雑草の勢力が、稲作を脅かしているとのことでした。様々な遺伝子組換えによる土壌への影響が懸念されます。一度破

壊された土壌は戻らないとなると、生産性、効率性を重点に置く遺伝子組換えに疑問が残ります。

・植物などの遺伝子組換えなど、花はよいけど、食品などは、あまりしてはいけないと思います。

第 28 回（岡山県岡山市）

日 時：平成 22 年 10 月 27 日(水) 16：30～18：00

場 所：中国学園大学(岡山県岡山市市)

主催者：中国学園大学現代生活学部

参加者：中国学園大学現代生活学部学生、教員 121 名

情報提供：特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構

バイオテクノロジー研究部会長 橋本 昭栄

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 高野 博幸

概 要：

はじめに、主催者の中国学園大学現代生活学部 学部長多田幹郎教授から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

次いで事務局の司会進行のもと、国際生命科学研究機構 橋本昭栄部会長から 45 分間で「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについて、全員に配布した質問票を用い質問・意見交換を行った。質問票に基づき学生から質問を受け、情報提供者が回答していった。質問・討論時間は約 40 分であった。学生たちも活発で熱心なコミュニケーションを行った。

質問用紙は回収し、また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



情報提供

以下、主な質問と意見・感想

岡山市 (27 枚回収)

●質問

安全性

- ・ 遺伝子組換え食品が食べられはじめて 15 年程ということですが、その間食べ続けて問題はなかったにしても、これから先ずっと食べ続けて問題がないのでしょうか。(次世代への影響など)
- ・ 安全性評価の試験で、「問題あり」と出る確率はどのくらいですか？
- ・ 今現在、承認検査をうけている遺伝子組換え農作物はありますか。
- ・ 遺伝子組換え農作物の害虫抵抗性は、新たな害虫の被害や、害虫自体耐性を持つことにより、農作物に対して影響を及ぼすことはないですか？ 耐病性も新たな病気や、薬耐性を持った病気ができる可能性はありますか？
- ・ 遺伝子組換えが行われた畑の近くの畑は、その影響で悪影響が及ぶと聞いたことがあります。水が汚れたり、枯れたりなど。得をするのは行った畑だけで、周りには多大な悪影響(損害)があると聞いていたので、真相が知りたいです。
- ・ 遺伝子組換え作物は生態系への影響について調べられていますか？ 野生株との共存はできますか？
- ・ スライド 18 の生物多様性影響評価の流れ、承認には何年かかるのか？

技術・実態

- ・ 遺伝子組換え食品は、お米ではできないのか。
- ・ 遺伝子組換えでアレルギーの原因になる物質がない食品はつくれますか？
- ・ 大豆アレルギーの人が遺伝子を組換えたりしたら、アレルギーの反応がでなくなることもあり得るのか？
- ・ メリットで栄養価を高めることができるとあったが、スライドで栄養成分に予定外の変化があったら遺伝子組換え食品としてはダメとあるが、栄養価を高めることはありなのか？
- ・ 遺伝子を組換えれば、動物から植物の、植物から動物の固有の栄養素を摂取することができるのでしょうか？
- ・ 遺伝子組換え食品で農作物がある事は知りましたが、畜産物(豚、牛、鶏)に遺伝子組換えが行われているという事はあるのですか？
- ・ アメリカでは遺伝子組換え鮭など魚類や肉類の遺伝子組換えも積極的に行っているようですが、日本では行わないのでしょうか。
- ・ 健康食品の代わりとすることができますか。
- ・ 大豆のほとんどがアメリカからの輸入品で、アメリカで栽培されている大豆の 92% が遺伝子組換えなのに、スーパーなどで見る大豆商品のほとんどは「遺伝子組換えではない」と表示されているのですが、日本は遺伝子組換えでない大豆ばかりを輸入しているのでしょうか？
- ・ 高オレイン酸遺伝子組換え大豆生産が行われていますが、臨床栄養学的に肥満の原因として飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸があげられていますが、メタボ対策を行っている厚労

省との方針がズレるように思われるのですが、如何でしょうか？

・遺伝子組換えは”種をこえない”ときいたと思うが、間違っていますか。

表示

・大量栽培国、生産国であるアメリカからの農産物の大量輸入国の日本ですが、トレーサビリティをかいぐって入って来てはいないのでしょうか？食品表示・非表示は厳密にチェックが行われているのでしょうか？意図せず食べている確率はどれくらいでしょうか？

情報

・従来 of 交配・選抜による品種改良は、農家の人達の努力でできたと思いますが、遺伝子組換え技術は、最先端の知識と技術が必要だと思います。遺伝子組換え作物は、将来、人類に必要な不可欠な技術になると思いますが、今後の農業へはどのような影響を与えていきますか？農業をするには大学などで専門知識を学ばなければいけないようになりますか？

・簡単にメリットデメリットを教えてください。

・消費者は遺伝子組換え食品について良く思っていない人が多いイメージがあるのですが、そういった人達は遺伝子組換え食品のどこに不安を持っているのですか？

・遺伝子組換えについて、良いと思っていない人のためへの対策として何か行っていますか。

・米国のトウモロコシは 80%が遺伝子組換えと冊子に書いてありましたが、米国人達は「遺伝子組換え」ということに対して日本人のように抵抗はないのですか？

・コップテン (COP10) とは何ですか？

・HP で一般の意見を聞くとと言われていましたが、関心のある人しか見ないのではないですか？ 例えば、遺伝子って何？と思う人が見て意見を述べられるのでしょうか？

・私は遺伝子組換え食品について賛成でも反対でもありません。一つの技術であると考えますが、それに反対する人々には、それぞれの倫理観や考え方があることも予想できます。最後にお話しされた「共存」ということを実現するために、私達はどうすべきなのでしょう。私は共存という考え方が共感できるように思いましたが。

第 29 回（埼玉県草加市）

日 時：平成 22 年 11 月 8 日（月） 10：00～12：00

場 所：草加市立勤労福祉会館 2 階 第 1 会議室（埼玉県草加市）

主催者：草加市市民生活部消費労政課、草加市くらしの会

参加者：草加市くらしの会会員 20 名

コーディネーター：消費生活コンサルタント 森田 満樹

情報提供：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

室長 作田 竜一

係長 飛鳥 武昭

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部

高野、鈴木、岡田

概要：

はじめに、主催者の草加市役所市民生活部消費労政課 黒田泰治課長、草加市くらしの会 尾上 紀会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局から DNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからの DNA 抽出実験を行い、DNA や遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を 4 グループに分けてグループ討議を行った。そして、グループ討論で出された遺伝子組換え食品、農作物、技術などについての質問・意見に対し、情報提供者からの回答と、追加・関連質問による活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA 抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

草加市（14 枚回収）

グループ討論の結果、得られた質問・意見は下記の通りであった。コーディネーターが、これらの質問、意見から情報提供者に回答を求める形でコミュニケーションを進めた。必要に応じて、追加・関連質問等も扱った。

●質問

安全性

- ・遺伝子組換えは、何年繰り返し実験して世の中に出るのか。何年が安全なのか。
- ・認定後に新しい学説や事実が出てきた場合の対応は。
- ・長期にわたって第二世代、第三世代に人体影響がないのか、人体実験しているのはいか。
- ・食品や飼料としての安全性について 50 年、100 年後に身体に影響が出てきたらどう責任をとるのか。
- ・虫が食べると死ぬほどの毒素を持った作物を人間が食べて長期にわたって大量に摂取しても本当に無害だと言いきれるのか。
- ・生物多様性への影響が現状出ているが、そのことへの責任はどう考えているのか。

表示

- ・遺伝子組換え大豆は使用していませんと書いてある製品を本当に信じて良いですか？
- ・食品表示の義務が違う表示がされていた場合の対応は？

●意見・感想

- ・特に大豆製品について遺伝子組換えしていませんというものを選んでしまいます。虫をよける作物を作ることそのこと自体疑問。
- ・トウモロコシやダイズなど、安全性評価されているが、やはり心配である。
- ・海外企業の種子を使用するしか農業ができなくなるのは問題だと思う。
- ・果実の日持ち向上のために成長ホルモンに手を加えた農作物、害虫に強い作物、除草剤の影響を受けない作物等、生産者側にとって都合の良いことばかり。消費者側にとっては予期しない事態を生む可能性があるにもかかわらず本当に安全性が評価されているかどうか疑わしい。
- ・アレルギーに関して、子ども達に安心して食べられる食品、特にアレルギーの子どもは、学校給食まで特別にメニューをかえている？もう少しアレルギーに関して聞きたかった。

第 30 回（福井県越前市）

日 時：平成 22 年 11 月 8 日（月） 13：30～16：00

場 所：越前市生涯学習センター 2 階第 2 研修室（福井県越前市）

主催者：越前市消費者グループ連絡協議会

参加者：越前市消費者グループ連絡協議会会員など 29 名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所

客員研究員 蒲生 恵美

情報提供：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

同課 稲垣 晴香

オブザーバ：北陸農政局生産経営流通部農産課 農政調整官 宮腰 信人

越前市市民生活部市民課 消費者行政推進室長 佐々木久幸

越前市消費者センター 大瀧

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、田淵

概要：

はじめに、主催者の越前市消費者グループ連絡協議会 玉村幸枝会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局から DNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからの DNA 抽出実験を行い、DNA や遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を 3 グループに分けて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想をポストイットラベルに書いてもらい、グループ討論（デルファイ法：各グループには司会者がついた）によるディスカッションを行った。グループ討論後、各グループから出た質問等を発表することによって全体で共有し、コーディネーターの司会進行で農水省担当官が回答していった。その際に追加質問、関連質問も取り扱い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

越前市（42枚回収）

グループ討論の結果、得られた質問・意見は下記の通りであった。コーディネーターが、これらの質問、意見等から選んで情報提供者に回答を求める形でコミュニケーションを進めた。必要に応じて、追加・関連質問等も扱った。

●質問

安全性

- ・ 遺伝子組換え品、長年続けて食べても大丈夫？
- ・ 子や孫の代まで大丈夫か？
- ・ 害が出た報告はないそうですが、これから先が心配です。安全性の信用度？
- ・ 遺伝子組換え農作物と農薬使用の野菜ではどちらが良いか。（安全性）
- ・ 飼料の安全性は大丈夫か？
- ・ 害虫に強い遺伝子組換えをしたトウモロコシを食べた牛の牛肉を食べても安全ですか。
- ・ ドックフードは大丈夫？
- ・ 全数検査ですか？抜き取りですか？
- ・ 飼料用のダイズがこぼれて、はえてきたら、どうなるのですか。その種がこぼれたら。
- ・ 除草剤が農産物に与える危険性。
- ・ スーパー害虫？
- ・ 承認の期間？誰が確認？

技術・実態

- ・ 遺伝子組換えの始まりは？どれ位経っているのですか？
- ・ どんな農作物にでも遺伝子組換えはできるのですか。
- ・ 遺伝子組換えは必要である部分もあるが、最低限に抑える必要があるのではないのでしょうか。
- ・ 遺伝子組換えのものを使用するために栽培実験等までして組み換える必要があるのか。
- ・ 日本の主食、米は、遺伝子組換えの研究はしていますか。して欲しいけど使って欲しく

ない。

- ・ 遺伝子組換え食品の承認実績は表にあらわしているものの他にはないのですか。
- ・ 今、実験したブロッコリーの DNA はそのままでもよいのですか。

表示

●意見・感想

- ・ 遺伝子組換えについて初めてなので、わからないのです。
- ・ 遺伝子に関する関心が余りありませんでしたが、少しでも関心をもたなければいけないかなと思いました。
- ・ 食のボランティアをしております。今日のお話は大変参考になりました。
- ・ 食の安全と安心。安心は自分の意識の持ち方。
- ・ 遺伝子組換えにより、私達は安全な野菜をいただいている有難いです。
- ・ 今までダイズが気になっていました、豆腐、あげなどよく食べるので、心配していましたが、わかって良かったです。
- ・ 安全性を確認されたものを市場などに出しているとの事、安心しました。
- ・ 農林水産省の方の研究など聞いて安心しました。
- ・ 遺伝子組換えについて関心なかったが、今日の話聞き、安全、安心だと思った。
- ・ 輸入された牛豚は恐ろしい。
- ・ 食の変化、欧米化はこわい。
- ・ 主食に対しては、絶対に使ってほしくない、農業を守るためにも。米、小麦、たまご等。
- ・ まだ遺伝子組換えの食品に関して不安を感じています。
- ・ 安全だと聞いてもやっぱり不安で、できれば食品は取りたくない。
- ・ 安全と聞いてもちょっと心配です。
- ・ 生産者メリットも重要(農業人口減)。
- ・ 生産者メリット=消費者メリットでない。
- ・ 遺伝子組換えの材料は全て遺伝子組換えと表現すべき。
- ・ 表示されているものを信じておりますので、気にしておりません。
- ・ 表示を信じるか信じないかは、その人、個人の問題。
- ・ 5%以下は尺度が甘い。1%以下にすべきだと思う。
- ・ 表示5%は×。→0% (0.9%もおかしい)
- ・ 安い物は悪いと思ってしまう？

第31回（山形県山形市）

日 時：平成22年11月13日（土）13:30～16:00

場 所：山形市男女共同参画センター ファーラ5F会議室（山形県山形市）

主催者：山形県食情報研究会「たいき」

参加者：山形県食情報研究会会員他 22名

コーディネーター：順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助教 堀口 逸子

情報提供：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

係長 渡邊 美鈴

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の山形県食情報研究会「たいき」長谷部俊子代表から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え食品、農作物、技術などについての質疑応答・意見交換による活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

山形市（20 枚回収）

質問票に記入してもらい回収し、それに基づいてコーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

・お話を伺って、今まで考えていなかった事が身近で進んでいる事に驚きましたが、安全性が心配です。

・この先、自分達はもう近々死んでいくからいいが、子どもや孫達の代になって、何らかの悪いことが起きてないという確証はないのでは？

・世代を重ねた時の安全・安心度についてはどうか。

・遺伝子組換え農作物をとって、身体に異常が出た事例は、あるのでしょうか（心配される点があるような情報があるので）。アレルギー対策（食べ物）の例などあれば、伺いたい。

・昔、あまりなかったと思いますが、DNAによるアレルギーについて、もう少し詳しくお願いします。

・遺伝子組換えの食品の安全性について、店頭に並ぶ食品は、ついつい手が出なく、不安ですが、今後、将来的にも、孫の時代にも、安全性を伝えられるのか？孫がアレルギーで悩んでおりますので、心配しております。

・審査の重要性、安全性の評価が、生命に重大なんだな。

・今後 TPP 参加によっても、日本の食の安全・安心は、守り続けられるか？輸入食品の表示規制について、原料でなく、製品に対する安全性の確保は？（日本の J A S 法にあたる様な、輸入許可基準はしっかりしているのでしょうか）。→現時点で受け入れ体制準備はどのようにしているのか？（参加、不参加未定に現状を踏まえて）。「中国産」製品の現在の輸入条件はどのようになっていますか。

・"スーパーなどであまり関心を持っていなかったが、今日の話の中から、もっともっと組換え努力、経験されて、安全性を確証されて、使用されて欲しい。毒性の物、蓄積されていない身体に害を与えていないか。

技術・実態

・遺伝子組換え作物を食べてきた人類の歴史は何年ぐらいか。

・なぜ遺伝子まで組み換えなければならないのか。品種改良ではダメなのか。

・自然をいじることへの漠然とした不安。

・組換えのプラス（効果）、マイナス（不安）を、はっきり知らせて欲しいです。希望として、一日も早く組換えは、「不安はない」と示して欲しいものです。

・遺伝子組換えの食品は、これからどの位、私達の口に入るのか。これからの食品は、組換えの食品が多くなるのですか。安心して食べて良いのか、伺います。

・技術の進歩、温暖化対策、食料不足などを考えると、必要であり、研究者のやりがいにつながっていると思うが、ある意味必要悪の部分ではないか？人間が作り出した環境悪化の対策で、さらに対策として、改良すると何が本物であり、自然であるか、本質を見失うと思う。仕方ない事であると思うが、自分の考えで行動したい。

- ・在来種に対する農水省の考えはどうか。
- ・このテーマに対する生産者への対応は農水省としてどうしたいのか。
- ・孫の事等を考えると、日本の食料も自給率をもっと上げなければと思いますが、今、私達にできることは？GMは心配という気持ちはとれないです。
- ・食品を選ぶことは、農薬のデメリットか遺伝子組換えのデメリットかの選択になる？
- ・作物のおいしさが失われてきたような気がする（昔のトマトはおいしかった）わからない部分でのデメリットが考えられるのでは？
- ・農業者作物作りのどう決めているのか。
- ・遺伝子はいじってはいけないものと思う。

表示

- ・なんたって私達消費者としては、食品の安全が第一なので、食品の表示に遺伝子組換えの大豆が使用しておりませんと書いてあるのを見ると、遺伝子組換え食品が安全でないのではないかと思うのですが、本当に安全なのか、どうしてこういう表示をするのですか？
- ・なぜ、スーパーに並ぶ食品に、わざわざこの食品は「遺伝子組換えはしていません」とことわっているのか、わかりません。
- ・「遺伝子組換え」という名称(?)はイメージ的に良くないので、別の名前に？

情報

- ・遺伝子組換え農作物（畜産物も含む）正しい情報が不足。
- ・選べる自由と権利を得るために多くの情報がほしい。
- ・普通の消費者が簡単に理解できる情報をどう求めたら良いのか。
- ・今日も大変よいお話ですが、基本的知識の少ない(殆どない)私達多くの人々への関心や、周知をはかるようお願いします。
- ・輸入肉など、飼料そのものの遺伝子との関係は、もっと知りたいと思います。

●意見・感想

- ・講演していただいたお陰で、遺伝子組換えについて、少し分かったような気がします。
- ・豆腐や大豆を買う時、この食品は遺伝子組み換えの食品ではありませんと記入されているのを初めて買った時、組換えの知識がありませんでしたので、不安で食べられませんでした。遺伝子組換えした食品の方が良いのか、しない方が良いのか、わからない食品がいっぱいあります。その辺りの判断は自分ですべきですが、もう少し、生活に密着した勉強をやりたいと思います。今日はありがとうございました。
- ・小1の孫がアレルギー体質ですが、卵、カニ等がダメで困ってます。代替りの物食べさせるのに、外国から入ってくる物で食べさせていますが、何か良い物、大丈夫な物がありますか、なるべく日本の物と思っていますが、そういかない事があります。
- ・今まで遺伝子組換え食品は、漠然と心配な面があったが、今日の説明を聴いて、ある程度理解でき、良かったと思う。食料の輸入大国である日本は、他国に食の安全を求めるのも、無理があると思う。日本として食料は、どの程度自給できるのか、どのくらい輸入の頼るのか、しっかりとした基本政策が必要なのではないかと思った。質問ではなく、私の考え方でした。

- ・今まで、遺伝子組換えのどうのこうのと、よく云われていきましたが、あまり関心なく思っていました。今日の講演を聞いて、食品に対する考えが違って来たと思います。
- ・「不安」という言葉が「懸念」という言い方もあったなど改めて気付いたが、今、いろいろ説明を受け、少し「あ、そう心配いらないんだ」という思いに変わった。しかし、漠然とした懸念は捨てきれない。
- ・遺伝子組換え食品に不安があるが、これからは共存していかなければならないことがわかりました。正確な情報が届くようにお願いします。

第 32 回（滋賀県高島市）

日 時：平成 22 年 11 月 17 日(水) 18:00～20:30

場 所：高島市安曇川公民館 カルチャールーム 2 階：調理室(滋賀県高島市)

主催者：たかしま有機農法研究会

参加者：たかしま有機農法研究会会員他 31 名

コーディネーター：順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助教 堀口 逸子

情報提供：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

同課係長 小口 悠

オブザーバ：農林水産省近畿農政局 滋賀農政事務所農政推進課

課長補佐 羽者家 護

滋賀県農政水産部農政課

主任主事 大倉 一則

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者のたかしま有機農法研究会 梅村元成会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局から DNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからの DNA 抽出実験を行い、DNA や遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、質問票を用いて、遺伝子組換え食品、農作物、技術などについての質疑応答・意見交換による活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



情報提供

以下、主な質問と意見・感想

高島市 (23 枚回収)

質問票に記入してもらい回収し、それに基づいてコーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・日本の大豆油が遺伝子組換え作物の油を使っていたのですね。また、肉類も間接的に食していたとは知らなかったが、本当に安全なのか？
- ・牛乳は、TVCMで、100%国産とPRしているが、飼料は、外国産、これと同じ事が遺伝子組換え作物で行われていたのですね？
- ・ニワトリに遺伝子組換えのとうもろこし等エサとして与えられた卵を食料としている現在、これによって子どものアレルギー体質の関係はいかがでしょうか？他の食物との関係もアレルギーとの関係は？どうでしょうか？
- ・農作物の食用に対する不安。人間の身体の健康にどのような影響がでてくるか、疑問視しています。保健に関しては厚労省の管轄ですが、わかる範囲でお願いします。
- ・GMOによる健康被害の実例はありますか？
- ・組換え商品は安全ですか。(説明後) まだまだ安全であるとの確証はないと受け止めました。
- ・生物多様性への影響や安全性は、何年先まで安全性が確認されているのですか。
- ・GM先進国のアメリカでは、抵抗性バイオタイプの雑草の出現が問題になっているという報告があります。多様性の観点から見ると、GM作物に偏ると害虫や雑草の多様性が損なわれ、抵抗性バイオタイプの出現の危険が高くなることが予想されます。今後の推進に当たって、どのような対策を検討されていますか。
- ・水稻の場合、刈り取った後の藁などの田へのすき込みで問題はないのか。
- ・害虫とよばれるものも生物多様性から見ると必要な虫だと思います。害虫に強い作物を作ることで、その虫が減少し、大きな視野での生態系のバランスを崩すことはないのでしょうか？

技術・実態

- ・GMの栽培は、食料自給率向上にも大きく関係するものであり、農水省としても一定の方向性を考えておられると思うが。国としては、GMを推進しようとしているのか？立場を明確にしてもらえればと思う。
- ・農水省では、遺伝子組換え農作物を、今後、推進しようという考えですか。
- ・GMがどこまで推進するのか。
- ・生産量、病気に強い品種等の対策は必要な事はわかりました。
- ・今後どのような作物の遺伝子組換えを考えておられますか？
- ・安全であれば、なぜ、日本で商業生産しないのですか。世論がそうさせないから？
- ・今、IRRI (フィリピン) では何してるんですか。
- ・野菜を育てているが、どのような作物でも、無農薬では良い物が収穫できません。そんな事を考えると、害虫に強い品種がのぞみたいです。
- ・生物の自然と人工の区分けの境界を、理性として、どのような範囲で制限していくのか？

全て人工の自然では環境破壊ですよ。

- ・ 遺伝子組換えはそんなに簡単にできないのですか。
- ・ GMOと在来種が交雑したらどうなるか？
- ・ GM作物の種子が日本に入っているの間にか栽培されている、という事はあるのか？絶対にあってはならないと思います。
- ・ 遺伝子組換え農作物は現在の日本で作られているのか？
- ・ テレビ放送で滋賀県内においてGMOが栽培されているとの報道があったと聞いた。事実関係を教えてほしい。
- ・ 企業が野菜工場を運営していますが、安全な食品が生産されているのでしょうか。
- ・ 有機農法推進では遺伝子組換えの栽培は禁止されているが、これらの関係はどうなっていますか？
- ・ 有機農業では遺伝子組換えでない種子と限定されているが、なぜ？

情報

- ・ "組換え"イメージが悪い。品種改良の1つ、期待感をPR。

●意見・感想

・ 理解はできましたけれど、良い面も多々ありますが、私自身長年農業をしまして、昔は植えれば作物が採れましたが今はいろいろ科学が進んで色々な事をされているのか収穫がありません。大豆トウモロコシ等無農薬では全くとれません。自然に逆らってはいけないのではないかと思います。福岡先生の「わら一本の革命」が本音です。

・ これ程多くの栽培？（米国）肉や卵として食べさせられているのか（飼料）！

・ 産地の判らない大豆やトウモロコシ遺伝子組換えの商品は口には入れたくないというのが本音ですが、今の情報を聞いたら何も食べるものがなくなるという事で仕方が無いと思うけど、遺伝子組換えの商品をおいしいと云って口にはできないというのが本当の気持ちです。

第 33 回（大阪市中央区Ⅱ）

日 時：平成 22 年 11 月 18 日(木) 13：30～16：00

場 所：エルおおさか（大阪府立労働センター）本館 504 号会議室
（大阪市中央区）

主催者：全大阪消費者団体連絡会

参加者：全大阪消費者団体連絡会会員等 12 名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所

客員研究員 蒲生 恵美

情報提供：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課

技術安全室 課長補佐 小松 晃

総括班 総括第 1 係長 小口 悠

オブザーバ：近畿農政局大阪農政事務所 消費・安全部安全管理課

表示・規格指導官 森本 浩文

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の全大阪消費者団体連絡会 飯田秀男事務局長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、情報提供後に質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての疑問・質問・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



情報提供

以下、主な質問と意見・感想

大阪市（13枚回収）

質問票に記入してもらい、コーディネーターの司会のもと、それらをもとに多岐にわたる内容で質疑応答、意見の交換を行った。質問票は最後に回収した。

●質問

安全性

- ・最後の安全性が確認されているものしか市場に出してないのなら、なぜ安全であると言えないのでしょうか。
- ・長期的な毒性やアレルギー性については、どこまで、どのように評価ができているのか？
- ・GMの安全性評価基準はコーデックス委員会で決められているが、慢性毒性評価が不足しているとの情報があるが、実際にはどうなっているのか。
- ・食べておいしい農作物にも、100%安全なものはありませんと言われていましたが、人間によって遺伝子組換えをした農作物は、今は体に害はないとしても、長いスパンに渡っては、きっと突然変異などが起こりそうでこわいと思いますが、どうでしょうか？
- ・イギリスの人体実験では、「イクミ」のトウモロコシを食べたら、30分で腸内細菌がかわったというデータがあります。大腸ガンで腰に袋をぶら下げている人達で実験したそうです。
- ・スーパー害虫、スーパー雑草、交雑の恐れはどこまで評価されているのか？
- ・途上国の多様性の確保につながるのか？
- ・GM+タネと自然種との交雑調査の現状は？
- ・どの地域で栽培されることになるのか。世界中どこでも、厳密な管理下での栽培が可能かどうか、大いに不安があると思う。
- ・COP10で遺伝子組換え生物が輸入国に生態系に被害を与えた場合の補償ルールを定めた「名古屋クアラルンプール補足議定書」を採択しましたが、技術的に可能なのでしょうか。

技術・実態

- ・企業開発の種子そのもののや組換え技術の知的財産の考え方、農水省としては食料に係る技術や資源については広く利用できることを基本とすべきには思うが、いかが。
- ・種子を毎年買い続けるということは、特許・登録を持つ一部の業者が独占的な利益を得ることは自明の理。一握りの世界的な種子会社（アグリビジネス）が、これからの世界中の食料を握ることになるのではないか。またそのための研究に日本も血道を上げることになる。
- ・民主党政権になって国産組換えの推進力が弱まったと新聞記事で見ました。実際にはどうですか？
- ・経産省が植物工場を推進するメリットの上位に葉などの原料になるGM植物の栽培に適しているとしていますが、実現の方向に向かっていきますか？
- ・最近では、大豆、トウモロコシ等から、薬、化粧品等が開発製造されていますが、私達が使用する事についてはどうなのか？
- ・ゲノム解析による品種改良とGM技術による品種改良の違いは？
- ・組換えの手法について、今はどんな方法があるのか。

- ・国立環境研究所の五箇公一さんのお話では、「組換え」は進化の枠を超えると予想に反することが起こると聞きました。
- ・高温ストレスを軽減させるための稲品種改良ではどのような植物の遺伝子導入が効果的か。
- ・遺伝子組換え動物の研究段階は？
- ・名古屋・クアラルンプール補足議定書について教えてください。被害が出ない仕組みに本当になっていれば、必要ないのでは？
- ・名古屋クアラルンプール議定書では、GM 作物が生態系に悪影響を与えた場合、その補償の在り方を規定したとつたえられているがその内容は？
- ・アメリカが生物多様性条約に締約しないのは、GM 作物を多く開発栽培しているからか？それ以外の国でも栽培したり輸入しているが締約と矛盾しないのか。
- ・世界の GMO、栽培面積が 1 位はアメリカなのでしょうか。
- ・中国はどの程度栽培しているのでしょうか。

表示

- ・表示の徹底が必要。「不分別」はやめる。
- ・流通の分別は実際どこまでできているのか。
- ・遺伝子組換え作物で、オーガニックというのはいり得るか？
- ・特保と表示されている食品と遺伝子組換えについては、どのような基準があるのでしょうか。

情報

- ・まず資料をそろえて欲しい。パワーポイント画面と手元の資料が違うのは困る。
- ・なぜ画面資料があるものがないものがあるのでしょうか？
- ・安心について→判断材料となる情報をしっかり出しているなら、安全・安心と云いきれるのでは。それを皆さんにお任せするというのは、本当に安心情報がでていないと感じる。
- ・国民は知らないうちに遺伝子組換えのものを食べさせられています。安全性や情報提供しているとは言えるものではないと思っています。
- ・バイテク小事典を持っているのですが、参考にしても良いのでしょうか。
- ・隔離されていない農場で GM を栽培試験できるようにどんな普及をしているのか。"

●意見

- ・世界中の環境を守りつつ、適正な食糧生産を行い、一部の人間だけが飽食をむさぼることが許されるような今の世界の食糧のあり方を考えることが先ではないか。
- ・日本に食糧自給率は 40%。今回 TPP という国際的にも食料輸入の事もある。そんな中で名古屋の COP-MOP 5 にてカルタヘナ法の議論もされたが、消費者として、安全、安全といわれても安心とは程遠いと思える。自国の食料保全対策をきちんとしないで、遺伝子組換えの重要性を訴えるのは、本末転倒と思える。まずは農水省として我が国の食料対策をきちんと方針として出して欲しい。安易と安さへの食べ物へのつけは、子孫にとって本当にいいのか考えて欲しい。大いに疑問である。食は命そのものである。まずは、我が国の食の安全を安心にしていく方針を出して欲しい。

第 34 回（山梨県甲府市）

日 時：平成 22 年 11 月 24 日(水) 13:30～15:30

場 所：市民生協やまなし 本部・甲府センター会議室(山梨県甲府市)

主催者：生活協同組合 市民生協やまなし

参加者：市民生協やまなし 理事および本部職員 23 名

コーディネーター：消費生活コンサルタント

森田 満樹

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部

河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の生活協同組合市民生協やまなし 大塩祐治理事長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、情報提供後に質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質疑応答・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

甲府市（14 枚回収）

質問票に記入してもらい回収し、それに基づいてコーディネーターが情報提供者に質問の内容について順次聞き、回答を得た。追加質問、関連質問とそれらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・青色のバラ・カーネーションやカイコ等で生産する医療分野での開発や医薬品について、インスリンや花粉症に強いイネの開発等々良いことだし、必要なことも認識していますが、健康面の方を考えます時には、環境保護団体では、これまでなかった毒素やタンパク質が含まれてアレルギーを引き起こすおそれがあるとも云っています。安全確認はどのような方法で行っているのでしょうか。
- ・安全性の検証は人体実験だとも聞いていますが、小さい子どもや病弱の人にもあてはまるのでしょうか。
- ・害虫抵抗性トウモロコシを人や鳥類以外が食べた場合どうなるのか。
- ・国内で使用等が承認された遺伝子組換え農作物。時間が経過して「実は危険でした」とならないか心配。
- ・遺伝子組換え農作物が雑草イヌガラシ等にも交雑しているということだが、その情報を教えて欲しい。
- ・交雑化について、強力に繁殖して環境に影響を与えなければ大丈夫ということですが、逆に考えると少しの繁殖力なら安心と見過ごしてしまう可能性があるのですか？少しの繁殖力でも世代交代して、強い影響を与えてしまうことはないのでしょうか？
- ・生物多様性への影響が生じる恐れがある場合の試験の中止の判断は、どのように行われるのか。

技術・実態

- ・遺伝子組換えにより、その植物・生物が、何代か経過した時に変異する危険性は無いのか？
- ・アレルギー対策の遺伝子組換えは興味深く大切だと思うのですが、その効果は何年くらいで証明できるのでしょうか。
- ・組換え技術や種子を大企業が独占して、かえって生産者に高額の負担を押しつけることになっていないか。安全性についての説明は理解できたが、流通面で、例えば途上国の農業の発展に寄与するすばらしい技術となるのかは疑問。（技術料、開発費など高いコストを回収するため）→サントリーのバラも高い。そのうち安くなるのでしょうか。
- ・遺伝子組換え技術の特許はどこに帰属するのですか？ひとつの私企業に集中することはないのでしょうか。
- ・日本で商業栽培する場合、恩恵を受けるのは誰でしょうか？
- ・「遺伝子組換え農作物」について、P19世界における・・・フランス、ドイツは EFSA で安全で問題なしとしているにもかかわらず、栽培が停止されているのは消費者の抵抗が強いためですか？
- ・ヨーロッパでは"栽培禁止""停止"が多いが、具体的にはどんなことが問題となっているの

か。

情報

・精査されないままの情報を出されますと、どう理解したら良いのでしょうか？まだまだ安全性の面では不安感が残ります。不信感を持っている人も多くいると思いますので、理解していただく為にも、国は説明責任が多くあると思います。

●意見

・遺伝子組換えの安全性はとても大切な事ですが、世界のあちらこちらでは今日の食べ物もなく亡くなる子ども達が沢山います。いまだに予防接種などもできず、病気でなくなる子どももいます。遺伝子組換えにより干ばつ地域でも生育する作物などの取り組みは進んでいるのでしょうか？商業的にも大切でもあると思いますが、まずは世界中で食べ物が作られて、生産→消費されていく事が一番進めて欲しいと思います。

第 35 回（岩手県一関市）

日 時：平成 22 年 11 月 25 日(火) 15：45～17：15

場 所：修紅短期大学 3 階 302 講義室(岩手県一関市)

主催者：修紅短期大学食物栄養学科

参加者：修紅短期大学食物栄養学科 1・2 年生 46 名、教員 8 名 合計 54 名

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野敏明

概 要：

はじめに主催者の、修紅短期大学食物栄養学科長 鈴木 惇教授から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

次いで事務局の司会進行のもと、情報提供者から「遺伝子組換え農作物の現状について」情報提供を 40 分行った。

その後、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについて、全員に配布した質問票を用い質問・意見交換を行った。質問票に基づき学生から質問を受け、情報提供者が回答していった。学生たちも活発で熱心なコミュニケーションを行った。質疑応答時間は 35 分であった。

質問用紙は回収し、また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

一関市（48 枚回収）

●質問

安全性

- ・万が一問題があった場合どのような措置が行われるのか。
- ・日本では受け入れられない食品は、海外では食べていると思うのですが、その食品を食べて、体に害があったという例はありますか。また体に良い食品はありましたか。
- ・遺伝子組換え農作物等に対する期待と懸念と書いていますが、もし、病気やアレルギー反応が起きたらどうするのでしょうか？
- ・遺伝子組換えの食品の食べて万が一、体に異変が起きた場合、どうなるんですか？
- ・人には害がないという話でしたが、病気の方でも遺伝子組換え農作物を食べて本当に大丈夫ですか。
- ・遺伝子組換えを行った農作物より万が一、人体に影響があった場合、どんな組織が対応なさるのでしょうか？
- ・安全性の試験の期間は、どのくらいの長さか。
- ・評価を行い安全性と書いていますが、どのように評価しているのですか。
- ・最新の科学的知見による評価をした後に、動物実験だけでなく、人体実験を行うこともあるのですか？
- ・アレルギー試験では、具体的にどのようなことをしているのですか？またどのくらいの期間実験をして遺伝子組換え食品として承認されるのですか？
- ・今は、害虫が死んでしまうと思うが、将来的に害虫が学習(進化)し、抵抗性ができたことによって、その食物、作物以外に影響がでたらどうするのか。
- ・いくつか懸念がありましたが、一般の人の懸念が次から次へ出てきた場合、全て調べるのですか。
- ・日本と外国とで遺伝子組換え農作物の承認までに、大きな違いはあるのでしょうか。
- ・資料 20 番にあったトウモロコシに予想外の栄養変化があった場合、なぜ良い変化でも認められないのですか。
- ・カルタヘナ法とは何でしょう？
- ・生物多様性への影響とありますが、どの位の期間、調べたのでしょうか。

技術・実態

- ・遺伝子組換え作物は必要なものしか開発・実用化されないとあるが、開発・実用化されているものは、本当に必要なものなのか。また、何が必要で何が必要でないというのは、どういう基準で決めているのか。
- ・世界のGMOの栽培面積は、将来的に横ばいになることはあり得るのか。そもそも、なぜ、遺伝子組換えしようと思ったのか。
- ・遺伝子を組み換えることは今までにない新たなモノを生み出す。現時点で宗教上で受け入れられなかったなどの問題はありませんでしたか？
- ・様々な国で遺伝子組換え農作物を作っていると思うのですが、どこの国で最初に遺伝子組換え技術を用いたのか。

- ・ 遺伝子組換え作物を最も積極的に行っている国はどこですか？また、その国で食べられている遺伝子組換え作物には、どのようなものがあるのですか。
- ・ 日本は世界から見ると遺伝子組換えは多く行っている方ですか？一番はどこですか？
- ・ 遺伝子組換えを行う生物のアグロバクテリウムの能力を借りているとってたが、他に出来る生物はいるのか？
- ・ 害虫抵抗性トウモロコシについて、非GMトウモロコシのことをB tトウモロコシともいうと言っていました、BTとはどういう意味ですか？
- ・ 食物と動物でのGMは可能？
- ・ 組換えした農作物を育てて、ずっと育てている内に、本質、良いところは変わらないのか。
- ・ 遺伝子組換えによって食品成分が大きく変化することはあるのですか。
- ・ 遺伝子組換えした食品と、しない食品とでは、味や食感なども変わるのか。
- ・ 今日本で研究中の遺伝子組換え食品はあるのか。
- ・ 今、一番遺伝子組換えで力を入れていることは何ですか？
- ・ 今後、承認が見込まれている農作物はありますか？
- ・ 22番の遺伝子組換え食品の承認実績で、今現在決まっている7種類があるが、他に遺伝子組換え食品にしようとしているのは何か？
- ・ 組換えをして失敗したもの。
- ・ 現在は、組換え農作物は輸入しているとおっしゃっていましたが、今後、日本でも栽培する予定はあるのですか？
- ・ 岩手県内でも、遺伝子組換え農作物を作っている場所は？
- ・ 世界のGMOにおいて、栽培面積、栽培作物が横ばいになることは、将来あり得るのか。また横ばいにするために、どのような活動をしていけばいいのか？
- ・ 外国にどのような遺伝子組換えのものを輸出しているのですか。
- ・ 国内では、なぜ、バラしか商業栽培が認められていないのか？今後、承認されていくことはあるのか？
- ・ 一般的に使用が承認されている遺伝子組換え農作物は、78品種のあるのに、なぜ「バラ」しか商業栽培されていないのか？
- ・ 遺伝子組換え作物は日本ではバラのみとありますが、どれくらい作られているのですか。
- ・ 日本で商業栽培されているのはバラだけなんですか？他にやろうと思わなかったか？
- ・ 日本で商業栽培されているのは「バラ」のみとありますが、なぜバラのみなのですか？他の種類の花では、なぜいけないのですか？
- ・ 遺伝子組換え農作物の食品は、コストが安いというメリットがありますが、"遺伝子組換えでないもの"と比べると、売り上げ等の差はないのですか？
- ・ 遺伝子組換え農作物はどれくらいコストを削減できるのですか。例えば、GMの農作物とGMではない農作物で同じ製品を作った場合の具体的な金額が知りたいです。育てるコストは下がっても、遺伝子組換えされた農作物そのものの価格は上がらないのか。
- ・ 遺伝子組換えが行われている野菜、食品などはスーパーにどのくらいの割合で置かれているのですか？量は決まっているのですか？

- ・遺伝子組換え食品の商品は、実際に売れているのですか。
- ・GMトウモロコシのほとんどは飼料や油に使われるデントコーンだということですが、私達が直接食べるスイートコーンは加工などをせず、そのままの形でGMのスイートコーンとして販売されていることはあるのですか。→アメリカではある。日本ではまだ。
- ・農薬会社以外の反対派は？

表示

・「遺伝子組換えではない」と表示されているものが、ほとんどということでしたが、「遺伝子組換え」や「遺伝子組換え不分別」というのは、どういった食品に表示されているのですか？

情報

- ・なぜ小規模コミュニケーションという形で伝えようと思ったのですか。
- ・遺伝子組換え食品について国民からはどのような声が多いのですか？
- ・遺伝子組換え農作物が人体や日本の生態系に害を及ぼさないための対処がなされていることを知りました。遺伝子組換え技術により、10年で食料自給率は何%増えるかという予測はあるのか、お聞きしたいです。
- ・今まで組換え作物はあまり良いものだとは思っていませんでした。私だけかも知れませんが日本人はあまり良い印象を持ってないと思います。海外ではどうなのか？日本以外の国では？抵抗はないのか？
- ・遺伝子組換え農作物はメリットデメリットがあり、利用する、しないかは、人それぞれの考え方があると思うが、B tタンパク質の安全性も証明されているし、安全性の評価もしっかりしている。しかし、消費者には悪い印象も強い。これから自分が栄養士として働いて、栄養指導していく上で、対象者さん達に積極的に勧めていいのか？

●意見・感想

- ・考えによっては神の領域とも言えるものですが、個人的には遺伝子組換えには賛成なので、これから一般に広まっていけばいいと思いました。
- ・生態系の攪乱が心配です。安全だということはわかった。消費者はGMを必要とする訳でもない、生産者サイドの話ですね。しかし、低アレルギー e t cで消費者の利益になるということもわかりました。どうもありがとうございました。
- ・自分の中に、あまり情報がなく、何となく遺伝子組換えという言葉から、不安な気持ちが大きかったのですが、今回のお話で、安全性の評価を確認できたものしか市場にでないというので、少し安心できました。また遺伝子組換え作物使用のものに出会ったら、その本人の判断で摂取するかどうかを考えるという考え方を知れたので、良かったと思います。

第36回（岐阜県岐阜市）

日 時：平成22年12月1日(水) 10:40～12:10

場 所：岐阜市立女子短期大学 大講義室(岐阜県岐阜市)

主催者：岐阜市立女子短期大学食物栄養学科

参加者：岐阜市立女子短期大学食物栄養学科学生等 57名

情報提供者：国際生命科学研究機構バイオテクノロジー研究部会長 橋本昭栄

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部長 河野敏明

概 要：

はじめに主催者の、岐阜市立女子短期大学食物栄養学科 小野廣紀准教授から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

次いで事務局の司会進行のもと、情報提供者から「遺伝子組換え農作物の現状について」情報提供を40分行った。

その後、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについて、全員に配布した質問票を用い質問・意見交換を行った。質問票に基づき学生から質問を受け、情報提供者が回答していった。学生たちも活発で熱心なコミュニケーションを行った。質疑応答時間は35分であった。

質問用紙は回収し、また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



情報提供

以下、主な質問と意見・感想

岐阜市（51 枚回収）

●質問

安全性

・GM作物の安全性評価（食品・飼料と共に）はどのように行われているのか。特に体内の蓄積による悪影響の有無はどのように行われるのか。（期間・方法等）。

・遺伝子組換え食品は今影響が出ていなくても、食べ続けたら将来的に何らかの影響が出るかもしれないというのを聞いたことがあります、やはり将来的な影響までは分からないのでしょうか。もし、悪影響が出てしまった場合、長期的な遺伝子組換えの摂取が原因であっても解明するのは難しいのではないのでしょうか。

・食品の安全性の評価として、今現在私達が摂取して何の障害も起きなくても何十年後の私達の子どもに影響が出るおそれなどはないのですか？・遺伝子組換え食品は、厳しいチェックを通して安全とされていると聞きましたが、自然の食品とはどちらが安全になるのか？

・たまに遺伝子組換えの話を知ると、安全だということと言われるのですが、本当に安全なのですか？少しは危ないところがあるから安全ではないみたいな情報が流れるのではないのですか？

・従来の育種と遺伝子組換えによる育種のところで、遺伝子組換えによる育種は必要などころだけを組換えるので安全だと言っていました、安全だとどうして言えるのか？遺伝子組換え植物が日本の農家に与える影響は、どのくらいあると考えられるのか。

・遺伝子組換えをする際、特定の遺伝子を生き物から取り出すということですが、その生き物にマイナス点はないのですか？遺伝子組換え作物と元の作物の共存は可能ですか？元の作物が絶滅したりしないのですか？

・私は、今回正しい情報を聞いて遺伝子組換え農作物は食べても平気だと思いました。正しい情報を持っていらっしゃる先生方は、完全に安全だと思っていちゃいますか。

・「安全だよ」ってもっと強くいわないのはなぜ？

・遺伝子組換え農作物が安全ということはわかったんですけど、普通の農作物に比べて見た目や味に違いは全くないのですか。

・農薬の使用量が少量で済む作物ができるということですが、普通の作物と遺伝子組換え作物とでは、作物が持っている成分は全く違うと思います。害虫などに耐えられるような作物ということは、人間のどこかにも影響を与えてしまう気がします。確実に安全だと言えるのでしょうか。

・誰が遺伝子組換えは危険だ(安全ではない)と言いだめたのだろうか？

・アメリカで遺伝子組換えした食品を食べて健康問題が起きたと聞いたことがあります。これは安全性を確立していなかったためそうなったのか？

・遺伝子組換え農作物が消費者に安心だと思われるようになれば、遺伝子組換えでない農作物の需要が減るのでは。そのことで生態系や商業に影響はないのですか。

・食品としての安全性を確認する際にどれくらいの割合でその審査に通らない作物があるのですか？

技術・実態

・何がきっかけで遺伝子組換え作物の開発が始められたのですか？これから開発が進められていくと思うのですが、将来、市場には、遺伝子組換え食品のみが選ぶということもあり得るのですか？

・遺伝子組換え作物は必要なものしか開発・実用化されないとおっしゃられていましたが、「必要なもの」とは、どのようにして決められているのですか？また、今新たに開発を始めた作物はあるのでしょうか？

・今後、遺伝子組換え作物がどんどん増えていくと思いますが、遺伝子組換え作物はどうしても必要なものなのでしょうか？"遺伝子組換え"と書いてあるとなんとなく止めておこうかなと思ってしまいます。

・遺伝子組換えの必要なものしか開発・実用化されないとあったが、バラ・カーネーションなどの遺伝子組換えはどの点で必要とされているのか。その承認をとるのに時間もお金もかかるのに、ただ話題性などを目的として作るには負担の方が大きいのではないか。

・従来の交配による育種というのも、人工的ではないが、遺伝子が組換えられているということですか。

・遺伝子組換えで別の種類と別の種類のかけ合わせる試みはあるのでしょうか。キメラみたいに倫理的に反するようなものなので、実験はしないのでしょうか。

・目的に対応した遺伝子を導入して作出すると分かったのですが、"認められていない目的"はあるのですか。

・目的に対応した遺伝子を導入して、本当にすぐに目的に合った個体を作れるのですか。失敗はしないのですか。

・GMトウモロコシの遺伝子を組換える時、トウモロコシの遺伝子と殺虫成分の遺伝子のどの部分を入れかえたら良いかはどうやって判断するのですか。

・遺伝子組換えについて、DNAを見ただけで、どこにどの情報があるのかを、どうやって見極めているのですか。遺伝子組換え技術をヒトに利用することは考えられるのでしょうか。

・遺伝子組換え植物だけにしか利用できないのですか。

・これからどのような遺伝子組換え農作物が誕生すると思われますか？→何の野菜、穀物？

・遺伝子を取り出したり、導入したりするのは、ものすごく小さな作業になると思うのですが、どのように行うのですか？

・なぜ、「青色」をつくるのはたいへんだったのですか？(e x.青いバラやカーネーション)

・遺伝子組換え技術は、医療・工業など様々な分野で利用されており、インシュリンや洗剤等がその例だとおっしゃっていましたが、その他にはどのようなものがあるのですか？アレルギーとして認定されているそばなどの食品などからアレルゲンをなくして、アレルギーの人が食べても大丈夫だというような食品を作ることはできるのですか？

・遺伝子組換えに関する研究開発で「健康の増進や病気の予防のための作物」とありますが、インスリン注射の開発の他に、現在使用されているもので、健康の増進や病気の予防の為に開発されたものはありますか？

・現在、豆類や肉などが遺伝子組換えの食材が市場に出っていますが、あと10年後くらいに

はどのくらい組換えられたものが市場にでそうですか（何倍）？また、次に市場に出る物は何ですか？

・現在、大豆やトウモロコシなど遺伝子組換えされているとお聞きしましたが、新たに商業用として遺伝子組換えの研究を進めている作物はどんなものがありますか？アレルギーが起こらないダイズなどは遺伝子組換えで作ることはできるのですか？

・一つの遺伝子組換え農作物を開発するのに、どのくらいの時間がかかるのですか？

・無の状態から遺伝子組換え食品を作るのに、どれくらいの時間がかかるのか？

・一つの遺伝子作物を開発するのにかなりの費用がかかるのですか。

・今までの遺伝子組換え農作物の授業の中で一番詳しくきけました。遺伝子組換え技術の開発に、どのくらいのお金がかかっているのでしょうか？（20億円かかる。）

・遺伝子組換え農作物一つをつくっていくのに20億円の研究費がかかるとおっしゃっていましたが、その費用はどこから出されるのでしょうか？

・現在どのような作物を開発しているのですか？

・遺伝子組換え食品の承認実績の部分で、トウモロコシの主な用途に「液糖、水飴」とあるが、燃料として遺伝子組換えのトウモロコシは使われているのか。

・海外で遺伝子組換え技術が進んでいるというのは、承認にかかる費用が低いからなのか。費用が低いのであれば、海外で承認してもらって、国内で実用化することは可能なのか。

・観賞用の植物なら人体への影響もないし、他の植物と隔離して作るならば、生態系への影響もないと思うのに、バラしか承認されていないのは何故か、需要がないからなのか。

・遺伝子組換え農作物は、安全性が確認されたものなら、どの農家の方でも作って良いのですか？→安全性が確認された後、誰が作るのか？一般人が作れるもの？

・遺伝子組換え食品は、外国で多く栽培されているというお話でしたが、なぜ日本では、遺伝子組換えの大豆やトウモロコシを栽培しないのですか？また、現在開発されているもの以外で遺伝子組換え作物として、栽培、実用化できそうな作物はありますか？

・米国などの遺伝子組換えの反対派は少ないとお話がありましたが、日本よりも理解があるから？それとも理解していなくても、安いから大丈夫だろうと利用しているのか？

・遺伝子組換えは安全と分かっているけど日本では受け入れる人が少なかったり、嫌う人が多いのか。

・日本人は遺伝子組換え食品をあまり受け入れていないというお話がありましたが、実際、現在はどれ位の割合の人が遺伝子組換え食品を利用しているのですか？

・何で遺伝子組換えの商品は安いのか？

・遺伝子組換え農作物の使用が承認されるまでにはすごくかかるようだけど、商品として得る場合には遺伝子組換え農作物でない食品よりも安いと聞いていたけど、それはなぜですか。

・国ごとに生態系が違うから、国ごとに調査しなければならないとおっしゃっていましたが、同じ国でも地域によって環境が違うと思うのですが、地域ごとでも調査等はしているのですか？

・遺伝子組換え農作物の中で大豆が多く商業用として栽培されているのはどうしてですか。トウモロコシの方が多く栽培されているため、遺伝子組換え農作物を使って効率よく育て

られたらいいのでは。

・大豆の輸入先であるアメリカでは遺伝子組換えが盛んに行われているとききますが、日本で流通している醤油などの大豆加工食品にはどれくらい遺伝子組換え大豆が使われているのでしょうか。

・アレルギー試験でアレルゲンの量が増えていないかをチェックするが、もともと含まれていない食品を現在チェックしないのは？

・遺伝子組換え食品は、ダイズやトウモロコシくらいしか知らないんですが、その他には、どんな農作物があるんですか？また、遺伝子が存在するすべての農作物は、すべて遺伝子組換えできるのですか？

・遺伝子組換えの操作は、どんな作物にも利用できるのか？

・なぜ、トウモロコシやダイズが主流になっているのか？

・米国国内では、トウモロコシやダイズは、GMのものが80~90%程度のシェアを占めているとありましたが、米国から日本が輸入しているものの80~90%がGMだということなのか。そうであるとしたら、そのGM作物は主に何に使われているのか。

・害虫は寄せつけないように遺伝子組換えされた農作物は、組換えしていないものと味の変化はあるのですか。

・遺伝子組換え作物は、世界25カ国で栽培されていると記載されていましたが、やはり先進国ばかりなのですか？

・遺伝子組換え農作物を農家の方が作りたいとって、作るのか、それとも農作物が足りないから遺伝子組換え農作物で作って下さいと誰かが農家に頼むのですか。

・8作物が使用の承認を受けており、その内日本ではバラのみが商業栽培されているそうですが、きちんと設備を整え、手続きをすれば他の作物も栽培することはできるのですか。

・遺伝子組換え作物を作るためには莫大なお金がかかるため、一般農家での栽培は無理ということを知ったことがあるのですが、実際1品種の遺伝子組換え作物を作るために、どれ位かかるのですか。

・必須アミノ酸は少ししか必要じゃないから体内で作られなくなったとおっしゃっていましたが、昔はヒトも体内で必須アミノ酸を作ることができたということでしょうか。

・なぜ、必須アミノ酸は必要ないのかということが詳しく知りたいので教えてください。

表示

・遺伝子組換え農作物の意図せざる混入は5%以下なら認められているとありましたが、それが5%以上になったら、その農作物はどうするのですか？非遺伝子組換え農作物から遺伝子組換え農作物へと扱いが変わってしまうのでしょうか？

・遺伝子組換え食品の表示制度について、遺伝子組換え不分別と表示することがあるみたいですが、分別されていないというのは、どういうことですか。

・遺伝子組換え食品を使用していない加工食品には表示義務はないとお話の中で伺いましたが、今スーパーなどで売られている加工食品には「不使用」のラベルがついていますが、やはり消費者が遺伝子組換えの農作物を嫌っているためですか？

情報

・遺伝子組換え食品を、あまり好む人は少ないが、必要な技術であることや、安全なもの

しか市場にでないということなどの理解をもってもらふことは、今後必要なことだと思う。その理解をさせるために、特に取り組んでいることは何か。

・私達は授業や今日の講義などで、遺伝子組換え農作物について安全面などの正しい知識を身につけ、理解することはできますが、一般の方はなかなかこのような機会がないので、遺伝子組換えについて良いイメージを持っている方が少ないと思うのですが、一般の方に理解してもらえるように、どのように情報を発信しておられるのですか？

・遺伝子組換え作物は、国民の間ではまだまだ怖いものとみなされ、毛嫌いされています。その不安を解くことはかなり難しいと思います。その解決として遺伝子組換え作物の正確な知識を提供するというものがありますが、実際、普段一般に暮らしている家庭では、そのようなことは一切耳にしないと感じます。国は、一般庶民が情報を得られるような対策は何をしているのでしょうか？

・今回のような講義を開く機会があれば理解することができますが、国民にもっと理解を得るための活動は何かされているのでしょうか。

・日本で遺伝子組換え食品は煙たがられています。開発が日本よりも進んでいるという欧米での受け入れは日本よりもされているものなのですか。→米は反対が 20%、欧は 70% が買わないが買っている人が 80%。もし、日本よりも受け入れられているのなら、それは文化的な理由でもともと受け入れてくれているのか、今日のような活動の成果なのですか。

・遺伝子組換え食品を摂取して、人体に異常や悪影響を及ぼしたことがないにも関わらず、なぜ世間では遺伝子組換え食品が危険だと広まってしまうのでしょうか。

・安全だと確認された遺伝子組換え食品だけが販売されたりしているのに、なぜマスコミは"危険だ"というガセネタを報道するのですか。

・安全性の情報公開をしても普及しないのですか？

・農林水産省のくせに、メディアに負けているのはなぜ？恥ずかしいと思わないのか？

・安全性を日本は 20 億もかけて確認しているはずなのに、スーパーなどで大きく"遺伝子組換えでない"と表示してしまうのでしょうか。自信をもって安全です！と政府から言えないのか？安心を持たせるための宣伝などやれるのではないのでしょうか。そうしないとお金かけてやってももったいない。

・情報の正確、不正確を見極めるのは、素人では難しくないのか。

●意見・感想

・アメリカなどで作られた遺伝子組換え食品が日本に輸入されていくと、日本の食料自給率はさらに下がってしまう気がします。日本は自給率を上げようとしているのに、安価な遺伝子組換え食品をどんどん輸入して良いのか、疑問に思いました。

・日本は農業のために広大な土地がないため、利益を求める農業には適さず、関税なくしては輸入品に勝てないそうですが、そこでGM作物の利用が進められることはあるのでしょうか？逆に、日本では「GM作物を作らない」というブランド志向で「高くて安心」というのを売りにしていく可能性の方が高いような気がするのですが、そうすると「GM作物＝安心できない」というイメージの上に成り立つことになると思います。

・遺伝子組換えについて、食品については食べることに賛成意見ですが(安全だと思う)、そ

の技術を用いることができるのは人間だけで、ヒトがこの世の生物を自分達の都合の良いように改良してもいいのかどうか、考えさせられました。

・人間の生活がよくなるように「人間のため」だけに人間の思い通りにされる植物の気持ち+サケの気持ちは考えないのか？

・国が負担する費用←これって私達が払う税金？で払っているのに、日本のみんなが安全面での信用をおいていないのはどうなんですか？

第 37 回（東京都葛飾区）

日 時：平成 22 年 12 月 3 日（金） 13:30～15:30

場 所：ウイメンズパル内 葛飾区消費生活センター 3 階洋室 A（東京都葛飾区）

主催者：葛飾区地域振興部産業経済課消費生活センター

参加者：葛飾区一般市民 25 名

コーディネーター：順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助教 堀口 逸子

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

室長 作田 竜一

同係長 飛鳥 武昭

オブザーバ：コミュニケーション推進会議委員

（毎日新聞東京本社 生活報道部 編集委員）小島 正美

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部

河野、高野、鈴木

概 要：

はじめに、主催者の消費生活センター 中澤 明所長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、情報提供後に質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質疑応答・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

葛飾区（19枚回収）

参加者に質問、意見、感想等を質問票に記入してもらい回収した。コーディネーターがそれらを整理したのちに、質問・意見等を順次発表しながら情報提供者に聞き、回答・コメントを得た。参加者からの追加・関連質問等も適宜してもらい、それらの回答も得た。

●質問

安全性

- ・安全性が認められない食品は絶対に販売されないのでしょうか。
 - ・問題の所在はどこなのか？ 変ちくりんな種ができてしまうという、いわば倫理的な問題なのか？
 - ・問題の所在はどこなのか？ 食べると害があるというような、いわば実害の問題なのか？
 - ・遺伝子組換え農作物の安全確保について、もう少し詳しい説明をお願いします。
- 食品の安全について、時間的にどれ位かけての結論なのか。人体実験はどのように行われたのか。
- ・10 ページ、懸念に対する回答はどここの省庁で対応しているのか。
 - ・12 ページ、トウモロコシについての虫と組み換えた作物を食べる家畜や人間と、どのような違いがあるのか？（生物である事は同じはずで、家畜や人間は、虫のよりつかない作物を食べる程に人体改造がされていくのか？）
 - ・安全であるとの審査の基準は、人体実験をやらなくて、具体的にどうやって決めるのか？
 - ・薬に副作用があるように遺伝子組換え食品を食べ続けた場合（多量、1～2年長期間）に対する安全性確認は、どのようにして行われるのか。
 - ・安全性については、今の話にもあったように、国のチェックを経た安全なものしか出回ってないのだから、平気なような気もするが……。それにしても遺伝子組換えでないという食品が多いこと。そんなに危ないことなのか？ それでもやるのは何なのか？
 - ・遺伝子組換えダイズの豆腐を毎日食べた場合、体内に蓄積して悪影響がないことを人体実験を使わずにどうやって判断するのか？
 - ・遺伝子組換えダイズの豆腐を食べ続けた場合、体に残るのではないかと？ その副作用はないか？

技術・実態

- ・最近日本の大手商社が帰国で非遺伝子組換え農作物の大きなプロジェクトを始めているようですが、非遺伝子組換えのものは需要利幅が大きいということですか？
- ・ダイズ、トウモロコシなどは、ほとんど米国で作られ輸入しているが、これらの企業による農業支配が起こらないか？（中国のレアメタル実質的輸入停止）
- ・地球規模で人口増加が懸念されている現在、食料不足も大きな問題であります。人口増に食糧の供給が不足した時、農業技術をもった食料生産国は強大な国力を有すると思います。食料を国家間の覇権の道具となり得る可能性はありますか。
- ・休耕地が増えている現在、なぜ農地として使用せず、遺伝子組換え農作物が先行するのでしょうか。
- ・そもそも論で遺伝子組換えを、例えば農産物などを利用開発しなければならないのか。

リスクが伴う遺伝子組換え技術を利用する必要性は、理解できなくはないが、遺伝子組換え技術が、パーフェクト安全性が担保できた上で開発すべきで、様々な理由で必要をせまられての……。異常気象による農作物の収穫に減少などが起こることは周知の事実ですが、何故環境破壊が起こっているのか。異常気象の原因究明と同時に良い方向に向かう努力が必要かと思います。

・近い将来、遺伝子組換えで、マルチな食品ができますか？（サプリメント以外で）

・来年はスギ花粉が今年の数倍以上の事で、花粉症の私としては非常に不安感を抱いております。講義を拝聴いたしまして<イネ>からスギ花粉を少しでも発症を抑制できるような<米>が組換えできたらと期待しておりますが、未来に向けて可能な研究課題となるのでしょうか？

・農作物ではありませんが、先日のテレビでデング熱が流行っている国で、デング熱を媒介する蚊と交配すると死んでしまう蚊が遺伝子組換えで作られたという、その蚊が近日中に放たれるということです。生き物は全世界に広がる危険性が高いため、世界共通の基準が必要だと思います。国際基準の現状はどのようになっていますか？

・人体に悪い（がん細胞）遺伝子が増えたかどうか、健診で発見できる研究は、どの程度進んでいるでしょう？

表示

・26 ページ、なぜ5%なのか根拠を明らかにしていただけるか？

我が国では分別生産流通管理が適切に行われている場合 5%の混入が認められているが、EUでは0.9%になっているが、問題視する必要はないか？

・5%以下とは申せ、私達も口にしているかもしれないのでしょうか？

・豆腐に遺伝子組換えのダイズは使用していませんと書かれているケースがありますが、米国からの輸入が大半なので、信用がおけません。

情報

・始めに「正確な情報」という言葉が再三聞かれましたが、特に新しい情報がありませんでした。（消費者はもっと勉強していますよ！）。

・10 ページ下の段②は「壤中」でいいですか？「土壌中」の誤りですか？

●意見・感想

・24 ページ、トウモロコシとダイズの輸入は、ほとんど米国の経済政策の為に購入しているものとしかわれない。"

・組換え食品が安全であることの伝達情報が足りないし、本当に安全であれば大いに使用されてもいいと思えるが、もう既に安全性が確立されているものと、そうでない研究途上のものとははっきり表示してもらいたい。

・肥料や家畜のエサに入っている安全性と、人の食品との安全性との区別がいい加減になって、宮崎の牛の口蹄疫にもつながっているのではないかと思えて心配です。

・遺伝子と一口に言っても、なかなか大変なのですね、私達は何も知らずに、ただ反対していた事が恥ずかしいです。これからは気にせず食したいと思います。

第 38 回（京都市東山区）

日 時：平成 22 年 12 月 11 日（土） 9：00～12：00

場 所：京都女子大学 講義室（京都市東山区）

主催者：京都女子大学家政学部食物栄養学科

参加者：京都女子大学 家政学部食物栄養学科 3 年生等 51 名

情報提供者：農林水産省近畿農政局生産経営流通部農産課 課長補佐 西原 茂

同係長 西野嘉一

ハワイパイヤ協会 ジャパンプログラムディレクター

スティーブ・岩村

実験協力：京都大学大学院 地球環境学堂資源循環学部

食糧化学論分野環境マネジメント専攻

岸 靖之

事務局：農林水産省近畿農政局

（社）農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部

河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の京都女子大学家政学部食物栄養学科 八田 一教授から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局から DNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからの DNA 抽出実験を行い、DNA や遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。さらに、ハワイパイヤ協会から遺伝子組換えパイヤに関する情報提供とパイヤ（非組換え）の試食を行った。

その後、事務局の司会進行のもと、遺伝子組換え食品、農作物、技術などについての質疑応答・意見交換による活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問

京都市東山区

質疑討論時間で、下記の 10 件の質問が出た。また、1 枚の質問用紙が提出された。

●質問

安全性

- ・安全性試験は、動物実験等があると思うがどのように行われ、判定されるのでしょうか
例えば、アレルギー性試験はどうやって判定されるのでしょうか？
- ・遺伝子組換え農作物には害があると言われている。例えば、害虫抵抗性農作物は、虫がつかない様なものなのに、なぜ安全だと言えるのか教えてほしい。
- ・Bt 蛋白は人や動物には栄養になってしまうとのことでしたが、それならば遺伝子組換えでないものより栄養価が高いのでしょうか？
- ・問題のない遺伝子組換え農作物だけが認められると言ったが、ということは、問題のあった農作物もあったのか？アレルギーでストップになったものもあるのか？
- ・除草剤耐性遺伝子組換えの除草剤に耐性を持つ他の植物、雑草は出現してこないのでしょうか？

技術・実態

- ・遺伝子組換え農作物等、今、どんなにすごいものが出来ているのか教えてほしい。
- ・日本ではバラのみが栽培されている。日本でパパイヤはかなり難しいという話もあった。これから食べもので、日本で実用化される可能性があるものがあるのか？
- ・日本で商業栽培は青いバラのみとのことだったが、青いカーネーションはどうなっているのですか？
- ・害虫抵抗性の仕組みは聞いたが、もうひとつの除草剤耐性の仕組みはどうなっているのか教えてほしい。
- ・パパイヤに関して：予防接種のようなものとの話だったが、抗原蛋白を入れて抗体を作らせる仕組みになっているのですか？ この仕組みは植物に共通で、他の農作物にも応用できるのでしょうか？
- ・DNA 抽出実験について、得られた DNA は、この状態でどれくらい保存できるものなのか

第 39 回（静岡市葵区）

日 時：平成 22 年 12 月 13 日(月) 13：00～15：30

場 所：大同生命ビル 9 F コープしずおか本部(静岡市葵区)

主催者：生活協同組合 コープしずおか

参加者：生活協同組合 コープしずおか 組合員 28 名、職員 3 名、合計 31 名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所

客員研究員 蒲生 恵美

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課

技術安全室課長補佐 小松 晃

オブザーバー：農林水産省農林水産技術会議事務局

研究総務官 松田 紀子

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課

技術安全室技術安全推進第 2 係長 飛鳥 武昭

企画第 1 係 浅野 真宏

農林水産省関東農政局静岡農政事務所

消費生活課 課長 高橋 昭二

安全管理課 課長補佐 太田良 浩

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部

河野、高野、鈴木

概要：

はじめに、主催者の生活協同組合 コープしずおか 本杉信雄組織・管理本部長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局から DNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからの DNA 抽出実験を行い、DNA や遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を 4 グループに分けて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想をポストイットラベルに書いてもらい、グループ討論（デルファイ法：各グループには司会者がついた）によるディスカッションを行った。グループ討論後、各グループから出た質問等を発表することによって全体で共有し、コーディネーターの司会進行で農水省担当官が回答していった。その際に追加質問、関連質問も取り扱い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

静岡市(45 枚回収)

グループ討論の結果、得られた質問・意見は下記の通りであった。コーディネーターが、これらの質問、意見等を整理した後、順次情報提供者に回答・コメントを求める形でコミュニケーションを進めた。必要に応じて、参加者からの追加・関連質問等も扱った。

●質問

安全性：

- ・ BT タンパク質の安全性のメカニズムを詳しく教えてほしい。BT タンパクとレセプターの関係の説明してほしい。
- ・ 承認されている GM 食品は全て"人間にはないレセプター"となっている？
- ・ どうやって BT タンパク質が分解したことを確認できるのか？
- ・ 加工によってタンパク質が分解されると説明がありましたが、具体的にどのように分解されるのですか。(GM 農作物のタンパク)
- ・ プリオンのような分解されない危険なタンパクが植物に出来ることはないのか？
- ・ 「市場に出た GM 農作物で、人体に悪影響が出た報告はない」とのことですが、この期間(何年、何十年)悪影響がなければ、安全というのは何をもって決めているのでしょうか？
- ・ 悪影響がないから安全と言っていいのか？ どこかに悪影響があるのではないのか？ あるとしたら、どんなことがあり得るのか？
- ・ 遺伝子組換え作物は子どもには避けておくべきですか？
- ・ 人間用と飼料用の GM 作物の基準は同じか？
- ・ 安全性評価の仕組みが 3 省に別れているが、1 省ではダメなのか？ちゃんと連携されているのか？天下りの温床になっていないのか？
- ・ 新薬は承認されるまで一定期間(〇年)とあるが、GMO に対する承認期間はどの位か？
- ・ 遺伝子組換えの食品を食べたことはありますか？食べたことがないと思っても、家畜のエサまでさかのぼると・・・政府が認めているのであれば良いのかな？
- ・ 何年くらい前から GM で(飼料)育てられた牛か豚の肉を食べているの？
- ・ 消費者に判断をまかせることは、生産者の商業ベースを承認していることではないか？

環境への影響

- ・ 遺伝子組換え植物を生育する中で、特にある種の虫に強いものができたとき、生物多様性はどうなるのか？
- ・ GM のナタネが港から工場へ運ばれてくる途中、散乱し、在来種のなたねと混ざりあわないのか？ GM でない在来のものも残して欲しい。
- ・ 交雑について、GM と有機農業、在来種保護について。
- ・ 日本のように狭い国土で、交雑防止ができると本当に考えられるのか？
- ・ カルタヘナ法について詳しく教えて下さい。

種苗・技術：

- ・ GM 技術はどこかの国の特許なのか、特許の現状はどうなっているのか？ 種の値段はどうなっているのか？
- ・ 食料事情の面から発展途上国こそ必要かと思われるが、種子が購入できるのか？
- ・ 育った GM 作物から種が採れて、それを植えれば、GN 作物は収穫し続けることができるのか？
- ・ 品種改良では DNA が変化していないのか？ 遺伝子組換えとの違いがよくわからない。
- ・ 人口が増えている発展途上国でも利用できる技術か？
- ・ 今後どのような作物が新たに遺伝子組換えがなされる予定か？
- ・ ほ場と一般耕作地は全く同等と考えて良いのか？
- ・ 遺伝子組換え作物は味は違うのでしょうか？
- ・ 遺伝子組換え農作物は、季節によっての味は変わってくるのか？
- ・ F1 についても説明してほしい。

表示

- ・ 食品表示、「GM でない」5%以下の意図せざる混入を認めている。→完全は無理とわかっているけれど・・・アリですか？
- ・ 表示基準に主な原料で上位 3 品目で5%以上にものに関しては表記しなければなりません、それ以下には表記する必要がないということはすべての GM 作物を認めているということではないのですか？
- ・ 遺伝子組換え農作物の表示は外国においても同じ見解・考え方ですか？
- ・ GM 承認食品において、DNA、タンパク質が残っていないと表示義務もなくなるが、本当に安全なのか？
- ・ (5%以下の意図せざる混入でも、非組換えと表示できることがおかしいの感じる人は半分以上、表示基準の見直しが必要と思う人は半数程度であった：挙手による)

情報

- ・ 情報の出所は政府（農水省）だけですか？
- ・ そもそも必要性を言う側の国を信じていいのでしょうか。反対する意見も情報として持たないと判断が難しい。

●意見・感想

- ・ GM (遺伝子組換え) 作物というのが何なのか、全くわからなかったなので、講義を聞きに来ました。
- ・ 遺伝子組換え食品が多くなっているのが、気になっておりますが？
- ・ 安全・安心か、そうでないか判断するのは、結局自己責任。

- ・ GM 食品を長期間（20～30 年とか）とった時の影響がこわい。
- ・「ミツバチが大量に死んで交配ができなくなった」というニュースをききました。結局、虫を殺してしまう性質がある GM は怖いと思う。
- ・ 必要性は感じるが、やはり前向きにはなれない。
- ・ 食用以外に使われるならいいと思います。
- ・ GM を食べても、人の体に影響がないという説明は、わかりやすく、理解できました。
- ・ GM が人体に安全であるならば、生産者にメリットがありますし、安価な商品を求めます。
- ・ 農作物を作る大変さをこの頃思うので、良い方法であれば、安全性に配慮しつつ取り入れても良いのかもしれない。
- ・「遺伝子組換えでない」と書かれていても、5%以下の意図せざる混入があるかもしれないことに、信用できないなと思いました。
- ・ まだ一部の企業だけのもののように感じ、食の操作をされてしまうように思い不安です。
- ・ 多国籍企業の GM 種と農薬併用による種の独占への懸念。
- ・ 研究は大切だが、商業栽培で制限できなくなる不安。
- ・ 気候変動が起こり易くなっていて、日本の食糧自給率の低さがメディアでアピールされているのを耳にして、日本農業の単位面積当たりの収量を上げるために、GM の必要性が高いと思うようになりました。今は平和なので、身近に思うことは少ないのですが…→農家さん、私達消費者のそれぞれの理解が必要と思う。省庁のカベをとって欲しい。

第 40 回（北九州市八幡北区）

日 時：平成 22 年 12 月 16 日(木) 13:05～14:45

場 所：九州女子大学 栄養学館 5 F 552 教室(北九州市八幡北区)

主催者：九州女子大学家政学部栄養学科

参加者：九州女子大学 家政学部栄養学科学生 87 名、教員 3 名、合計 90 名

情報提供者：国際生命科学研究機構バイオテクノロジー研究部会長

橋本 昭栄

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに主催者の、九州女子大学家政学部栄養学科 米田寿子准教授から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

次いで事務局の司会進行のもと、情報提供者から「遺伝子組換え農作物の現状について」情報提供を 40 分行った。

その後、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについて、全員に配布した質問票を用い質問・意見交換を行った。質問票に基づき学生から質問を受け、情報提供者が回答していった。学生たちも活発で熱心なコミュニケーションを行った。質疑応答時間は 35 分であった。

質問用紙は回収し、また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問、意見・感想

北九州市（81 枚回収）

●質問

安全性

・安全性評価については 100%安全だと言いきれるのか？どの程度のレベルなのか？最新の科学的知見とは？

・遺伝子組換えの安全性の評価について、100%本当に安全と言えるのかどうか。（商品化されているものは・・・）

・遺伝子組換え技術によって作出された農作物が利用されることについての懸念や意見を詳しく聞きたい。

・遺伝子組換え食物を食べると人間の遺伝子に影響があるのかどうか知りたいです。

・遺伝子組換え食品を多く摂取していても、体に対してメリット、デメリットは生じないのでしょうか。

・普段は遺伝子組換え食品について、あまり気にせず食品を買うことが多く、自分が思っているよりも、多く摂取していると思うのですが、遺伝子組換え食品を多く摂取する人と、あまり摂取しない人では何か（病気や寿命など）体に与える影響の違いとかありますか？

A n s . →違いはなく、長期摂取しても大丈夫である。

・危険なイメージがあるのですが、食べ続けた場合、身体に何らかの影響が出てくることは考えられますか？

・遺伝子組換え農作物を長年摂取することによって、なり得る疾病はありますか。

・今後、40年、50年の人体への影響について。

・遺伝子組換え食品を長年摂取することで、ヒトの免疫や構造に変化がないとは言いきれるのですか？（寿命が短くなったりするのか？）→大丈夫な安全なものばかりを食べることで、ヒトは病気に耐性ができるのか。

・遺伝子組換えをした農作物を食べたことで、人体に何か問題が起きたということはないですか？

・これまで、市場に出た遺伝子組換え農作物で、悪影響を及ぼした事は一例も無いと言われていたのですが、どのように調査されたのですか？それはちゃんと信頼性のあるものだったのですか？

・遺伝子組換え農作物の中でアレルギーを起こす可能性がある、または、毒性があると判断され、市場に流通しなかったものはありますか。

・遺伝子組換え食品の農作物を家畜の飼料にも使用していると思うのですが、その家畜には何の影響もないのですか。

・遺伝子組換えによって動物への影響が現れた症例はあるのか、それは何が原因でなってしまったのか。

・遺伝子組換え農作物を人間が作り出したことにより、新たな害虫が発生するなど生態系に影響を及ぼしたなどの例はあるんですか？

・トウモロコシなどの遺伝子組換え農作物は害虫耐性があると思うのですが、さらに強力な害虫によりやられることはないのでしょうか。

・食品や飼料として安全性評価の問題も心配だと思いましたが、それよりも虫に強いものなどをつくると、どんどん虫の方も強いものがでてきたりと、生物多様性に対する影響や環境に対する影響などが心配だと思いました。

・今まで一度も、遺伝子組換え農作物の安全性の問題はまだ起こってないようですが、もし商品に問題が発生した場合は、どのような対応をとるんですか？消費者にどんな影響がでますか？

・日本の承認基準は他国と比べて、どうなんでしょうか？

・安全性評価は具体的にどのような方法で評価するのか？

・遺伝子組換え食品の安全性を確認する際にラットなどの動物実験が行われることはありますか。

・安全性を調べる時は、ラット以外の動物を用いたりしますか？

・アレルギーに関しては、個人によって症状が違うので、基準を決めるのは難しいと思うのですが、具体的にどのような試験を行っているのですか？

・今までに安全性に問題があり、承認されなかったものはあるのか。

・安全性試験にはどのくらいのコストがかかるのか。

・先生は遺伝子組換え食品に完全な信頼をもっている？

・なぜ、遺伝子組換え農作物等に対する懸念や意見があるのですか。

技術・実態

・遺伝子組換え食品は、どんな基準で必要だと思って開発されるんですか？組換えをしなければ、その食品がなくなってしまうからですか？

・飢餓と飽食の両方が今問題になっていますが、食糧自体は全人口に対して十分な量があると言われていています。そのような中で、ダイズやトウモロコシは希少なものではないと思うのですが、そのような食品を遺伝子組換え作物として作り出す必要はあるのですか。

・なぜ遺伝子組換えをはじめようと思ったのですか。

・遺伝子組換え農作物は役に立っているのですか。

・遺伝子組換え作物は本当に必要なものしか開発しないというのは、具体的にどのようなものが必要なものなのでしょう？

・遺伝子組換え食品を作ることのメリットはあるのですか。遺伝子組換え食品はいつ頃から誕生したのですか。今日はありがとうございました。

・どうして遺伝子組換え食品を作るようになったのか。

・今の現実、主にトウモロコシやダイズですが、なぜ、あえてその作物を遺伝子組換えを作ろうとしたのですか？

・なぜ様々なチェックを行い、そこまでして"遺伝子組換え食品"を作るのか？→障害から守り、栄養価を上げる役割があることを知れた。

・遺伝子組換えはどこを目的とし、どこまで進んでいくのか。最新の遺伝子組換えの研究は、どこまで進んでいるのか。

・遺伝子組換えを行っている農作物は今何種類あるのか？また今現在どんなものを研究しているのか？

・植物を強くしたり、虫から守ったりすること以外に、どんなことに遺伝子組換えが使わ

れますか。

- ・害虫から守ったりする以外にどんな効果を持った遺伝子組換え食品がありますか。
- ・新しく遺伝子組換え食品として品種改良しようとしている野菜や果物がありますか？
- ・現在、国内国外での実験室では、どのような遺伝子組換えの実験が行われているのか。
- ・遺伝子組換え農作物で新しく開発されているものはありますか。
- ・これから新たに、遺伝子組換えしようとしている作物はありますか？
- ・遺伝子組換え食品では、これからどのようなものが作られようとしているのか。
- ・これからはどのような遺伝子組換え農作物が実用化されていくのですか。
- ・これから日本で実用化されると思われるものは？
- ・現在、新たに遺伝子組換えに取り組んでいる農作物はあるのか。
- ・ひとつの農作物の遺伝子組換えにどれくらいの年月がかかるのか（実用化も含め）。
- ・今までにどのくらいの数の作物を開発したんですか？
- ・これからどんどん遺伝子組換え食品は増えていくのか。
- ・これから先できる予定の遺伝子組換え食品は何ですか？
- ・アレルギーを少なくすることもできるのか？
- ・アレルギーの話もありましたが、遺伝子組換えすることでアレルギーの原因物質を全て除去して、アレルギーの方が食べられるようになることはありますか。
- ・青色の花というのは、自然にできることはないと聞いて、今回青色のバラができているのを見てきれいだと思いました。バラ以外の花で青色をつくることはできないのですか。
- ・食用の花は遺伝子組換えなのか？
- ・最近では違う種類の野菜・果物などが混同された野菜や果物ができているんですが、「遺伝子組換え食品」と「品種改良」の違いは何でしょうか。
- ・他にはどのような遺伝子組換え食品があるのか？（8作物以外で）。
- ・農作物以外にも遺伝子組換えが行われることはあるのか？
- ・利用の現状ということでしたが、実際に遺伝子組換えと表示されたものを見かけないけれど、具体的にはどのような製品があるのでしょうか？
- ・遺伝子組換えの食品で実際に商品としてお店に並んでいるのは、油以外にどんなものがあるのか。
- ・最新の商品はどのようなものがあるか。
- ・遺伝子組換えとそうでないものの売れ方の違いなどは、ありますか。
- ・実際に遺伝子組換えを使った商品と使っていない商品では、売れ方に差はありますか？
- ・遺伝子組換え食品と遺伝子組換えでない食品とはどちらの方が売れていますか？
- ・まだなじみの浅い遺伝子組換え食品をCMなどで使用してもシェアはとれますか？
- ・遺伝子組換えをして育て方は変わるのか？
- ・日本の遺伝子組換えの技術は、世界では、どの地位を占めているのか。
- ・日本以外ではどのように扱われているのか？
- ・日本で手に入る遺伝子組換え作物ではほぼ輸入されたものということですか？（バラのみ栽培）。
- ・実際どれほどの遺伝子組換え作物が普及しているのでしょうか。

・カドミウムや残留性有機汚染物質など壤中の有害物質を吸収する環境修復植物は育てた後どうするのか？

・アルファルファやテンサイ、ジャガイモは承認されているのに、なぜ、実際使用されていないのか。

・野菜などの食べ物類よりも、花などの方が遺伝子組換えで新しく開発していく場合、商品化しやすいですか。

表示

・なぜ遺伝子組換えについての表示が必要なのか？

・安全性が確認されているにも関わらず、表示義務がある理由はどうしてですか？

・意図しない混入を5%以下は認めているが、その管理、検査システムはどうなっているのか？

情報

・遺伝子組換え作物が安全かどうかということについて、私達は今回の講演や授業を通して知識があるのですが、消費者の方へはどのようにして正しい知識を伝えているのですか。

・国民に快く受け入れられるように、何か工夫はしているのでしょうか（「遺伝子組換え」の表示以外で）。

・遺伝子組換え作物について誤解している人が多いですが、CMで流したら、少しは誤解が解けると思いますが、どうお考えですか？

・「遺伝子組換え食品」という名称が、とっつきにくいと思うんですが、名称変わることはないですか？

●意見・感想

・私は遺伝子組換えを食べることにとても抵抗を感じます。人為的に作られたものには良いものもあると思いますが、悪いものが多いような気がするからです。ですが、今回の講演を聞くと、害虫抵抗背農作物や除草剤耐性の農作物等で収穫率が上がり、燃料消費低減、軽労化などにつながると聞き、今現在問題になっている環境問題や食料自給率等の改善になるのではと思いました。ここで私は生物多様性影響評価の流れで、「国民の意見を聞く」とありましたが、実際に遺伝子組換え食品を売り出し、国民に快く受け入れられているのかなと思いました。私が考えるには、買う人はいても自ら買う人は少数人しかいないような気がします。

・「遺伝子組換え食品」と聞くと危険なイメージしかなかったが、話を聞いて、安全なイメージも持てました。

・遺伝子組換え農作物は、安全なものなのだと思います。テレビなどでは、あまり良くないように報道されているけれど、テレビなどでは、あまり良くないように報道されているけれど、今日の講演を聞かせていただけて、意識が変わりました。

・遺伝子組換え農作物として、栄養を加えているものもあると知ったけど、そういうものが増えてくると、魚や肉を食べずに、遺伝子組換え農作物ばかりを食べる人が出てくる可能性もあるのではないかと思います。

・遺伝子組換え農作物については授業で学んだことはありましたが、全てを学んだわけで

はなかったのですが、分からなかったのですが、今日は良く分かりました。

- ・今回の講演で、自分の遺伝子組換え作物に関する情報や、正しいと思っていたことが、間違っていたことが分かりました。遺伝子組換え作物について正しい知識を持って、デメリット、メリットを知った上で、食品を選択しようと思いました。遺伝子組換え食品も栄養価が高く健康に良い食品、地球環境にもやさしい食品がたくさんあると分かりました。

- ・インターネットなどでこういった遺伝子組換え食品について調べても、様々な意見や内容があり、どれを選択すればいいのかわからなかったけど、今日の講演で良く理解できました。

- ・遺伝子組換え農作物を作ることで、コストや燃料費を下げることができ、労働力も使わずに済み、安全性が確認されているので、すごくいい所があることがわかりました。

- ・自然毒や農薬、添加物などその他にも、いろいろ害があるとされているものがあるので、難しい問題だと思いました。

- ・これから食料問題について考えたとき、日本での自給率を高めるためには必要な技術かなと思いました。

- ・学校ではあまり詳しく習うことがなかったため、今回このような講演会を聞くことができ、良かったです。安全評価の仕組みや生物多様性のへの影響など気になることのお話が聞けて、とても勉強になりました。ありがとうございました。

- ・遺伝子組換えについて、知らないことが多かったが、今日の講演を聞かせていただいて、食品以外にも技術が使われていることを再認識できた。インスリンの技術などには何の抵抗はなかったのに、どうして食品には良いイメージがなかったのか、抵抗を感じていたのか、今日はそのことに少し考えさせられた。

- ・今日の講義を聞いて、遺伝子組換え作物についての考えが変わりました。今まで遺伝子組換えは、大量生産して売り上げを上げるためだけに行われている上、摂り続けることで体に害が出ると思っていました。しかし、今回の話で、遺伝子組換え作物を避ける必要がないと考え直すことができました。

- ・授業で表示義務を学んだけど、様々なチェックをしているようなので、安全性は高いことを知り、安心しました。自然のものを変えていくことは少し悲しいけど、変えていくことで良くなっていくことがあって、需要に応じて行くことも大切なので、勉強になりました。

- ・遺伝子組換え食品と聞くと、本当に安全なのかと疑問に思ったこともあったけど、安全性が確認されたものしか市場に出ていないということを知って、少しイメージが変わりました。

- ・イメージですが、外国では遺伝子組換え食物がもっと多く使用されている気がします。

- ・本日は、為になる講座をしていただきありがとうございました。私は遺伝子組換え農作物は安全ではないという考えがあります。しかし、今まで毒を犯したという事例がないときくと、なるほどなと思いました。

- ・かなりの時間とお金をかけて、慎重に安全性評価が行われているので、今市場で販売されている遺伝子組換え農作物は安全なのだ改めて感じました。一般農作物でも100%安全なものはないので、それを考えれば、遺伝子組換え農作物は一般農作物よりも安全なもの

もあるのではないかと思いました。

・遺伝子組換え農作物は安全性に欠け、商売目的で作られているのもだと思っていました。私自身、スーパーで納豆を買うときは遺伝子組換えを避けていたのですが、身体に影響がないということで、安心して食べることができるようなので、良かったと思います。

・遺伝子組換え食品は安全性が高いということが分かった。また、近年より安全性を高める為に、さらに改良されているんだと分かった。

・「遺伝子組換え」という言葉を聞くと、大量に生産するために作られたものだという認識があって、どこか危険なのではないかと感じていたけれど、今日の講演を聞いて安全性の確認もきちんとすることが分かって、正確な情報も聞けて良かったです。

・遺伝子組換え食品は安全であると思っていたけど、それを作る前にはたくさんの失敗とたくさんの時間を費やしているのだらうと思っていたのですが、効率よく遺伝子組換えの実験が行えていると聞き、驚きました。

・遺伝子組換え作物は危険なものであるという認識が強かったけれど、安全性が認められているものしか栽培されていないということを知り、考え方が変わりました。

・遺伝子組換え作物を摂っても、今現在は何らかの影響が体に出るといったことは報告されていないということを知り、今日初めて知ることができて、少しだけ安心しました。

・遺伝子組換えが思っていたよりもチェックが厳しく、国内に入ってくるものは安全であることがわかりました。

・遺伝子組換え食品は、表示の義務があるので、危険なものだと思っていたけど、安全性も確認されているので、話を聞く前よりは安全なものであるということがわかりました。

・遺伝子組換え＝危険というイメージがありましたが、講演を聞いて危険なものではないということがわかりました。しかし、まだ危険だというイメージが強すぎるため、遺伝子組換え農作物のものを口にするのはまだ躊躇ってしまうなと思いました。

・普段あまり聞くことができない遺伝子組換えのメリットを聞くことができて良かったです。ありがとうございました。

・講演を聞く前は遺伝子組換え作物は危険というイメージが強かったのですが、安全性評価が細かく行われ、確認されたものしか市場に出ないこと知り、安全性が高いことがわかりました。

・遺伝子組換え農作物に関する情報は、授業以外で聞く機会がなかったので、今日この講演を聞いて良かったです。ありがとうございました。

・いくつもの安全性評価がなされていて、安全だと判断された食品だけが流通していると分かった。

・1つ1つの質問に丁寧に答えて下さって、とてもわかりやすかった。また、是非来て欲しいです。

・私は、遺伝子組換えの商品や技術面など、あまり知りませんでした。また、遺伝子組換えの商品は自分達の身近にはあまり存在していないと思っていましたが、今日の講演で身近に存在しているということを知りました。

・今日の講演で遺伝子組換え農作物について詳しく学ぶことができ、勉強になりました。

・今回の講義を聞くまでは、遺伝子組換えされた農作物は体に悪いというイメージが強か

ったのですが、今回「遺伝子組換え農作物の現状について」の話を聞いて、お店で販売されている農作物は、全て安全性が確認できたものであると分かり、遺伝子組換え農作物に対する悪いイメージがなくなりました。

- ・今回はとても勉強になる講義を本当にありがとうございました。

- ・既にたくさんの遺伝子組換え食品が出回っており、知らないところで食べているのは初めて知りました。消費する側が考えていかなければならないなと思いました。

- ・遺伝子組換え食品は、今まであまり人の体にとって良くないところも多いのではないかと思っていましたが、今回の話で技術を詳しく知ることができたし、安全性なども十分に検査を受けて開発されているものだと知り、とても勉強になったし、考え方が変わりました。この技術がもっと生かされ、環境などが良くなっていくこと等に役立てばよいと思いました。

- ・遺伝子組換え農作物の栽培面積で大豆は全体の 3 分の 2 が遺伝子組換えということに驚いた。

第 41 回（青森県青森市）

日 時：平成 23 年 1 月 13 日(木) 10:00～12:30

場 所：青森県県民福祉プラザ 4F 大研修室（青森県青森市）

主催者：特定非営利活動法人 青森県消費者協会

参加者：特定非営利活動法人 青森県消費者協会会員他 55 名

メディア：東奥日報社 1 名

コーディネーター：順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助教 堀口 逸子

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

係長 飛鳥 武昭

オブザーバ：農林水産省青森農政事務所総務課 課長補佐 小倉 尚樹

統計部統計企画課 課長補佐 丸屋 修一

統計部統計企画課 企画・分析係長 長内 辰一

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の青森県消費者協会 小野寺静子副理事長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員が6グループに分かれてブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、情報提供後に質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質疑応答・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。

今年は雪が多く開催日当日も降雪であったが、それにめげず55名の多数の参加者を得て開催することが出来た。



DNA抽出実験

以下、主な質問、意見・感想



情報提供

青森市（36枚回収）

参加者に質問、意見、感想等を質問票に記入してもらい回収した。コーディネーターがそれらを整理したのちに、質問・意見等を順次発表しながら情報提供者に聞き、回答・コメントを得た。参加者からの追加・関連質問等も適宜してもらい、それらの回答も得た。

●質問

安全性：

・遺伝子組換え農産物が飼料用として使われているということですが、摂取する牛や豚などに対する実験と安全性が確認されているのでしょうか？

・農作物、安全性評価をする際の一例をあげて欲しい。どの様な詳しい検査をし、安全と評価するのか。

・人間には Bt タンパク質と受容体がないから、害虫は死んでも大丈夫との事でしたが、遺伝子組換え食品がたくさん出回って、たくさん口にするようになった時、どんな人でも（病気の人も） Bt タンパクと受容体で人間には影響ないのでしょうか？虫にも耐性ができた虫ができてきて、更に強いGMができてても・・・。

・人には Bt タンパク質と結合する受容体がなく、人の胃は酸性なので Bt タンパク質が分解すると言っているが、人によっても分解する能力が違うのでは・・・。数年後、子ども、孫の体に影響が出るのでは・・・と、不安を消す事はできないのでは・・・。

・蛾の幼虫は、トウモロコシを食べて死ぬけど、最低一口は食べるのですか。それとも死ぬから食べないのですか。

・病原菌でも耐性菌ができたり、人体においても、急にアレルギーを発症する事もあります様に、遺伝子組換えの食品でもいずれ出てくるのではないかと思ってしまう。今は、安全、安心といわれる事も、未来では、それが原因となる事もあるのではないか？

・孫がアレルギーと云われたそうで、やっとなら食べても良いとの事。不安が一杯です。遠く離れていますので、どのようにしたらよろしいのでしょうか？

・イネ×イネ→イネ×小麦 ができるか？ イネ×小麦→小麦アレルギーの人が食べたときに、アレルギーになるのだろうか？

・遺伝子組換え技術は従来の品種改良と同じと思うが、長期的にみても、自然界に悪影響を与えない（残さない）と言えるのか？

・港湾等で荷上げされた遺伝子組換え農作物が、トラック等で輸送される途中こぼれ落ちるそうですが、こぼれ落ちたものから発芽して繁殖したらどうなるのでしょうか。

・交雑すると本来の在来種の影響を及ぼすことはないですか。

・遺伝子組換えと自然界で現れると云うか、変異体と変異体作りとの関係は、改良方法という点で似ているのですが、デメリットの作用は心配ないのですか？

・反対運動をしている方々の主張に対する反論の根拠はすべて説明できるのでしょうか？科学的に説明できない部分はありませんか？

技術、実態、食料問題

・遺伝子組換えの方法にはどんなものがありますか？

・害虫に強いGMりんごがありますか？（無農薬で作ったのと同様ですか。）

・P22 ジャガイモの遺伝子組換え、何を目的に行われているのか。

・花粉症、花粉の少ない。技術に対する理解を深める為には・・・農薬、土壌に関しての

効果。もっと効果、事例を。

- ・遺伝子組換えの玉子、野菜、魚、肉などから取った物で、薬など作っていますか。
- ・アメリカのコーンの遺伝子組換えに関する詳細な説明と、どの程度の影響力が及んでいるのかを知りたいものです。例えば、種の1年生の問題とか？飛散種の問題とか？
- ・遺伝子組換えによってできた植物に種子ができるのか？その種子で希望の植物ができるのでしょうか？
- ・遺伝子組換えをしなくても勝手に遺伝子が変わることもあるのですか？
- ・植物（イネ）の場合、異品種の花粉がそばにあっても同品種の実になる理由は？ 自家交配植物とそうでない植物の違いはないか。
- ・今まで実用化されなかった物の中で、とても『キケン』な物は何ですか。（安全性が確認されず実用化しなかった物）。
- ・農薬とタネは、どこで買うのですか？（今は輸入しているけど、将来、日本でも栽培する時など）。
- ・遺伝子組換え作物の種子は個々に採種できるのですか？毎年買わなければいけないのですか。
- ・食料自給率に関する影響は。輸入が前提になっていないか心配。否応なく入ってくるという状況にならないか。
- ・遺伝子組換え農作物と自給率との関係及び展望。
- ・作物全般にわたっての組換えの必要性が本当にあるのか。輸入だけに頼っている日本を、自国での産業をもっと考える必要があると思います。日本の現実、現状を深く知りたいです。輸入を少しでも少なくして行く、必要な物だけを必要なだけ食べることはできないでしょうか。
- ・遺伝子組換え農作物は米国を中心とした商業経営に貢献しているように思われるが、農水省は国内農産物の生産に遺伝子組換え農業を積極的に進めようとしているのか伺う。
- ・遺伝子組換え技術が穀物戦略として、一部の国や会社に富が集中するということにつながるのでしょうか。

表示

- ・遺伝子組換えの表示がある食品以外の食品は遺伝子組換えはされていないのでしょうか。
- ・飼料として、又醤油、油などの加工品として、多くが輸入され、私達は知らぬ間に口にしていることになるが、やはり、情報公開は必要と思う。生協でできるのであれば、農水省としても表示義務を拡大して欲しいが、今後の取り組みはいかがなものか？
- ・農作物の許容混入率はEUで0.9%で、日本は5%としているが、各々の混入率決定の根拠は。
- ・NON-GMの表示について、5%以下はこれでいいとは思えない。モニタリング等を行って現状を変えていけないか。表示によって、どちらかを選べるようにはできないか。COOPの店舗ないところは選べない。
- ・混入率を日本では5%なのに、韓国3%、EU0.9%と、日本が高率であるのには、他の国（輸入が多い米国）を意図してEUなみに下げられないのか。
- ・作物の種は海外で作られたものが多いのですが、例えば大豆、トウモロコシ等、遺伝子組換えの表示がしてありますか？

情報、その他

- ・ 隔離ほ場はどこにあり、その管理はどうなっているのでしょうか。一般研究機関など、どのように把握され、国ではどう管理しているのでしょうか。(遺伝子組換えは必要欠くべからざるものと思ったが、問題は懸念の部分で、その管理の重大性を感じます。)
- ・ 多くの GMO を広めた場合に監督体制は大丈夫か。それだけでなくとも公務員の減員が政府の方針なのに疑問を感じず。
- ・ 食品の安全に関するリスクコミュニケーションの実施に関して、情報提供の規模範囲はどのように考えていますか。今の実施方法と範囲では限られていると思いますが。

●意見・感想

- ・ 安全性について、全世界の諸事情から将来的に日本も受け入れざるを得ないのではないかと考えます。そのため、確たる安全性を保障できるのでしょうか。特に外国産。まだ理解ができないようなモヤモヤがあります。申し訳ありません。
- ・ 質問ではないが、自分の思っている事です。組換えにすごく期待する部分はある。しかし、私はまだ自分の口には入れたくない。しかし、将来的には、口に入れざるを得ないようになると思う。それまでは精一杯抵抗したいと思う。
- ・ 農作物の種子、種々の特性等、昔と随分変わり、ただ驚いております。
- ・ 遺伝子組換えの事はあまり知らなかったので、今日のお話で少しわかったようですので、これからの生活に取り入れて買い物などにいかしたい。
- ・ 遺伝子組換え技術、応用食品の安全性は大丈夫と思う。今の不安は、食べて安心かどうかではなく、環境や生態系など人間としての責任に対する不安だと思う。したがって、反対派と言うより不安派と言って良い。食料や食生活がどう変わっていくか、PPT が農業問題や食料問題にどのように影響するか、その際に GMO がどのように作用するか、不安がぬぐい去れない。

第 42 回（千葉県船橋市）

日 時：平成 23 年 1 月 14 日（金） 10：00～12：30
場 所：スクエア 21 パルシルテム千葉 船橋本部会議室（千葉県船橋市）
主催者：生活協同組合パルシルテム千葉
参加者：生活協同組合パルシルテム千葉組合員 36 名
コーディネーター：消費生活コンサルタント 森田 満樹
情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室
室長 作田 竜一
係長 飛鳥 武昭
事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部
高野、鈴木、金井

概 要：

はじめに、主催者の生活協同組合パルシルテム千葉の永田悦子理事から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局から DNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員が 4 グループに分かれてブロッコリーからの DNA 抽出実験を行い、DNA や遺伝子に対する理解を深めた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、情報提供後に質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質疑応答・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問、意見・感想

船橋市（22 枚回収）

参加者に質問、意見、感想等を質問票に記入してもらい回収した。コーディネーターがそれらを整理したのちに、質問・意見等を順次発表しながら情報提供者に聞き、回答・コメントを得た。参加者からの追加・関連質問等も適宜してもらい、それらの回答も得た。

●質問

安全性

・倫理的な問題として、その技術が、人間や動物など（軍事やテロなど）に使用され、予想外の変化を生んでいくなどは不安があります。日本国内だけでなく、世界で共通のルールは、必要かと思います。そういう方面の話はされているのでしょうか？

・今回取り上げられた遺伝子組換え農作物は限られた品目でしたが、承認されている物に関しては、農水省で安全性等確認され、承認されていることはわかりました。民間の研究機関あるいは個人レベルでそれ以外の遺伝子組換え作物を栽培し、流通にのせた場合の規制などあるのでしょうか。（聞き逃していたら申し訳ありません。）

・害虫が食べてしまうと死んでしまう遺伝子は何の遺伝子なのですか？実際に食べても大丈夫と判断した基準はどういった理由からなのですか？（または研究をもとに出されたものなのでしょうか？）

・遺伝子組換え食品を食べて、その食品を食べたことにより、このような病気になったというデータは出ておりますか。

・遺伝子組換え作物の人体に及ぼす影響については具体的にどのような試験が行われていますか？医薬品では動物実験から人間での追跡調査を行い、承認までかなりの期間がかかっているようですが、遺伝子組換え作物の承認にはどのくらいの期間がかかっているのでしょうか？

・安全性を確認できるまでのモニタリング期間は農作物によって異なるのですか？またそのモニタリング期間は本当にデータが出揃う年数、日数にきちんとなっているのでしょうか。

・現在輸入禁止となっているコーン等あるが、実際上の問題点は何なのか。～例、認可されていない。安全とは認められていない～有害。その他。

・承認実績について、どの程度の申込みがあるのか？申込みの何割程度承認されているのか？

・ナタネの交雑について影響等データは？

・遺伝子組換え農作物の生物多様性への影響評価（8 ページ図 3）の詳しい説明がお聞きできればうれしい。

・カルタヘナ法の内容、安全審査の基準等を具体的に。自然界への影響が問題です。あらゆる生き物において、DNA タンパク質は共通性の高い化学構造をしている・・・が問題です！

技術、実態

・安全性の評価にも限度があると思います。遺伝子組換えについては理解できますが、大変素朴な質問ですが、どうしても GM 作物その他に遺伝子組換えは必要でしょうか。どう

してもこの疑問が消えません。

・経済的な安全性はどうか？遺伝子組換えの種子などでそれらの権利を持つ一定の企業や組織の利潤と生産側の負担など、経済的な搾取関係も最悪の場合発生するのではないかと懸念しているが、食、生物以外の項目でのリスクというのではないのか。また、検討もあれば教えていただきたい。

・限られた一社が管理して、食料コントロールして、利益優先になっていくのはどうか。

・冷夏や酷暑に対応する稲等の改良が考えられている様ですが、この様な改良にも使われるのか？

・遺伝子組換えを雑草にして消滅させる研究はしていないのでしょうか。

・米国におけるトウモロコシ、ダイズの遺伝子組換えの栽培率が80%、92%ということですが、かなり日本に輸入されています。米国国内では遺伝子組換えトウモロコシ、ダイズはどの位の割合で消費しているのでしょうか。

・ビールや油の中でヘルシー、カロリーオフ、コレステロールをとる（ない？）などをCMしているその原料は遺伝子組換え作物ではないのでしょうか。

表示

・表示義務、遺伝子組換え不分別とは？

・「遺伝子組換え」に対する考え方について、日本の事情は本日のご説明でよくわかりましたが、他国の考え方を知りたい。日本の混合率は5%以下ということだが、EUは0.9%という数字を聞いて、この質問が生じました。日本の自給率が40%ということもその理由にありますか。（私の考え方は安全性の有無をこの時点を出しているのは少し早いと思っていますので）。

・飼料用として輸入されている物は本当に安全なのか。輸入に頼っているとはいえ、5%という許容混入率には驚きました。もう少し下げられないのでしょうか。

・許容混入率について、EU0.9%、韓国3%、日本5%、日本は高いのでは？逆にEUはなぜそこまで低く設定しているのか？

●意見

・明確に完全な安全性が確認されれば、食料・飼料用として、使用して問題ないように思います。（アフリカや今後の人口増による食料不足など）。

・モンサント社、バイエル社、ダウケミカル社と言った世界中で種取引をコントロールする巨大企業を非難します。国内の農業生産を保護し、管理するのも、又、何を国内で生産し、何を輸入するか、生産と貿易を決定するのも、私達の当然の権利です。すべての分野で慎重であるべきです。

第43回（愛知県岡崎市）

日 時：平成23年1月17日（月）13:30～16:00

場 所：岡崎げんき館3階講堂（愛知県岡崎市）

主催者：岡崎市保健所 生活衛生課

参加者：食品安全委員会リスクコミュニケーター育成講座受講生、
食育推進ボランティア他 11名

コーディネーター：消費生活コンサルタント 森田 満樹

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課
技術安全室課長補佐 小松 晃

同課係長 阿部 裕子

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の岡崎市保健所 伊藤盛康次長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員が2グループに分かれてブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、情報提供後に質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質疑応答・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問、意見・感想

岡崎市（3枚回収）

10名程度の小規模コミュニケーションだったので、コーディネーターが最初は質問票に書いてもらった質問、意見、感想で進めた。その後は、自由に発言してもらうことによってコミュニケーションを進めた。質問票の回収は3枚であった。

●質問

安全性

- ・100%安全な農作物はないと言ったが、では米とか小麦には具体的にはどんな有害物質がありますか？（食べ過ぎは良くないとの話は別として）
- ・一般の農作物、有機農作物の GMO 汚染がオーストラリアなどで問題となっている、カナダのシュマイザー事件がある。また、GMO を栽培し続けると、微生物が死んでしまったり、耐性害虫、耐性雑草のせいで農作物の収量が下がってくる問題があるのではないかと？
- ・雑草イヌガラシと組換えナタネとの交雑が起こったという報道があったが、この事実をどのように見ているのか？
- ・消費者団体の未来ネットで活動している。四日市大学の非常勤講師の先生に指導を受けているが、四日市港、名古屋港と輸送道路におけるナタネのこぼれ落ちによってはびこっている（自生、増殖）ことが社会的に問題となっている。このことに関して農水省はどのような見解を持っているのか？

技術、実態

- ・今販売されている遺伝子組換え作物とそうでない作物をかけ合わせた場合、次世代はどう変化するのか？ メンデルの法則に従って遺伝するのか？ 優性の状態になっているのか？ 固定化されているのか？
- ・JA に勤めている。米・麦・ダイズの営農指導をやっていて転作を奨励しているが、水（湿害）の問題がある。特に、ダイズはダメだが麦も含めて遺伝子組換えで水に強い品種を作れないか？ 出来るまでにどれくらいの期間がかかるのか？
- ・ヨーロッパは、一般農業、有機農業を大切にしている。そして GMO の進め方に慎重ではないか。名古屋での COP10、MOP5 の後で NHK の「クローズアップ現代」では、ヨーロッパとの協力が必要と訴えていたように思う。
- ・中日新聞も書いていたが、国が認可している遺伝子組換え農作物を国内では誰も栽培していないのは組換え作物が問題を持っているからではないか？ その理由をどう考えているのか？
- ・このような会合に初めて参加した。親戚が趣味でダイズを栽培しているが、生産者のダイズは安く買われているという。一方、味噌工場へ見学に行った際に、工場の売店で売られていた国産ダイズの味噌は大変高価であった。また同じ工場見学の際、工場内には原料のカリフォルニア産のダイズが山積みになっていたのを見た。これらは遺伝子組換えではないのか？ 売られていた味噌は、本当に国産なのか？ なぜ高いのか、表示と価格構造が気になる。

表示

- ・組換えの混入率を 5%以下と決めた根拠、経緯を知りたい。5%以下とあるならば、それ

以下なら GMO を意図的に混ぜ込んでも良いのか？

情報

・農水省は、GMO を推進するように JA とどのようにコミュニケーションをやっているのか？ 現場の担当者には全然見えてこない。

・消費者団体に、なぜきちんと反対しないのかと聞いたところ、正式に反対するための裏付けの科学的事実が提示できないからとの返事であった。牛肉の場合のようにハッキリした結果が出ていないからとの話であった。

●意見・感想

・農家にとって天候の異常さや獣害の被害を遺伝子組換えの農作物を植えることでは解決しない気がする。GMの生産物はどの国から輸入されているのでしょうか。なんだか米国からの輸入を進めるための説明会のように思うのですが。

・ジャスコで売られていたマーガリンが 2 種類あって、組換え不分別油の方が確かに安かった。良い品質ではなく、安いなりの品質かと思ってしまう。

第44回（愛知県豊田市）

日 時：平成23年1月18日（火）10:00～12:00

場 所：豊田産業文化センター2階 情報交換室（愛知県豊田市）

主催者：豊田消費生活センター、豊田市消費者グループ連絡会

参加者：豊田市消費者グループ連絡会会員他 46名

メディア：ひまわりネットワーク（株） 1名

コーディネーター：消費生活コンサルタント 森田 満樹

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課
技術安全室課長補佐 小松 晃

同課係長 阿部 裕子

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに、主催者の豊田市消費者グループ連絡会 澤田恵美子会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を4グループに分けてグループ討議を行った。そして、グループ討議で出された遺伝子組換え食品、農作物、技術などについての質問・意見に対し、情報提供者からの回答と、追加・関連質問による活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問、意見・感想

豊田市（57枚、質問票3枚 回収）

グループ討論の結果、得られた質問・意見は下記の通りであった。コーディネーターが、これらの質問、意見等を整理した後、順次情報提供者に回答・コメントを求める形でコミュニケーションを進めた。必要に応じて、参加者からの追加・関連質問等も扱った。

●質問

安全性

- ・日本のGM作物に対しての審査は独自にしているのですか？ 期間はどれ程かけているのですか？ どこでされているのですか？
- ・安全性審査の知見そのものが疑わしいのでは？ 企業側の申請書類だけで判断されるのか。食品安全委員会の審議の事実はH/P上では明らかだが、内容そのものは公開されることがないのは何故か？
- ・農作物の評価の基準等がどのように消費者らにはわかりにくい。
- ・GMの安全確認のための期間はどのくらいか。新しい技術は時々くつがえされることがあるので。
- ・GMの安全性について、検査期間はどの位か。複合汚染のように予期せぬ物質ができるのでは。
- ・GM大豆の安全性評価ですが、ラットに食べさせた1代でも胎児死亡、胎児の体重減少がみられる実験結果があります。4代で、受精しなくなる結果がでています。どの位長期に安全性を確認していますか。
- ・動物実験で4世代後の影響が心配されています。
- ・遺伝子組換えの農作物・食品を食べることによって、病気になるのではと心配です。私達が実験台でしょうか？
- ・安全性への疑問（実験やアレルギー性）。評価の仕方が問題。
- ・実施されてまだ年数が少ないと思いますが、今後、何世代か過ぎたときの安全性の評価がどうなるか疑問になります。
- ・GMが実施されて10年余りと聞きましたが、今後長期的なところから何世代か経過した時の実験がなされているのか疑問になりますし、不安です。
- ・遺伝子組換え農作物は食べ続けていても身体に影響はないのか？（長年）
- ・多くの組換え食品を食べ続けていって本当に人間にとって大丈夫か？
- ・人間への安全性が説明だけでは解らない。人間の体は長期にわたって形成されるから。
- ・安全だと言われますが、胃液、腸液で無害化されるとも思いにくい。
- ・体質の変化に安全性は変化するか。
- ・今昔に比べて糸引き納豆の種類が多いのですが、安全性は良いのでしょうか。
- ・マーガリンでGM使用の方が安く未使用のものが高い。（農薬を使っているから）という事がひっかかる。GM作物は農薬を使っていないのですか？
- ・本当に農薬削減になるのか？耐性GMも出てきていると思うが・・・。
- ・GMでも実際農薬はかなり使われていますか？そんなに減るとは思いませんが。
- ・GMナタネが路上で飛散し、多く見つかっています。それにより本来のナタネに対して

の影響がでていいるのでは？

- ・近縁種が交雑している現状をどう判断されていますか。
- ・遺伝子組換え植物の花粉が他の植物の花粉にくっついて、本当に変化しないのですか。
- ・栽培が難しいと思う。花粉が飛ぶ、混じると思う。
- ・環境への影響は出ていますが・・・。

技術、実態

- ・なぜ遺伝子の組換えをしなければいけないのか。
- ・日本の食料自給率を高めるために農業が見直されようとしています、その際、GMを推進される予定ですか。
- ・遺伝子組換え作物が増えなければ日本の自給率は増えないか？
- ・遺伝子組換え食品のやり方を細かく説明してもらいたい。何も分かりません、はじめてなので。
- ・遺伝子組換え種子は遺伝するのか？
- ・種の壁を越えていいのかと思います。
- ・今後国内で承認される可能性の高い遺伝子組換え農作物は？
- ・今、使用されている以外もこれからありますか？
- ・遺伝子組換えで加える事ができるのなら、アレルゲン物質を取り除いて作る事はできますか？
- ・本当に寒さに強い消費者にとって益のあるGMならいいかと思えるお話でしたね。
- ・野菜の種とれたもの、次の年に蒔いても良いのか？ 収穫に影響ないのか？
- ・食品として安全な品をもとめる場合の見分け方、高額な品を買うしか方法はないか。
- ・遺伝子組換え種子はどのくらいの割合で販売されているのか？
- ・遺伝子組換え種子はどこが作っているのか。(現在最多量を)。開発評価の内容を日本政府は入手できるのか。
- ・輸入の種を蒔いていれば、作物を作っている人は遺伝子組み換えかどうか分からないのではないか。
- ・GMは農薬の使用量が減るということですが、大豆の場合、最初の頃は減ったことは確かですか？ その後、増加しているという事もあります。収量も最初増加していますが、その後、変化はしないと聞いていますが。

表示

- ・「遺伝子組換え」と表示することになったのは、遺伝子組換え食品に何か問題があるからではないのか？
- ・遺伝子組換えに対して、日本の取り組みは理解できましたが、表示制度ですべての農作物に表示義務がないのはどうしてか。
- ・必要なのはわかる。良い面も大いにある。豆類でよく見かけるが、遺伝子組換え食品は不使用は、本当か。
- ・GMの表示義務のない油、醤油、味噌が精製と発酵の段階で、どうなるのでしょうか。
- ・表示の曖昧さに疑問？5%という基準がわからない。日本独自にできないか。
- ・納豆、豆腐の表示は100%国産でないが、GMが5%含まれていると云う事ですか。

- ・食品にGMが5%混入か10%とか分かるか。15%とか30%とか調べきれないか。

情報

- ・判断材料となる情報が正確か？情報を操作されたりしないか？心配です。

●意見・感想

- ・どうしてGMが増加したかの最後の話で肉食が増加したからという事でしたが、今やガンも大腸ガンが死亡原因の女性はトップです。肉食を減らす方向で、国をあげて国民の健康を考えて下さい。
- ・お話から納得しても現実に信じるまでに時間がかかると思う。
- ・遺伝子組換え技術について安全であると言われてますが、やっぱり心配です。
- ・長期にわたる実証が無いので、孫子にどう影響が出るのか心配です。(自然界に存在しないものですから。)
- ・安全という面では保障されていると思いますが、まだ年数からいうと不安があります。
- ・安全性が確認されてものしか市場に出ないと言われたけど、やはり不安かな。
- ・必要となってくるとは思いますが、エスカレートするのではないかと心配です。
- ・遺伝子組換え農作物は一言にはとても難しいですが、将来に見据えてみると、必要かなと。ただ、複雑な生物の生態系が起きうることに懸念を抱く。
- ・農薬は多く収穫量は少ない。
- ・遺伝子組換え食品は避けて購入していたのですが、納豆等表示のない物をすでに口にしていた事が不安です。
- ・遺伝子組換え作物について大豆（納豆、豆腐）、以前から知りたかったものスーパーでよく見ます。
- ・個人的にはあまり苦にはしていません。検査だけはしっかりして下さい。
- ・遺伝子組換えでない食品を選んでいましたが、危険なだけではないと思いました。
- ・遺伝子組換え農作物は良くないと思ってましたが、今日の講座で必要と思いました。
- ・いいお話が聞けました。一方的な事だけを聞いていたので、国の話もよかった。

第 45 回（愛知県日進市）

日 時：平成 23 年 1 月 19 日(水) 13:00～15:30
場 所：日進市岩崎台・香久山福祉会館 1 階多目的ホール他（愛知県日進市）
主催者：日進消費生活研究グループ
参加者：日進消費生活研究グループ会員、日進市役所担当者 38 名
メディア：中部ケーブルネットワーク(株) 1 名
コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所
客員研究員 蒲生 恵美
情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室
課長補佐 小松 晃
係長 飛鳥 武昭
オブザーバ：農林水産省東海農政局生活経営流通部農産課
農政調整官 深掘 敏
事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概要：

はじめに、主催者の日進消費生活研究グループ 山内昭子会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局から DNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからの DNA 抽出実験を行い、DNA や遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を 4 グループに分けて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想をポストイットラベルに書いてもらい、グループ討論（デルファイ法：各グループには司会者がついた）によるディスカッションを行った。グループ討論後、各グループから出た質問等を発表することによって全体で共有し、コーディネーターの司会進行で農水省担当官が回答していった。その際に追加質問、関連質問も取り扱い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



情報提供

以下、主な質問、意見・感想

日進市（48枚回収）

グループ討論の結果、得られた質問・意見は下記の通りであった。コーディネーターが、これらの質問、意見等を整理した後、順次情報提供者に回答・コメントを求める形でコミュニケーションを進めた。必要に応じて、参加者からの追加・関連質問等も扱った。

●質問

安全性

- ・遺伝子組換え食品を食べて、子どもや孫の代まで安全か、やっぱり不安です。（体の中に蓄積しないか？）
- ・これからどんどん種類が増えますか。食べ続けた時の結果はでていますか。心配です。
- ・人の遺伝子に影響はないですか。
- ・遺伝子組換え作物に害は出てないと報告されていますが、どのような資料をもとに結果判明されているのでしょうか？病気になるまでには、10年はかかると思いますが・・・。
- ・GM作物の安全性へのメド（年数）と利便性との関係。
- ・三重県白子駅付近の組換え菜種の抜き取り作業に参加していますが、繁殖力の強さと安全性に驚異を感じています。
- ・遺伝子組換え作物が将来、環境に及ぼす影響はどうか。CO₂が気候変動に影響していると今日言われているように次世代の影響をととても懸念している。
- ・虫がいなくなりすぎて、困ったり、いなくなって欲しくない虫の数が減ってしまう、心配はないですか？
- ・今までは遺伝子組換えの食品はなるべく買わないようにしていましたが、今日の話聞いて、少し考えが変わりました。でも、安全というのを全面的に信用していいのでしょうか。

- ・農水省の方々は家族に人達にこれをすすめているか。
- ・遺伝子組換えによる悪い例は一つもないのに、それでも遺伝子を特に取り上げる必要というのは、良質に変えていることか？
- ・買い物するのに外国産は極力買わないようにしています。防腐剤、遺伝子組換えは心配。どこまで信用して良いのか疑問です。
- ・農薬の件。安全性。
- ・これからの食生活はどうしていいかますます分からなくなった。何かいい注意点を教えて下さい。
- ・レモン酒を毎年漬ける様にしていますが、最近スーパーで見ると外国産が目につきどうも不安が。先だって買うのをためらっている。生協は安心安全の食をと云われるが、本当に信用しても良いか？

技術、実態

- ・例えば、農作物の遺伝子組換えの目的は、私たちのためになることならば、大いに期待します。
- ・これからもGM作物も含めて輸入に頼っていくのでしょうか。
- ・遺伝子組換え食品は今はトウモロコシやダイズなどですが、今開発中の食品にはどのようなものがありますか？
- ・アレルギーの人、そばなど生死に関わる人もあるが、それを遺伝子組換えで食べても良い様になるのだろうか。
- ・バラ、青、サントリー、商業・・・、聞きもらしました、教えて下さい。
- ・良い面もあるようですが、商品が皆工場生産の様に同じ品質のものばかりにならないのだろうか。
- ・農薬を使用しない土作りを農林省は農家に教えて下さい。

表示

- ・許容混入率を日本はどう考えているか？
- ・遺伝子組換え食品かどうか、表示をすべて義務づけて欲しい。それが全て本当か、信用できない。
- ・飼料用作物の遺伝子組換え農作物を食べた動物性食品の表示について。
- ・肉、玉子、組換えの飼料を食べさせた牛、トリ等に肉の等に表示してあるか？
- ・豆腐を買い求めるとき、国産大豆使用、遺伝子組換えの大豆は使用してませんと表示してあります。いつも疑問に思っています。(本当か?)。
- ・豆腐の表示には「遺伝子組換え作物でない」と書いてあるが、大豆はほとんど輸入作物なのだが・・・。
- ・表示等また作物生産の現場でどれだけ基準のモラルが守られていくか、心配がある。

情報

- ・遺伝子組換えについて少しずつ知る機会を増やして行きたいです。
- ・この商品は組換え食品ですと言われても安全な基準も分からず、信用できない。何を信用すればいいか。
- ・今日の実験、とってもおもしろかったです。この様な機会、皆さんにもお知らせしたいです。

●意見・感想

・目に見えない遺伝子又長期にわたる(人間のサイクル)で結果が見えない。行政の取り組みをお願いしたい。

・安全性に関してはまだまだ不安を感じてしまいます。

・遺伝子組換えと聞くと不安です。

・今回の話の中で私の安全性をどれだけの良いのかわからない。今日の話をしてどれだけの信用できるかです。

・組換え農作物を毛嫌いしていましたが、安全性、必要性が少し理解できた気がします。でもまだ買い物の際、手は出ないかも・・・。

・遺伝子組換えによる農作物が必要かどうか、私としては、利用すべきだと思うが、もう少し研究が必要だと思うので、しばらくは自然栽培のものをしたいと思う。

・化学が進み、良い事も悪い事も感じまよいますが、自分の人生をまよわず今まで通り自然体で進みます。

・私は国産の物を買うようにしているが、先日テレビで鍋物の材料を見たが、ほとんど食べるものがなかった。これからの食事が心配です。

・遺伝子組換え自体良く解らないまま、できるだけ避けて特に買い物をしてきましたが、お話を聞いた今もどうしたらよいか解りません。

・外国もの多くなって来ましたが、心配にもなりますが、今日の話聞き、少し安心しました。

・遺伝子組換えについて、初めて聞きましたが、大変よくわかりました。食物良い物を作るには、やはり必要だと思いました。

・遺伝子組換え作物の必要性や安全、安心について、理解できたように思います。

・遺伝子組換えの表示は確認して何となく不使用の物を購入していましたが、直接口にしている大豆が小麦よりも、飼料として使用されている事を知りました。お肉を食べる時にこそ意識が必要ですね。安全性は自己判断ということで理解しました。

・今回の講義により、環境と健康を改めて考えさせられます。DNAの実験も珍しく興味深く感心しました。

・普段の生活とはあまり関係がなさそうで頭だけでは理解しづらい。ブロッコリーの遺伝子の実験は目に見えてうれしかった。

・ブロッコリーからのDNA実験でよくわかりました。

・実験は楽しかったです。

・野菜作りをしていますが、農薬なしでは形の悪い(虫食い)ものばかりで困ります。安心安全にはやはり薬は使いたくない・・・。

・飼料作物、休耕田の活用⇔輸入

第46回（東京都多摩市）

日 時：平成23年1月21日（金）10：00～12：30

場 所：多摩市消費生活センター ベルブ永山3階講座室（東京都多摩市）

主催者：多摩市消費者団体連絡会、多摩市消費生活センター

参加者：多摩市消費者団体連絡会会員、市民 32名

コーディネーター：順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助教 堀口 逸子

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

室長 作田 竜一

係長 飛鳥 武昭

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター調査広報部

河野、鈴木、田淵

概 要：

はじめに、主催者の多摩市消費者団体連絡会 平野紀美子会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員が4グループに分かれてブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、情報提供後に質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質疑応答・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問、意見・感想

多摩市（26枚回収）

参加者に質問、意見、感想等を質問票に記入してもらい回収した。コーディネーターがそれらを整理したのちに、質問・意見等を順次発表しながら情報提供者に聞き、回答・コメントを得た。参加者からの追加・関連質問等も適宜してもらい、それらの回答も得た。

●質問

安全性

・何しろ口に入る物ですから、安全性を確保だけです。見た目では本当にわからないもの
ですから。安全性だけですね。

・遺伝子組換えのものは年月があまりたっていないので、良くないものと決め込んでいたが、
知らない間に口に入っていたり、お世話になっていたのだなと思いました。でも本当に安全
なのでしょうか。

・安全性については一番懸念されます。現状だけでなく、将来にわたって安全性が確保さ
れるのか、長期的な影響は、まだ、これから調査していかないとわからないのではないで
しょうか。今、予想できる範囲での安全性に対する見通しは、どの程度あるのか、長期的
な調査について知りたいです。

・遺伝子組換え農作物の安全を確保する仕組みについて、安全性評価のところは少々頼り
ない気がします。問題の無いもののみが輸入、流通・・・とありますが、基準をすり抜け
るものはないのでしょうか？

・虫が食べると死んでしまうようなどうモロコシの安全性は？

・数日前の読売新聞にて、こぼれた大豆（？）から芽が出て、除草剤を散布しても育って
いるとの記事が載っていた。（うろ覚え）それは（雑草）除草剤に強い遺伝子を組み換えた
という事なののでしょうか？ それは少し心配になっています。

・遺伝子組換えのナタネや大豆が自生していることが、確認されているようだが・・・。

・遺伝子組換えしたものは何故悪いのか？ 組換えの大豆が茨城で2、3ヶ落ちていて問
題になったと読売新聞にありましたが重要なのか？

・アメリカで遺伝子組換えサケが承認されたとニュースで見たが、安全性などについて。

・安全であるという基準も世界的に統一されないのか？

・除草剤は安全ですか？

技術、実態

・我が国の人口、農地、労働力では輸入を頼らないといけないのでしょうか。

・遺伝子組換えで日本の農作物自給率はあがるのでしょうか？

・私達が知らないうちに、かなりの量の遺伝子組換えた食品を食べているように思いまし
た。それがどれ位の%になるのでしょうか。

・遺伝子組換えが一番最初に行われたのは、何の目的ですか？医療？生物？植物？

・組換えによる具体的にメリット、デメリットを教えてください。

・ある個体に遺伝子が組み込まれた場合、その遺伝子は代々その個体特有の遺伝子として、
代々、遺伝していくのですか？

・これだけ進んでいる現在、蚕、桑など組換えでできないのでしょうか。今、桑畑が見あた

りませんが。

- ・日本は温暖化していますが、気候の変化に強いお米の研究など進んでいますか？
- ・現在、日本の遺伝子組換え技術は、どこまで進んでいるのか？ 米での実験はされているのか。
- ・モンサントの特許は、今でも有効なのか？ 今後は？

表示

- ・大豆製品を購入すると必ず「遺伝子組換えはしておりません」の表示がされています。と言うことは、組換えがされる事は良くないという感を受け・・・さてどうしたものか。
- ・遺伝子組換えでないという表示の商品がとても多いのですが、私もいつもそれを求めますが、5%以下は表示義務がないと言うようなのも何だか・・・。
- ・納豆の事ですが、カナダ、アメリカ産と書いてあり、遺伝子組換えではありませんとありますが、輸入の豆であれば遺伝子組換えがされているのでしょうか。
- ・綿実油が一時入手できなかったのが、最近売られています、これも組換え技術の関係ですか。そうすると昔の品薄だったものところがうものになっているのですか。
- ・アメリカから輸入されるトウモロコシやダイズについて、分別生産流通管理され「遺伝子組換えでない」と任意表示されている例はあまりないのでしょうか。このケースでご存じの例がありましたら、どんな形で管理されているのか、教えてください。
- ・遺伝子組換え食品の表示制度は、日本と外国では異なると思いますが、統一できないか？
- ・表示義務について、統一されると良いと思います。日常口にしている油、醤油に表示義務がないというのには驚きました。

情報

- ・遺伝子組換え作物が、実は、組換えではなく組み入れであることがわかりました。世の中で、遺伝子組換えがとても悪いこと（よくない）のようにいっていますが、その根拠はどこからくるのでしょうか？
- ・遺伝子組換えによって農作物の材料、内容？がわるいように変化することでないのなら（本来のものとのちがい）もっと国民に知らせる方法を教えてみては。

●意見・感想

- ・今日のお話を聞くと、好むと好まざるに関わらず、遺伝子組換え食品を受け入れざるを得ないのが、日本の現実なのかと思いました。
- ・国民が知らぬ間にDNA遺伝子組換えなどの農作物が国中にいきわたっており、あれよあれよという間にDNAに汚染されているかの様に思え、60代の私には激しすぎます。
- ・遺伝子組換え食品の安全性について疑問に思っていたことが、ある程度理解できて良かった。(感想のみ)。
- ・バイオ技術の進歩でここまで進んでいる事、あらためて驚きました。それでも人が口にするものです。安全性には幾重にもチェックをして欲しいと思います。
- ・質問ではありませんが、DNAの意味が良く判り、今日の講義に出て大変勉強になりました。
- ・ちょっとびっくりいたしました。遺伝子組換え作物は大豆、トウモロコシぐらいしかわ

かりませんでした。バラの花は既に知っていました。

- ・今日はとても良いお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

- ・作物に栄養がないと言われている昨今、様々な病気が増えアレルギーに悩まされている人達が多いことに心を痛めています。このような事が改善されるような植物ができればいいなという希望はありますが、やはり気になったのは安全性ということです。100%安全ということはないわけですから。

第 47 回（三重県熊野市）

日 時：平成 23 年 1 月 24 日(月) 10：00～12：30

場 所：熊野保健福祉事務所 1F 栄養指導室（三重県熊野市）

主催者：熊野保健福祉事務所、栄養管理ネットワーク研究会

参加者：栄養管理ネットワーク研究会会員、熊野地区食生活改善推進員、
熊野保健福祉事務所職員 計 20 名

メディア：NHK 津放送局、吉野熊野新聞社、南紀新報社、紀南新聞社 4 名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所
客員研究員 蒲生 恵美

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室
課長補佐 小松 晃
係長 飛鳥 武昭

オブザーバ：農林水産省 東海農政局 三重農政事務所 消費・安全部
部長 井上 正章
消費生活課課長補佐 高尾 吉浩

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概要：

はじめに、主催者の三重県健康福祉部熊野保健福祉事務所 稲葉友徳所長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局から DNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからの DNA 抽出実験を行い、DNA や遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を 3 グループに分けて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想をポストイットラベルに書いてもらい、グループ討論（デルファイ法：各グループには司会者がついた）によるディスカッションを行った。グループ討論後、各グループから出た質問等を発表することによって全体で共有し、コーディネーターの司会進行で農水省担当官が回答していった。その際に追加質問、関連質問も取り扱い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



情報提供

以下、主な質問、意見・感想

熊野市（17枚回収）

グループ討論の結果、得られた質問・意見は下記の通りであった。コーディネーターが、これらの質問、意見等を整理した後、順次情報提供者に回答・コメントを求める形でコミュニケーションを進めた。必要に応じて、参加者からの追加・関連質問等も扱った。

●質問

安全性

- ・遺伝子組換え食品は本当に安全、安心なのでしょうか？
- ・薬害問題のように数十年後に科学的知見がくつがえることが不安なのは。
- ・懸念、アレルギーに対して、大丈夫なのか？
- ・アレルギー試験は、人体実験はするのか。アレルゲンにならない証明は？
- ・人には害が無くてもその影響を受けた昆虫が減ることで自然界の食物連鎖に影響は出ないのか？
- ・日本の基準（規則）は厳しくても、海外で認められているものは輸入されている？

技術、実態

- ・GMのフルネームをもう一度お願いします。
- ・水稻栽培について、飼料用による遺伝子組換えはどんな方法がありますか？今後、どんな方法が考えられていますか？（休耕田による大量収益になるような）。
- ・牛、豚、とりの飼料はトウモロコシとダイズのみですか。他の飼料はどんなものがあるか。
- ・「アルファルファ」は承認実績はないそうですが、なぜですか？やっぱり芽を食べるから、不安なのか？
- ・樹木の新芽による鳥獣対策などの研究も行われていますか？
- ・農作物のクローン技術のようなものがありますか。

表示

- ・日本は何故5%以下混入OKになったのか。外国のGM利用は日本と比しどうか。
- ・遺伝子組換え食品の表示について、「遺伝子組換えではない」の表示の食品が多いですが、信じて良いのでしょうか。

情報

- ・まとめの『理解と共存』のファイルがあったら、復習ができる？
- ・遺伝子組換え農作物について、「安全なの？」と聞かれたとき答える（わかりやすく）ポイントは。（3つくらい簡単に）。

●意見・感想

- ・遺伝子組換えは耳で聞いていますが、余り気にせず買い物をしていました。今後は表示を読んだり、気にしてみたいと思います。安全第一は、自分で作ることにしたいと思います。動物の飼料にはいつも安全を疑っていました。安全なら少し安心しました。
- ・遺伝子組換え食品はなるべく購入しないようにしてきた。このような講習は初めてなので良く理解できました。
- ・出回っている遺伝子組換え食品は100%安全という事ですね！
- ・遺伝子組換え食品は買わないようにしてきましたが、少し変わりました。
- ・遺伝子組換えと聞いただけで敬遠していたが、少し考えが変わりました。
- ・値段は高くても遺伝子組換えでない豆腐を購入していました。しかし、本日の話を聞いて、それだけ農薬を使用したものを食べているのか？と行ってしまいました。
- ・遺伝子組換え食品の表示をあまり気にしてなくて買い物をしてました。これからは、気にして買い物します。
- ・遺伝子組換えに対しての考えが少し変わりましたが、家庭では野菜など、ネットをかけ、農薬を使用せず作っていますが、(タネ)？の事を考えると、あまり考えすぎない方がいいかな？
- ・遺伝子組換えの農作物についてのお話ありがとうございました。よくわかりました。「遺伝子組換え不分別」の表示はたぶん一回しかみていません。実は表示しなければ、気にしてみることもないと思いますが。

第 48 回（三重県津市）

日 時：平成 23 年 1 月 25 日(火) 10：00～12：30

場 所：アスト津 4 階会議室 1（三重県津市）

主催者：三重県生活協同組合連合会

参加者：三重県生活協同組合連合会役職員、会員、生活協同組合コープみえ
役職員 34 名

コーディネーター：情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所
客員研究員 蒲生 恵美

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室
課長補佐 小松 晃
係長 飛鳥 武昭

オブザーバ：農林水産省東海農政局 三重農政事務所消費・安全部
部 長 井上 正章
消費生活課消費経済係長 米田 潔
三重県農水商工部農産物安全室食の安全・安心グループ

主査 平子 順一

主事 畑 裕子

事務局：(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野、高野

概要：

はじめに、主催者の三重県生活協同組合連合会 丹生久吉会長理事から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局からDNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員によるブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAや遺伝子に対する理解を深めた。

引き続き、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、参加者を3グループに分けて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質問・意見・感想をポストイットラベルに書いてもらい、グループ討論（デルファイ法：各グループには司会者がついた）によるディスカッションを行った。グループ討論後、各グループから出た質問等を発表することによって全体で共有し、コーディネーターの司会進行で農水省担当官が回答していった。その際に追加質問、関連質問も取り扱い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問、意見・感想

津市（55枚回収）

グループ討論の結果、得られた質問・意見は下記の通りであった。コーディネーターが、これらの質問、意見等を整理した後、順次情報提供者に回答・コメントを求める形でコミュニケーションを進めた。必要に応じて、参加者からの追加・関連質問等も扱った。

●質問

安全性

- ・安全性の確認は本当に大丈夫か？
- ・子・孫の代まで現在の安全性は保たれるのか？長期的な面での安全性は？
- ・GM農作物の安全性は何年前からか（人）？GM飼料の牛乳の安全性は何年前からか（牛）？
- ・安全性の評価はどの位の期間調べて出した答えなのか？20年、30年先の影響は大丈夫ですか？
- ・GM栽培は10年間で安全であるとの結論は早くないでしょうか？
- ・まだ浅いデータでの分析なので今後の懸念。
- ・ヒトのB_tタンパク質の受容体はないということですが、他の動物、家畜についても受容体はないのでしょうか。
- ・体内で分解されるというのが分解とは？バラバラで吸収されるという意味は？
- ・組換え飼料で育てた動物には何の変化も見られないのか。安全が証明できるのか。
- ・各国、輸入国（先）での基準はどうなっているのか？
- ・国のGMOの審査機関の独立性は保障されているのでしょうか。
- ・担当省庁が安全性や影響について、評価項目をクリアしたものだけ許可されるということですが、今までに却下された事例はあるのでしょうか。又、そのときの原因等はどうでしょうか。
- ・輸入が認められなかったものは何ですか。
- ・理論的に安全性が確定していない事例について、その種の食料としての使用をいつまで認めないのか？

- ・遺伝子組換えした物と農薬を使った物とでは、どちらが人体に悪影響を与えるのか！？
- ・農薬使用が少ない分、安全ととれるのか。
- ・農作物の組換え理由が農薬散布を少なくすると言われたが、増やすこともあるのでは？
- ・生物多様性への影響評価における評価の期間は？品種改良後の安全性が必要になるが、確認ができるのにはどの位の期間が必要なのか。
- ・輸入されたGMOが街中にばらまかれ続けているが、5%でもやがては100%になるのでは？ 5%以上になる？
- ・すでに、組換え作物は野生化している。大丈夫なのか？
- ・生物の多様性から見て、人工的ではあってもGMで新しい種が誕生したので多様性に功貢したことのなる・・・という論者がいるか？

技術、実態

- ・遺伝子組換え技術は国によって大きな違いはありませんか。
- ・GM作物の種は毎年購入する必要がある？民間企業独占で大丈夫？
- ・GM作物を日本国内で生産することはできるのか？ 国産はNON-GMOのイメージがあるが。
- ・一種類の種だけで栽培していると、万一その種に問題があった場合、全滅してしまわないか？
- ・メリット、デメリットどっちが多いの？
- ・突然変異はありえないのか？
- ・遺伝子組換え食品、農作物の使用法。(どんな分野に使えるのか)。
- ・今後、どのような作物が承認されるのか。
- ・遺伝子組換え農作物の今後はどうなるのか？増えていくのですか？
- ・遺伝子組換えの商品が安全で、できればコストの面でも低価格になっていけるのか。
- ・NON-GM食品はいつまで確保できるのか。
- ・ターミネーターと云われる種は何を目的として開発したのか(モンサント？)
- ・害虫に強いDNAは何から抽出されたのですか？
- ・輸入するときのチェック。
- ・輸入国としての責任をどう考えていくのかな。

表示

- ・完全な分別は難しいが、混入の許容率5%以下にする必要があるのではないかと？日本でもできるのではないかと？(消費者の選択権の確保)
- ・不分別5%基準は甘くないか？
- ・コンタミネーション5%について、5%以下に日本はできるのでしょうか。

情報

- ・表示制度どのようにお知らせ学習していくのが良いか？
- ・消費者と生産者が理解し合うにはどうしたら良いか？
- ・又やって下さい。おもしろかった。

●意見・感想

- ・大手メーカーによる栽培技術の独占が進むことになるのでは心配である。
- ・遺伝子組換えの菜種の繁殖の強さを考えると、不安が残る。
- ・理論的にはよくわかるのですが、やはり不安も・・・。

- ・自分としては今まで遺伝子組換えでない食品をと気にかけてきたが・・・。将来的に必要なことはわかるが、考えながら使用したい。
- ・遺伝子組換えの食品について、今まで一度も使用した事が無いが、本日話を聞いたが、やはり不安がつる。今後使用について考えたい。
- ・GM不分別とGM不使用の食品が並んでいた時、やはりGM不使用の方を買いたいと思う。
- ・NON-GMを誇りに思って食品を作っているメーカーさんもいることも大事にしたい。
- ・薬など医療的に使われるのなら良いと思う。
- ・何度も聞いても環境、人体への影響が心配。なかなか理解できません。
- ・まだまだ知られていない遺伝子組換え技術を皆さんにお知らせ等の大切さ。
- ・遺伝子組換えについては「悪」という印象があったが、少し考え方が変わった。不安は残る。
- ・今までは安全かどうかわからないので、表示をみてなるべく使わないようにしていたのですが、食べてもいいのかな。
- ・経験が浅い、不安がある。

第 49 回（富山県富山市）

日 時：平成 23 年 1 月 28 日（金） 14：30～17：00

場 所：富山県民会館 302 号室（富山県富山市）

主催者：富山県食品環境衛生職員協議会

参加者：富山県食品環境衛生職員協議会会員、他 24 名

コーディネーター：順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助教 堀口 逸子

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課

技術安全室課長補佐 小松 晃

同技術安全推進第 2 係長 飛鳥 武昭

同課広報第 2 係長 小野 泰宏

オブザーバ：北陸農政局 富山農政事務所次長 本鍛治千修

同生産経営流通部農産課農政調整官（技術指導） 宮腰 信人

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野、金井

概 要：

はじめに、主催者の富山県食品環境衛生職員協議会 廣瀬修副会長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

続いて事務局から DNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員が 4 グループに分かれてブロッコリーからの DNA 抽出実験を行い、DNA や遺伝子に対する理解を深めた。

続いて、コーディネーターの司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を行った。

その後、コーディネーターの司会進行のもと、情報提供後に質問票を用いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについての質疑応答・意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

（以下、主な質問）

富山市（21 枚回収）

参加者に質問、意見、感想等を質問票に記入してもらい回収した。コーディネーターがそれらを整理したのちに、質問・意見等を順次発表しながら情報提供者に聞き、回答・コメントを得た。参加者からの追加・関連質問等も適宜してもらい、それらの回答も得た。

●質問

安全性

・GM作物は承認時に人体等に対する評価をしているが、何年後かに再評価する仕組みになっているのか？当初の評価で予期しない知見が全くないとは言えないのでは！

・「最新の知見」に疑問がある→10年、20年後により精度の高い検査法により、有害とされる可能性を否定できない。一例、ダイオキシン等。

・人体に対する影響は健常人に対する評価だけなのか？ 低胃酸、胃切除の人など、病気を持っている人への評価はしなくてよいのか？

・現在トウモロコシ、ダイズが飼料に使用されているが、家畜（牛、豚、鶏）に影響がないということが実際証明されているのか、教えて欲しい（アレルギー的なものは）。

・市場にでたもので、これまでに悪影響が証明されたものはないとのことだが、評価中に判明する悪影響はどのくらいあるのか？

・承認申請件数と承認件数（→資料にあるが・・・）はどのくらいか？ 差大きい？

・遺伝子組換え食品の承認申請に添付されるデータの信頼性はどのように担保しているのか？第三者としてあらためて追試を行うことなどにより、捏造等がないようにしているのか、あるいは書類審査のみか。

・申請された遺伝子組換え作物で、栄養成分に予定外の変化があることは頻度として多くあるのですか？（申請に対してどれ位の割合で承認されるものなのか。）

・遺伝子組換えにより、新たに生成したアレルゲンにより、ヒトやその他動物に対してアレルギー症状を誘発したという実際の事例はありますか。（新規アレルゲンの見落とし等）

・ある遺伝子組換え農作物が研究・開発されて市場に出回るまでどの位の時間がかかるのか？またコストは？一概に言えないと思うので一例で良いです。

・「生物多様性への影響」を多くの項目検査しているということだが、すべての検査を完了するにはどの位の時間がかかるのか。作物一代分の生産期間を基準に考えると、何代分？（例えば種から実がなるまで2ヶ月の期間なら1年で6代分とか）

・殺虫効果が高い→害虫といえども絶滅されて良いものか（生物多様性との兼ね合い）。

・生物の耐性化→より強い効果を求め、抗生物質の二の舞になるのではないか。→制御が困難になる恐れ。

・病害虫に強い食物が人体に悪影響を及ぼさないことは理解できました。しかし、標的とする害虫がエサがなくてその数が減り、更にその害虫をエサとする動物が減るなど、長い目で見て生態系に影響を及ぼす可能性は考慮されているのでしょうか？

技術、実態

・遺伝子組換え技術の開発は世界各国と比べ、日本が遅れをとっていると思うが、農水省として今後どのように取り組んでいくのか。

・今現在、日本国内の農産物の生産物（量）のうち、何%（年間）が遺伝子組換え種子等を利用されているのでしょうか。また、どんな野菜、農産物が多く利用されているのでしょうか？また、輸入農産物もどれくらい利用されているのでしょうか？（量）→面積は今回のパワーポイントが参考になりました。

・遺伝子組換えGMの価格はそうでないものと比べてどのくらい安価か？

・遺伝子組換えの原料を使用している方が価格が低いことは不思議に思った。（マーガリンの例）。開発コスト等によって、また、付加価値（低アレルギーなど）によっては、高価格なものも出てくるのか。

・遺伝子組換え農作物というと、モンサント社のB t トウモロコシ社のB t トウモロコシが10年程前にうるさかったのですが、害虫抵抗性以外の形質、例えば、微量活性物質（V i t a m i nとか）の含有量を増やした。特殊機能性を有するGM作物は現在商品化されているのでしょうか？

・遺伝子組換え農作物で例えば血圧を下げたり、ダイエット効果のある野菜等は作れるのか？また、健康によいような遺伝子組換え農作物の研究等はされているのか？

・ターゲットとする遺伝子（メリットある形質を持つ）部分は現在自由自在に切り出し、挿入することができるのか。20年程前、簡単な研修（DNA組換え実習）では、酵素で切り出せる部分は限られていたので、現状を知りたい。

・数十年前に根がジャガイモ、地上部がトマトという「ポマト」というような農産物がバイオの技術で作れると夢のような話があったが、これは現実にはなっていない。「ポマト」は必要性のないものとして開発されていないのか。必要な遺伝子組換え農作物とは、どのような物か。

・ジーンバンクに欲しい種で、獲得が難しいのは世界でどこの地域か。また、世界の同様な機関と支援等はしているのか。

表示

・「選べる」—表示の義務化を何故しないのか。

・遺伝子組換え食品がある程度以下（5%）の割合であったら、表示の必要がないことについてどう考えるか？

・食品表示について、GM作物の使用と不分別では受けるイメージには大きな違いがある。どの位の割合まで不分別として表示できるのか？

・生協さんの表示実施（価格との比較に関して）についての反響は？

情報

・今まで実施されたコミュニケーションにおいて、消費者が最も不安（知りたい）と思っていることは何でしたか？（消費者の要望が知りたいので）。

第 50 回（仙台市泉区）

日 時：平成 23 年 1 月 31 日（月） 16:20～17:50

場 所：仙台白百合女子大学 1 号館 2 階 123 教室（仙台市泉区）

主催者：仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科

参加者：仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科 2 年生 70 名、関係教職員
4 名、合計 74 名

メディア：河北新報社 1 名

情報提供者：国際生命科学研究機構バイオテクノロジー研究部会長

橋本 昭栄

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部 河野、高野

概 要：

はじめに主催者の、仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科 石出信正学科長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

次いで事務局の司会進行のもと、情報提供者から「遺伝子組換え農作物の現状について」情報提供を 45 分行った。

その後、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについて、全員に配布した質問票を用い質問・意見交換を行った。質問票に基づき学生から質問を受け、情報提供者が回答していった。学生たちも活発で熱心なコミュニケーションを行った。質疑応答時間は 35 分であった。

質問用紙は回収し、また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



情報提供



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

仙台市（60 枚回収）

●質問

安全性

・今回のお話を聞いて、遺伝子組換えのものの安全の確保がとても厳重に行われていると分かって安心したのですが、そもそも人体へのどのような害が考えられるから、このようなたくさんさんの試験や評価を行っているのですか？

・遺伝子組換えと聞くとどうしても安全性について疑問をもってしまうのですが、遺伝子組換えとは本当に 100%安全なのですか？

・アレルギーや有害物質について細かく安全性の確認がされている遺伝子組換え食品や飼料ですが、何十年も経ってから何かしらの影響が人体にあらわれる可能性はないのか？

・除草剤耐性や害虫抵抗性などの作物は、食べ続けても人体に影響はないのですか？

・遺伝子組換え品を食べ続けて、人体に悪影響はないのですか？

・安全といっていますが、もし、今後、危険性や食べ合わせにより安全なものが、突然変異によって人体へ影響を及ぼした場合どのような対処を行うのか？

・誰がどう見ても安全であることが確かでないものを提供していいのだろうかと思った。この先、50 年、100 年と遺伝子組換え食品を食べ続けても、私達の体の中に変化はないのですか？（細胞、遺伝子などで）

・遺伝子組換え農作物を継続的に摂取することにより、将来、人体へ悪影響は及ぼすことはありませんか？

・遺伝子組換えには厳しい安全検査があることを知りました。遺伝子組換えに期待できる作物は？何十年も食べ続けたとして、将来人間の遺伝子に影響ないの？

・現在の日本では、どこまで安全性が確認されているのか？ 全く問題ないとのことだったが、それは日本に限ったことなのか？ 海外情報として、ネズミの腸内遺伝子が変わっていたとの情報を得たことがある。

・虫がついていない写真がありましたが、それは虫が寄りつかない何かがあると思うのですが、それは人体には全く問題がないのですか？

・遺伝子組換えでトウモロコシに毒素を作らせ害虫に強いものを作りますが、害虫が抵抗力を持って強くなったりしないんですか？

・遺伝子組換え食品の安全性を確かめるためには、既存食品と比較して、評価・審査が行われるが、遺伝子組換え食品が開発されてから、実際販売されるまで、どのくらいの期間がかかるのか。

・遺伝子組換えの作物と普通の作物では栄養価の違いがあるんですか？

技術、実態

・日本国内に 87 品種が認められていて、モンサント社等が特許を押さえているとのことですが、日本の遺伝子組換え農作物にはどんなものがあるのか？

・北海道では条例を作って GMO を作らないといっている、宮城県はどうなっているのか？

・遺伝子組換えが進んでいる中、食物を作るには不良なところ、発展途上国で、栄養不良の人達が多くいるところに、遺伝子組換えをした食物を植えたりすればいいと思うのです

が、実際それは行われているのか？

・遺伝子組換え農作物は、膨大なお金を費やして安全確認をしているようですが、そのお金で遺伝子組換えでない作物に良い環境を提供することはできないのですか。

・遺伝子組換え農作物はどのようなきっかけで開発に取り組むようになったのですか？なぜ、GMO が作られるようになったのか、もととなる技術は何だったのか。

・これから先どのような遺伝子組換えの食品がでるんですか？

・これから新しく開発が期待されている遺伝子組換え農作物はあるかどうか？今日の話聞いて、遺伝子組換えの作物の印象が変わった。

・これから先も遺伝子組換えが必要な食品はあるのですか？

・今後日本において、遺伝子組換え作物が増えることがありますか？

・新しく遺伝子組換え技術を使って作られる作物にはどのようなものがありますか。私たちが食べるものに遺伝子組換えは入ってくるのか？

・今新たに遺伝子組換え食品は開発されているのですか？これからまた増えそうですか？

・遺伝子組換え農作物はこれからもっと増えていくのですか。遺伝子組換え食品は安全性がしっかりしていて、詳しく知れて良かったです。

・遺伝子組換え技術によって、医療、工業、農業などの分野で利用されているとの話を聞いて、もっと、どんどん開発してほしいと思いました。ただ、莫大な研究費がかかるとの事です、国からどのような割合（予算）で援助を受けているんですか。

・食品としての安全性評価で我が国で販売や輸入が認められている遺伝子組換え食品は、現在 7 作物 126 品種となっておりますが、今現在開発途中（栽培試験中）の作物はあるのですか。

・日本が遺伝子組換え農作物を作るのにどれ位のお金がかかるのですか？

・虫に食べられない食べ物は農家には良いかも知れない。だけど、お金とかかかるなら、自分で品種改良している農家も大変なのでは？

・遺伝子組換え食品は普通の農家の人が育てる事ができるんですか？

・土壌微生物による遺伝子組換えができるということだったのですが、どのようにするのですか？

・微生物によって、遺伝子組換え作物が作られるというお話をお聞きしたのですが、実際にどのような過程を経て作られているのかお聞きしたいです。

・遺伝子組換えの過程について詳しく知ることができ良かったと思いました。

・花屋で売っているバラは、たくさん色がありますが、あの色を出しているのは、遺伝子組換えで作られたものなののでしょうか。遺伝子組換えのものを作る際には、植物だったら、種の時点でもう組換えが行われているのか。成長途中から遺伝子（タンパク質）を組み換えることも可能か。

・私は遺伝子組換えをしているものは、ダイズやトウモロコシなど数種類だと思っていましたが、ワタやカーネーションなど 8 作物の 78 品種もの様々なものが作られていることを初めて知り、驚きました。なぜ、日本では、商業栽培されているものは「バラ」のみなのですか。

・日本で商業栽培されているのは「バラ」のみと言われましたが、他の作物も栽培しない

んですか？

・ダイズの GMO の割合が 68%と聞いた。このまま使い続けることによりもとにお品種が
要らなくなると思うが、そのことは議論されていないのか？ もとの品種の遺伝子を残す
努力はされているのか？

表示

・遺伝子組換え技術は品種改良の一つの方法とのことだが、普段私達が食べている米など
には特に表示がなく、遺伝子組換えされた食品にのみ表示があるということは、この 2 つ
には決定的な違いがあるのか。

・日本では表示義務などが決められているが、海外ではどう扱われているのか。

情報

・遺伝子組換え食品という言葉を知ると、何か機械的な物で得体の知れないイメージがあ
ります。それは私だけではなく他の人もそう思っていると思います。このような情報を一
般の人も知る事ができる機会があればいいなと思いました。

・遺伝子組換えの食品は安全性に問題があるものだと思っていたが、違った。しかし、ま
だまだ消費者側は安全性が低いものだと感じていると思うので、より深く理解してもら
う必要があると思った。

・安全かどうかはそれぞれの判断で我々はそのための情報提供をするだけとおっしゃっ
ていたが、誰がどう見ても安全であることが確かでないものを提供していいのだろうかと思
った。

・一般的に今はまだ遺伝子組換えに対する意識は悪いが、これからイメージアップをどの
ようにできるか。本当に安全なのか。

・日本ではこれだけ遺伝子組換え農作物の安全性について騒がれているが、他の国では、
遺伝子組換え農作物はどのように扱われているのかなと思った。

●意見・感想

・遺伝子組換え作物について詳しく知らなかったのが、安全性について不安はありました。
今回お話を聴いて、安全性がしっかりしていることが分かりました。

・遺伝子組換え作物は食品だけではなく、インスリン注射が安くなるなど身の周りの様々
なものに利用されていることがわかり意外だった。

・今日の話を知り、遺伝子組換え技術はさまざまところに使われていて安全性もしっ
かり確認されていることが分かり安心しました。医療でもインスリンの生産などさまざま
な面で遺伝子組換え技術が進んでいるので、もっと活躍して欲しいなと思いました。

・インスリンも遺伝子組換えだということを初めて知りました。これからは害のない程度
に開発して広めていって欲しいです。

・遺伝子組換え作物はずっと幼少の頃から危険なものであると思ってきました。しかし、
橋本先生のお話の中では、食中毒を一人も出していないとのことだったので、本当は危険
なものではないことが分かりました。

・遺伝子組換え農作物に対してはあまり良いイメージを持っていなかったが、期待される
部分が多くメリットがあるものなんだと感じた。

- ・遺伝子組換えというものを今までは何となく悪そうなイメージがあったけれど、今日の話聞いて、安全面にもしっかりと考えてあるものだということが分かりました。
- ・今まで遺伝子組換え食品に対して安心安全の面でなんとなく不安があったが、今回の遺伝子組換え食品についてのお話を聞き、今までの遺伝子組換えに対するイメージが変わりました。
- ・遺伝子組換え作物は安全だとおっしゃっていたので安心しました。
- ・遺伝子組換えで農作物を作る意義やその利用方法などについては、今まで知らなかったことだったので、勉強になりました。遺伝子組換えで作物を作ることは人工的なことなので、自然の中で育った作物がおとってしまうのではないかと思いました。
- ・安全で、問題のないものしか市場に出ていないことを知り、とても安心しました。
- ・今日の講義を聞いて、私はあまり遺伝子組換え農作物について理解できていなかったのだと感じました。遺伝子組換え農作物が実際に承認されて、それが使用されるまでには、色々な検査等を経ていることを知り、私が思っていたよりは安心できるものなのではと思いました。
- ・遺伝子組換え農作物について聞き、初めは体に害を与えるイメージだったが、安全が保障されたものしか流通していないと知ることができ良かったです。
- ・気候などの影響で、作物などが育たない時にでも、きちんと育つように遺伝子組換えをするのは、とても良いことだと思った。安全性はあまりないと思っていたが、きちんと安全が確認されているのなら、もっと推進していても良いのではないかと思った。
- ・今まで深く遺伝子組換えについて考えたことがなく、言葉だけ聞くと難しいし、堅苦しい感じがしていたが、食品安全委員会や厚生労働省による審査を受けていて従来の食品と同じように食べても安全だと知れたので良かったです。
- ・遺伝子組換え農作物について勉強できて良かったです。
- ・"遺伝子組換え"とつく安全ではないのではないかと思っていたけれど、安全が確認されているものしか市場には出ないというので安心しました。
- ・以前は、遺伝子組換え農作物が危険だと思っていましたが、安全なのだとわかりました。
- ・遺伝子組換え農作物と聞くと、"危険な物"というイメージが強いですが、安全を確保する仕組みとして①カルタヘナ法②食品安全基本法、食品衛生法③飼料安全法、食品安全基本法などに基づいて全てについて問題がないもののみが栽培・流通していると分かりました。ただ、危険な物ではなく、安全が保障された物だけが、日本で販売されているという事で、遺伝子組換えに対するイメージが大きく変わりました。
- ・遺伝子組換え農作物と聞くと、何となく危ないものなのではないかという感じがしていたが、今日のお話を聞いて、遺伝子組換え農作物は安全面に配慮して、必要なものでしか作らないということを知り、少し安心した。
- ・今まで、遺伝子組換えのものは、危険性が高いというイメージが強かったのですが、安全性が確認されたものだけ使用が認める仕組みがあると知って安心しました。ですが、「遺伝子組換え」のものが主流になるまでは、「遺伝子組換えでない」ものを選んでしまうだろうと感じました。
- ・遺伝子組換え農作物への理解が深まりました。わざわざありがとうございました。

「遺伝子組換え」という言葉を最近よく見るが、講義を聞く前は、危険なものだと間違っていた。講義を聞いて、私達が安全に対する知識などをよく取り入れて危険を防止する食材選びに努めることが大事だと感じた。

・遺伝子組換えは幅広い生物種の中から育種目的とする遺伝子を導入して、育種目的に対応した遺伝子を導入し個体を作り出すのでとても良い方法だと思いました。遺伝子組換えについてはちょっと危険だというイメージだったけど、安全面にすごく慎重で、ヒトの体に悪影響を及ぼさないということだったので、少し安心しました。今後の日本の遺伝子組換えに期待したいです。

・今まで遺伝子組換え食品は体や生態系に悪影響を及ぼすものであると思っていましたが、検査により悪影響のないものが製品化されているということがわかりました。

・遺伝子組換え技術は食料問題やバイオ燃料など問題解決に深くつながると思う。

・農作物の生産性を高めるためにも、コスト削減もためにも遺伝子組換え技術の必要性は理解できたが、安全であるという根拠はどこから来るのか、いまいち分からなかった。やはり人工的に作っている物なので、このまま作り続けることが生態的にも人的にもどのような影響を及ぼすのか心配だ。

・遺伝子組換え作物が承認されるには、大変なことを知った。今は、遺伝子組換え作物について影響はないが、後々何か起きるのではないかと心配に思う。人間に都合の良いように自然を変えていくことはどうなんだろうと思った。日本の規制が厳しくても世界の国々が栽培していたら意味がないのではないかと感じた。

第 51 回（名古屋市中区）

日 時：平成 23 年 2 月 18 日（金） 13:00～16:00

場 所：ニチエイ調理専門学校（名古屋市中区）

主催者：ニチエイ調理専門学校

参加者：ニチエイ調理専門学校調理師科学生 23 名、教職員 1 名 合計 24 名

情報提供者：農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室

課長補佐 小松 晃

係長 飛鳥 武昭

オブザーバ：東海農政局消費・安全部消費生活課

課長補佐 半崎 修

消費経済係長 川北真佐子

食品情報係長 嘉住 道明

安全管理課 生産安全係長 伊藤 徹

生産経営流通部農産課 農政調整官 深堀 敏

事務局：（社）農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部

高野、鈴木、田淵

概 要：

はじめに、主催者のニチエイ調理専門学校小林正典教務部長から開催挨拶および本会合の意義が述べられた。

次に事務局から DNA、遺伝子についての易しい解説があり、事務局の指導のもと参加者全員が 3 グループに分かれてブロッコリーからの DNA 抽出実験を行い、DNA や遺伝子に対する理解を深めた。

その後、事務局の司会で農林水産省担当官から「遺伝子組換え農作物について」情報提供を 50 分間にわたって行った。

続いて、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物などについて、全員に配布した質問票を用い質問・意見交換を行った。質問票に基づき学生から質問を受け、情報提供者が回答していった。学生たちも活発で熱心なコミュニケーションを行った。質疑応答時間は 50 分であった。

質問用紙は回収し、また、開始前と終了後にアンケート調査を実施した。



DNA抽出実験



コミュニケーション

以下、主な質問と意見・感想

名古屋市（13枚回収）

●質問

安全性

- ・遺伝子組換え食品を食べても何かの影響はありますか？
- ・遺伝子組換え食品の摂取することで、自分の身体に何らかの耐性がつく？あるいは、今まで耐性があつたものがくずれてゆく？ということはないか。つまり、自分自身の DNA に及ぼす影響、子孫（人類）に対する悪影響がないのか？ これらのことを考えると、心配で、GMO 利用食品は食べたくないとおもうし、健康はお金にはかえられない。
- ・遺伝子組換え作物と従来の作物の相違点で体内への悪影響がないかどうかの判断は、どのような実験等で行われているのか？
- ・人体実験は？ 具体的な影響は？
- ・胃液や腸液で分解するというが、病気の人はどうなる？
- ・アレルギー誘発性などに対する評価はどのように行われているのですか？どのようなチームで何種類ぐらいのものを？人体実験をされているのですか？
- ・長期的に遺伝子組換え農作物を食べることによって、体にでる影響や自分に出なくても子どもに出る影響はないのか？
- ・Bt コーン等、害虫（ガ）に影響があるタンパク質が人には受容体がないため、消化・分解され影響がないというお話でしたが、長期的または GM 農作物を摂取した他の生物によって、生物濃縮のようにめぐりめぐってくる可能性はないのでしょうか？
- ・安全性の確認には、今後何十年もかかると言われていますが、継続的な研究はどの位の予算でされているのですか？
- ・動物実験で遺伝子組換え食品を餌として利用して研究がされているのでしょうか？
- ・「カルタヘナ法」のカルタヘナとはどういう意味ですか？

技術、実態

- ・遺伝子組換え技術は世界各国で導入されているのか？
- ・中国は農薬の問題が多いですが、遺伝子組換え技術は進んでいないのですか？
- ・今現在、遺伝子組換え食品・農作物はどのくらいあるのですか？
- ・国内で承認されなかった GM 作物はあるのですか？
- ・遺伝子組換え商品が流通されるようになって何年くらいですか。現在承認はされていないけど、遺伝子組換えの研究が進んでいる作物はどれ位ありますか。
- ・低アレルギー化された作物は実用化されているのですか。
- ・遺伝子組換え作物はコストが低いと考えていいのですか。
- ・DNA に味はあるのか？あるとすればどんな味がするか？
- ・排泄物からも DNA は採種できるのか？犯罪捜査に活用？
- ・植物の遺伝子（DNA）を動物の遺伝子（DNA）を強制的にかけ合わせることはできるのか？可能だとすればどうなるのか？唾液胃腸内で消化される。
- ・DNA いつからあるのですか。遺伝子組換えで人間はできますか。
- ・DNA はいつ誰が発見したのか？
- ・遺伝子組換えとクローンの違いについて。

表示

- ・ 5%以下の意図せざる混入を認めているという根拠は、こういった判断で決めたのか？
- ・ 海外の表示は？アメリカが1番進んでいるのですか？
- ・ 加工食品における組換え食品の表示が5%未満は表示義務がない・・・これでは食べたくない、という選択ができているとはいえない。表示義務はもっと厳しい方がいいのでは？
- ・ 5%までは混入を認めているとの事でしたが、それはおかしいと思う。何だかだまされている感があるので、0.0001%でも混入していることを明記するのが信頼につながると思う。国も引け目があるから隠しているのではないかと思ってしまうのですが。

情報

- ・ 遺伝子組換え農作物のイメージアップはしないのか？
- ・ 遺伝子組換えによって病気がない作物が作られるようになった時に、すべて完璧なものばかりになって、食育の面からみて、食物の良い面、悪い面すらわからなくなってしまうのでは？
- ・ どうしてブロッコリーで抽出実験をしたのですか？

●意見

- ・ 遺伝子組換え食品でない食品がこの世からなくなることがあるかも。自然に任せればよい。生産性、利便性を優先するあまり大切な事を忘れていないか。

(4) アンケート調査結果のまとめ

ア 小規模コミュニケーションにおけるアンケート調査

- ① 小規模コミュニケーションに参加した者（参加者合計 2,338 人）に対し、会場においてアンケート用紙を配布し、開始前及び終了後にアンケート調査を実施した。その結果、2,172 人から回答を得た。（回収率 93%）

男女比は 1 対 5.6、参加者の年齢では 20 才代がもっとも多く 24%、次いで 60 才代、40 才代、50 才代、70 才以上、30 才代、20 才以下（5%）の順であった。「DNA抽出実験」（33 ヲ所）と情報提供（主に農林水産省）の後、グループ討論方式（デルファイ法、11 ヲ所）あるいは質問用紙方式（40 ヲ所）で参加者から質問・意見を集め、情報提供者等から回答やコメントを行った。

アンケート結果は、全体、各回毎の他、実施対象を属性別に以下の 4 グループに分類してまとめ、分析した。

グループⅠ（10 件、アンケート回答者数 614 人）：大学、短期大学等

グループⅡ（4 件、アンケート回答者数 402 人）：管理栄養士等

グループⅢ（11 件、アンケート回答者数 278 人）：生協

グループⅣ（26 件、アンケート回答者数 878 人）：その他（消費者団体等）

- ② 遺伝子組換え農作物・食品についての情報について、「良く接する」あるいは「時々接する」との回答は、グループⅢが 64%と最も高く、ⅠとⅣも 50%以上であったのに対し、Ⅱは 32%で他のグループに比べ極めて低く、全体では 50%であった。
- ③ 情報提供に対し、「分かりやすかった」あるいは「どちらかというと分かりやすかった」との回答は、各グループとも 80%以上で、全体で 87%であった。
- ④ 遺伝子組換え農作物に関し「大量に輸入され利用されていること」、「安全性が厳格に審査されていること」及び「開発研究が行われていること」を知っているとの回答は、グループⅢが最も高く、次いでⅣ、Ⅰ、Ⅱの順であった。全体では 1 番目の質問に対して知っているとしたのが 77%、2 番目が 62%、そして 3 番目は 70%であった。
- ⑤ コミュニケーションに対し、「積極的に行うべきである」との回答は、いずれのグループとも 60%以上で、特にグループⅢ（生協）は 87%と最も高く特徴的であった。全体では 77%であった。
- ⑥ コミュニケーション開始前及び終了後における意識調査を以下の項目に

関して行った。

・遺伝子組換え農作物・食品に対し、「安全と思う」あるいは「どちらかといえば安全だと思う」との回答は、全体では開始前 30%弱であったのが、終了後では 63%に増大した。

・遺伝子組換え農作物は「食糧供給にとって必要か」及び「畜産業・食品産業にとって必要か」との問に、「必要」あるいは「どちらかといえば必要」との回答は、全体で開始前約 40%、終了後には 65%強に増大した。

・日本で遺伝子組換え農作物を商業栽培することに対しては、「賛成」あるいは「どちらかといえば賛成」が全体で、開始前 22%が終了後には 50%となった。

(ア) アンケート調査票

開始前用

平成 年 月 日、実施場所

「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション」アンケート

コミュニケーションのご参加にあたり、あなたの感想・意見をお聞かせ下さい。

ご記入頂いた内容については、今後のコミュニケーション活動の効果的な実施を図るための参考とさせていただきます。

アンケートは、お手数ですがコミュニケーション開始前と終了後にそれぞれご記入願います。

● 最初にあなたに関して教えてください。該当項目を○で囲んでください。

○ 性別 男 女

○ 年齢 (20才未満 20代 30代 40代 50代 60代 70才以上)

○ あなたの職業は：(下記の該当するものから選んで下さい。複数でもかまいません。)

教育関係者(小、中、高、大学、その他)、**地方公務員**、**学生**(中、高、大学、その他)、**管理栄養士**、**栄養士**、**調理師・調理員**、**食品製造・加工業者**、**食品流通業者**、**農協関係**、**生産者**(農業、畜産、その他)、**生協**(会員、役職員)、**消費者・市民団体**(会員、役職員)、**マスメディア関係者**、**団体職員**、**国家公務員**、**研究機関**(民間、独法、県、その他)、**主婦・無職**、**その他**(具体的に：)

1. あなたは遺伝子組換え農作物・食品についての情報に接する機会がありますか？

ア. よく接する

イ. 時々接する

ウ. ほとんど接しない

エ. 接しない

2. 遺伝子組換え農作物・食品の安全性について、あなたの印象は次のどれに当てはまりますか？

ア. 安全だと思う

イ. どちらかといえば安全だと思う

ウ. どちらともいえない

エ. どちらかといえば危険だと思う

オ. 危険だと思う

3. あなたは遺伝子組換え農作物は、日本の食料供給にとって必要だと思いますか？

ア. 必要だと思う

イ. どちらかといえば必要だと思う

ウ. どちらともいえない

エ. どちらかといえば必要だとは思わない

オ. 必要だとは思わない

4. あなたは遺伝子組換え農作物は、日本の畜産業にとって必要だと思いますか？

ア. 必要だと思う

イ. どちらかといえば必要だと思う

ウ. どちらともいえない

エ. どちらかといえば必要だとは思わない

オ. 必要だとは思わない

5. あなたは日本で遺伝子組換え農作物を商業的に販売する目的などで、本格的に栽培することに関してどのように感じますか？

ア. 賛成

イ. どちらかといえば賛成

ウ. どちらともいえない

エ. どちらかといえば反対

オ. 反対

「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション」アンケート

今日の「遺伝子組換え農作物」に関する話をお聞きになり、あなたはどのように感じられたかお聞かせいただければ幸いです。

1. 今日のコミュニケーションにおける情報提供の内容は、あなたにとって分かりやすかったでしょうか？

ア. 分かりやすかった

イ. どちらかといえば分かった

ウ. どちらともいえない

エ. どちらかといえば分からなかった

オ. 分からなかった

2. 今日の話を聞いて、あなたにとって特に有意義に感じた点や、感想などありましたらお書き下さい。

[]

3. 遺伝子組換え農作物が日本に大量に輸入され、飼料・食品などに利用されているという今日の話は、あなたにとって初めて聞く話でしたか？

ア. すでに知っていた

イ. ある程度知っていた

ウ. 初めて知った

4. 国内に流通している遺伝子組換え農作物は、安全性が厳格に審査され、安全性が確認されたものだけが流通しているという今日の話は、あなたにとって初めて聞く話でしたか？

ア. すでに知っていた

イ. ある程度知っていた

ウ. 初めて知った

5. 国内において遺伝子組換え作物の研究開発が行われているという今日の話は、あなたにとって初めて聞く話でしたか？

ア. すでに知っていた

イ. ある程度知っていた

ウ. 初めて知った

6. 今日の話を聞いて、あなたの遺伝子組換え農作物・食品に対する印象をお聞かせ下さい。

ア. 安全だと思った

イ. どちらかといえば安全だと思った

ウ. どちらともいえない

エ. どちらかといえば危険だと思った

オ. 危険だと思った

平成 年 月 日、実施場所

7. あなたは今日の話聞いて、遺伝子組換え農作物は、日本の食料供給にとって必要だと思いませんか？

ア. 必要だと思った

イ. どちらかといえば必要だと思った

ウ. どちらともいえない

エ. どちらかといえば必要だとは思わなかった

オ. 必要だとは思わなかった

8. あなたは今日の話聞いて、遺伝子組換え農作物は日本の畜産業にとって必要だと思いませんか？

ア. 必要だと思った

イ. どちらかといえば必要だと思った

ウ. どちらともいえない

エ. どちらかといえば必要だとは思わなかった

オ. 必要だとは思わなかった

9. あなたは今日の話聞いて、今後、日本でも遺伝子組換え農作物を商業栽培することに関して賛成ですか、反対ですか？

ア. 賛成である

イ. どちらかといえば賛成である

ウ. どちらともいえない

エ. どちらかといえば反対である

オ. 反対である

10. 今日のコミュニケーションを通して、あなたにとって遺伝子組換え農作物に関する見方が変わった点がありましたらお書き下さい。

[]

11. あなたは農林水産省が、今日のような遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション活動を行うことに関してどのように感じましたか？

ア. 積極的に行うべき

イ. どちらともいえない

ウ. 行うべきでない

12. 今後、遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション活動で、提供を希望する情報などございましたらお書き下さい。

[]

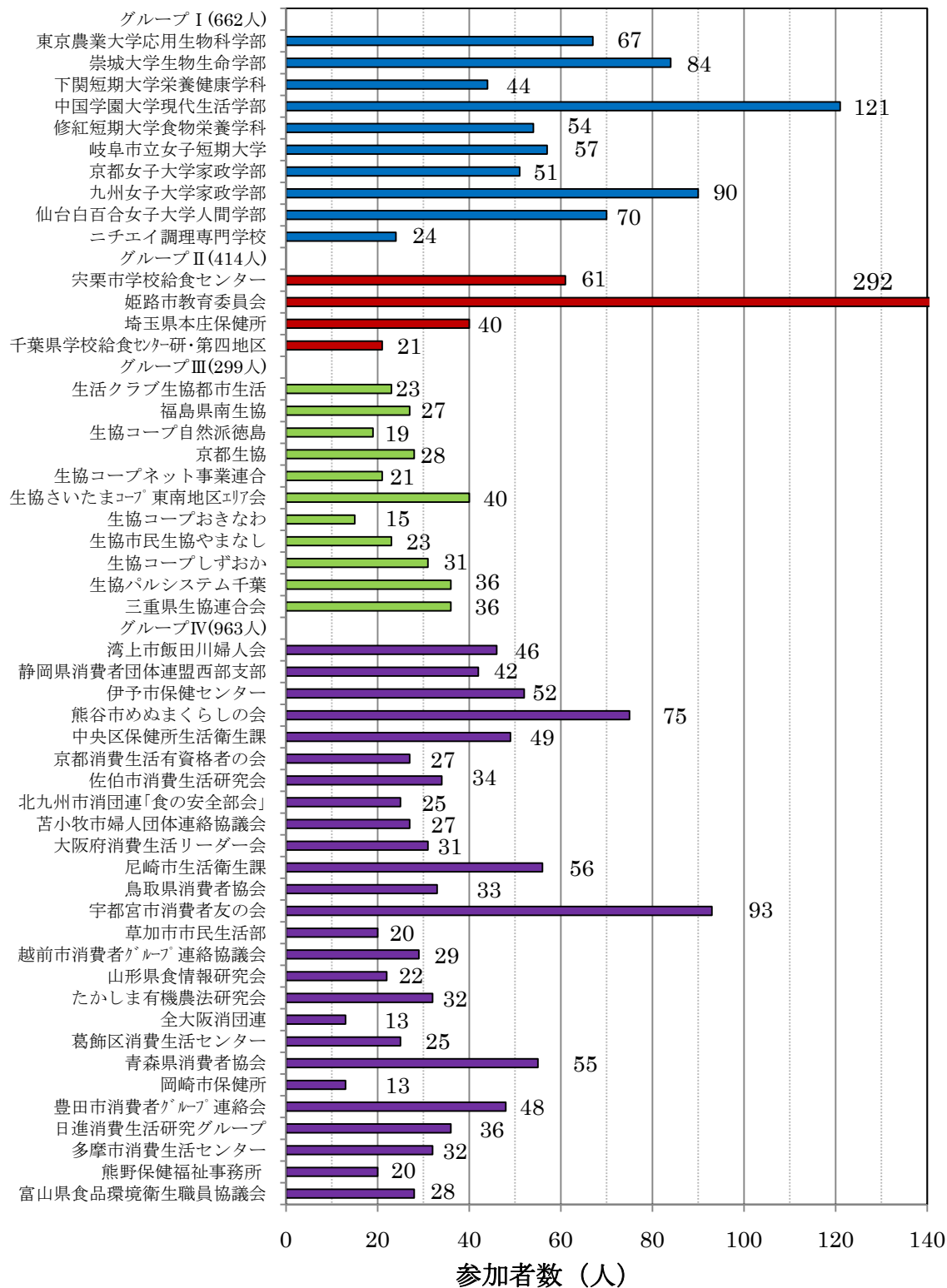
* ご協力ありがとうございました。

農林水産省 農林水産技術会議事務局

(イ) 小規模コミュニケーションにおけるアンケートの結果

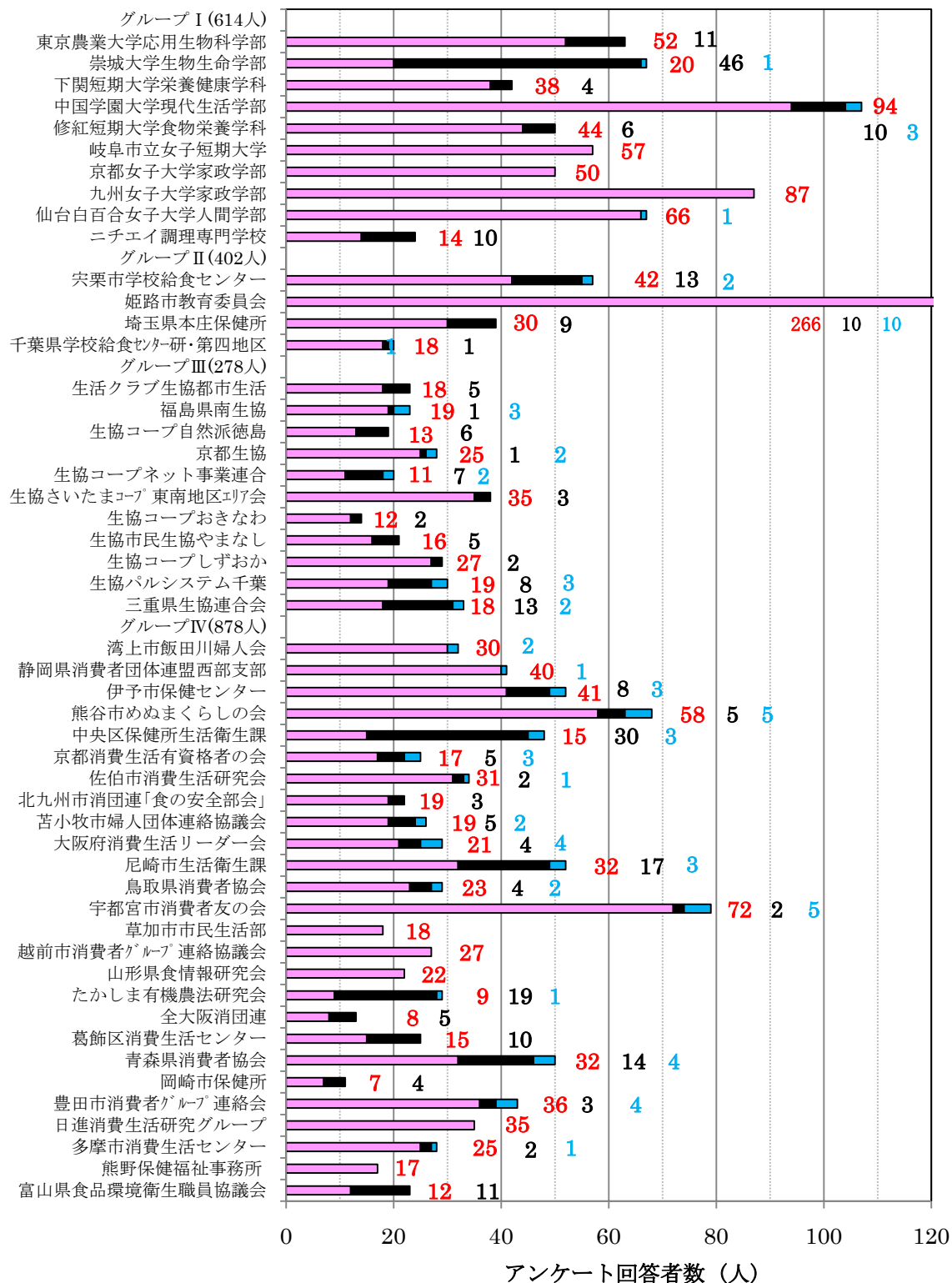
① 基礎データ

i) 実施場所ごとの参加人数 (参加者総数: 2,338人)



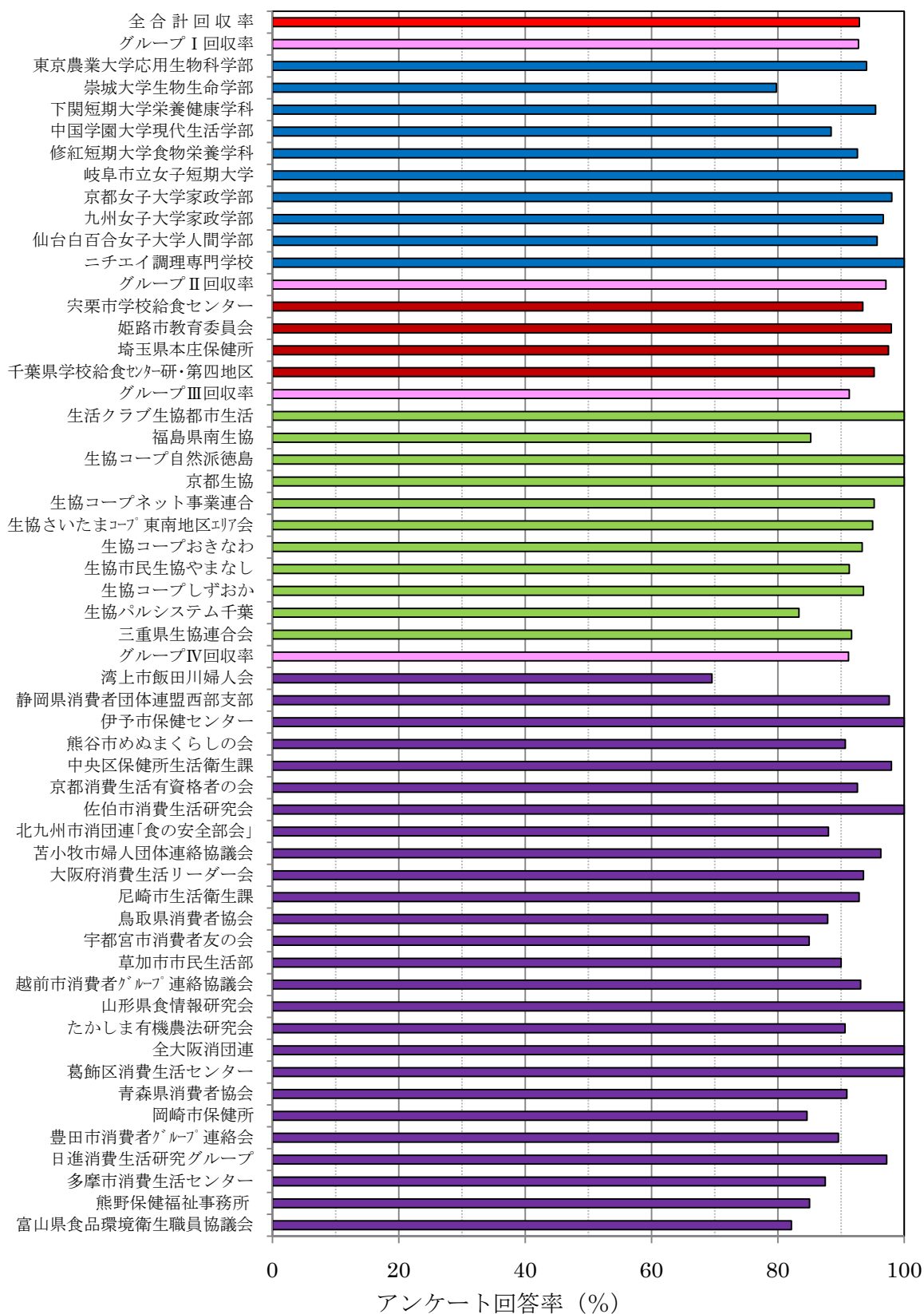
ii) アンケート回答者の男女数 (男女比: 女性 5.4 対男性 1)

アンケート回答者総数: 2,172 人



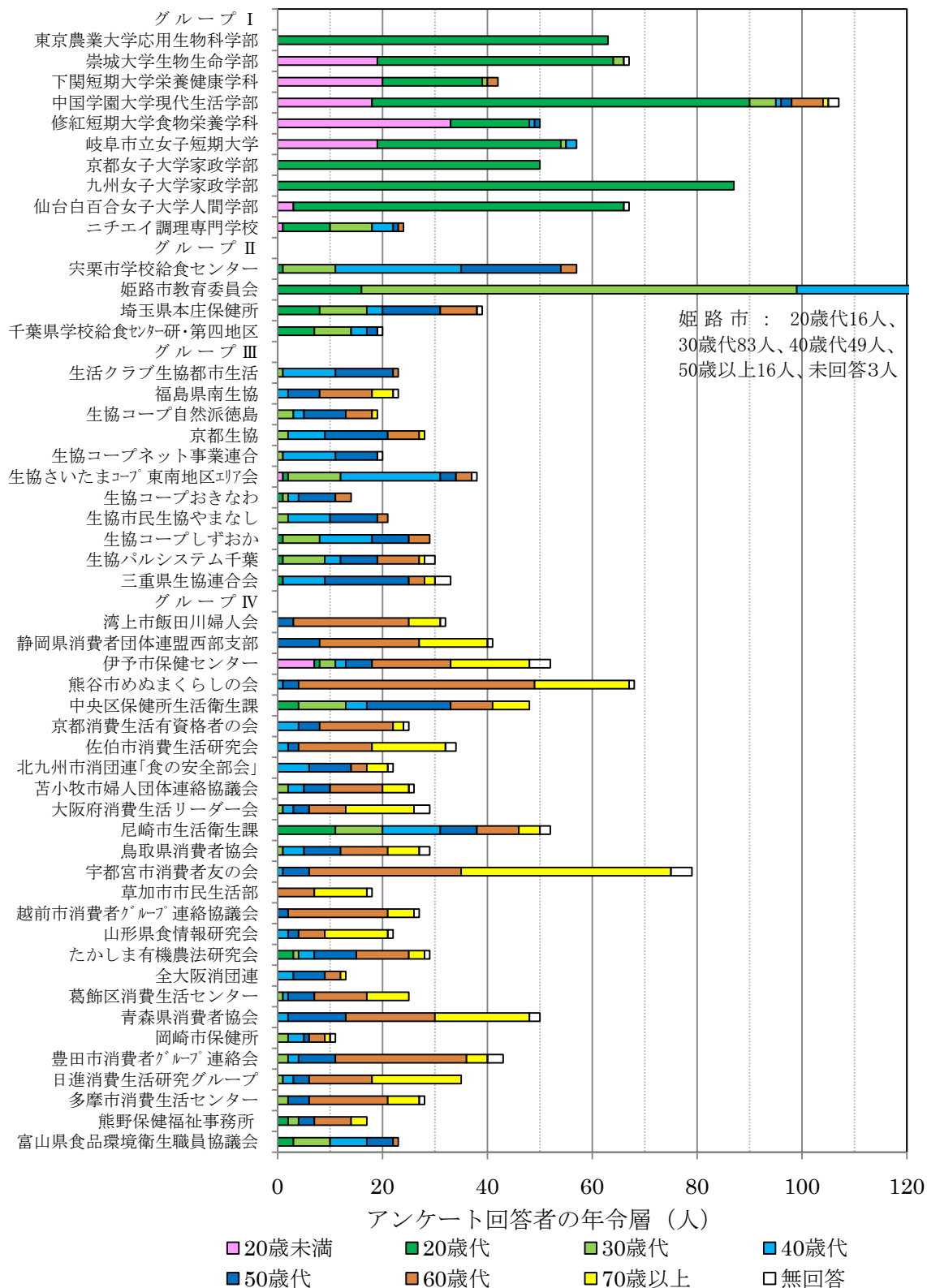
回答者数合計(2,172人) : ■女性(1,772人) ■男性(326人) ■無記名(74人)

iii) アンケート回収率

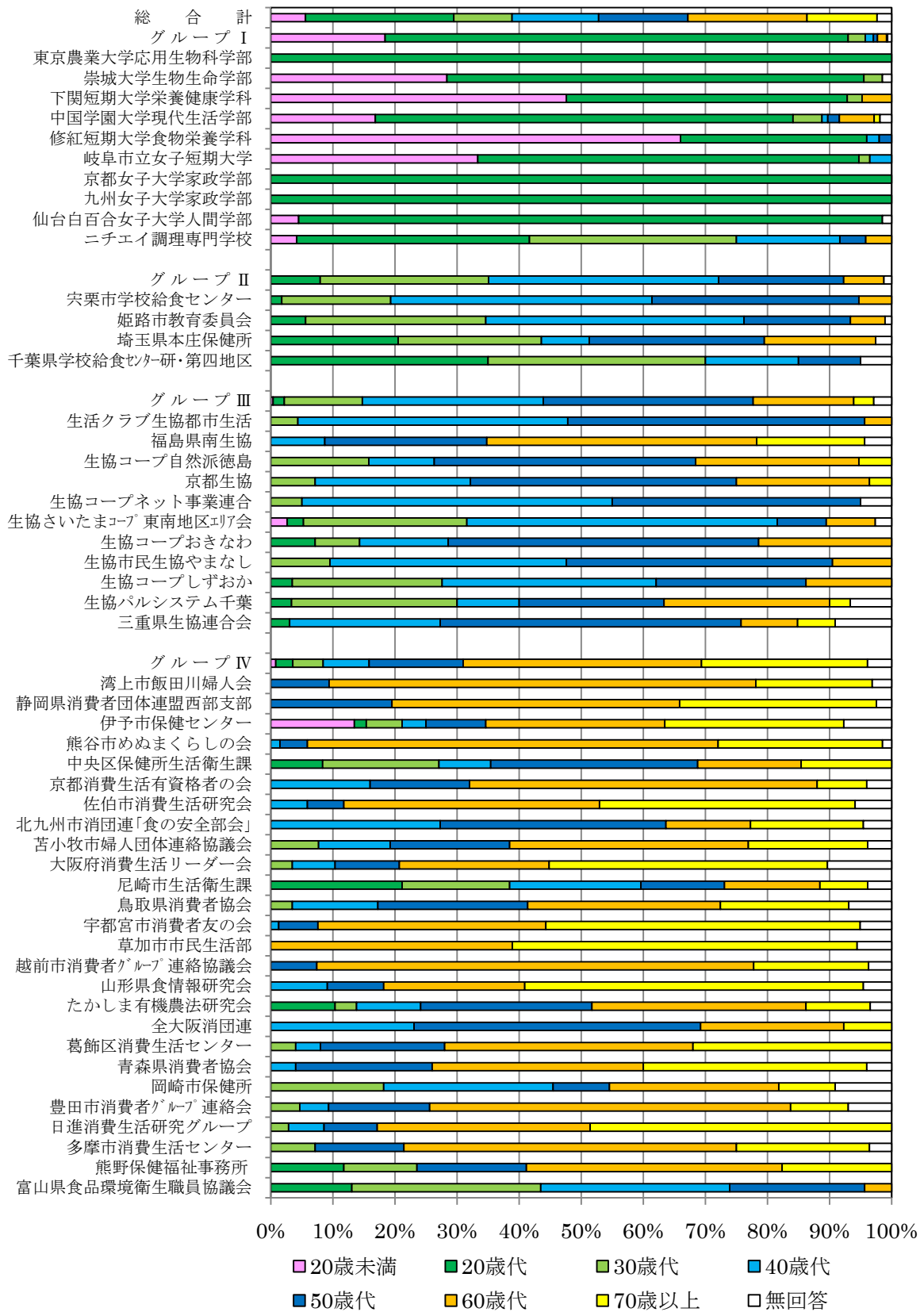


iv) アンケート回答者の年令層

実施場所毎のアンケート回答者の年令層。

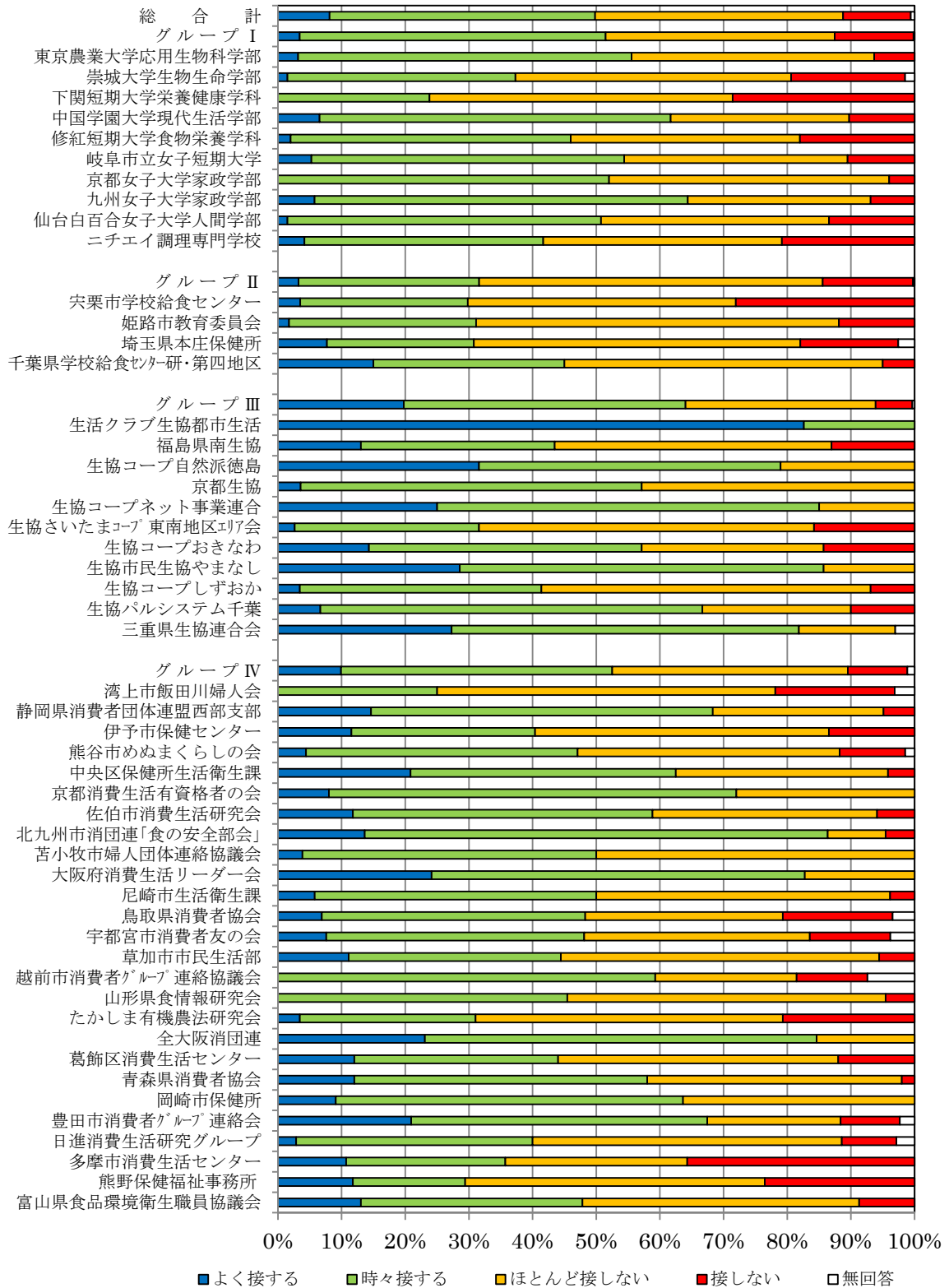


v) アンケート回答者の年齢層比率

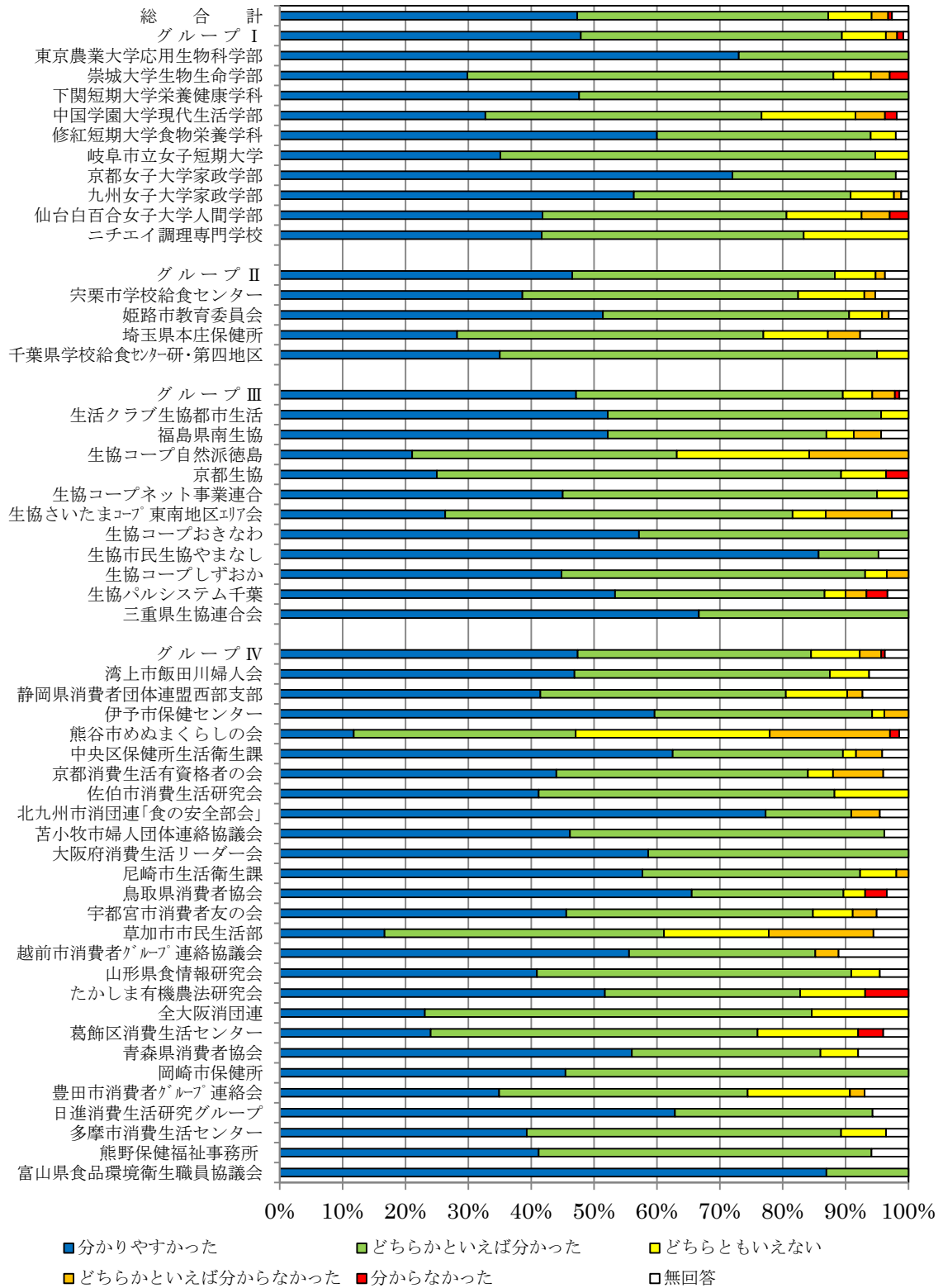


② 単独質問に対する回答

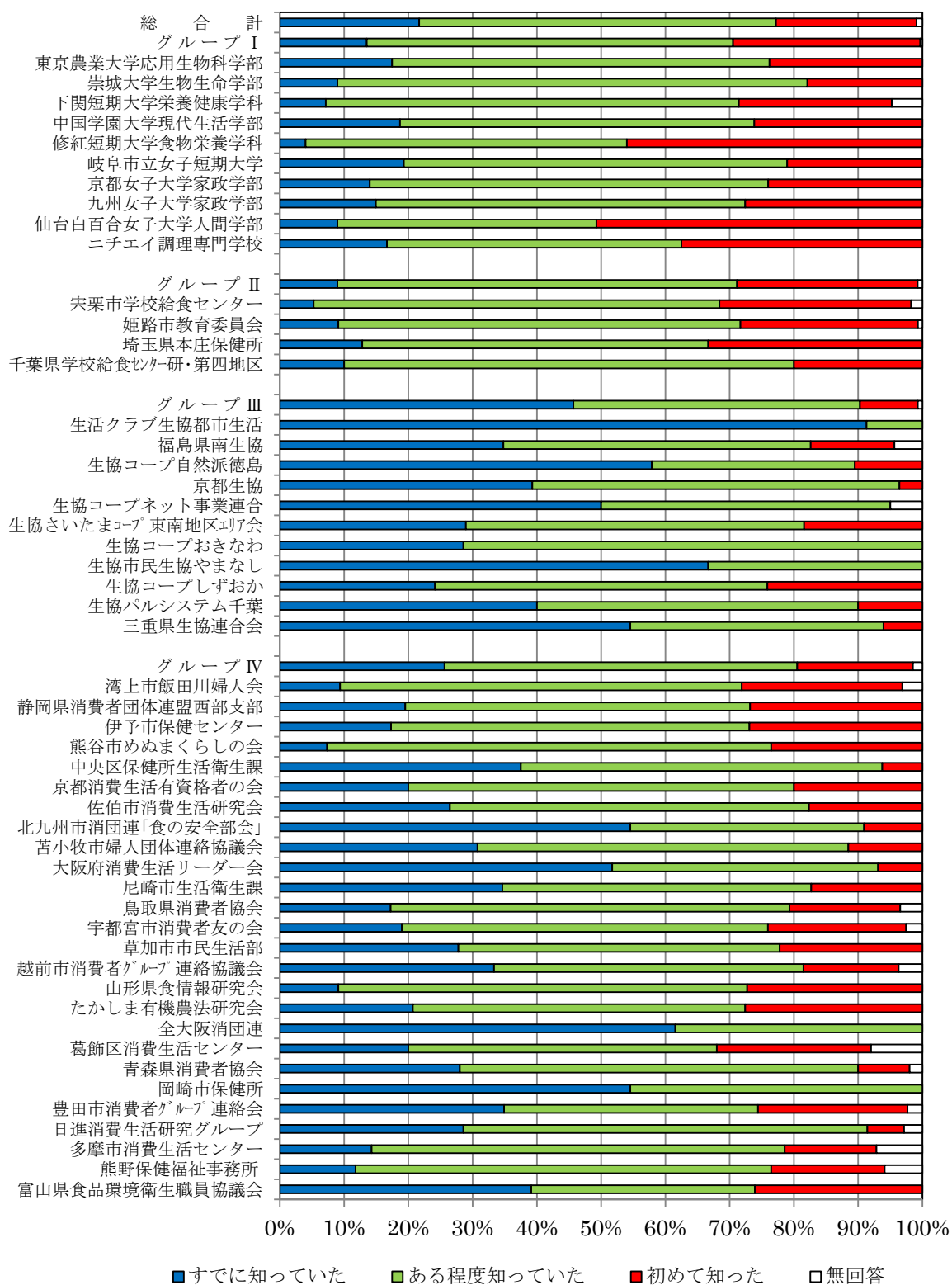
i) 単独質問1：あなたは遺伝子組換え農作物・食品についての情報に接する機会がありますか？(開始前質問1)



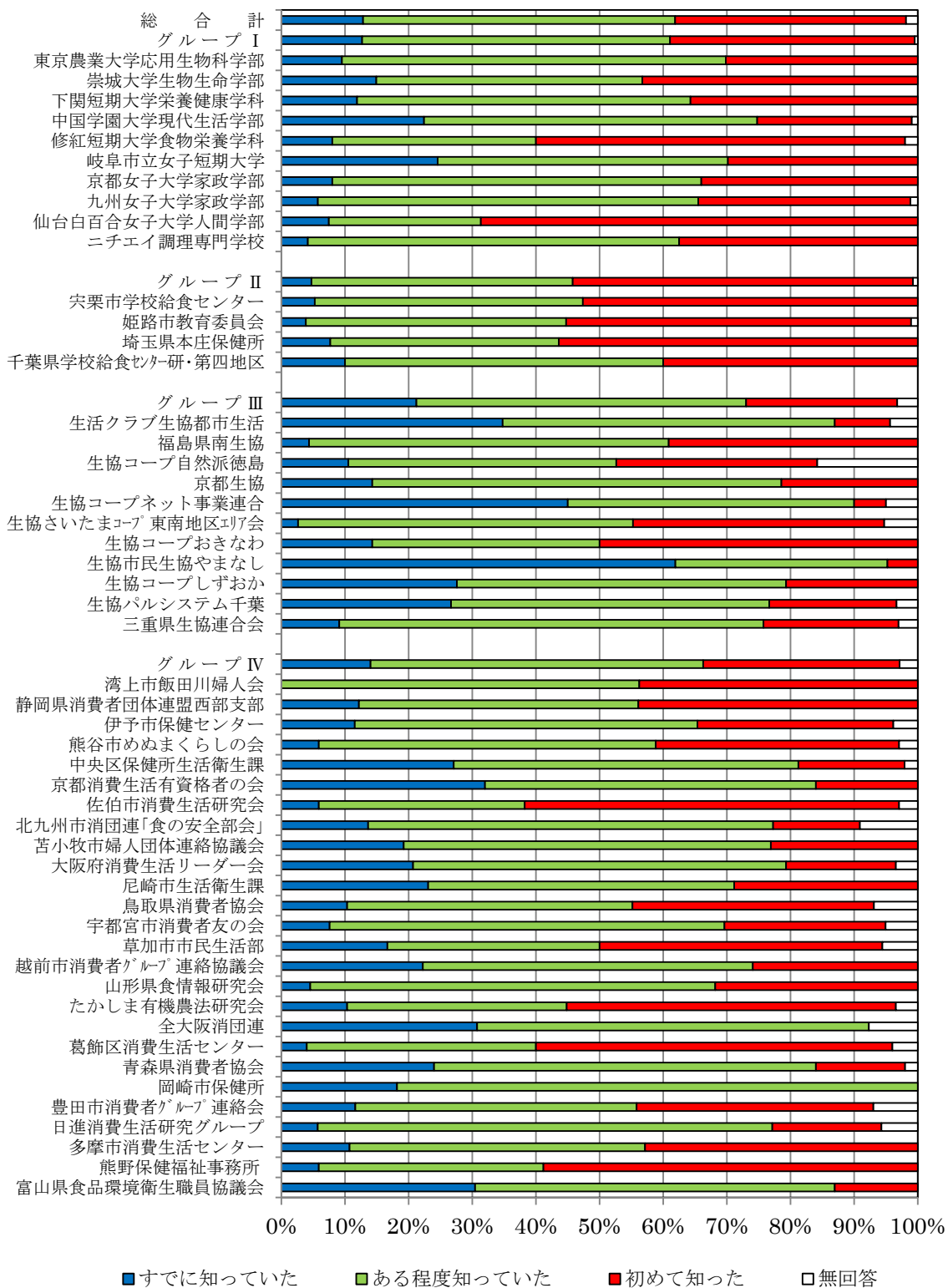
ii) 単独質問2：今日のコミュニケーションにおける情報提供の内容は、
あなたにとって分かり易かったでしょうか？
(終了後質問1)



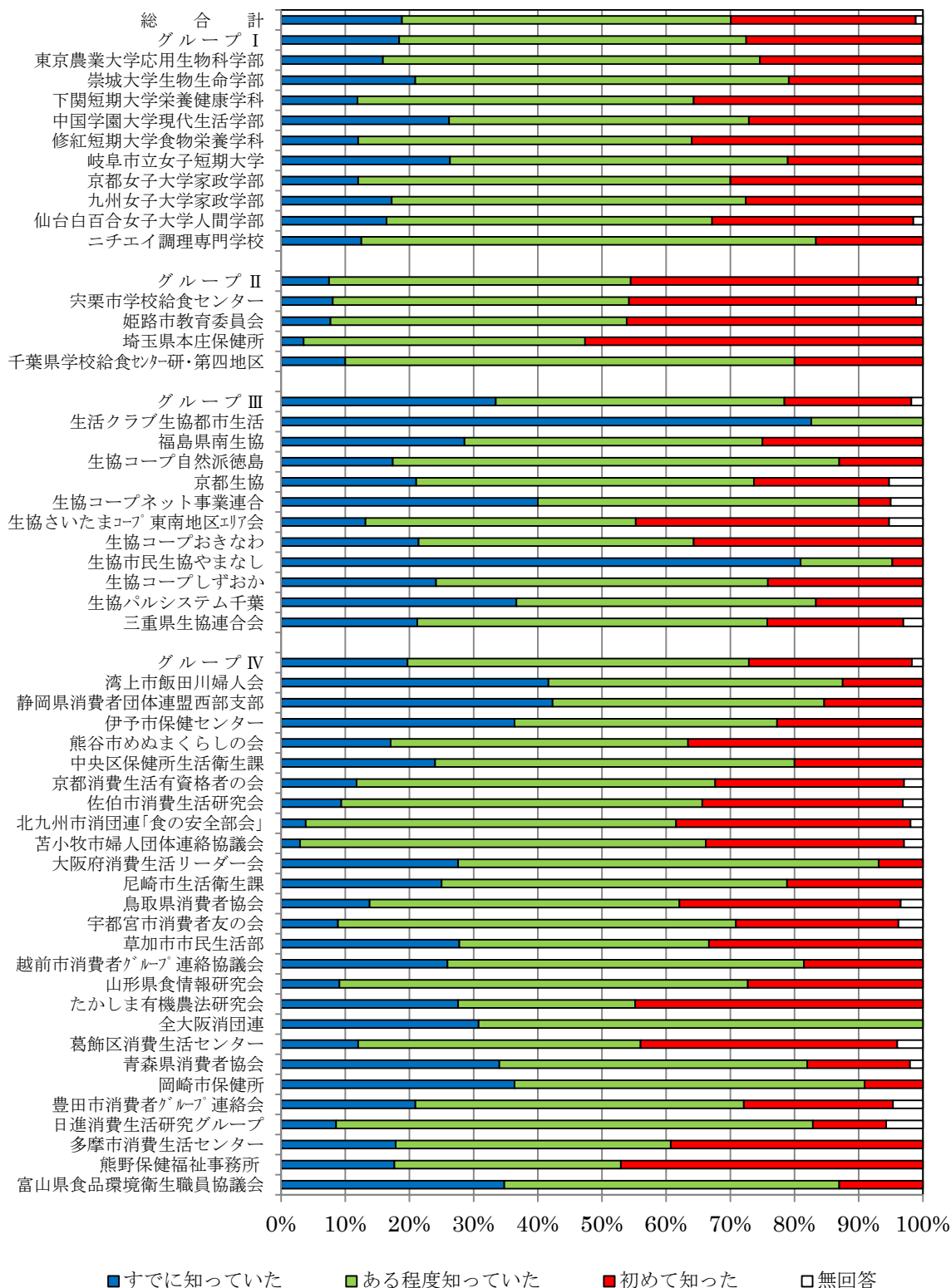
iii) 単独質問3：遺伝子組換え農作物が日本大量に輸入され、飼料・食品等に利用されているという今日の話は初めて聞く話でしたか？
(終了後質問3)



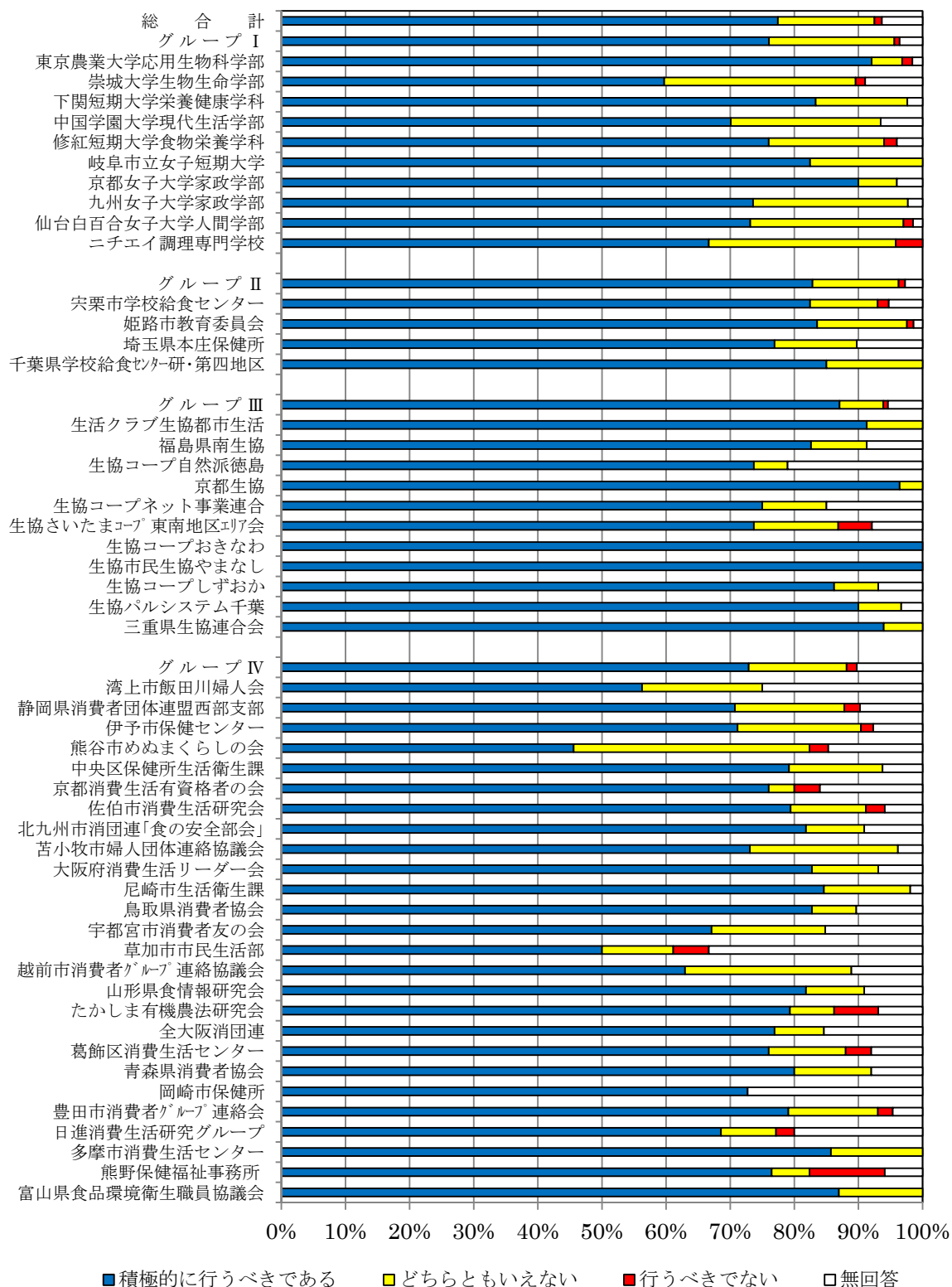
iv) 単独質問3：国内に流通している遺伝子組換え農作物は、安全性が厳格に審査され、安全性が確認されたものだけが流通しているという今日の話は、あなたにとって初めて聞く話でしたか？（終了後質問4）



v) 単独質問4：国内において遺伝子組換え作物の開発研究が行われている
 という今日の話は、あなたにとって初めて聞く話でしたか？
 (終了後質問5)



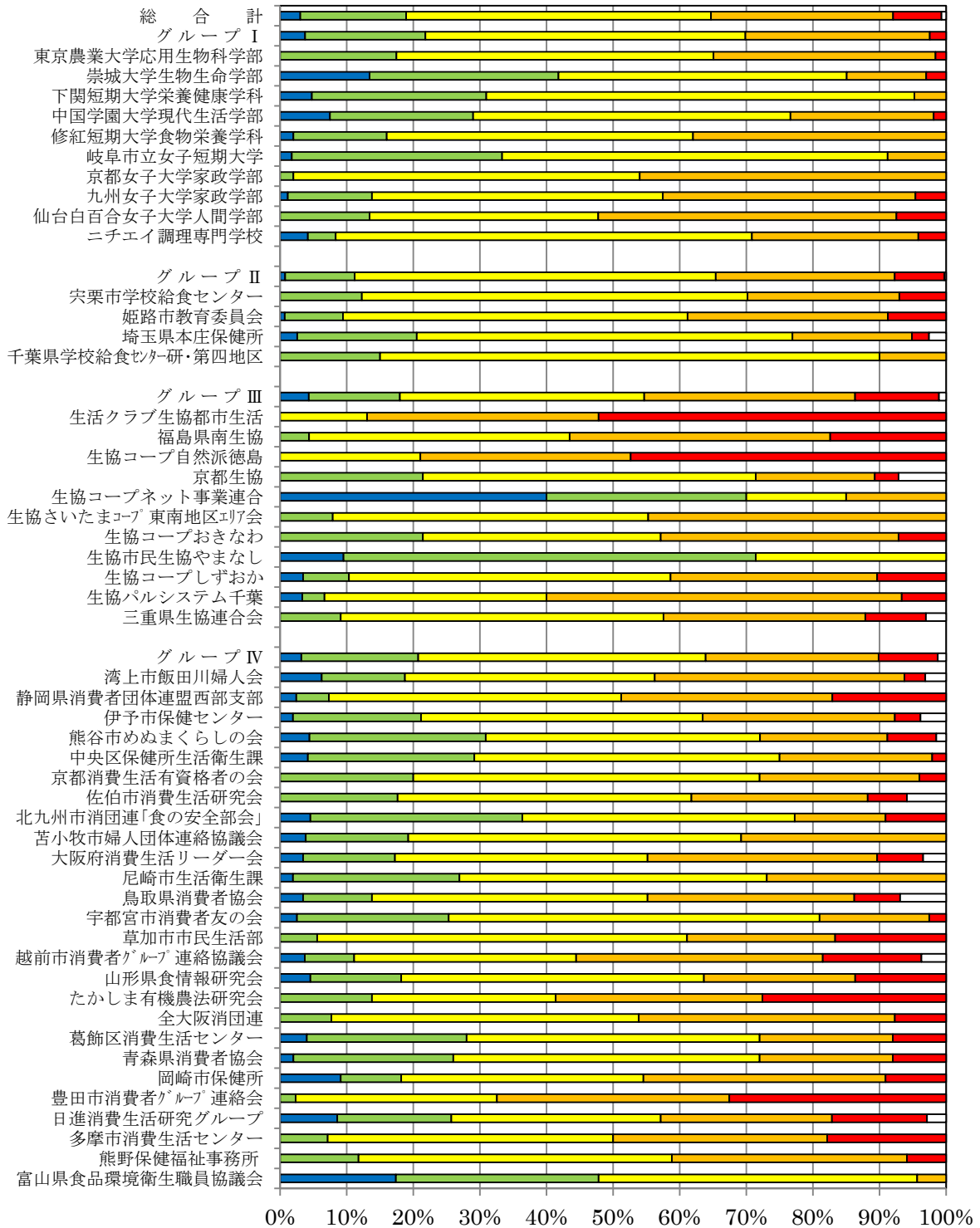
vi) 単独質問5：あなたは農林水産省が、今日のような遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション活動を行うことに関してどのように感じましたか？（終了後質問11）



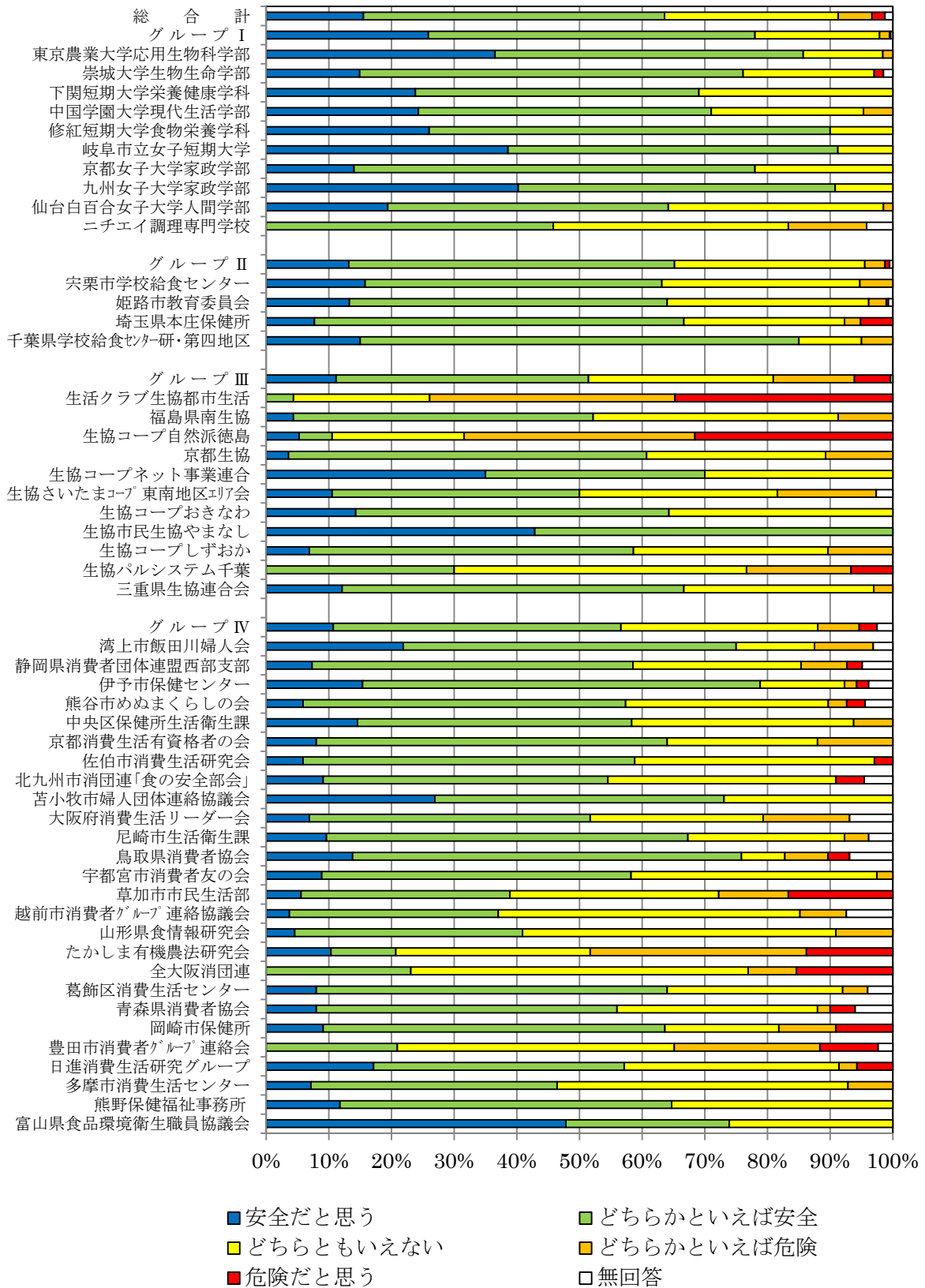
③ 開始前と終了後における同一質問に対する回答

i) 同一質問1：あなたは遺伝子組換え農作物・食品の安全性について、
どのように思いますか？

(開始前質問2)

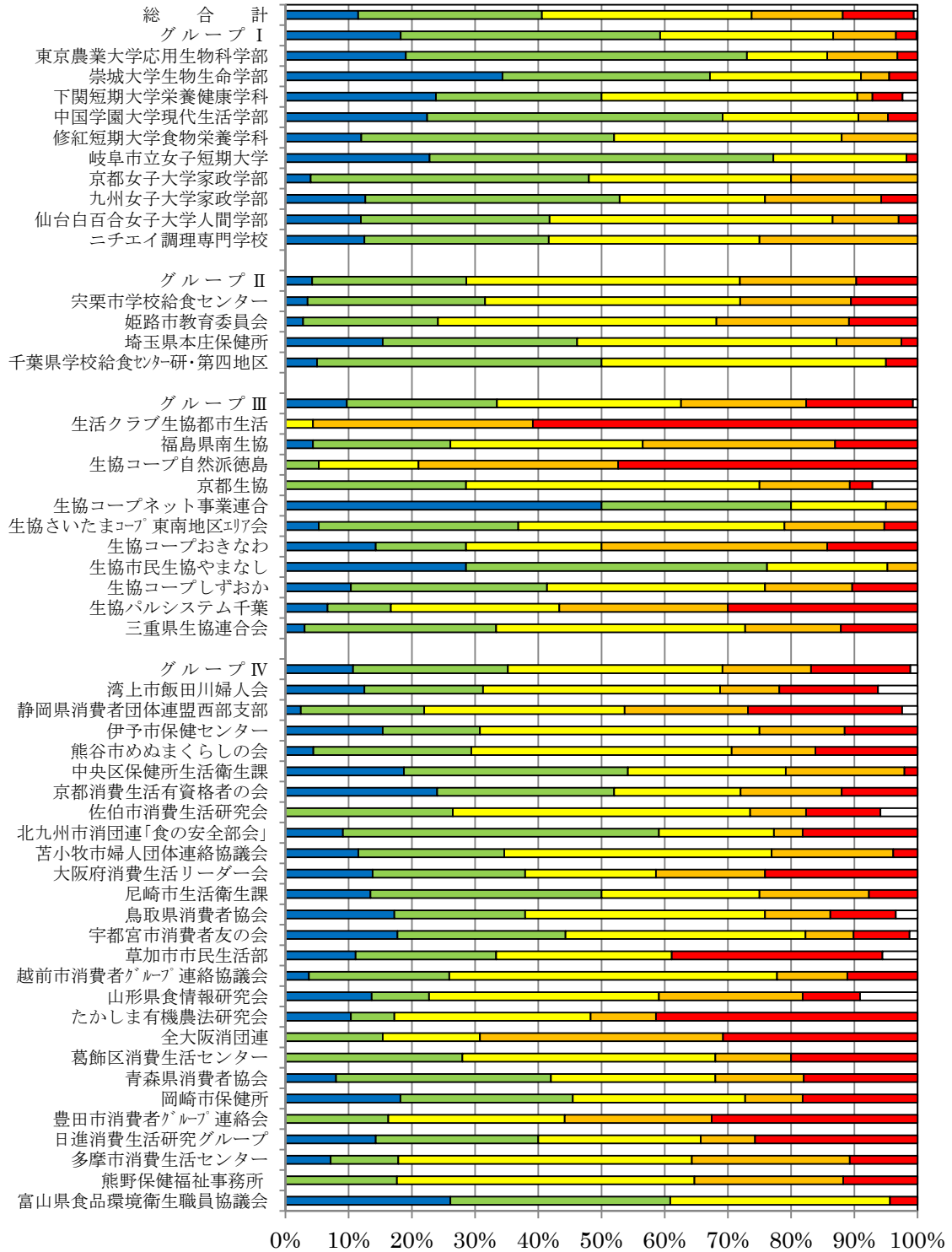


(終了後質問6)

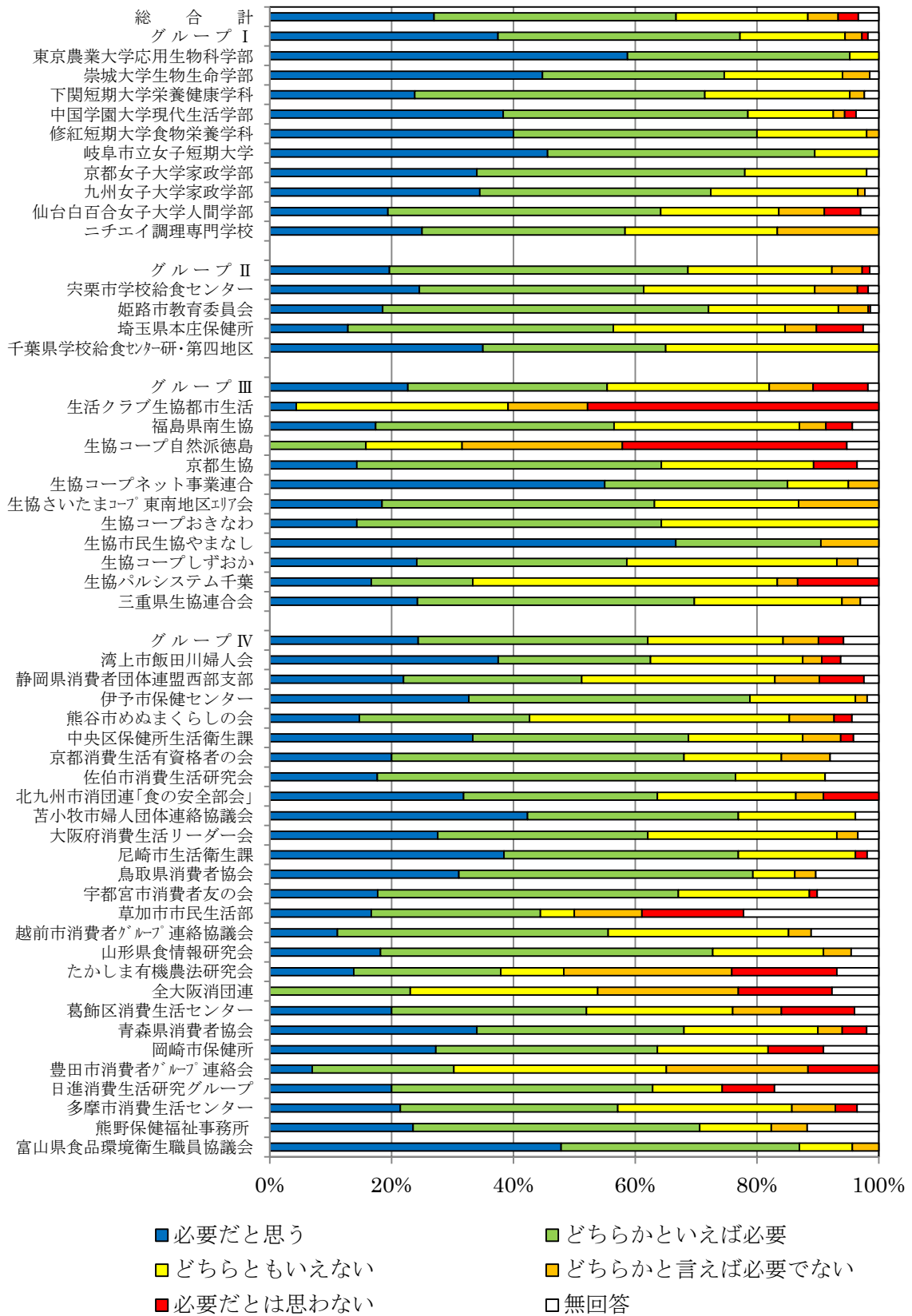


ii) 同一質問2：あなたは遺伝子組換え農作物は、日本の食糧供給にとって必要だと思いますか？

(開始前質問3)

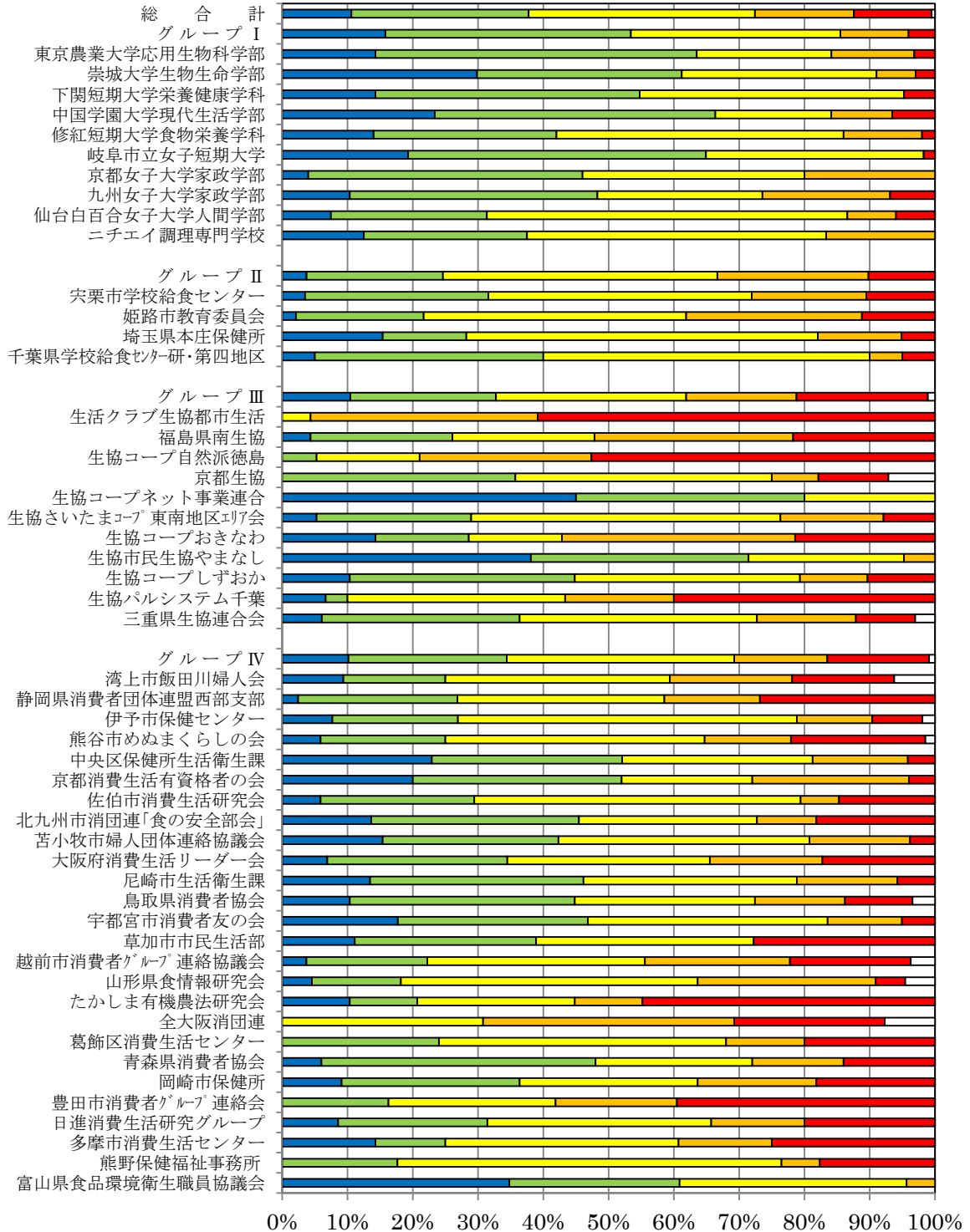


(終了後質問 7)

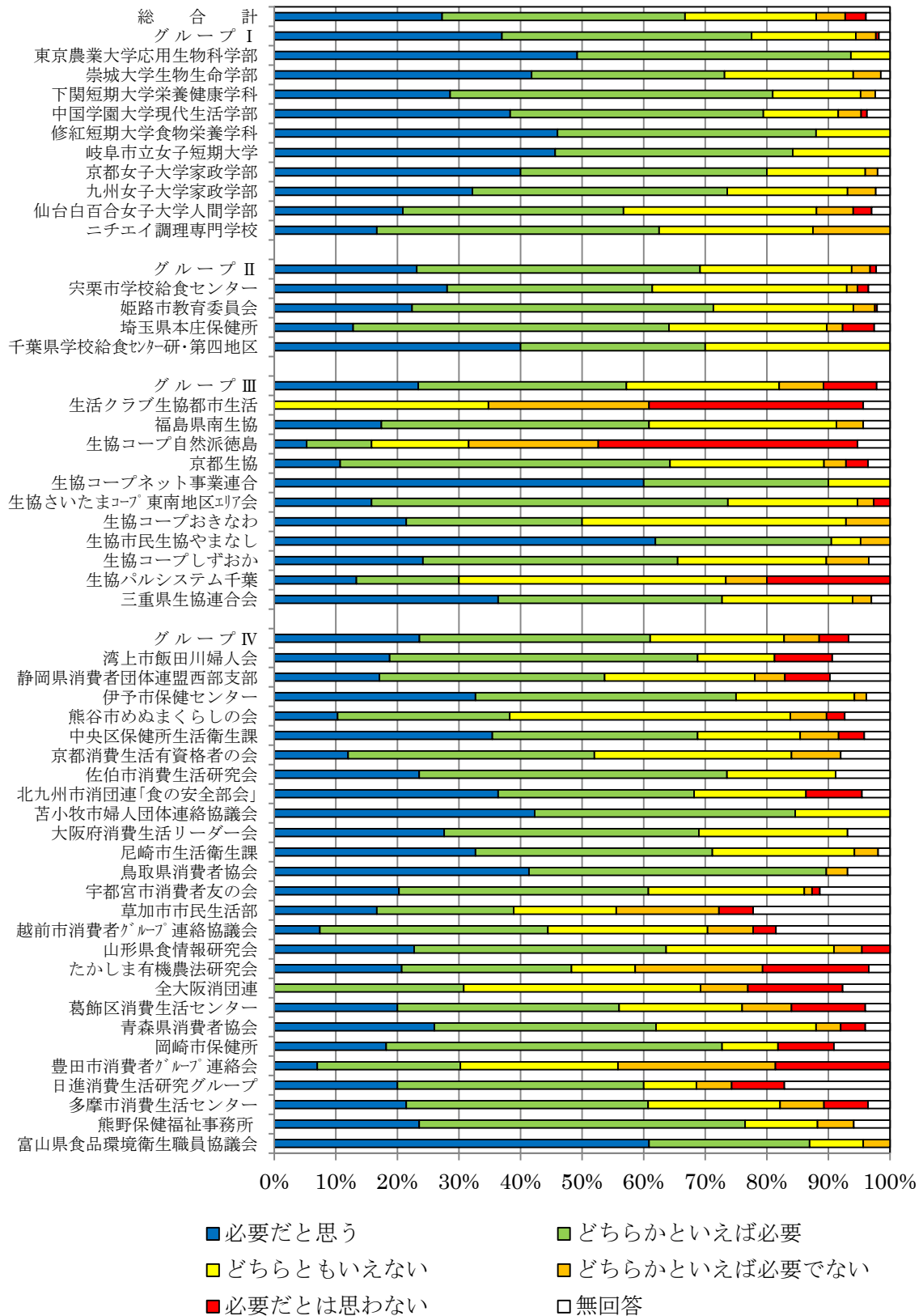


iii) 同一質問3：あなたは遺伝子組換え農作物は、日本の畜産業にとって必要だあとと思いますか？

(開始前質問4)

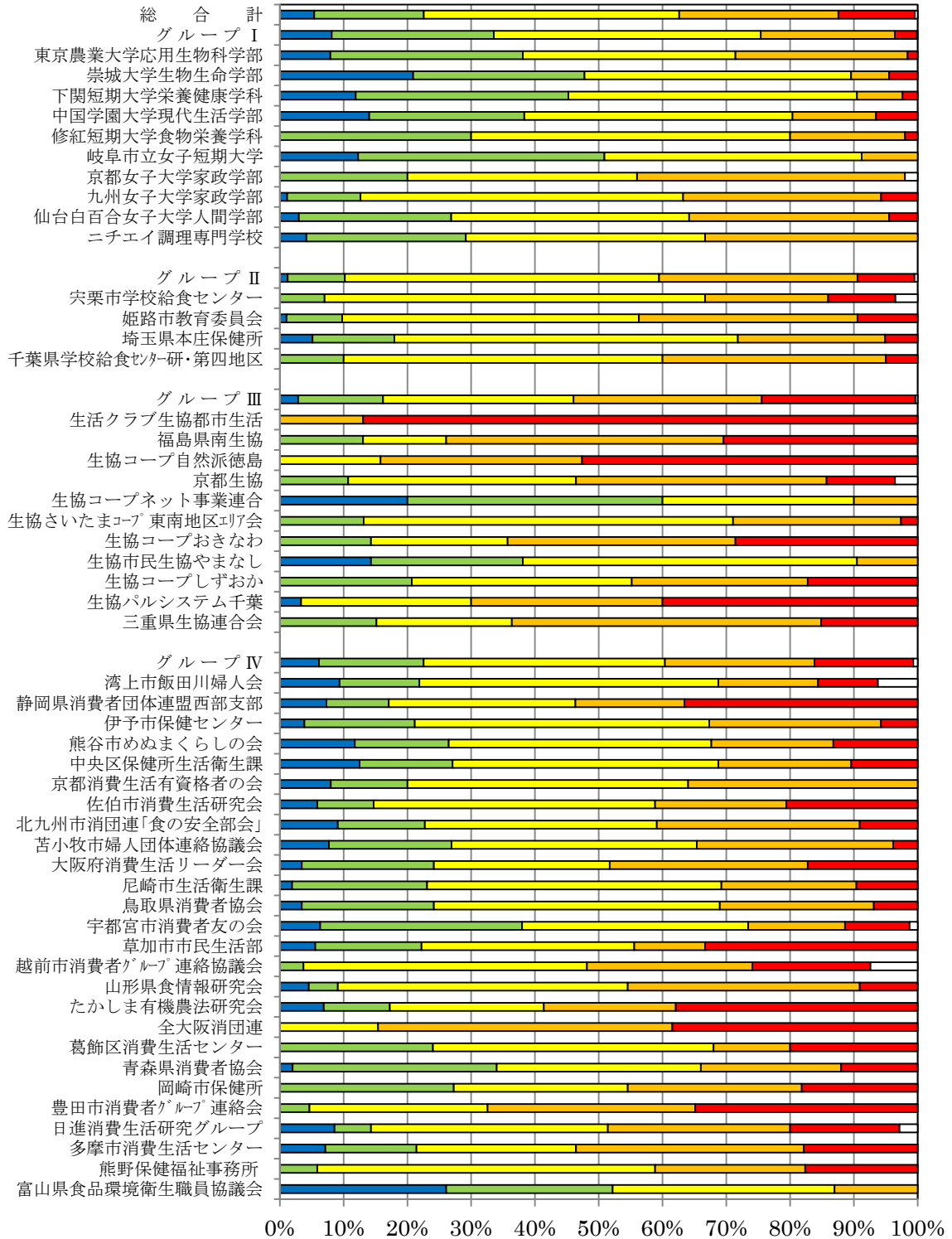


(終了後質問 8)

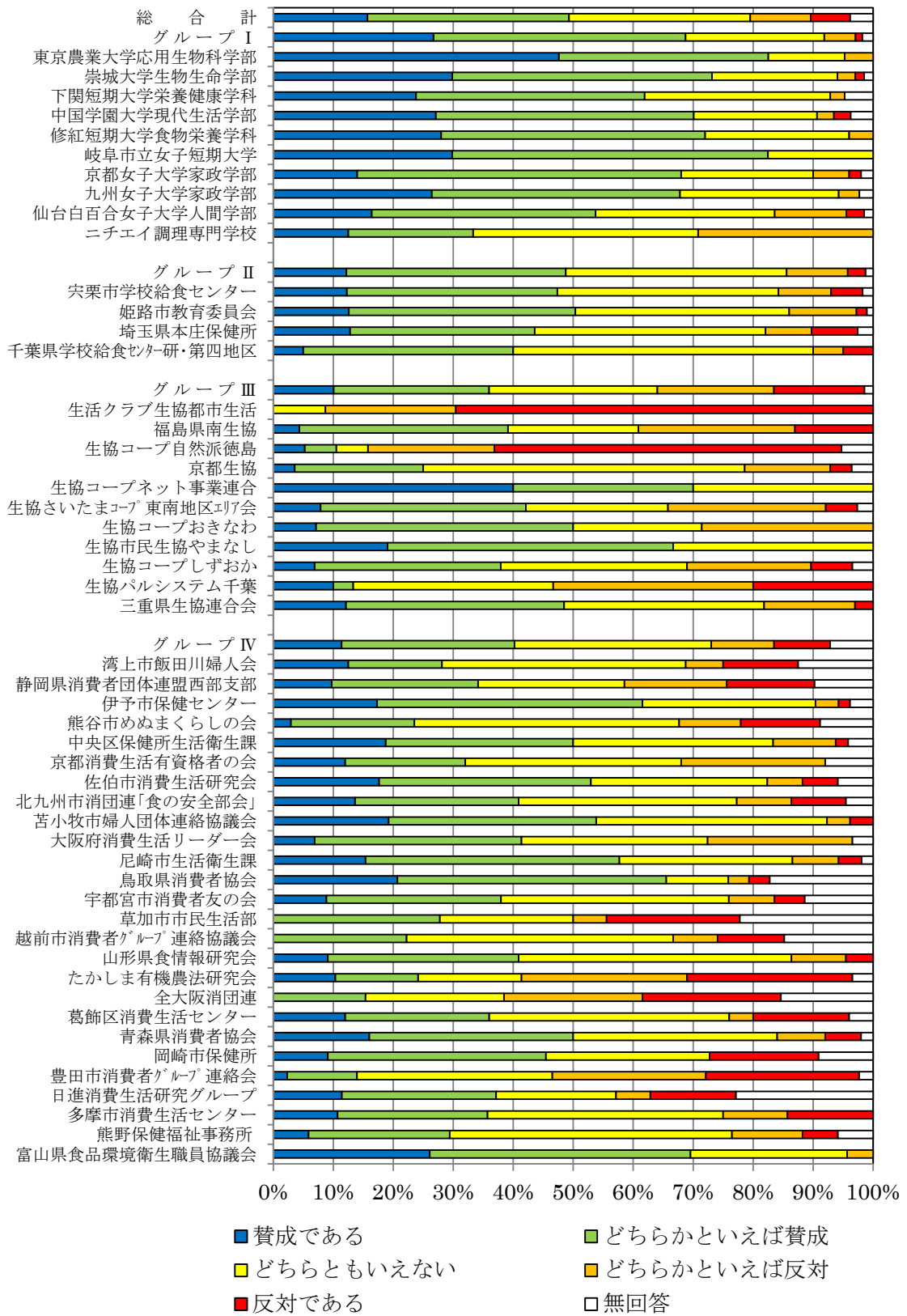


iv) 同一質問4:あなたは日本でも遺伝子組換え農作物を商業的に栽培することに関して賛成ですか、反対ですか?

(開始前質問5)



(終了後質問 9)



- ④ グループ別（属性別）に見たアンケート結果（基本データ）
 小規模コミュニケーションの実施主体あるいは参加者の属性を加味し、4グループに分類した。各グループの属性は以下の通りである。

i) 分類及びその属性

グループⅠ：大学及び短期大学（大学及び短大で、管理栄養士、栄養士、調理師の資格取得を目指す学生及び農学系の学生）等

グループⅡ：自治体に所属する管理栄養士、栄養士、調理師、学校給食担当者等

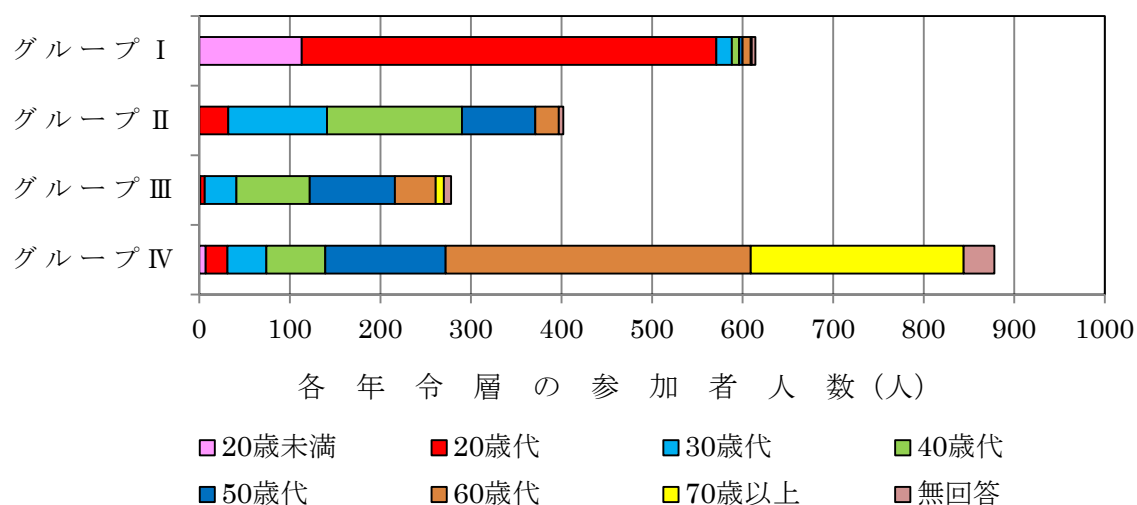
グループⅢ：生活協同組合の関係者

グループⅣ：その他（消費者団体、自治体、食品加工・製造業等

ii) 各グループの参加者数、アンケート回答者数等を以下に示した。

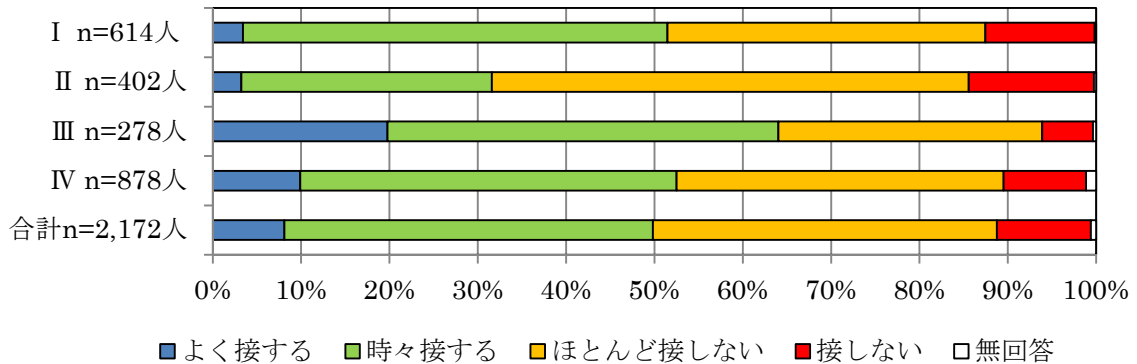
分類	グループⅠ	グループⅡ	グループⅢ	グループⅣ	合計
参加者数 (人)	662	414	299	963	2,338
アンケート回答者数(人)及び回答率(%)					
回答者数	614	402	278	878	2,172
回収率	93	97	93	91	93
アンケート回答者の男女数(人)					
女性	522	356	213	681	1,758
男性	87	33	53	153	316
無回答	5	13	12	74	74

iii) 回答者の年齢層(人数)

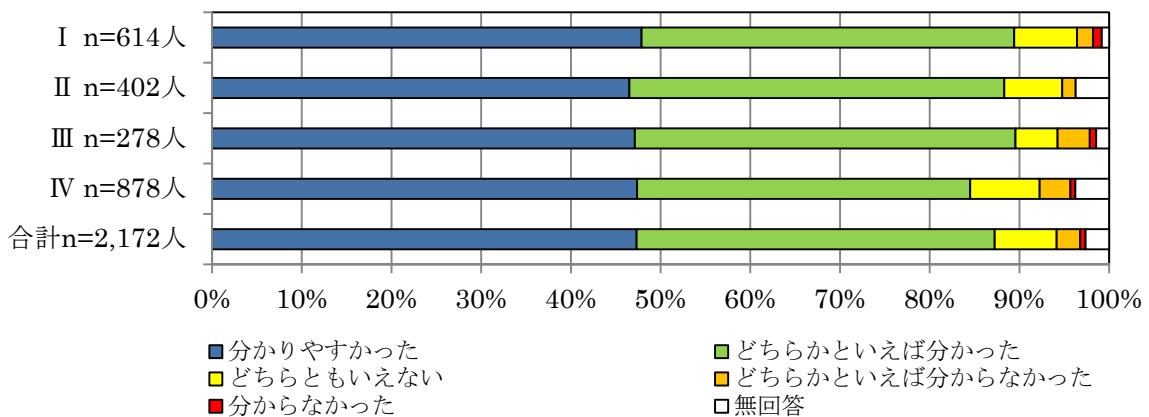


iv) 単独質問に対する回答

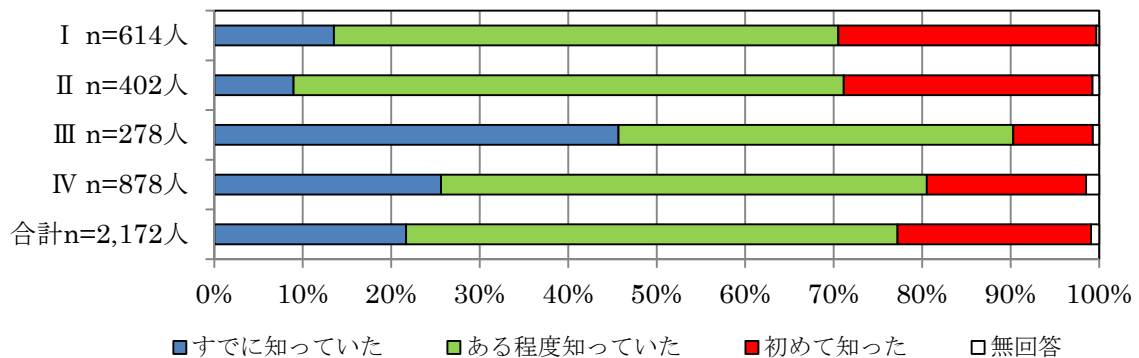
iv-1 単独質問1：あなたは遺伝子組換え農作物・食品についての情報に接する機会がありますか？（開始前質問1）



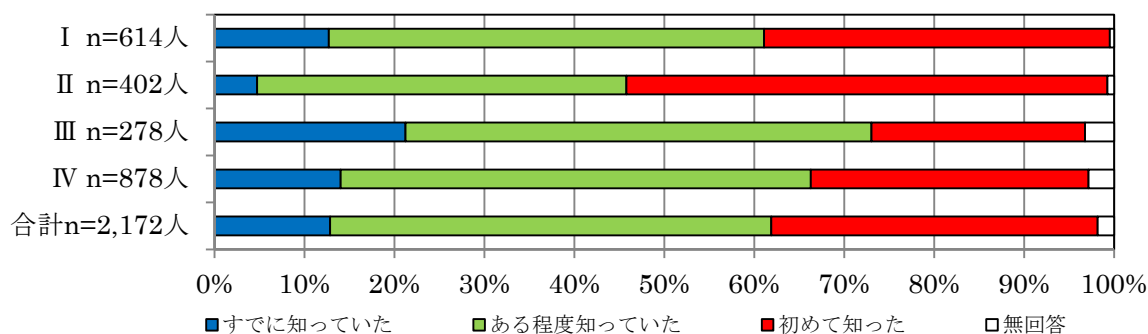
iv-2 単独質問2：今日のコミュニケーションにおける情報提供の内容は、あなたにとって分かり易かったでしょうか？（終了後質問1）



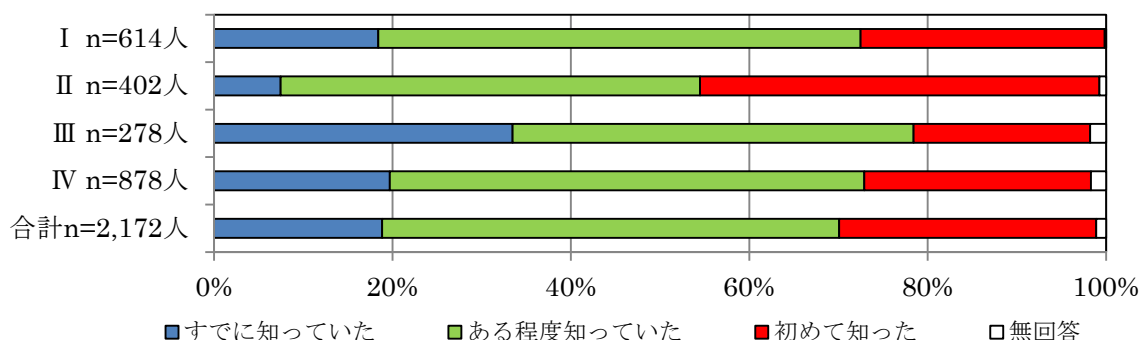
iv-3 単独質問3：遺伝子組換え農作物が日本に大量に輸入され、飼料・食品等に利用されているという今日の話は、あなたにとって初めて聞く話でしたか？（終了後質問3）



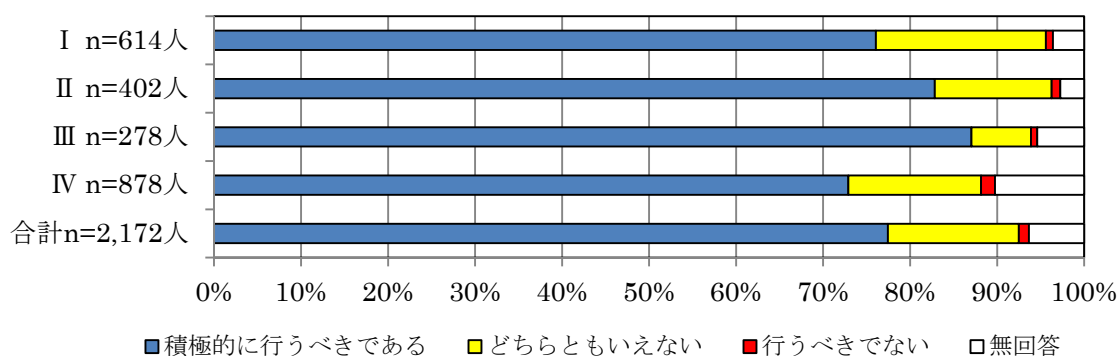
iv-4 単独質問4：国内に流通している遺伝子組換え農作物は、安全性が厳格に審査され、安全性が確認されたものだけが流通しているという今日の話は、あなたにとって初めて聞く話でしたか？
(終了後質問4)



iv-5 単独質問5：国内において遺伝子組換え作物の開発研究が行われているという今日の話は、あなたにとって初めて聞く話でしたか？
(終了後質問5)



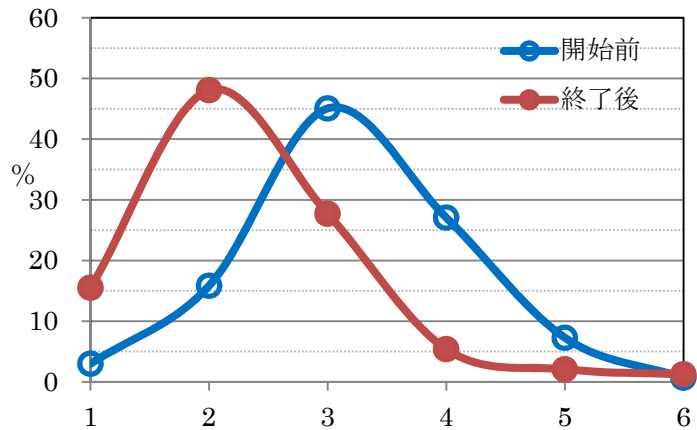
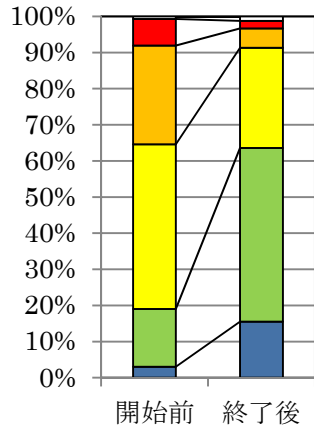
iv-6 単独質問6：あなたは農林水産省が、今日のような遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション活動を行うことに関してどのように感じましたか？ (終了後質問11)



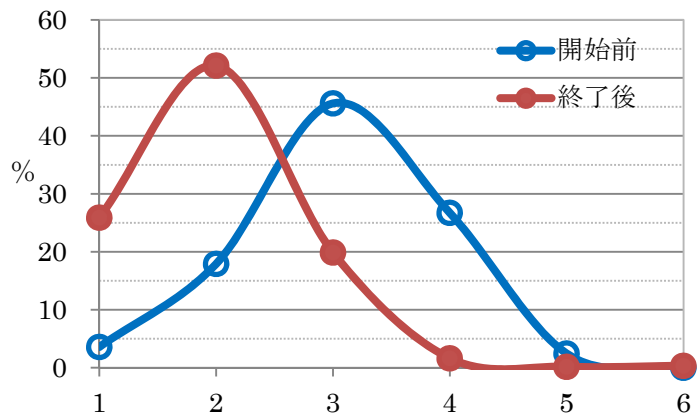
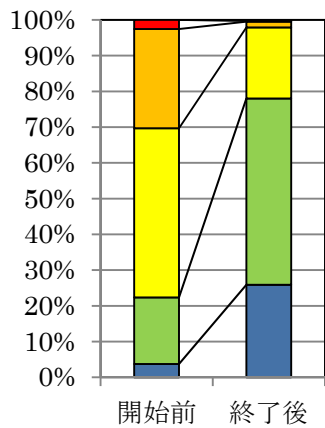
v) 同一質問に対する開始前と終了後における意識変化

v-1 同一質問1：あなたは遺伝子組換え農作物・食品の安全性について、どのように思いますか？（開始前質問2，終了後質問6）

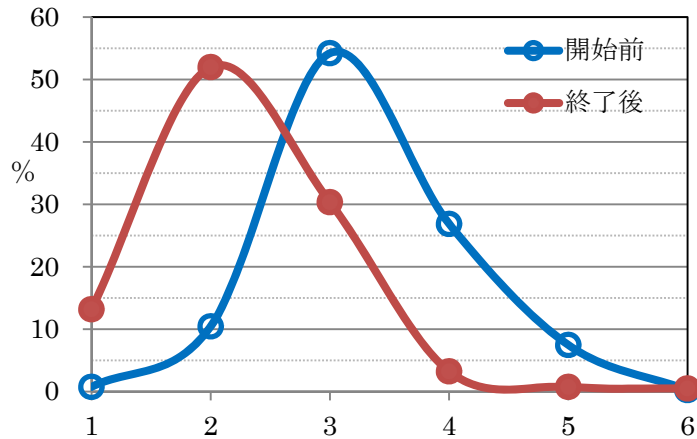
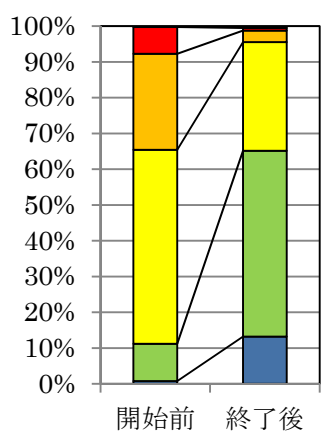
全体



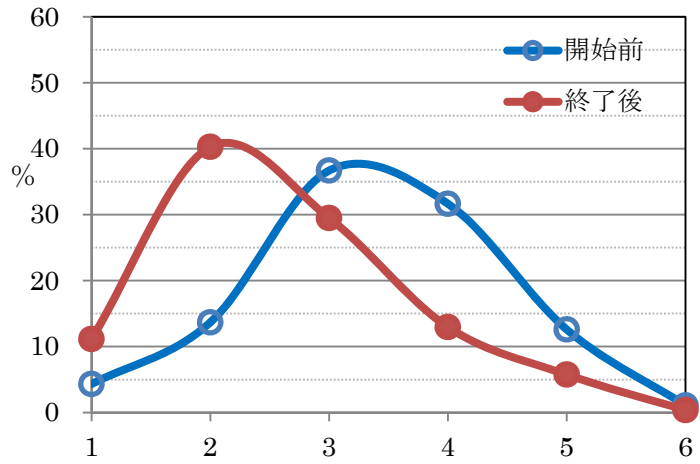
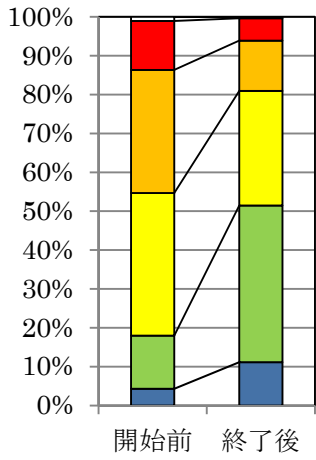
グループ I：大学、短大など



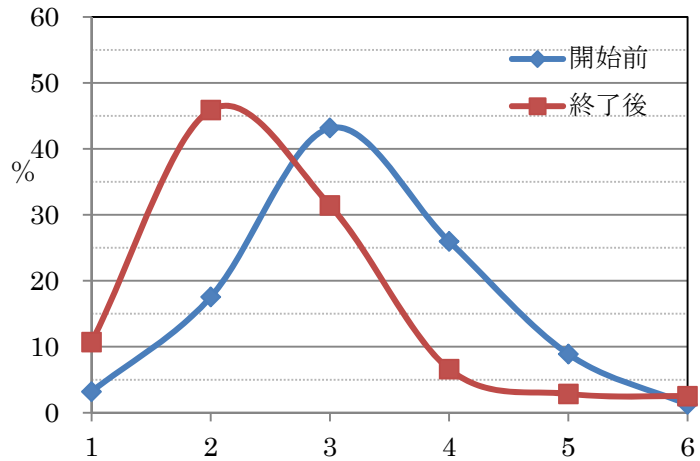
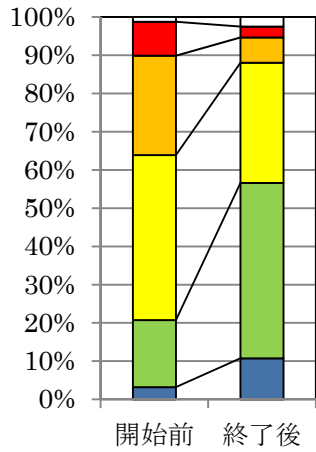
グループ II：管理栄養士、調理師など



グループⅢ：生活協同組合



グループⅣ：その他

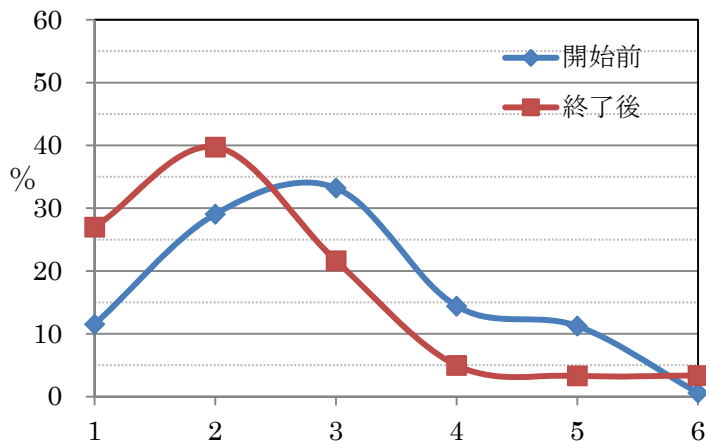
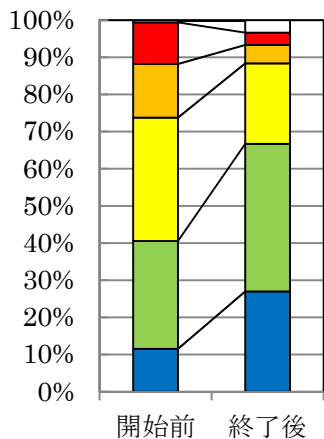


- 安全だと思う
- どちらかといえば安全
- どちらともいえない
- どちらかといえば危険
- 危険だと思う
- 無回答

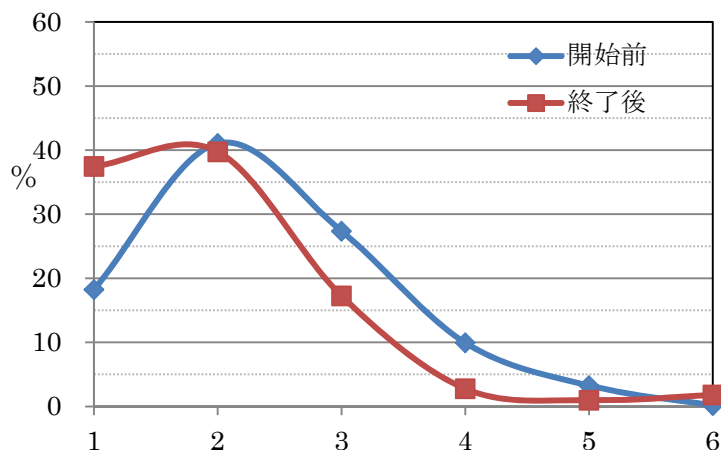
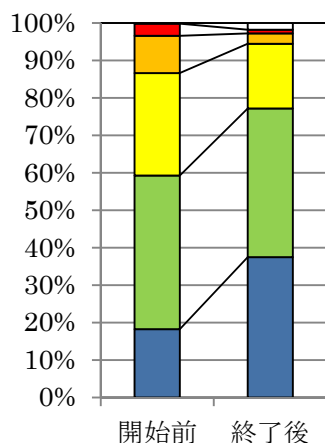
- 1 : 安全だと思う
- 2 : どちらかといえば安全
- 3 : どちらともいえない
- 4 : どちらかといえば危険
- 5 : 危険だと思う
- 6 : 無回答

v-2 同一質問2：あなたは遺伝子組換え農作物は、日本の食糧供給にとって必要だと思いますか？（開始前質問3，終了後質問7）

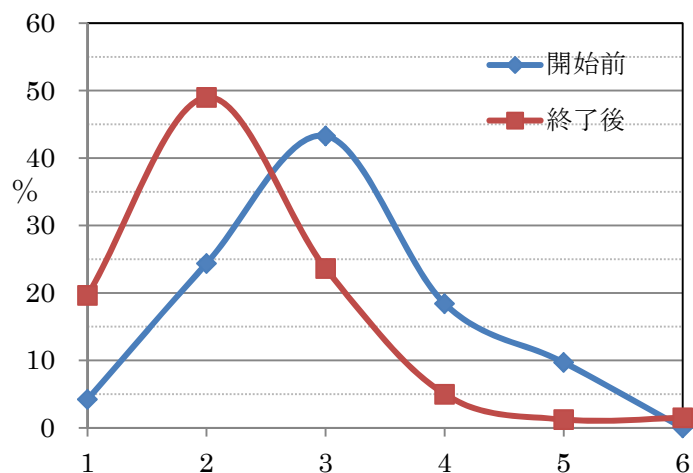
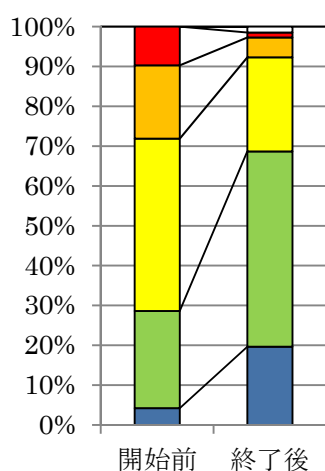
全 体



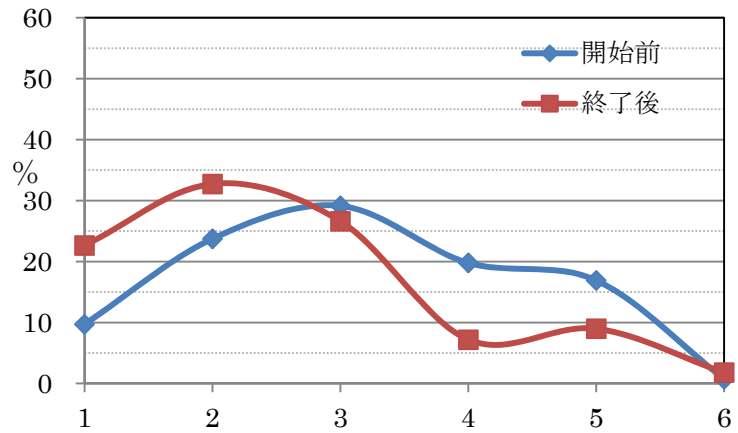
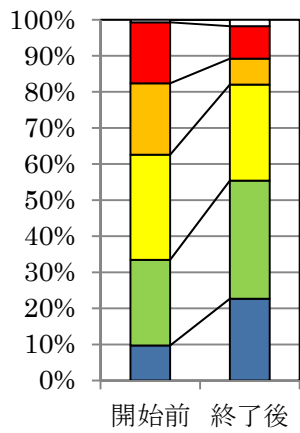
グループ I：大学、短大など



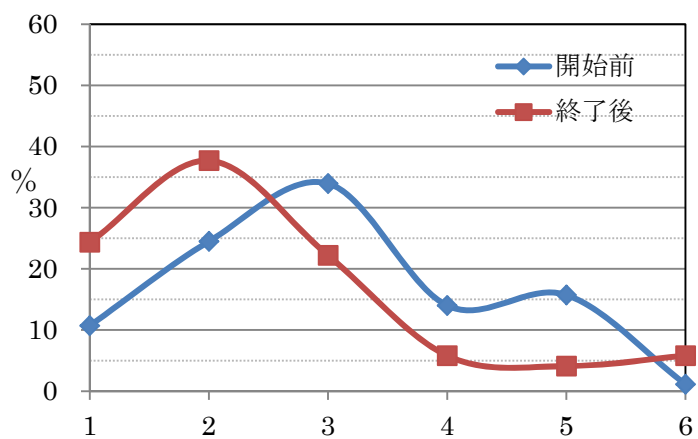
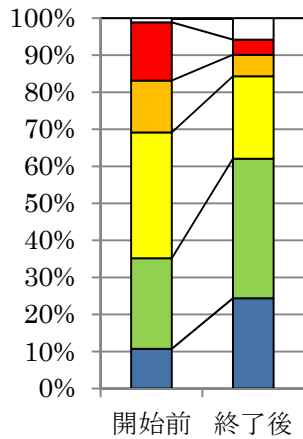
グループ II：管理栄養士、調理師など



グループⅢ：生活協同組合



グループⅣ：その他



■ 必要だと思う

1：必要だと思う

■ どちらかといえば必要

2：どちらかといえば必要

■ どちらともいえない

3：どちらともいえない

■ どちらかと言えば必要でない

4：どちらかと言えば必要でない

■ 必要だとは思わない

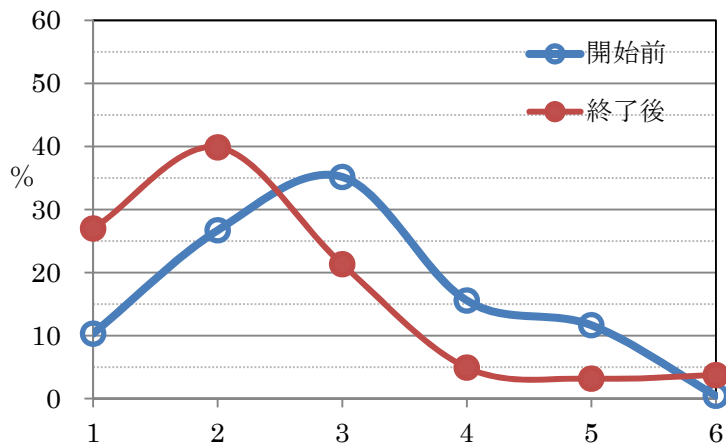
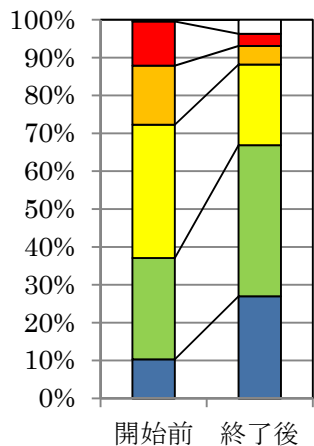
5：必要だとは思わない

□ 無回答

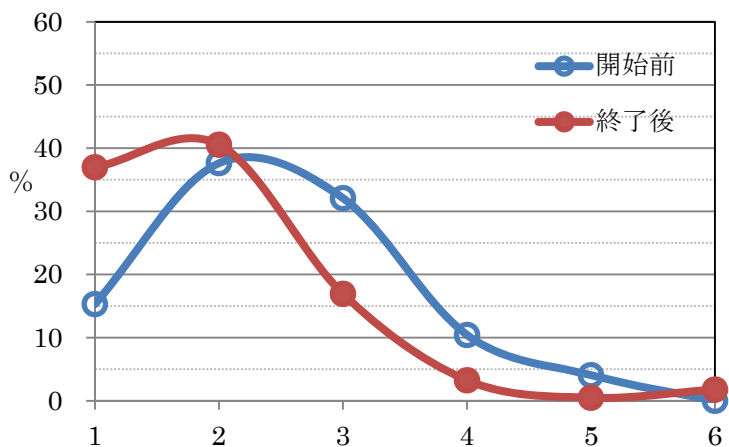
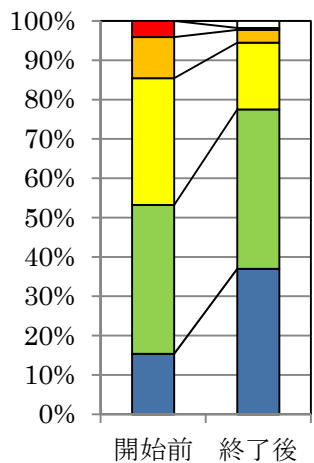
6：無回答

v-3 同一質問3：あなたは遺伝子組換え農作物は、日本の畜産業にとって必要だと思いますか？（開始前質問4，終了後質問8）

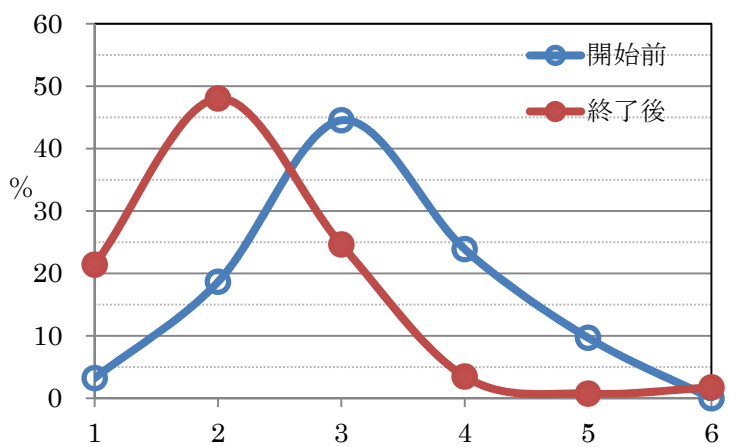
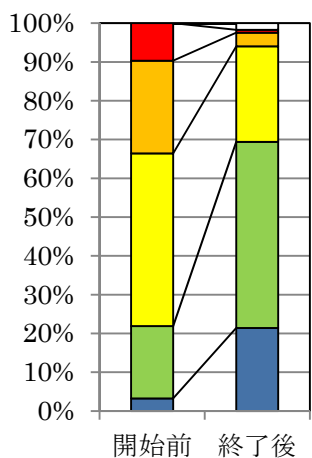
全 体



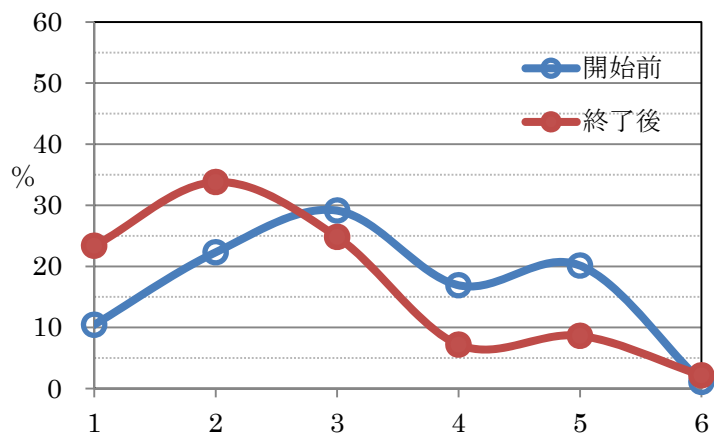
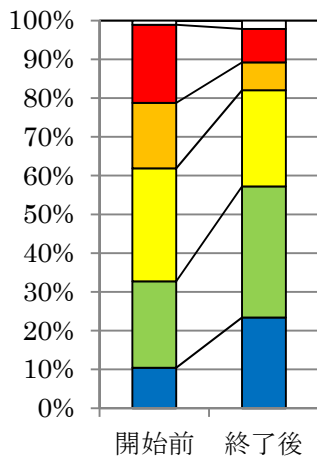
グループ I：大学、短大など



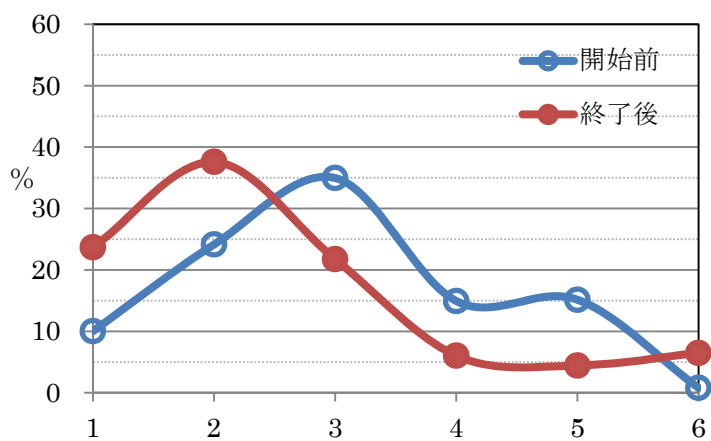
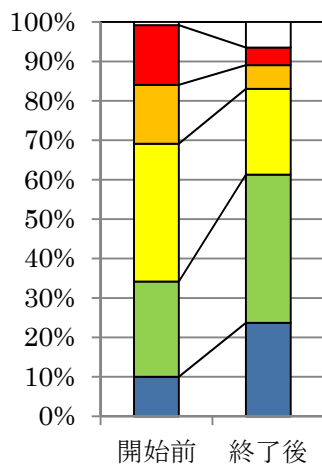
グループ II：管理栄養士、調理師など



グループⅢ：生活協同組合



グループⅣ：その他



■ 必要だと思う

■ どちらかといえば必要

■ どちらともいえない

■ どちらかと言えは必要でない

■ 必要だとは思わない

□ 無回答

1：必要だと思う

2：どちらかといえば必要

3：どちらともいえない

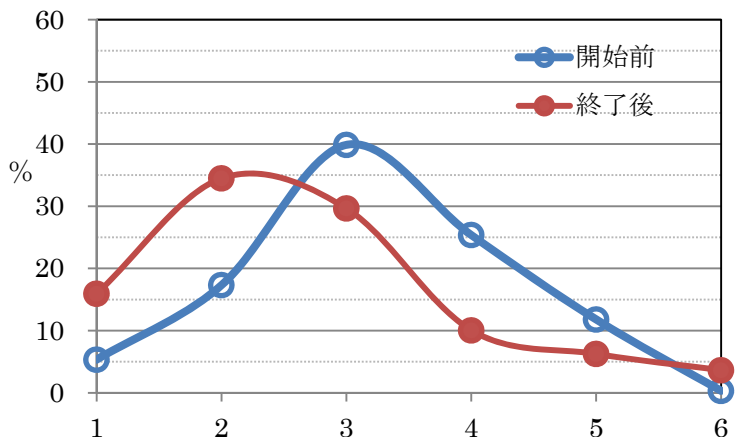
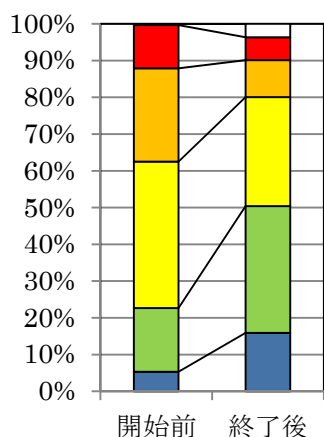
4：どちらかと言えは必要でない

5：必要だとは思わない

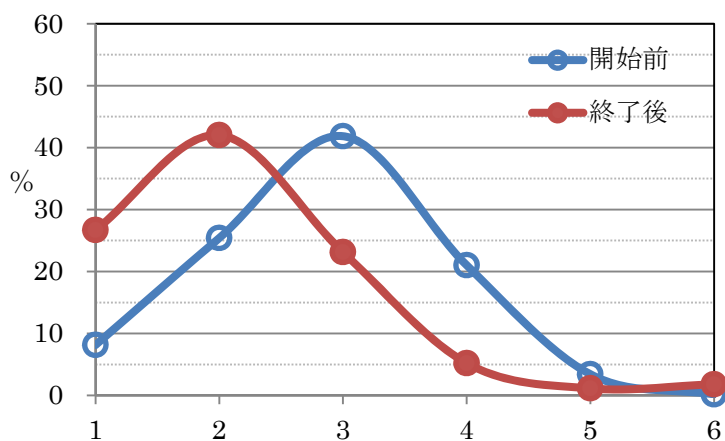
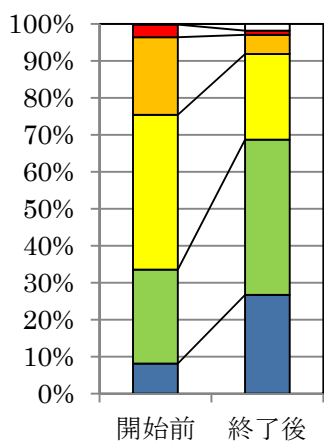
6：無回答

v-4 同一質問4：あなたは日本でも遺伝子組換え農作物を商業的に栽培することに関して賛成ですか、反対ですか？
 (開始前質問5, 終了後質問9)

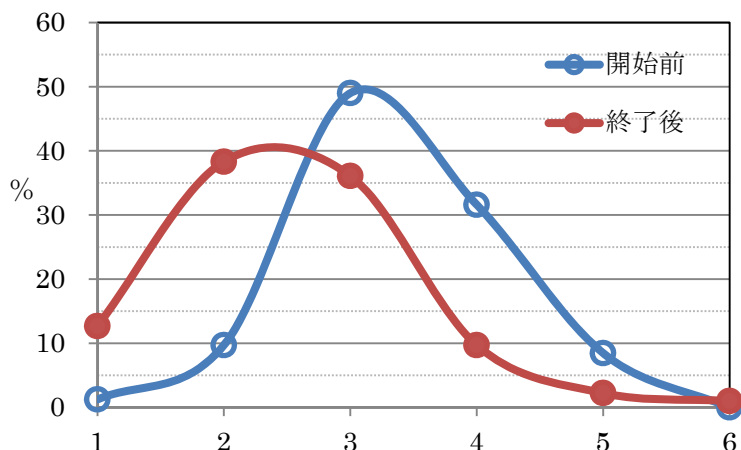
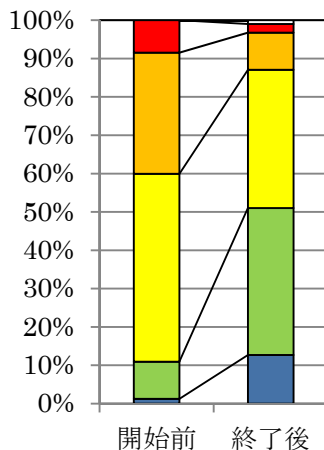
全 体



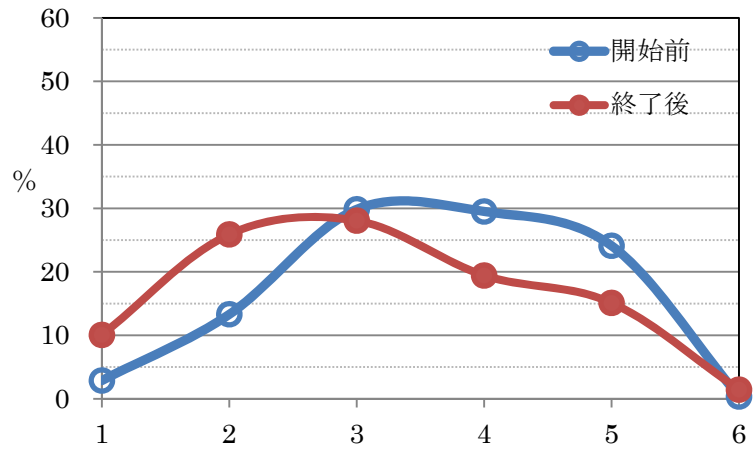
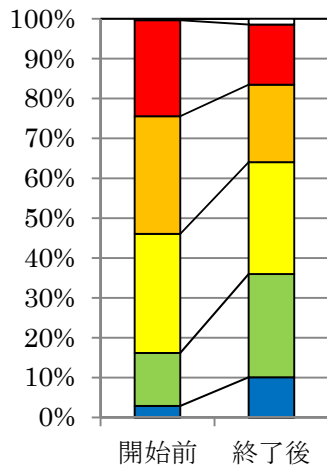
グループ I：大学、短大など



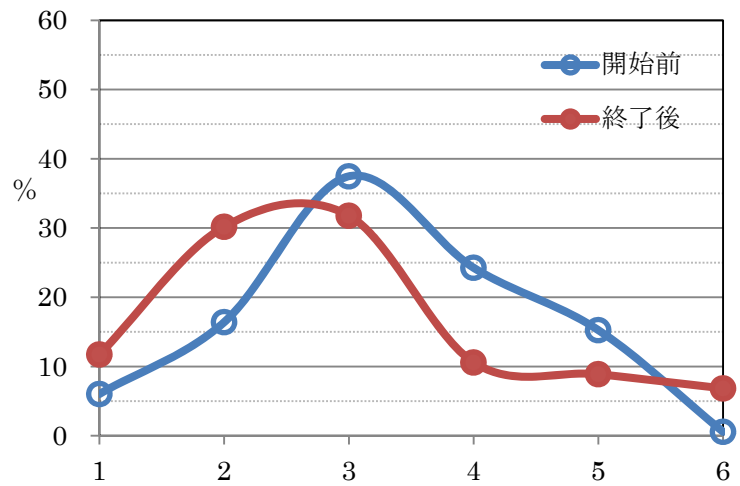
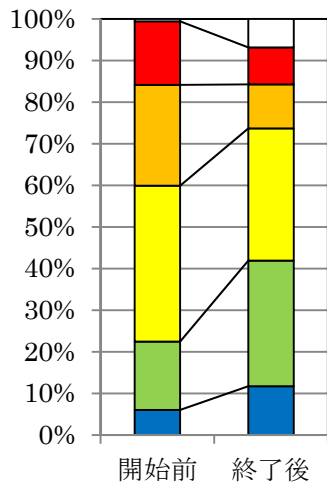
グループ II：管理栄養士、調理師など



グループⅢ：生活協同組合



グループⅣ：その他



■ 賛成である

■ どちらかといえば賛成

■ どちらともいえない

■ どちらかといえば反対

■ 反対である

□ 無回答

1 : 賛成である

2 : どちらかといえば賛成

3 : どちらともいえない

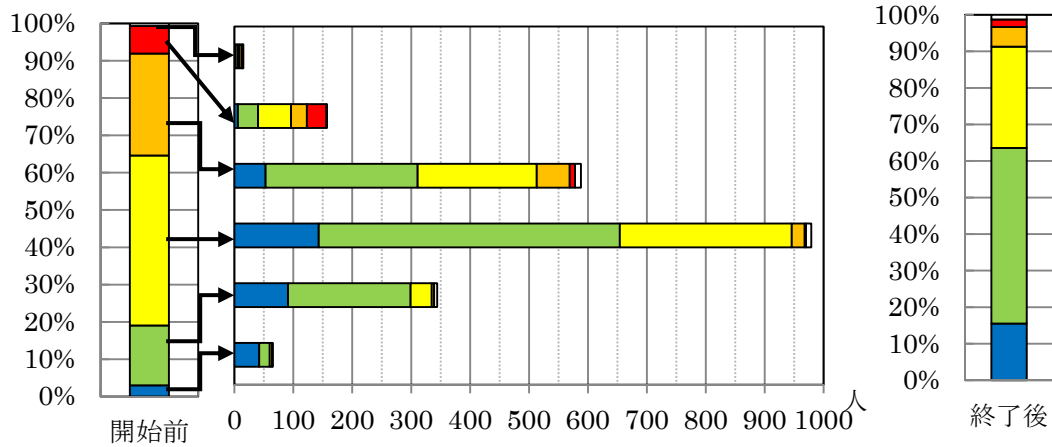
4 : どちらかといえば反対

5 : 反対である

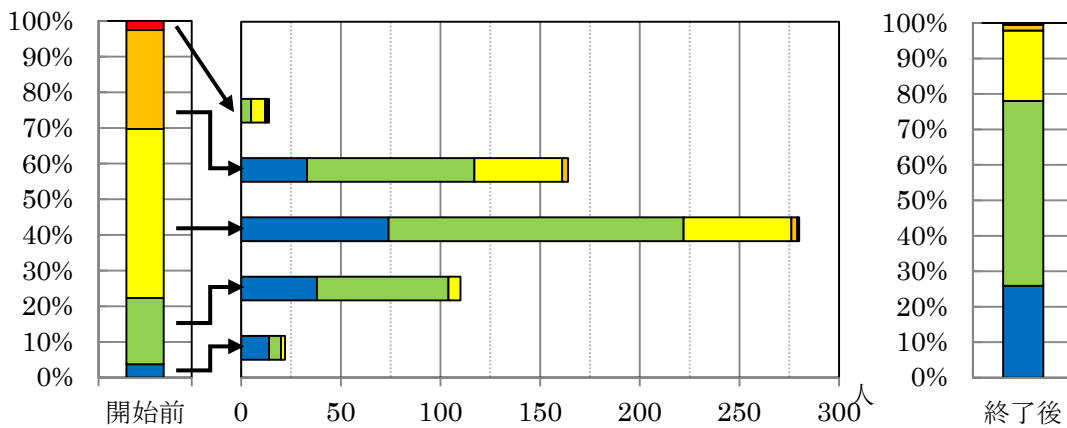
6 : 無回答

vi) 同一質問に対する開始前と終了後における意識変化の内訳
 vi-1 同一質問1:あなたは遺伝子組換え農作物・食品の安全性について、どのように思いますか？(開始前質問2, 終了後質問6)

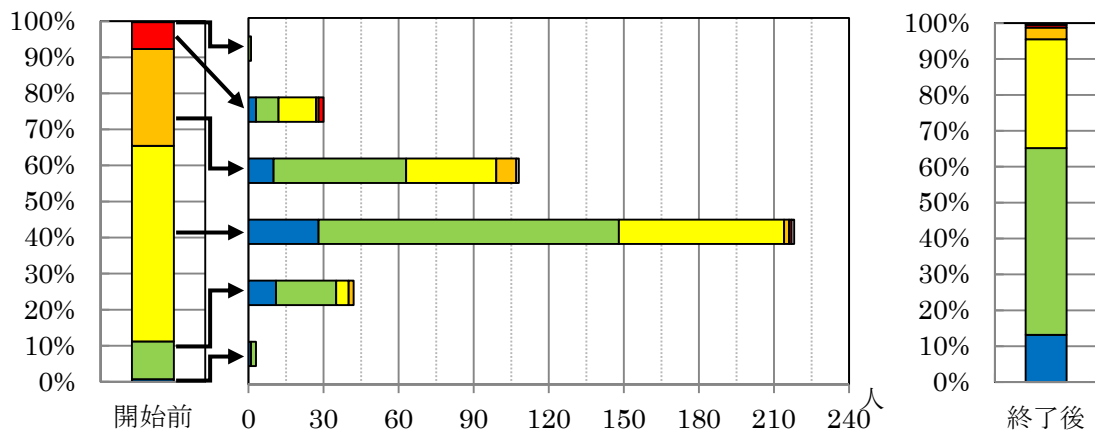
全 体



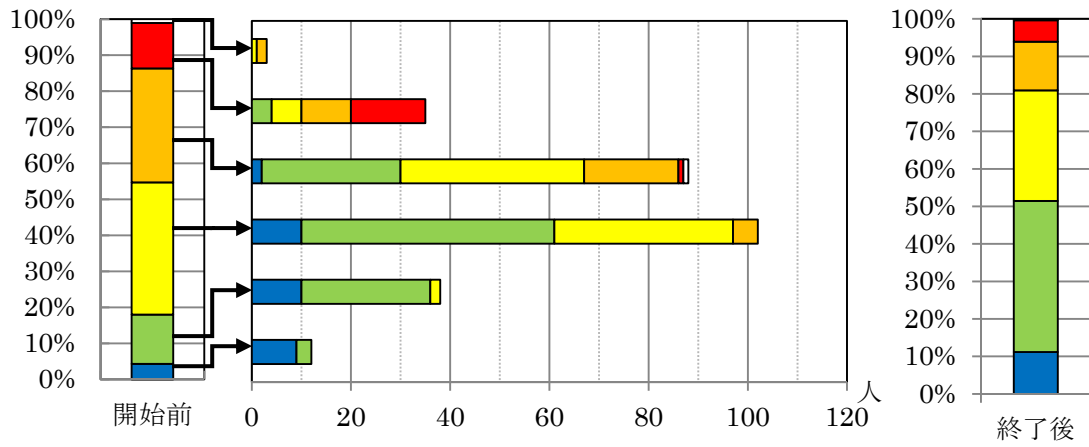
グループ I : 大学、短大など



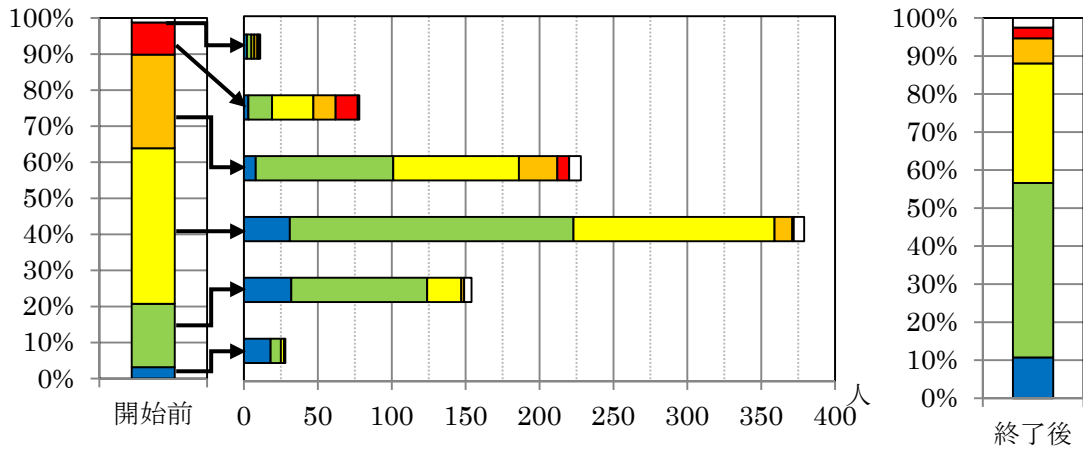
グループ II : 管理栄養士、調理師など



グループⅢ：生活協同組合



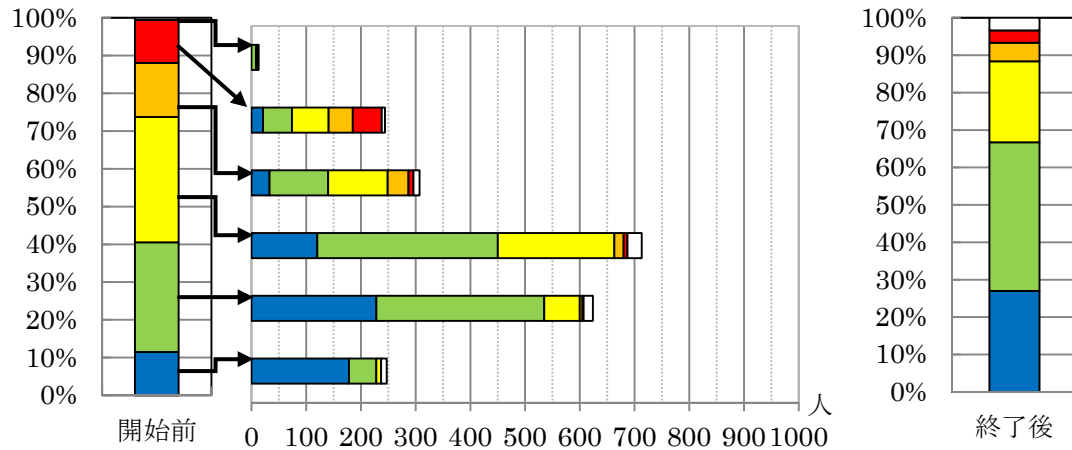
グループⅣ：その他



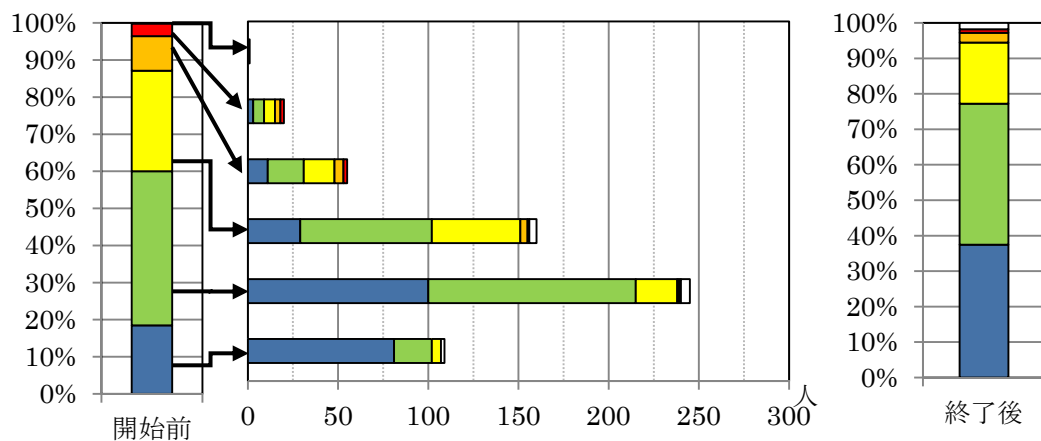
- 安全だと思う ■ どちらかといえば安全 ■ どちらともいえない
- どちらかといえば危険 ■ 危険だと思う □ 無回答

vi-2 同一質問2：あなたは遺伝子組換え農作物は、日本の食糧供給にとって必要だと思いますか？（開始前質問3，終了後質問7）

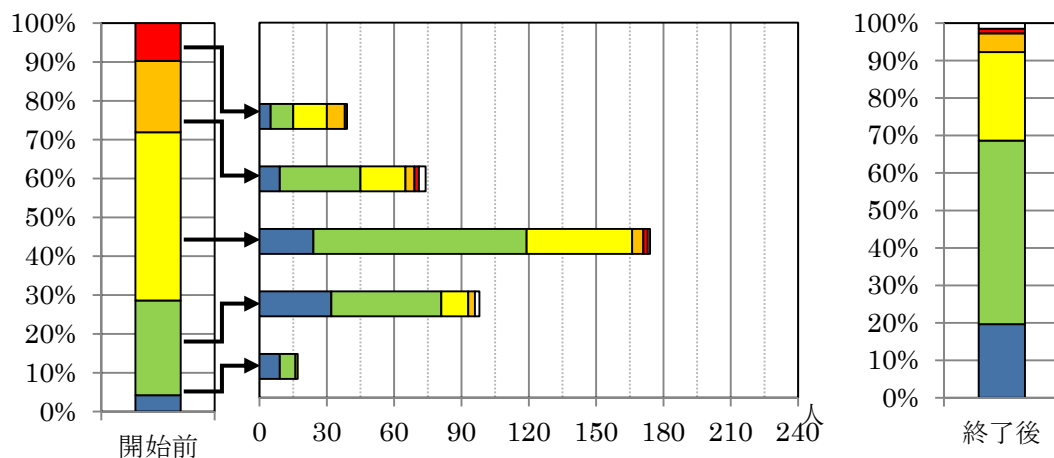
全 体



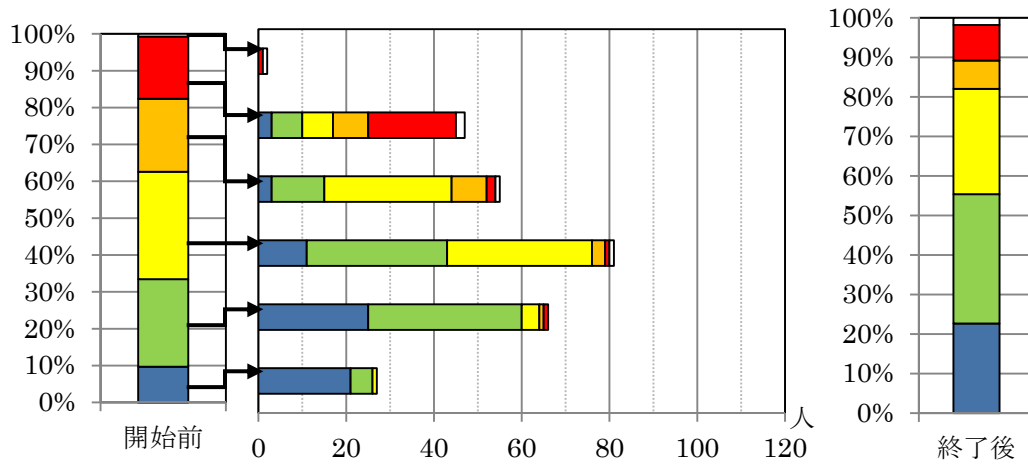
グループ I：大学、短大など



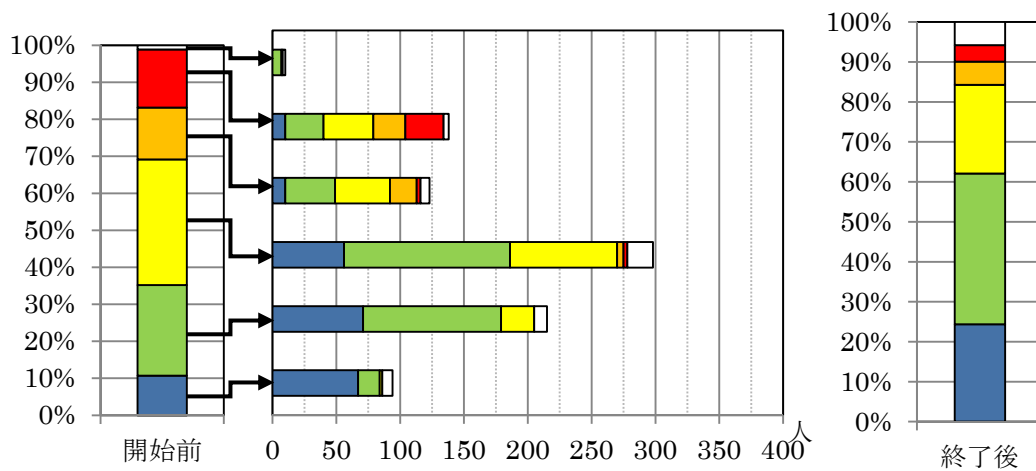
グループ II：管理栄養士、調理師など



グループⅢ：生活協同組合



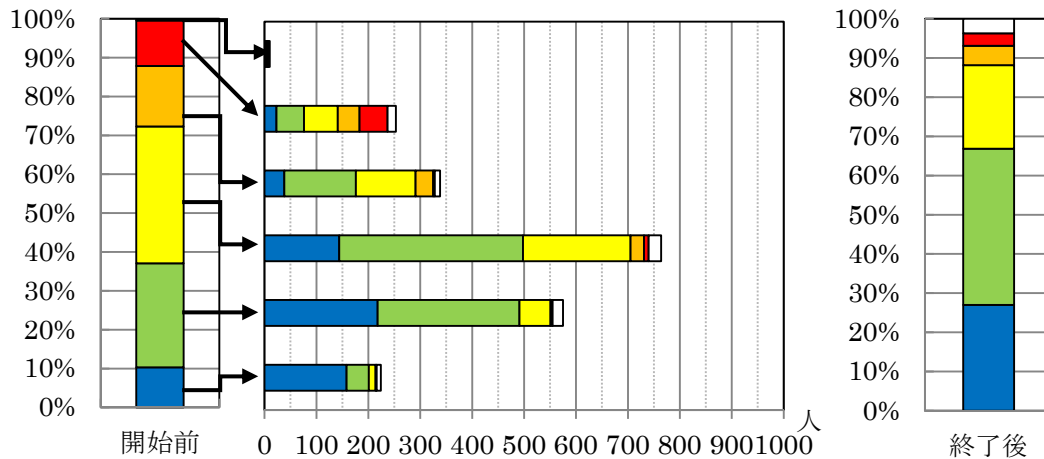
グループⅣ：その他



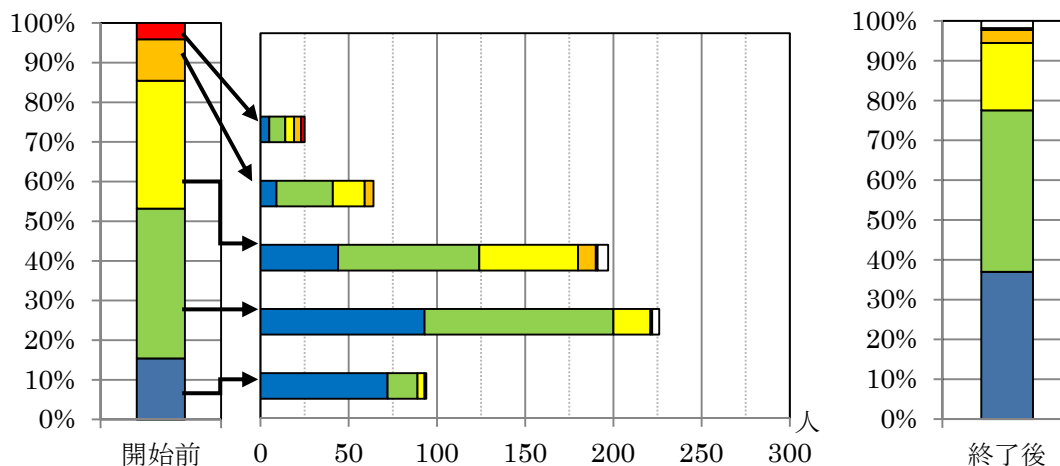
- 必要だと思ふ
- どちらかといえは必要
- どちらともいえない
- どちらかといえは必要でない
- 必要だとは思わない
- 無回答

vi-3 同一質問3：あなたは遺伝子組換え農作物は、日本の畜産業にとって必要だと思いますか？（開始前質問4，終了後質問8）

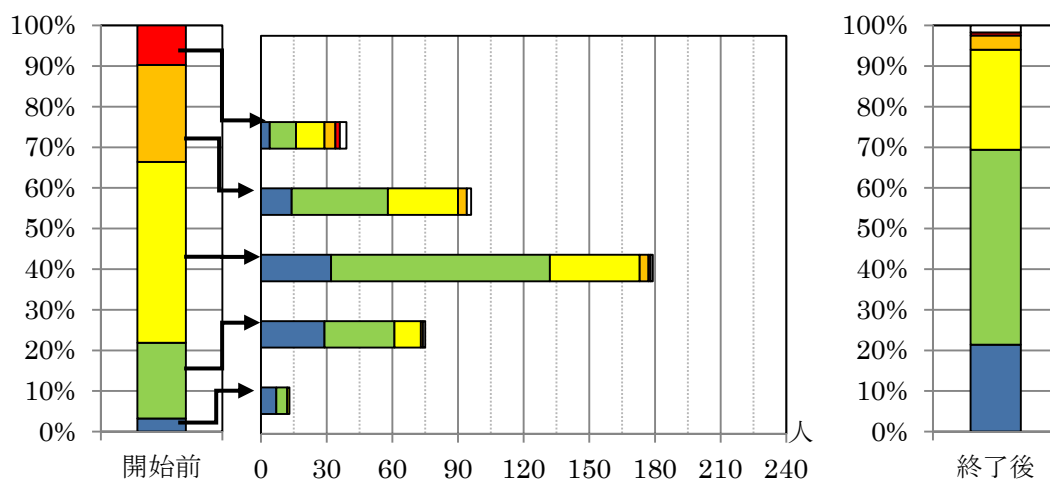
全 体



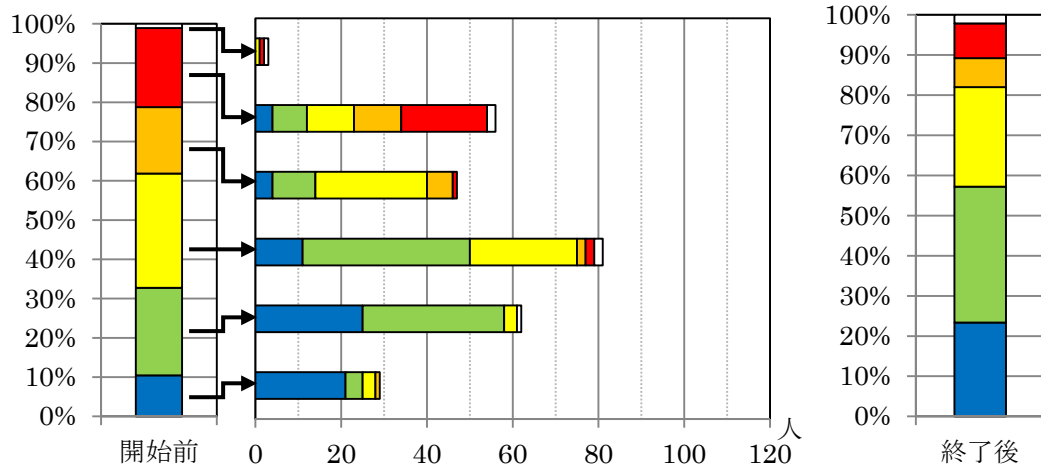
グループ I：大学、短大など



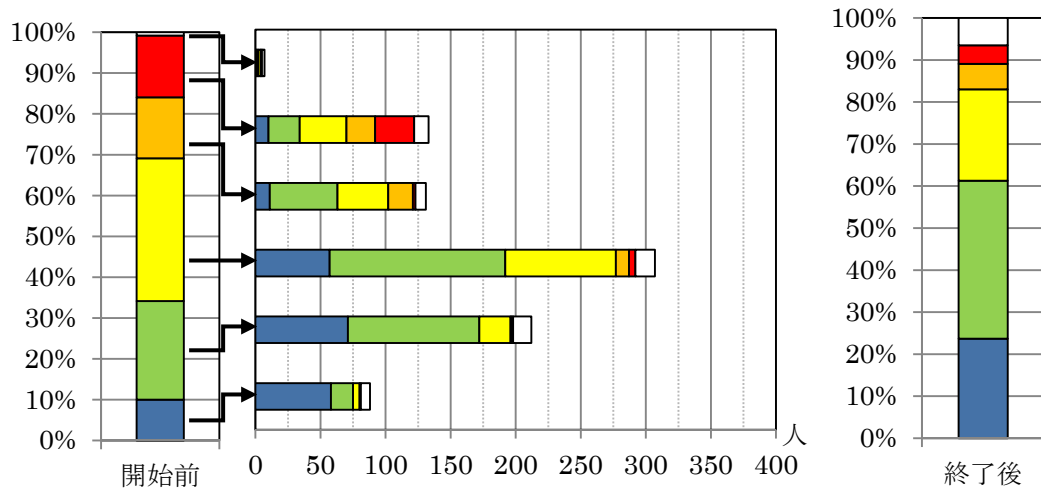
グループ II：管理栄養士、調理師など



グループⅢ：生活協同組合



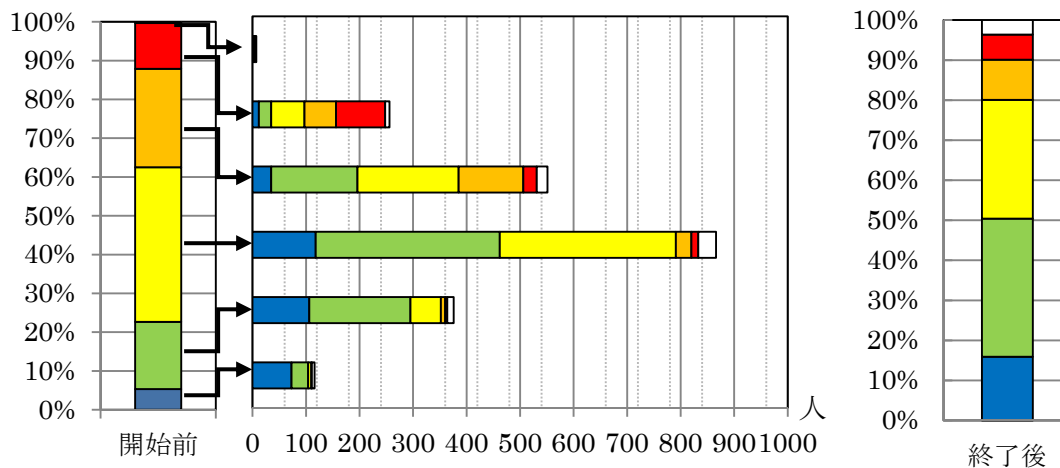
グループⅣ：その他



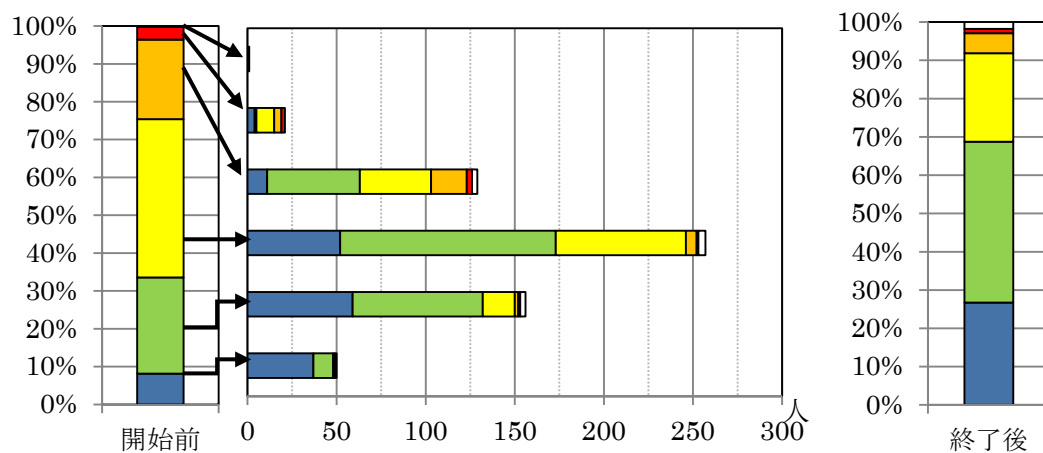
- 必要だと思う
- どちらかといえば必要
- どちらともいえない
- どちらかといえば必要でない
- 必要だとは思わない
- 無回答

v-4 同一質問4：あなたは日本でも遺伝子組換え農作物を商業的に栽培することに関して賛成ですか、反対ですか？
 (開始前質問5，終了後質問9)

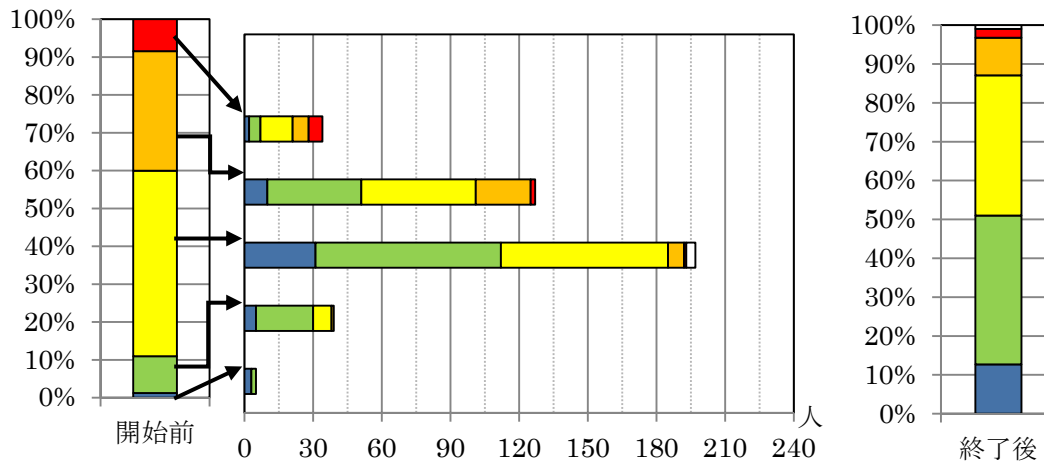
全 体



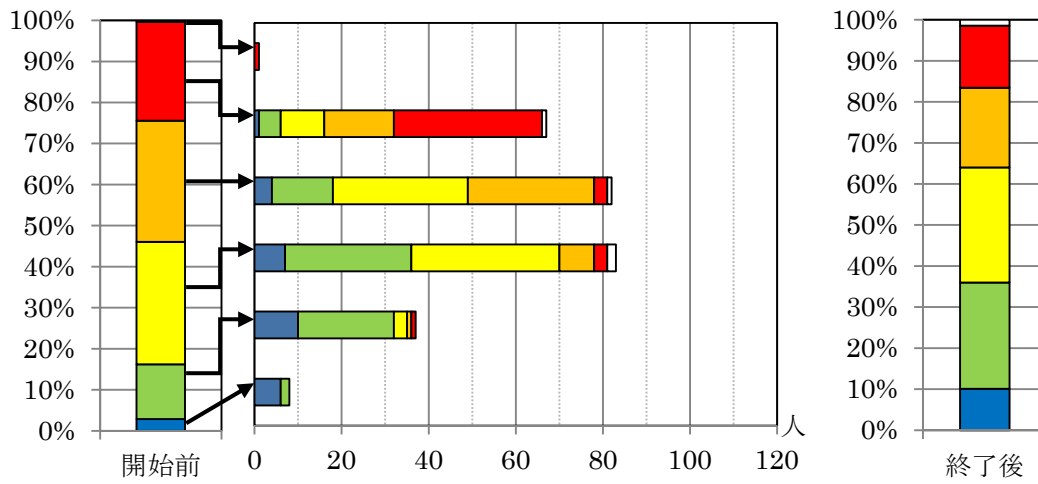
グループ I：大学、短大など



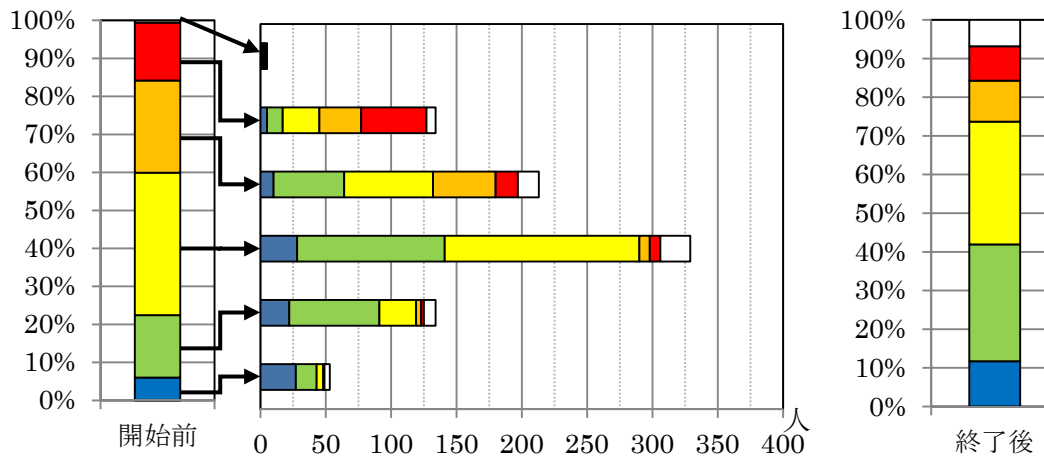
グループ II：管理栄養士、調理師など



グループⅢ：生活協同組合



グループⅣ：その他



- 賛成である ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらともいえない
- どちらかといえば反対 ■ 反対である □ 無回答

イ 開催者へのアンケート調査

(ア) アンケート調査票

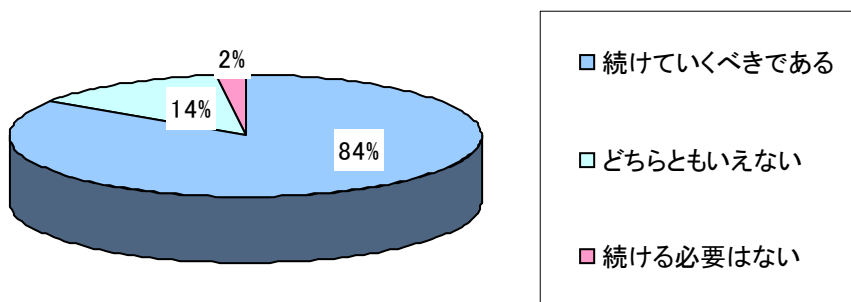
小規模コミュニケーション実施終了後、開催者(主催者)に対し、実施内容に関するアンケート調査を実施した。アンケートの内容は以下のとおり(参考資料参照)であり、アンケート用紙(質問票)を 51 カ所に郵送で送付し、回答を求めた。

(イ) 開催者へのアンケート調査結果

アンケートは 51 カ所全てから回答が得られた。その結果を以下に示す。

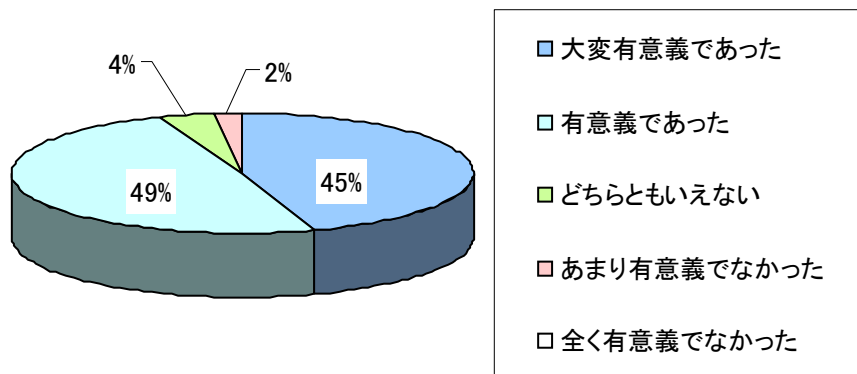
[アンケートの各問に対する回答結果]

問1 農林水産省として貴団体と行わせて頂いたコミュニケーション活動を、他の団体、グループに対しても、今後、継続して行うべきであるとお考えですか。



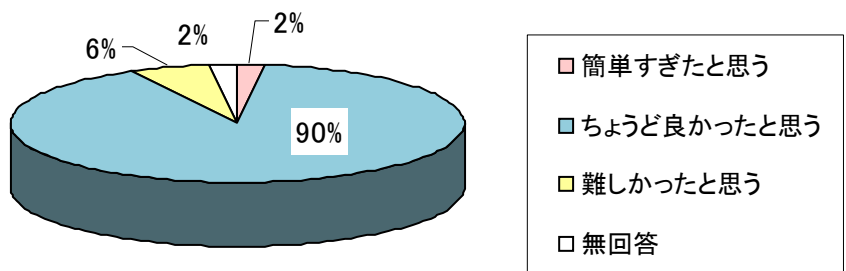
	計	続けていくべきである	どちらともいえない	続ける必要はない
回答数	51	43	7	1
構成比(%)	100.0	84.3	13.7	2.0

問2 代表者（担当者）から見て今回のコミュニケーションは、参加者の皆さんにとって有意義であったとお考えですか？



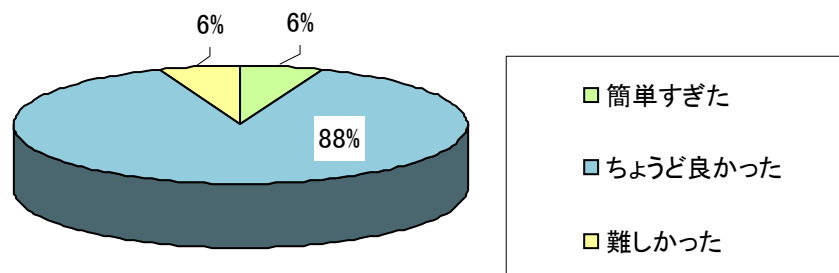
	計	大変有意義であった	有意義であった	どちらともいえない	あまり有意義でなかった	全く有意義でなかった
回答数	51	23	25	2	1	-
構成比(%)	100.0	45.1	49.0	3.9	2.0	-

問3 代表者（担当者）から見て今回のコミュニケーションの内容は、参加者の皆さんにとってわかりやすいものだったでしょうか。



	計	簡単すぎたと思う	ちょうど良かったと思う	難しかったと思う	無回答
回答数	51	1	46	3	1
構成比(%)	100.0	2.0	90.2	5.9	2.0

問4 コミュニケーションで使用した説明スライド（「遺伝子組換え農作物」の現状について）の内容についてどのような印象をお持ちになりましたか。



	計	簡単すぎた	ちょうど良かった	難しかった
回答数	51	3	45	3
構成比 (%)	100.0	5.9	88.2	5.9

「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション」に対する感想

No.	回答者の感想
1	遺伝子を視覚で確認するという難しそうな実験なのかなと思っていました。が、身の回りにあるもので簡単に見ることができて新しい発見ができ、面白かったです。準備万端整えてくださったおかげです。ありがとうございました。また、コーディネーター役の蒲生さんがとてもスムーズに意見や質問をまとめてくださり、限られた時間で意義ある研修ができたのではと思います。
2	話が分かりやすかった。こちらの質問に答えてもらえるのが良かったが、質問用紙に記入し、口答でないので質問の意味が伝わりにくいように思った。
3	分かりやすい説明で良かった。国内で生産しているグループなど、消費者の口に入ってくるものについてもう少し詳しい説明がほしかった。
4	DNA抽出実験はDNAの理解を深めることができよかった。遺伝子組換え農作物についてのパワーポイント(スライド)学習も良かった。
5	ブロッコリーのDNA実験は感動体験でした。
6	限られた時間内でのコミュニケーションですが、ある程度質問・疑問は同じだと思うので、これまでに出了た質問など折り込んで説明していただけたらと思いました。
7	良かった点はグループに分かれて意見や質問を話し合ったので、参加者が意見を出しやすかった。(全体では意見が出にくい。)個々の質問に対して答えてもらったので良かった。
8	GMナタネ自生による近縁種との交雑は生物多様性の面から問題ないとのことでしたが、違和感を感じました。MOP5で、クアラルンプール・名古屋補足議定書が採決され、それに伴う国内法の改正に期待しています。
9	初めての試みでしたので私たちには難しかった内容でした。もっと具体的に遺伝子組換えのことを説明していただけたら分かりやすかったかと思います。
10	リスクもきちんと伝えてほしい。
11	実験は時間的にもったいなかった。
12	「遺伝子組換え」について何となく不安を感じている人は多いと思うので、積極的にPRをしていった方がよい。
13	情報提供者(パネラー)の説明がとても丁寧で分かりやすく、また、コーディネーターのてきぱきとした進行のおかげで、受講者の頭の中の整理がスムーズにできたと思います。今後も継続して新たな知見や情報を伝達していただける機会が増えることを強く望みます。
14	DNA抽出実験は興味深く、楽しかった。グループに分かれての討議はフランクに話し合いができて良かった。分かりやすく進行された。
15	DNA抽出実験など参加型で行えることが良かったと思う。
16	DNA抽出実験は良かったと思います。意見交換の時間が少し足りませんでした。
17	「遺伝子を組換える」ということの意味を、今までより以上に知ることができました。科学者の説明する「安全」と、消費者が感じる「安心」の間を、どう伝え、知り、つなげて、広げていくのか、今後も大きな課題といえます。
18	質問をはしょられたようでした。流れにゆとりがなく、司会者の言葉に追われた感じで

	した。
19	一人一人の疑問に対し、丁寧に答えていただいたのがとても良かったです。欲を言いますならば関連した質問を出してもらおうと議論が更に進展したと思います。
20	安全性の確保について国がどのように対応しているのかよく理解できる内容でした。ロケット打ち上げの事例でよく分かるとおりに、研究開発の実情が一般には見えにくかったことが、これまで理解が進まなかった要因の一つだと感じました。
21	少人数のため、意見が出しやすくて良かった。日頃不安に感じていることが少し解消された。
22	実験により身近に感じていただいたことが良かった。安全性に関する話を強調していただくことで不安感が払拭しやすいと感じた。
23	最後に個人的に話を聞いていた方が多かったので、そういう時間ができるよう余裕を持った時間配分で良かったです。
24	コーディネーターの方が皆の意見をひろうより、参加された方とのやりとりができた方が良かったのではないかと思います。担当の方と事前の打ち合わせが良くできておらず、当日朝ゴタゴタしてしまい済みませんでした。アンケートで理解が深まった結果は出ていますが、多数の質問を見ると少しずつ少しずつが大事だと思いました。
25	分かりやすい言葉で話し、答にくいであろう質問にも(現時点での)見解を含め答えてもらったところはよい。
26	スライドや資料が見やすい。納豆のサンプルも学生に評判だった。
27	実験でDNAを目で見る点が良かった。
28	実験については器具類等揃えてくださりましてありがとうございました。とても分かりやすい説明で学生も積極的に取り組むことができたように思います。
29	実験は大好評でした。学生時代に戻ったよう。センターの所長をはじめ各団体の長さんにも良かったと行っていただきました。
30	今回のコミュニケーションでは学生が多く、また、1～4年までと幅広い学年がいたため、授業で習っていない学生には少し難しかったようです。ただ、一般参加者の方々には有意義な時間を過ごしていただけたのではないかと感じています。
31	DNA抽出実験を行い、分かりやすく遺伝子組換え技術を紹介していただけた点が良かったです。
32	①難しいテーマに対して分かりやすくお話しいただいたこと。 ②実験が入ることにより、ぐっと関心が深まったこと。 ③質疑の時間がたっぷり取れ、その手法と内容が良かったこと。
33	ブロッコリーのDNA抽出実験は皆に好評だった。遺伝子組換えという言葉だけで拒否反応を起こす人(?)が正しい知識や情報を得たことは有意義であったと思う。
34	次のステップのコミュニケーションとして、消費者が持っている懸念や疑問そのものを取り上げて意見交換する場があると良いのではないかと。
35	技術に関する最新の情報も勉強になりましたが、改めてマスコミ報道の怖さ(イヌガラの交雑の件)について再認識しました。
36	内容は全体としては良かったと思う。理科系の大学で3年以上学んだ人たちには、この内容はよく理解できたと思う。
37	双方向コミュニケーションという形式は有意義でした。進行の時間配分はよく、スムー

	ズに感じました。
38	ブロッコリーからのDNA抽出実験付きであったので遺伝子組換え作物に関する話もすぐ身近に興味深く見えたと評判でした。
39	グループに分かれて実験を交え、参加型の開催で良かった。コーディネーターの進行、説明者の説明もとても良かった。
40	質疑応答の時間が活発に活用できるか心配したが、学生からの質問もあり、より具体的に回答していただき、理解が図られた。司会進行を行っていただいた点は良かった。
41	良い点、参加型であったこと。
42	安全であるとの基本視点に沿って進められた説明だったと思います。まだ分からない部分、栽培や食の経験が短い点から危惧されることなど不安要因についてもお話しいただき良かったと考えます。
43	参加者が少ない中で活発な意見交換ができたのは良かった。一般市民の興味を引くようなサブタイトルでも付いているともっと参加者が増えるような気がする。
44	肝心な箇所になると問題のすり替え、時間がないからと打ち切りになったり、貴局にとって都合の良い段取りとなり、不安感・疑問点が払拭されないまま終了したのが残念であった。安全性審査は行われているとの説明はあったが、具体的な仕方・内容について一切触れなかったのが残念が残った。
45	ワークショップ形式で意見を引き出した点は良かった。ブロッコリーのDNA抽出実験では洗剤使用の理由など説明が欲しかった。
46	参加者からの質疑は書面ではなく、直接やりとりしたかったという意見がありました。担当者としては時間がもう少しあったら書面にて分類されたものに対する回答と直接感想などが聞ければ良かったと思います。
47	内容ではありませんが、題名の「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション」というのが、わかりづらいと思われます。内容は、とても分かりやすかったのですが。
48	現在の遺伝子組換え農作物の状況を知ることについては良かったと思います。安全性のほかに環境の側面から見た多様な意見の紹介がほしく、また、参加者からの意見の受け止め、共有、意見交換の時間を充実させることも必要だと思います。
49	質疑応答の方法が良かったと思う。今回のような方法であればいろいろな質問を引き出すことができる。
50	遺伝子組換え農作物の悪影響に関するデータは見つかっていないと断言されていましたが、今後も詳細に調査する必要があると思います。
51	説明された小松博士の内容が科学的であり、また、分かりやすい内容であった。教えるスキルがあり、勉強になりました。本校の学生は社会人(クラス)であり、固定概念が強く、素直に受け入れることができなかつたのが残念と思っています。

情報提供資料（「遺伝子組換え農作物」の現状について）に対する感想

No.	回答者の感想
1	シンプルで見やすいスライド・資料だと思いました。
2	資料の内容からすれば時間が足りなかったような気がする。
3	もう少し広い情報も欲しかった。交雑体の影響など。有ればどういうものなのか？なぜ調べるのか？
4	配付資料もカラー印刷で読みやすかったです。
5	遺伝子組換えについて、次の世代に対する影響について心配する人がわりといるから、歴史(経過)についても知らせてもいいかなと思った。また、トラブルは今までなかったということなら、ないと明示した方がいい。
6	分かりやすくて良かったと思います。
7	スライドは内容的に難しかった。資料については参考になりましたので良かったです。いろいろとありましたがコミュニケーションを開催させていただいたことは感謝です。
8	イラストや写真が多く見やすい作りとなっていた。ただ、今回の参加者には少し内容が難しかったように思う。
9	スライド、配付資料ともにデータが豊富で見やすく、また、文章も平易で分かりやすかったと思います。
10	分かりやすかったと思います。
11	大変良かったです。見て、聞いて、知ることが如何に大事なことだと思います。会員も良い勉強したと喜んでしました。ありがとうございました。
12	説明や実験は分かりやすいものでした。書類を読み、納得するのは難しく、やはり参加型の体験が消費者には一番合うと思います。時間と労力の問題があると思います。
13	スライドと資料のダブリは必要ないかと思う。資料が多すぎる。
14	遺伝子組換えの原理の部分は、もう少し詳しくお話していただきたかったです。その部分にこそ、なぜ危険と思われるかがあると思いました。
15	コーディネーターが質疑応答の要旨をうまく整理して進行したことが良かった。
16	十分でした。分かりやすいものでした。
17	やはり専門用語が多い感じがありました。
18	DNA抽出実験に興味あったので、もう少し深く紹介して欲しいと思いました。
19	学生はマスコミ等による情報が主となっていましたが、この資料による説明で関心が深まり、新たな知識を頂きました。
20	「遺伝子組換え」という言葉は知っていてもスライドや話の中に出てくる言葉を知らなくて・・・といった学生もありました。できましたら言葉の解説のようなものをもう少し入れていただければありがたいです。(対象の多くが学生であったため)
21	他の講座等がございましたら利用させていただきたいと思います。
22	非常に分かりやすかったです。
23	公的機関として(立場上)は仕方がないことだと思いますが、専門的な用語、言葉が一部ではあるが入っていたように思う。
24	画面と配付資料は同じものにしてほしい。

25	総じて分かりやすい資料でした。消費者への情報発信は大切ですので、これからも取り組みを進めてください。
26	改善すべき点：一つのスライドに示す情報が多すぎる。伝えたい情報を簡潔に示すこと。長い文を読むことはしないであろう。私は読みたくない。なお、一般の人に「形質」は十分に理解できるか疑問に思った。
27	講座の最初と最後にアンケートをとる方法は真新しく、勉強になりました。資料は見やすく感じました。
28	すごく分かりやすかった。ちょっと考えるのですが、フレーバーセーバートマトの写真とがありますでしょうか。身近なトマトを論じたらより興味が持てる。
29	資料説明の講師が良かったので参加者から好評を得た。(コミュニケーションの運び方)
30	配付資料に、遺伝子組換え技術による栽培で不安なこと、また、実際起きている環境影響などデメリット部分も加えてください。
31	資料を見れば分かることの説明は省き、参加者からの質問に詳しく回答いただきかった。
32	パワーポイント使用は理解しやすく良いと思う。気候変動による作物の品種開発等アピールしても良いのではと思う。
33	スライドを使用した説明は分かりやすかったと思います。ただ、参加者の中には「もう少し予備知識があれば良かった」とご自身で反省されている方もいらっしゃいました。専門的な内容はやはり難しいということかもしれません。
34	カラーで見やすい資料でした。丁寧な説明で、分かりやすかったです。
35	視覚を重視した資料が多く、参加者評価につながっていると思います。
36	分かりやすい説明だったので、良かったと思います。
37	厚労省との話し合いなども含まれていると良いと思います。今後は安全・安心を重点的に進めていただけるとありがたいです。
38	内容は非常に素晴らしいものがあります。ただ、「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション」というテーマが受講者にとって興味が湧かない(連想できない)点がありました。

属性別

		大学 短大 専門学校	高等 学校 小・中 学校	生協 消費者 団体	国 自治体	独立 行政 法人 企業	NPO 公益 法人	その他	計
Do you know?	冊	269	26	47	1,660	0	30	0	2,032
	件	9	2	4	3	0	1	0	19
Step Up	冊	450	26	47	1,500	0	30	0	2,053
	件	11	2	4	2	0	1	0	20
バイテク小事典	冊	79	26	47	620	0	0	0	772
	件	8	2	4	2	0	0	0	16
総件数		11	2	4	4	0	1	0	24

地域別

		北海道	東北	関東	北陸信 越	東海	近畿	中四国	九州沖 縄	計
Do you know?	冊	30	66	1,834	2	100	0	0	0	2,032
	件	1	5	9	2	2	0	0	0	19
Step Up	冊	30	66	1,674	2	100	0	181	0	2,053
	件	1	5	8	2	2	0	2	0	20
バイテク小事典	冊	30	60	654	2	25	0	1	0	772
	件	1	5	6	2	1	0	1	0	16
総件数		1	7	10	2	2	0	2	0	24

(2) 国民全般向けホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」

本年度も昨年度と同様にホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」を開設し、管理・運営を行った。なお、当該ホームページについては4月後半以降、委託者の指示により一時的に情報公開を中止したが、「新着情報」及び「講演会情報」については情報公開を中止した後も引き続き情報の収集を行った。平成22年度に収集したデータは「新着情報」が246件、「講演会情報」が10件であった。

また、本年度の事業終了に伴い、サーバーに保存してある本ホームページに関する各種ファイル類は全てを電子的記録媒体（DVD-ROM等）に移行させる作業を実施した。

(3) 「バイテクハウスメールニュース」の発行

本年度も昨年度と同様にメールニュース「バイテクハウスメールニュース」には遺伝子組換えに関する記事を掲載し、原則として毎月3回、配信希望者(1,280名)に対して配信することとした。本メールニュースについては平成22年4月9日及び4月19日に配信したが、その後、委託者の指示により発行を中止した。「バイテクハウスメールニュース」については配信を中止した後も引き続き情報の収集を行い、その数は「新着情報」が224件、「講演会情報」が11件であった。

なお、本年度の事業終了に伴い、メールニュースの発行のために本年度蓄積してきた情報については全てを電子的記録媒体(CD-ROM)に移行させる作業を実施した。

「バイテクハウスメールニュース」の情報として収集・整理したデータを参考資料に掲載した。

Ⅲ まとめ

1. コミュニケーション推進会議の開催

①有識者委員7名、専門委員5名で構成する「コミュニケーション推進会議」を3回開催し、コミュニケーションの計画及び進め方等について助言、提言を得た。会議は、非公開で行ったが、コミュニケーション推進会議の会議資料や議事概要は、第1回のコミュニケーション推進会議についてはホームページで公表した。以降は、委託元である農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室に報告した。

②今後も引き続きコミュニケーション活動を進め、遺伝子組換え農作物に関する認識を深め国内栽培に向けて理解を得る必要があると考える。また、情報提供資料等の時宜に適った的確な改定を委員、専門委員の協力・助言を得て進める必要がある。

2. 小規模コミュニケーションの運営

①農水省からの情報提供、DNA抽出実験とフェイスツーフェイスの意見交換を内容とする、15～300人規模の小規模コミュニケーションを、栄養・給食関係者（学生を含む）、教育関係者（学生を含む）、生活協同組合、消費者団体、市民団体、メディア関係者、等を対象として、全国で51回、約2,300名に対して開催した。

②DNAが身近なものであることを理解してもらうのが重要と考えられる対象者には、希望に応じて33カ所で「DNAって何だろう?」の簡単な解説付のDNA抽出実験を行い、好評であった。

③実験で気分もほぐれた後、「遺伝子組換え農作物の現状について」と題して、農水省からの情報提供を行った上でコミュニケーションに入った。コミュニケーション手法としては、グループ討論を含む「デルファイ法」を11カ所、その他の40カ所では基本的に質問用紙に記入してもらう無記名の「質問用紙方式」で行った。

「デルファイ法」では、コーディネーターが、特に関心の高かった質問を中心に討議を行ったが、各グループに付いたファシリテーターがグループ討論の場で行えるかぎり回答するようにし、質問を残さないように配慮した。

「質問用紙方式」では、多くの参加者に質問してもらうことができ、コーディネーターが一つひとつを紹介しながら、質問全体を余すことなく回答する用に配慮した。

その結果、参加者の多くからの質問・意見を取ることができ、また、それらの質問に情報提供者の農水省担当官が答えることが出来たので、参加者の満足

度は高かった。

④重点対象者の内、(管理)栄養士・調理師、栄養関係の学生は、昨年と同じく情報が十分でなく、非常に効果的なコミュニケーション結果であった。今後も継続の必要がある。

⑤質問・意見内容の主なものは、圧倒的に安全性（特に長期、アレルギー、試験方法）であり、今年度は、COP-MOP5 が名古屋で開催された影響もあって、環境安全性、交雑の問題などの質問が目立った。次いで、表示に関するものであった。また、遺伝子組換え農作物・食品の実態に関する質問、技術的な質問もあり理解しようとする態度も目立った。

⑥安全性に関する質問のほとんどは既に出されていたことで、結論も出ているものであった。このことから、色々な手段を用いた正確な情報の伝達が、まだまだ必要であると考えられた。

⑦遺伝子組換えのコミュニケーションの必要性については、参加者アンケートでは、「積極的に行うべきである」との意見は高く全体で77%もあった。特に、関心の高い生協グループでは87%であった。また、平成22年12月から平成23年2月にかけて行った開催51カ所の開催者アンケートでも、「続けていくべきである」と答えた割合は84%であった。やはり、国民各層から遺伝子組換え農作物・食品のコミュニケーションは高く求められていると言える。

3. パンフレット類、バイテク小事典、リーフレット類の提供

今年度も各方面からの要請に応じて、パンフレット類：「Do you know?」、 「Step up」、 「バイテク小事典」の配布と、学校（高校・中学校・小学校）児童・生徒、教職者向けのリーフレット類を配布する予定であったが、委託者からの指示により4月後半から中止した。

4. ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」の開設・運営

ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」については、今年度農水省傘下に移転の予定であったが、ホームページ提供も同様に4月後半から中止した。

5. メールマガジン「バイテクハウス Mail News」の発行

メールマガジン「バイテクハウス Mail News」については、月平均3回程度のペースで、登録者に配信するとともに、ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」にも、その内容を掲載する予定であったが、同様に4月後半から中止した。

6. おわりに

今年度の実施結果を踏まえ、日本国内での遺伝子組換え農作物の栽培が可能となることを目指して、今後のコミュニケーションの一層の推進を期待したい。

最後に、今年度のコミュニケーション活動に対して、貴重な助言や協力をいただいたコミュニケーション推進会議の委員、専門委員の皆様方、コミュニケーション活動の実際の中で支援、協力いただいた講師（情報提供者）、コーディネーター、関係者各位、また、STAFF の活動に対して指導、助言をいただいた農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室の担当官の各位に、厚くお礼を申し上げます。

参考資料

1. コミュニケーション推進会議

- ①第1回コミュニケーション推進会議
- ②第2回コミュニケーション推進会議
- ③第3回コミュニケーション推進会議

2. 小規模コミュニケーション

(1)小規模コミュニケーション開催準備、実施スケジュール

- ①小規模コミュニケーション公募案内関係
- ②小規模コミュニケーション公募結果、実施スケジュール
- ③小規模コミュニケーション事前打合せ関係
- ④小規模コミュニケーション配付資料

(2)小規模コミュニケーションメディア取材結果、新聞記事等

(3)小規模コミュニケーション実施結果（各回毎）

- ①開催要領
- ②議事次第
- ③質問・意見
- ④アンケート結果
- ⑤写真

(4)小規模コミュニケーションアンケート調査結果

- ①参加者アンケート
- ②主催者アンケート

3. コミュニケーションツール

- ①バイテクハウスホームページ
- ②メールニュース